令和８年度

授　業　概　要

459

四国医療専門学校
看護学科
第２０期生

目　　次

まえがき・・・・・・・・・・・・・・・1
教育理念、教育方針、教育目標・・・・2
教育方針３つのポリシー・・・・・・・・3
学修成果の評価方針（アセスメントポリシー：ASP）・5
カリキュラムマップ・・・・・・・・・・7
教育概念図・・・・・・・・・・・・・・8
科目構成の考え方・・・・・・・・・・・9
看護学科学年目標・・・・・・・・・・・24
カリキュラム・・・・・・・・・・・・・25
臨地実習計画表・・・・・・・・・・・・27
四国医療専門学校　履修要綱・・・・・28
大学併修制度・・・・・・・・・・・・・42
学事暦・・・・・・・・・・・・・・・・46
看護学科自治会会則・・・・・・・・・・48
シラバス
１．基礎分野
1）科学的思考の基盤
物理学・・・・・・・・・・・・・・・51
化学・・・・・・・・・・・・・・・・52
情報科学・・・・・・・・・・・・・・53
情報科学演習・・・・・・・・・・・・54
生涯スポーツ論・・・・・・・・・・・55
2）人間と生活、社会の理解
人間関係論・・・・・・・・・・・・・56
死生論・・・・・・・・・・・・・・・57
家族社会学・・・・・・・・・・・・・58
発達心理学・・・・・・・・・・・・・59
日本語表現法・・・・・・・・・・・・60
地域文化論・・・・・・・・・・・・・61
臨床心理学・・・・・・・・・・・・・62
笑いと医療・・・・・・・・・・・・・63
音楽療法・・・・・・・・・・・・・・64
健康科学論・・・・・・・・・・・・・65
英語Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・66
英語Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・67
英語Ⅲ・・・・・・・・・・・・・・・68
＊中国語・・・・・・・・・・・・・・69
教育心理学・・・・・・・・・・・・・70
教育原理・・・・・・・・・・・・・・71
教育評価・・・・・・・・・・・・・・72
教育方法論・・・・・・・・・・・・・73
２．専門基礎分野
1）人体の構造と機能
解剖生理学Ⅰ・・・・・・・・・・・・74
解剖生理学Ⅱ・・・・・・・・・・・・75
病理学・・・・・・・・・・・・・・・76
看護に活かす解剖生理学・・・・・・77
生活の中の解剖生理学・・・・・・・78
2）疾病の成り立ちと回復の促進
生体防御と感染症・・・・・・・・・79
疾病と治療Ⅰ（呼吸器・循環器）・・・80
疾病と治療Ⅱ（消化器・内分泌）・・・81
疾病と治療Ⅲ（脳神経・運動器・眼・耳）・・・82
疾病と治療Ⅳ（腎泌尿器・血液造血器・女性生殖器・歯）・83
疾病と治療Ⅴ（膠原病・感染症・皮膚）・・84
疾病と治療Ⅵ（小児）・・・・・・・85
疾病と治療Ⅶ（母性）・・・・・・・86
薬理学・薬物療法・・・・・・・・・87
栄養学・食事療法・・・・・・・・・88
臨床検査学・・・・・・・・・・・・・89
3）健康支援と社会保障制度
医療行政論（関係法規）・・・・・・90
くらしを支える手続き・・・・・・・91
くらしの中の医療・・・・・・・・・92
公衆衛生学・・・・・・・・・・・・・93
社会保障論・・・・・・・・・・・・・94
地域福祉論・・・・・・・・・・・・・95
３．専門分野
1）基礎看護学
看護学概論・・・・・・・・・・・・・96
看護理論・・・・・・・・・・・・・・97
医療と看護倫理・・・・・・・・・・・98
基礎看護技術論Ⅰ（環境調整と活動・休息）・99
基礎看護技術論Ⅱ（清潔）・・・・・100
基礎看護技術論Ⅲ（感染防止と創傷管理）・101
基礎看護技術論Ⅳ（食事と排泄）・・・102
基礎看護技術論Ⅴ（救急処置と呼吸管理）・103
基礎看護技術論Ⅵ（与薬）・・・・・104

基礎看護技術論Ⅶ（生体機能管理と診察介助）・105
コミュニケーション技術・・・・・106
ヘルスアセスメント技術・・・・・107
看護過程展開の技術・・・・・・・108
臨床看護総論・・・・・・・・・・109
健康教育の技術・・・・・・・・・110
看護研究Ⅰ・・・・・・・・・・・111
看護研究Ⅱ・・・・・・・・・・・112
臨床判断演習Ⅰ（基礎看護学）・・・113
2）地域・在宅看護論
地域・在宅看護概論・・・・・・・114
地域・在宅看護方法論Ⅰ・・・・・115
地域・在宅看護方法論Ⅱ・・・・・116
地域の暮らしを守る演習・・・・・117
働く人々の健康を守る演習・・・・118
地域・在宅看護方法論Ⅲ・・・・・119
臨床判断演習Ⅱ（地域・在宅看護論）・・120
3）成人看護学
成人看護学概論・・・・・・・・・121
成人看護方法論Ⅰ（呼吸器・循環器）・122
成人看護方法論Ⅱ（内分泌・消化器）・123
成人看護方法論Ⅲ（脳神経・運動器）・124
成人看護方法論Ⅳ（血液造血器・膠原病・感染症）・125
成人看護方法論Ⅴ（女性生殖器・腎泌尿器）・126
臨床判断演習Ⅲ（成人看護学）・・・127
4）老年看護学
老年看護学概論・・・・・・・・・128
老年看護方法論Ⅰ・・・・・・・・129
老年看護方法論Ⅱ・・・・・・・・130
老年看護方法論Ⅲ・・・・・・・・131
臨床判断演習Ⅳ（老年看護学）・・・132
5）小児看護学
小児看護学概論・・・・・・・・・133
小児看護方法論Ⅰ・・・・・・・・134
小児看護方法論Ⅱ・・・・・・・・135
小児看護方法論Ⅲ・・・・・・・・136
臨床判断演習Ⅴ（小児看護学）・・・137
6）母性看護学
母性看護学概論・・・・・・・・・138
母性看護方法論Ⅰ・・・・・・・・139
母性看護方法論Ⅱ・・・・・・・・140
母性看護方法論Ⅲ・・・・・・・・141
臨床判断演習Ⅵ（母性看護学）・・・142
7）精神看護学
精神看護学概論・・・・・・・・・143
精神看護方法論Ⅰ・・・・・・・・144
精神看護方法論Ⅱ・・・・・・・・145
精神看護方法論Ⅲ・・・・・・・・146
臨床判断演習Ⅶ（精神看護学）・・147
8）看護の統合と実践
高度先駆的看護・・・・・・・・・148
「連携と協働」の演習Ⅰ・・・・・149
「連携と協働」の演習Ⅱ・・・・・150
「連携と協働」の演習Ⅲ・・・・・151
「連携と協働」の演習Ⅳ・・・・・152
東洋医学・・・・・・・・・・・・153
リラクゼーション方法論・・・・・154
医療安全管理・・・・・・・・・・155
国際看護学・・・・・・・・・・・156
看護管理・・・・・・・・・・・・157
災害看護学・・・・・・・・・・・158
救急看護・・・・・・・・・・・・159
看護情報システム論・・・・・・・160
看護ゼミナール・・・・・・・・・161
看護政策論・・・・・・・・・・・162
クリティカルシンキングⅠ・・・・163
クリティカルシンキングⅡ・・・・164
9）臨地実習
基礎看護学実習Ⅰ（病院を知る実習）・・165
基礎看護学実習Ⅱ（看護過程実習）・・166
地域・在宅看護論実習・・・・・・167
成人看護学実習Ⅰ（外来診療実習）・168
成人看護学実習Ⅱ（急性期・回復期）・169
成人看護学実習Ⅲ（慢性期）・・・・170
成人看護学実習Ⅳ（終末期）・・・・171
老年看護学実習（介護・福祉）・・・172
小児看護学実習Ⅰ・・・・・・・・173
小児看護学実習Ⅱ・・・・・・・・174
母性看護学実習・・・・・・・・・175
精神看護学実習・・・・・・・・・176
統合実習・・・・・・・・・・・・177

ま　え　が　き

四国医療専門学校　看護学科は、平成１９年に設置されました。

本学科は３年課程４年制であり、「高度専門士」の称号が得られます。

皆さんがこれから学んでいくカリキュラムは、科学的思考力や人間理解を深める「基礎分野」、人体の構造・機能、疾病など、看護に必要な基礎知識を学ぶ「専門基礎分野」を設定しています。「専門分野」ではこの２つの分野を基盤に専門的な看護を学び、臨地実習を通して看護の実践へとつなげていきます。

卒業後皆さんが活躍する場所は、病院から地域へと広がっています。近年の社会構造の変化から、地域包括ケアシステムの構築が進み、皆さんには地域で生活する人への支援が求められています。また多職種と協働する能力も必要とされています。四国医療専門学校には、皆さんが入学した看護学科の他に５つの医療系学科が含まれています。そのため、他学科の学生と交流学習による多職種連携について学ぶことができます。さらに癒しを提供できる東洋医学の理論や実技も導入しています。

他学科との学生交流として球技大会、体育祭、学園祭などの行事を行っています。これらは、医療従事者が備えていなければならない豊かな人間性の習得にもつながります。

また、電子テキストやオンライン映像教材を活用し、ＩＣＴ能力の強化をめざしています。教育内容を充実させ、社会が求めている看護師として卒業後に活躍できるようカリキュラムを構築しています。

この冊子は、看護学科の学生として、有意義な学習ができるための手引きとして作成されたものです。学習を計画的にすすめるためのガイドラインとして活用することを願っています。

なお、この授業概要には必ずしも全てにわたって説明が網羅されているわけではないので、疑問や不明な点については遠慮なく教員に相談してください。

教育理念、教育方針、教育目標

教育理念

四国医療専門学校看護学科の教育課程では、看護学を構成する主要概念を「人間」、「健康」、「環境」、「看護」、「教育」の５つとしている。「看護」は「人間」の「健康」に係るものですが、「健康」は「環境」に影響される。また、看護は人間とその環境に関して、自らも環境の１つとして関係する。

「教育」は、人間形成の上で欠かせないものであり、看護師の育成においては、「人」としての教育が最も重要である。看護の対象者に対する教育はもちろん、日々の看護業務の中で、人間としての自分を磨き、人に接するための原点を学ぶことが大切だと考えている。

四国医療専門学校看護学科は、医療の原点である「手当て」でもって、思いやりの心と正確な技術を用いて、人々に身体的・精神的・社会的側面から「癒し（ヒーリング）」を提供できる看護師の育成をめざす。また、人間らしさと生命を尊重し、福祉に精通した地域社会に貢献できる看護師を育成する。

また、本学科は大学併修制度を導入し、４年間の学生生活で福祉分野と心理分野の学習も深めていく。そして卒業後には、学士と高度専門士の称号を付与された看護師として、福祉と心理に強い、社会に役立つ看護師として活躍すると共に、将来は、認定看護師や専門看護師をめざせるような人材を育成する。

教育方針

四国医療専門学校看護学科は、看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を教授し、保健・医療・福祉の向上と地域社会に貢献できる有能な看護師を育成する。

教育目標

１．対象を総合的に理解し、判断行動できる心豊かな人間性を養う。

２．科学的根拠に基づいた看護実践に必要な基礎的な臨床判断能力を養う。

３．対象を中心とした看護を提供するために、人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う。

４．対象の立場に立った倫理観に基づき、広く深く癒せる看護実践能力を養う。

５．地域特性を理解し、地域で生活する人々の健康増進や暮らしを支援する能力を養う。

６．保健・医療・福祉システムにおける職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら看護を提供する基礎的能力を養う。

７．専門職業人である自覚を持ち、最新の知識・技術を自ら学び看護の質の向上を図る基礎的能力を養う。

教育方針の３つのポリシー

１．卒業認定・高度専門士付与の方針（ディプロマ・ポリシー：ＤＰ）

看護学科では、所定の単位を修得し、以下の力を身につけた者に対して、卒業を認定し、高度専門士の称号を付与する。

１）生命・人権を学び、倫理観に基づいて判断・行動できる心豊かな人間性を身につけている。

２）看護の対象を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた知識・技術・態度と、信頼される看護が実践できる基礎的能力を修得している。

３）東洋医学の理論・心・技を理解し、看護の対象を深く癒せる実践能力を修得している。

４）保健・医療・福祉に関する理論及び社会の問題を「福祉学」と「心理学」の面から教育研究するとともに、福祉行政のあり方を考える能力を修得している。

５）看護の社会的役割を認識し、保健医療福祉チームの一員として行動できる能力を身につけている。

６）専門職業人として成長・発達できるよう自己研鑽に努め、変動する社会のニーズに対応できる能力を身につけている。

７）専門職業人である自覚をもち、広い視野で２１世紀の看護を創造する能力を身につけている。

２．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：ＣＰ）

看護学科では、卒業認定・高度専門士付与を実現するため、看護教育内容を「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の３つの分野に分け、段階的、系統的に教育できるよう各分野に必要な科目を配置している。

１）基礎分野

「専門基礎分野」及び「専門分野」となる基礎科目として、科学的思考力を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を促す内容とした。さらに社会の仕組みを幅広く理解し、国際化に対応できる能力や情報通信技術（ＩＣＴ）を活用する基礎的能力を養える科目を設定した。

２）専門基礎分野

看護学の観点から人体を系統だて、看護実践の基盤としてアクティブラーニングにより主体的な学習を促せる科目内容を設定した。健康・疾病・障害に関する観察力を養い、臨床判断能力を強化する演習を設定した。人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用でき、保健・医療・福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割の理解等を含む内容とした。

３）専門分野

看護学の土台として、「基礎看護学」「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と実践」「臨地実習」を位置づけた。

地域で生活する人々とその家族を理解し、基本的な看護の知識や技術の習得を基盤に、実践する力を身につける。各領域別に事例を通して、臨床判断能力、保健指導能力等を養える内容とした。この学びが臨地実習を通して、切れ目のない看護を提供するために、地域における多様な場で実習を行うよう設定した。各専門領域での実習を踏まえ、多職種と連携・協働しながら看護を実践するよう設定した。

３．入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：ＡＰ）

看護学科では、卒業認定・高度専門士付与の方針を実現するため、以下の素養を有する人材を求める。

◎本校が求める人材像

１．医療専門職としての夢を持ち、前向きに努力する人

２．愛情を持って人に接し、協調性のある人

３．人の役に立ちたいとの思いを実現する志のある人

◎看護学科の求める人材像

人が好きで細やかな心づかいと集中力が発揮でき、自ら積極的に学ぶ意欲のある人。

学士の称号を持つ看護師として将来専門領域でのキャリアアップを目指す人。

学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー：ＡＳＰ）

Ⅰ　学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー：ＡＳＰ）

四国医療専門学校では、本校の教育理念に基づく各学科で定める「卒業認定・称号付与の方針」（ディプロマ・ポリシー：ＤＰ）で示された教育目標の到達度の把握、卒業認定・称号付与の方針、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー：ＣＰ）並びに「入学者受け入れの方針」（アドミッション・ポリシー：ＡＰ）の三つのポリシーに基づき、機関レベル（学校）、教育課程レベル（学科）及び科目レベル（授業・科目）の３段階で、学修成果の把握・評価を査定する方針を定める。

１．機関レベル

学生の志望進路（就職率、資格・免許を活かした専門領域への就業率及び進学率等）から、学修成果の達成状況を査定する。

２．教育課程レベル

学科の所定の教育課程における資格・免許の取得状況及び卒業要件の達成状況（単位修得状況・ＧＰＡ）から、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を査定する。

３．科目レベル

シラバスで提示された授業等科目の学修目標に対する評価及び学生による授業評価等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を査定する。

Ⅱ　授業科目及び教育課程における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）

本校は、科目レベル及び教育課程レベルの学修成果の評価について、その目的、達成すべき質的水準及び評価の実施方法を、「四国医療専門学校学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）」を踏まえて、次のように定める。

１．目的

（１）　各学科のディプロマ・ポリシーに定める「学生が身につけるべき能力」に関する学修成果の把握・評価を行う。

（２）　学修成果を把握・評価することで、学生自らが、学修目標を持ち、ＰＤＣＡに取り組み、学修到達度を把握し、学生が自らの成長を実感できるようにする。

（３）　学修成果を把握・評価することで、授業科目担当者及び学科としての教育の改善・向上に取り組み、教育の質を保証する。

（４）　学修成果の把握・評価に関する情報を公開することにより、社会への説明責任を果たす。

２．達成すべき質的水準

（１） 授業科目の成績評価については、本校学則第３２条に定められた評価基準によるものとし、授業科目について、達成すべき質的水準を成績評価の「可」（GP の「１」）以上とする。

成績評価	ＧＰ
秀（９０～１００点）	４
優（８０～８９点）	３
良（７０～７９点）	２
可（６０～６９点）	１
不可（５９点以下）	０

（２） 修得単位数については、学年ごとに達成すべき質的水準として、本校学則第３６条（履修要綱第４条第１項）に定められた単位の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とする。

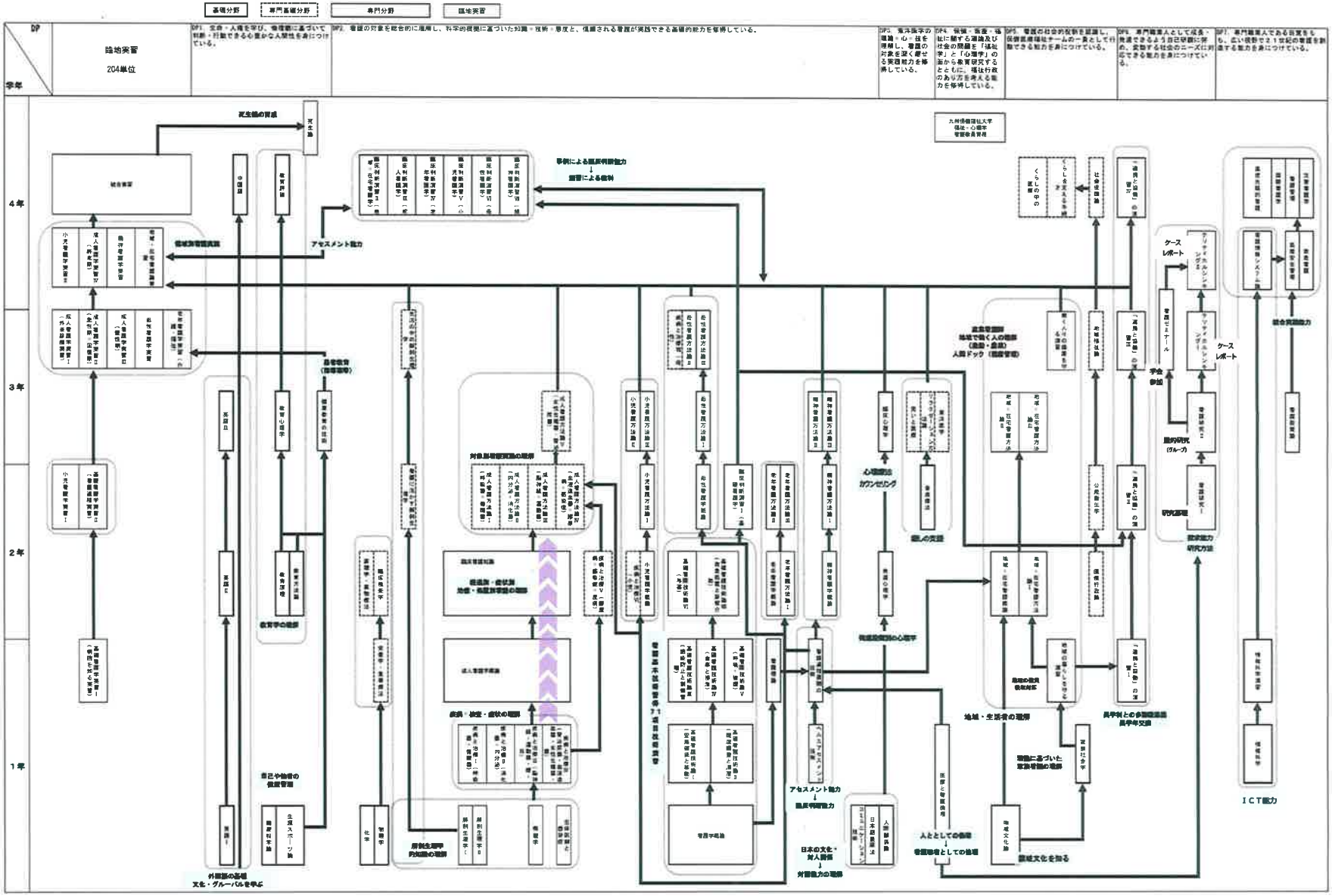
（３） 卒業認定について、達成すべき質的水準として、本校学則第３８条（履修要綱第４条第２項）に定められた出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を修得していることを原則とする。

（４） その他、達成すべき質的水準として、各学科が定めるディプロマ・ポリシーを用いる。

３．評価の実施方法

区分	入学前（入学直後） アドミッション・ポリシー	在学中 カリキュラム・ポリシー	卒業時 ディプロマ・ポリシー
機関レベル	・入学試験 ・進路決定に関するアンケート	・各科目の成績（ＧＰＡ） ・退学率、休学率	・卒業率 ・就職・進学率 ・卒業時アンケート
教育課程レベ		・各科目の成績（ＧＰＡ） ・退学率、休学率 ・授業評価	・卒業率 ・就職・進学率 ・卒業時アンケート
科目レベル		・各科目の成績（ＧＰＡ） ・授業評価	

カリキュラムマップ


基礎分野
専門基礎分野
専門分野
臨地実習
DP
学年
臨地実習
204単位
DP1. 生命・人権を学び、倫理観に基づいて判断・行動できる心豊かな人間性を身につけている。
DP2. 看護の対象を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた知識・理解・態度と、信頼される看護が実践できる基礎的能力を修得している。
DP3. 看護職の職務・心・役割を理解し、看護の対象を深く考える実践能力を修得している。
DP4. 保健・医療・福祉に関する諸施及び社会の問題を「福祉学」と「心理学」の面から教育研究するとともに、福祉行政のあり方を考える能力を修得している。
DP5. 看護の社会的役割を認識し、保健医療福祉チームの一員として行動できる能力を身につけている。
DP6. 専門職業人として成長・発達できるよう自己研鑽に努め、変動する社会のニーズに対応できる能力を身につけている。
DP7. 専門職業人である自覚をもち、古い伝統や21世紀の看護を創造する能力を身につけている。
4年
3年
2年
1年
死生観の育成
死生論
統合実習
臨地実習
看護学概論
看護学原論
看護学概論
看護学概論
看護学概

教育概念図

太陽のように自ら光り輝き、水面には自己未来像が反射して映っている。自ら光り輝くとは主体性を示し、水面に映る大学併修制度や高度専門士はキャリアアップする自分自身を感じながら成長していく学生の姿をイメージした。太陽のコアとなる部分は臨床判断能力をおいた。これにはＩＣＴ活用能力、保健指導能力や倫理的な判断能力を含んでいる。この臨床判断能力は、多職種が連携し協働する中で地域の健康を支援する際に発揮される。ゆとりある教育の中で異学年が交流し、異学科と交流をはかることで培っていく。人々は地域という「癒し」の場で暮らしを営むことから東洋医学も融合させていく。この特徴ある取り組みは各看護学分野の実践能力と関連しあい、発展するものである。看護のあらゆる能力を統合させ、地域の人々の暮らしを守る看護はすべてに光を遍く（あまねく）注いでいる姿をあらわしている。
※遍く（あまねく）：もれなくすべてに及ぶ

暮らしを守る看護は、すべての人の暮らしに広く光を注ぐ姿を表している。

科目構成の考え方

現代社会の変化に対応し、臨床判断能力の強化、多職種と協働する能力の強化を目指す科目構成とした。各分野の科目設定と関連性について、以下のように考える。

１．基礎分野

基礎分野では、専門基礎分野及び専門分野の基礎となる科目を設定するとともに、看護に必要な科学的思考及びコミュニケーション等について学び、感受性豊かで、主体的に判断し行動できるような能力を養う内容とする。国際化及び情報化へ対応しうる能力を養い、さらに看護の特性から、人権について十分理解することは重要であり、人権意識の普及・高揚が図れるような内容も含むものとする。

１）科学的思考の基盤

「専門基礎分野」及び「専門分野」の基礎となる科目を設定し、併せて、科学的思考力及びコミュニケーション能力を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を促す内容とした。

科学的思考の基盤としての自然科学系科目には「物理学」「化学」を設定した。看護モデルを推進する上で必要となる人間を多角的に理解するための科目である。地域で生活する人々が暮らしの中にスポーツを身近に取り入れることで健康の維持ができる。予防医学的見地からの支援ができる内容として「生涯スポーツ論」を設定した。レクリエーションの要素も踏まえた楽しく学べる実技とした。さらに、医療の分野ではＩＣＴ化が進み、病院のみならず福祉施設でも電子カルテによる看護情報での業務が日常化した。臨地実習施設でもオーダリングシステム・電子カルテによる業務のみならず、検査結果や画像診断などがより目的に応じて検索できるようになった。情報科学については強化したい科目として「情報科学」「情報科学演習」を位置づけている。

２）人間と人間生活の理解

人間と社会の仕組みを幅広く理解する内容とし、「家族社会学」、カウンセリング理論と技法等を学ぶ内容として「人間関係論」「発達心理学」を設定した。国際化へ対応しうる能力に「英語」「中国語」を設定した。職務の特性に鑑み、看護師の育成に重要である教育はもちろん、看護の対象者に対する教育について学ぶ内容として「教育原理」「教育評価」を設定した。人間と生活、社会の理解については、人間の本質、関係性、生き方、環境や文化との関係から人間のありようを多角的に捉えるための科目を多く設定した。

人文・社会科学系科目としては、成長発達過程と関連させて学習でき、人間と社会を幅広く理解できる内容とした。「人間関係論」は、人間の本質、関係性、生き方、環境や文化から人間のあり様を多角的にとらえ理解する。変貌する社会の中で、自他の理解を深め、人間関係を構築する力を身につけ、対象を深く理解し人間関係を構築するための基本的な考え方や、アプローチの方法を学ぶ。人は生涯を通して発達している。生活上の変化や、そこで生じる「ここ

ろ」の問題は、人の成長過程と発達段階に影響を及ぼしていく。人間の発達を、誕生したときから死に至るまでのライフサイクルの視点から各年代の発達課題を学ぶ内容として「発達心理学」を設定した。現代社会は核家族化、在宅出産の減少、病院死の増加、葬儀手段の簡略化など、人間が生き、そして死ぬということはどういうことなのかについて触れる機会が少なくなっている。「生・老・病・死」をいかに受け止め、それにどのようにかかわっていくかを考える内容として「死生論」を設定した。「家族社会学」では、家族のあり方は多様化し、それぞれの家族の特徴に応じたアプローチの方法が求められており、その方法を学ぶことをねらいに設定した。人間にとっての家族とは何かについて考えライフサイクルに沿った家族の役割や構造、家族の機能について理解する。家族の一員が病気や障害を抱えると、家族も様々な影響を受ける。家族をめぐる社会学的な視点から家族の問題や課題について学ぶ。

コンプリメンタリーセラピーは、看護学の基盤を、心と体の統合・調和・バランスを整え、自己治癒力を高めることに焦点をあて看護の基盤とした。また、疾病の経験を自己発見の機会とし、患者と看護師の関係はひとつの相互作用として、お互いが自己発見、成長の機会ととらえるという考え方である。基礎分野の科目として「日本語表現法」、「地域文化論」、「臨床心理学」、「笑いと医療」、「音楽療法」、「健康科学論」の科目を設定した。「日本語表現法」では、伝えたいことをわかりやすく的確に表現することを学ぶ。日本語の語彙、文法、文体、表記法など、日本語そのものに対する理解を深める必要がある。まず日本語について言語学的に学び、その表現法について実践を通して身に付けていくことを目的とする。言語とは何かを理解し、日本語での読む、書く、話すといった基本や適切な言葉づかいと話し方を身につける。正しい日本語を使い、論文・レポート作成の基本を学ぶ内容として設定した。「地域文化論」では、さぬきの歴史、文化を形成してきた地域特有の価値観について学ぶ。地域の文化には、自然の造景のみでなく、人々の活動の歴史が刻まれている。健康な人々も対象にする看護は、人々が生活する地域の文化を知ることから始めなければならない。昔から地域に根付いているお接待の心を学ぶことで、現代社会における集団から個人化する社会の現状を明らかにする。さぬきの風土を基に遍路文化と看護についても知る内容として設定した。「笑いと医療」は、本校の基本理念とする「癒し」を医療の中に取り入れることをねらいに設定した。笑いが患者の治療に効果があることが明らかになり、日常生活に笑いの要素の大切さが見直されている。本校の基本理念とするところでもある「癒し」は、脳を癒す。臨床道化師のピエロセラピーはその代表的なものである。「臨床心理学」では、心の動きの基礎的概念を理解し、こころの健康維持と増進についての心理的援助方法を学ぶことをねらいに設定した。メンタルセラピーとして人に癒しを与える心を学ぶ。心理アセスメントを通じて自分と他者について深く考えるとともに、カウンセリングコミュニケーションについて学習する内容とした。「健康科学論」では、健康を維持するため、運動や栄養が体に及ぼす影響といった観点から、健康増進とその維持に役立つ知識を習得することをねらいに設定した。健康に暮らしていくためには、病気を予防し健康増進を図るための知恵が必要である。健康科学では、健康に生活するための理論と具体的

な方法について探求するとともに、人々の健康増進とその維持に役立てることを学ぶ。「音楽療法」は、鑑賞や演奏等の活動を通して、情操豊かな人間形成を目指す内容として設定した。生活の中に芸術を取り入れることによって、勇気付けられ、より生き生きとした人間的価値にあふれた生活が得られる。さらに、心地よさが実感でき、癒しが得られる効果として、ミュージックセラピーは有効である。

外国語科目としては、「英語」を必修としたが、東洋医学を学ぶ視点から、「中国語」についても選択科目として、学生が学べるように考えた。国際感覚を身につけ、国際的に活躍できるように、英語をリーディング・ヒアリング・英会話・看護英語等を内容に含めた。教育学では、教育の理念、歴史、制度、カリキュラムだけでなく、人間の本質とは何かを人間教育の視点で学ぶことを目的に、「教育心理学」・「教育原理」・「教育評価」・「教育方法論」の４科目を設定した。「教育心理学」では、人間の精神および知能の発達や人格形成などと教育の関係を取り上げる。また、教育過程の諸現象を心理学的に明らかにし、効果的な教育の方法を理解する。さらに、教育の場面に現れる問題を一般心理学の見地から解釈し、実際の教育に応用する。学習者の心理と学習過程における心理学的な特徴を理解する。「教育原理」では、教育を理論的に解明する根底となる教育実践の指標となる原則を学ぶことをねらいとした。教育という社会的事象を体系的に理解する原則を把握すると同時に、教育実践のための指導原理を明確にしていく。自らの人間形成を振り返り、家庭教育・社会教育への認識を深め、看護教育における学習課題を明らかにする。「教育評価」では、教育目標に照して、学習者が望ましい到達度を示したかどうかを判定することの必要性を学ぶことをねらいに設定した。つまり、教育活動の過程や効果、ならびにその背景となる諸条件について客観的資料を教育目標に照らして解釈し、教育活動の改善に役だてる。「教育方法論」では、学習者を教え育てるにあたっての方法とその理論について学ぶ内容とした。「何を伝えるか」、「どのように教えるか」、「どう成長させるか」という問題は、深く検討すべきである。教育方法に関わる認知（記憶、思考等）、理論と教授展開に必要な教育技術の基本を学び、看護教育における方法論につなげる。

２．専門基礎分野

専門基礎分野では、看護学を学ぶ上での基礎的知識や、密接に関連する領域を学ぶ分野として位置づけ、人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を強化するため、人間の身体のつくりや働きを、看護の視点である生活と結びつけるようにした。人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的能力を養う。

１）人体の構造と機能

看護学の観点から人体を系統だて、理解するため、解剖生理学、栄養学（生化学の内容を含む）、「生体防御と感染症」等を看護実践の基盤として学ぶ内容とした。アクティブラーニングにより主体的な学習を促すことを意図して「看護に生かす解剖生理学」を設定した。「解剖生

理学Ⅰ」「解剖生理学Ⅱ」・「病理学」・「看護に生かす解剖生理学」「生活の中の解剖生理学」の５つの科目を設定した。

「解剖生理学Ⅰ」「解剖生理学Ⅱ」では、人体について、人体の構造的側面と統合された人体の正常な機能を、構造と機能の両面から理解する。つまり、解剖では正常な身体の構造について学び、機能としての生理では生体の正常な働きや生命現象の基本を学ぶ。「病理学」では、疾病の成り立ちを理解するうえで重要な基本的病変について学ぶ。各論では、基礎事項をふまえながら、臓器別に代表的疾患について、その病因・病理発生について学ぶ。「看護に生かす解剖生理学」では、看護技術やケアのしくみについて、そのエビデンスに解剖生理学の知識を根拠に説明できることをねらいに設定した。看護学を学ぶにあたり、人間はどのような体の構造としくみを使って生きているのか、日常生活活動を営んでいるのか、体のしくみが障害されたとき、それが生きていることや日常生活活動にどう影響するのかを理解する内容とする。退院後も人は病気をもちながら生活している。このような”生活のしずらさ”　はどのようにしてもたらされるのか、そのメカニズムを解明し臨床判断能力の基盤となる演習を強化する内容として「生活の中の解剖生理学」を設定した。提示した事例に関する解剖生理学及び病態生理学の知識を用いて”生活のしずらさ”をアセスメントでき、人々の”生活のしずらさ”に対する日常生活への工夫を提案していく。

２）疾病の成り立ちと回復の促進

健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するため、薬理学、病理学、病態生理学として「疾病と治療」等を設定した。疾病と治療では、看護学を学ぶための関連領域である医学的知識として、各機能障害についての病態生理・症状・検査・治療までを一連に学習できるようにした。「生体防御と感染症」では、微生物やウィルスからの生体の防御機構について学ぶことをねらいに設定した。人の疾患にかかわる微生物の分類、形態、発育とそれに関与する因子について理解する。加えて微生物による免疫を中心とする免疫学、感染、消毒、滅菌、院内感染とその予防、主要感染症や化学療法などについても理解し、各種疾患における生体防御機構についての基礎概念を習得する。「薬理学・薬物療法」は、薬効の発生機序、作用特性、有害作用などが理解できることをねらいに設定した。化学物質である薬物が生体に対してどのように作用するか、薬物と生体との相互作用について学ぶ。薬物の生体への影響、作用部位、作用機序など、生体に投与された薬物が、どのように．吸収、分布、代謝、排泄されるかの知識について理解する。これらの基礎知識を基にして、疾患に対する治療法、薬物療法を理論的に習得すると共に、薬品の取り扱いや管理方法についても理解する。「栄養学・食事療法」は、食物と栄養の関係、栄養素などの身体内での働きや代謝を理解することをねらいに設定した。食品と栄養素の関係、栄養素の役割、特性などの身体と食事の関係を知るために必要な基本的な知識を理解する。栄養療法を中心に展開し、治療食の献立・材料・調理法・味について調理実習を組み合わせて人の栄養状態を適正化する方法を総合的に習得する。「臨床検査学」は、病態把握に必要な検査の目的や方法を知り、検査データの意味を説明できることをねらいに設

定した。臨床検査が現代医療の中で果たす役割を理解すると共に、検査は何のために行われ、またどのような方法で実施されているかを学ぶ。「疾病と治療Ⅰ」～「疾病と治療Ⅶ」は、器官系統別の疾病と治療及び検査について理解を深めることをねらいに設定した。健康な人体は、各器官が特徴ある構造を生かし機能的な働きをしている。健康時は生理学的な均衡状態を維持している。しかし、その部位にひとたび病変ができると、その機能は何らかの障害を受ける。その結果として特徴的な症状が出現し、相対的には疾病を形成する。その疾病を特定するために行われるのが検査であり、その検査の結果に応じて治療が選択的におこなわれる。器官系統別に疾病と治療及び検査について理解を深める。

３）健康支援と社会保障制度

人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を養う内容として「くらしを支える手続き」「くらしの中の医療」を設定した。保健・医療・福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割の理解等を含む内容とした。少子高齢化、入院期間の短縮、在宅医療、医療費の増大、診療報酬制度の変化等、医療・看護には大きな変化がおきている。看護に必要な法令等から今日的な医療の諸問題を考える。「医療行政論（関係法規）」は、社会保障の理念と基本的な制度、医療に関する関係法規を理解することをねらいに設定した。生活者の生活に対する法律と人々の健康を守るためのサービス提供に関する基本的な法律について学ぶ。「くらしを支える手続き」は、生活していく中での様々な手続きについて理解できることをねらいに設定した。ライフステージに応じて暮らしに必要な手続きがある。地域で生活する人々は、様々な手続きを経て暮らしている。医療従事者はこれらの手続きに少なからず関与する機会がある。そこで、地域の人々の暮らしを理解するには、暮らしに必要な手続きについて理解しておく必要がある。「くらしの中の医療」は、家庭の日常に潜む生命をおびやかす場面に対する初期対応ができることをねらいに設定した。健康な暮らしを送るなかでは、家族が急な異変を呈することに少なからず遭遇する。急変した場合どのように対処すればよいのか。健康を害したときのために、医療のしくみや医療保険などは地域の人々が活用できなければならない。受診や入院の際には医療費・調剤費として窓口での支払いがある。これらのことは暮らしの中の日常として存在する。身近で起こり得る事例をもとに、その初期対応やその後に展開される医療やその診療報酬・調剤報酬に関する知識を学ぶ。「公衆衛生学」は、組織的な社会の活動を通じて、地域に暮らす全ての人々の健康を保持増進することをねらいに設定した。公衆衛生学の成り立ちと発展、保健・医療における疾病予防の概念、わが国の健康水準、疫学的方法論等について学習し、さらに、地域、学校、産業の場における公衆衛生の制度と保健衛生活動の実際について学習していく。「社会保障論」は、社会保障の制度全体を把握しつつ、医療・看護との関連分野との連携について理解することをねらいに設定した。少子高齢化を迎えるなか、社会的な再分配機能としての社会保障の諸制度はどのようになっているのか。社会保障の歴史から現状をもとに諸制度を概観する。制度・政策、援助の背景となる基本思想・理念、社会福祉実践の専門性について理解する。「地域福祉

論」は、地域福祉の理念と内容と方法が理解できることをねらいに設定した。自分らしく、住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくことができるような地域社会を、地域の力を結集してつくり出していく。地域住民が抱える生活問題の現状を踏まえ、新たな地域社会を形成していく可能性を考える。

３．専門分野

専門分野では、看護学の土台として位置づけ、看護７領域に共通する概念・理論・技術を学ぶ。各看護学及び地域・在宅看護論の基盤となる基礎的な理論や方法を学ぶために演習を含み、臨床判断能力や多職種との連携と協働を強化する内容とし、看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う。看護学の土台として、「基礎看護学」「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と実践」「臨地実習」を位置づけた。

１）基礎看護学

基礎看護学では、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、看護の展開方法等を学ぶ内容とし、シミュレーション等を活用した演習を強化する内容とした。コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化する内容として「コミュニケーション技術」「ヘルスアセスメント技術」を設定した。事例等に対して、安全に看護技術を適用する方法の基礎を学ぶ内容とした。また、看護師として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を養う内容とした。特に看護実践能力の習得を重視し、時間数を１８単位５１０時間に設定した。「看護学概論」は、看護の定義と概念、健康・人間・環境の概念および保健・医療・福祉における看護の現状と看護の役割を理解することをねらいに設定した。我が国は高齢多死社会をすでに迎えている。看護の場は、医療施設から生活の場にシフトしつつある。看護活動の場はますます拡大し変化していく。この現状において看護師に求められているものは何かを学ぶ。「看護理論」は、看護の対象である人間を理解するための看護理論から実践への示唆を得ることをねらいに設定した。看護の知識体系は、実践を記述し、説明し、より良い結果を予測する看護理論が大きな役割を果たしている。主要な看護理論を理解し、実践への応用ができるよう学ぶ。看護実践の現象は複雑であることから、一つの看護理論ですべての現象を説明することは難しい。そのため様々な看護理論が活用できるよう学ぶ。「医療と看護倫理」は、医療現場で起こりうる倫理的諸問題について理解し、倫理的配慮の考え方を修得することをねらいに設定した。「どのような医療やケアが患者にとって最善か」を常に考えながら日々のケアにあたる看護師にとって、倫理は礎ともなるものである。看護師が日々直面する倫理の課題について論点を整理し、議論の枠組みに基づき検討を重ねる。よりよい看護とは何か、よりよい患者ー医療従事者関係における看護師の役割とは何かを学ぶ。基礎看護技術については、看護基礎教育における技術項目と到達度における「技術」はテクニカル・スキル（手技）であると整理された。このことを前提に、看護技術は「基礎看護技術論」として、Ⅰ～Ⅶに区分し、「基礎看護技術

論Ⅰ（環境調整と活動・休息）」「基礎看護技術論Ⅱ（清潔）」「基礎看護技術論Ⅲ（感染防止と創傷管理）」「基礎看護技術論Ⅳ（食事と排泄）」「基礎看護技術論Ⅴ（救急処置と看護管理」「基礎看護技術論Ⅵ（与薬）」「基礎看護技術論Ⅶ（生体機能管理と診察介助）」とした。「コミュニケーション技術」は、医療におけるコミュニケーションの重要性と基本的な方法について学ぶ内容として設定した。コミュニケーションスキルは、相手と十分な意思疎通を行うための技術である。共感していることを上手く伝えるテクニック（技術）により、信頼関係を築くことを学ぶ。「ヘルスアセスメント技術」は、対象の健康状態を把握するためのフィジカルアセスメントと心理・社会的アセスメントを統合する基本的技術を習得できることをねらいに設定した。対象の健康状態を分析的に判断・査定し、分析結果にもとづいて看護の必要性を判断することで看護診断や看護ケアを方向づけていくことを学ぶ。「看護過程展開の技術」は、対象の看護を展開するための方法として、観察、判断、計画、実施、ケアの評価をする思考過程を習得することをねらいに設定した。患者情報をもとに、その患者に適した（必要な）ケアは何かを判断し、そのケアを患者に合った方法で、実施することの必要性と方法について学ぶ。「臨床看護総論」では、各領域に共通した思考や方法を用いて、それを基礎として各領域では応用した看護実践を展開することをねらいとして設定した。多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ。「健康教育の技術」は、健康教育を意図的・計画的におこなう方法として、指導案の構成にそって指導ができることをねらいとして設定した。看護師の「教えたいこと」を学習者の「学びたいこと」に変化させていく意図的な教育活動として学習指導案がある。看護師が健康教育をするにあたり、どのような意図やねらいをもってどのように進めていくのか、その構想を一定の形式で書き表す方法について学ぶ。「看護研究Ⅰ」では、研究を学ぶ意義、すすめていく手法、研究計画書の作成、研究論文の書き方が理解できることをねらいに設定した。疑問から知り得た知識を組み立て、推論し、現象を読み解くことは看護学を発展させることに繋がる。系統的で論理的な方法を用いて探求する手法を学ぶ。「看護研究Ⅱ」では、量的研究の基礎を学ぶことをねらいとした。したがって、多くの疑問が抽出された中から調査研究に絞り込みをしていく。知りたいことに関するデータを収集し、知りたいことにはどのような特徴があるのかを考え分析する。内容としては、アンケート調査から得られたデータを取り扱う。その過程ではデータ処理方法として統計解析についても学ぶ。「臨床判断演習Ⅰ（基礎看護学）」では、臨床判断モデルのプロセス「気づき」「解釈」「反応」「省察」のそれぞれが持つ意味を理解できることをねらいとした。臨床判断モデルを活用して、事例のプロセスを「看護師のように考える」ことで臨床判断能力を育むことができる。実際の現場で活用しているフィジカルアセスメントの具体的な手法を臨床判断を支える基礎として学ぶ。事例は症状とフィジカルアセスメントに焦点を当てる。意図的な情報収集から今後の病態を予測し、看護の実践につなげることができる。

２）地域・在宅看護論

地域・在宅看護論では、地域で生活する人々とその家族を理解する内容に「地域の暮らしを

守る演習」「働く人々の健康を守る演習」を設定し、地域における様々な場での看護の基礎を学ぶ内容とした。地域で提供する看護を理解し基礎的な技術を身につける。多職種と協働する中での看護の役割を理解する内容とし、地域での終末期看護に関する内容も含むものとした。

在宅療養者と家族の生き方、生活を理解し、住み慣れた地域でその人らしく生きていくことができるように、尊厳を守り、ＱＯＬの維持・向上を目指した看護の機能と役割を学ぶ。

「地域・在宅看護概論」では、生活者としての療養者と家族の生活や特性を理解し、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を説明できることをねらいとした。地域保健医療福祉の全体像、地域看護の概念枠組み、地域看護の行われる場、関連制度や政策について理解する。「地域・在宅看護方法論Ⅰ」では、在宅看護において療養者と家族の”生活する”ことを支える日常生活の支援や日常生活を中心とした在宅援助を学ぶ。在宅看護におけるコミュニケーションは信頼関係を築くためには必須である。療養上のリスクマネジメントにより、安全を確保する重要性とその方法について学ぶ。「地域・在宅看護方法論Ⅱ」では、在宅における医療的援助の基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を学ぶ。年々療養の場の広がりから医療的ケアが必要な在宅療養者が増加している。医療的ケアがあっても在宅療養を継続していくためには、療養者とその家族に対して看護師によるサポートが重要になってくる。様々な事例から、療養者と家族、その環境と状況に応じた在宅看護の実際を学び、在宅看護の実践につなげる。「地域の暮らしを守る演習」では、地域を守る災害への備えや防災について学ぶ内容を含めた。地域で暮らす多様な人々の日常とはどのようなものか。その日常にあるリスクから、災害が生じたときに何が起こるかを予測して備えることは健康な暮らしを守ることになる。看護がどのような役割を果たせば健康に暮らせるのか。地域の暮らしの実際から、市町、社協などが健康な生活に向けての課題を地域と共有しながら見出していくことを学ぶ。「働く人々の健康を守る演習」では、地域の産業を知り、そこで働く人々の労働環境を理解する。労働がもたらす健康への影響を体験から考え、健康維持のための予防活動の重要性を理解することをねらいとした。私たちが生活する地域にはどのような産業があり、私たちの暮らしがあるのかを知ることで、地域で働く人々の健康を考えることができる。健康的な生活の維持・増進を図ることが、地域の発展を支えることとなる。自らの健康を管理できるようにセルフケア能力を高めることが重要である。「地域・在宅看護方法論Ⅲ」では、在宅看護の事例・演習を通して、看護過程の展開ができることをねらいとした。在宅における看護のゴールは、望む場所での療養継続やセルフケア機能の維持・低下防止が挙げられる。つまり、疾患を抱えつつも生活者として生きていく療養者とその家族を支えていくことが重要である。価値観や生活習慣、希望などに配慮した目標や計画を立案していくといった在宅看護過程の特徴を理解した上で、事例を通し展開方法を学ぶ。「臨床判断演習Ⅱ（地域・在宅看護論）」では、地域・在宅看護方法論Ⅰ～Ⅲで学んだ基礎的看護をもとに、応用として臨床判断を求められる演習を通して状況を判断する力に加え、地域包括ケアシステムにおける多職種連携での臨床判断を学ぶことをねらいとした。

３）成人看護学

健康の保持・増進及び疾病の予防に関する看護の方法を、“器官系統別の看護”として事例展開により学ぶ内容とした。成人期の特徴を深く理解し、様々な健康状態にある人々及び多様な場で看護を必要とする人々に対する看護の方法を学ぶ内容とした。成人看護学の対象は、社会で働く人や家庭生活で家事や育児・介護の中心である人など、社会的役割や責任をもちながら生活をしている人々である。その対象が抱えている健康問題へのアプローチの方法を学ぶ内容として位置づけた。各器官の病変によって症状はおこる。その症状に対して検査がおこなわれ、その検査結果に基づく判断で治療・処置がおこなわれる。この一連の過程で看護は重要な役割を果たしている。この一連の看護を学ぶとともに、代表的な疾患の事例をもとに演習として展開する。各器官に起こっている状況をアセスメントし、その看護援助がおこなえる基礎的能力を養う。

「成人看護学概論」では、成人の生活と成人各期における健康レベルに応じた看護のアプローチの基本を習得することをねらいに設定した。人々が健康を害した時に安心して治療を受けられるよう、健康回復を促す看護や、健康課題をもちながらもその人らしく生活するための看護を一人ひとりの立場や役割、生活習慣と関連づけて考える。その人が生活している家庭や社会における役割、生活習慣、価値観や心理的側面を理解する必要性について学ぶ。成人に必要な看護の内容を以下の成人看護方法論Ⅰ～Ⅴの単位として設定した。「成人看護方法論Ⅰ（呼吸器・循環器）」「成人看護方法論Ⅱ（内分泌・消化器）」「成人看護方法論Ⅲ（脳神経・運動器）」「成人看護方法論Ⅳ（血液造血器・膠原病・感染症）」「成人看護方法論Ⅴ（女性生殖器・腎泌尿器）」とし系統別に学ぶ内容とした。「臨床判断演習Ⅲ（成人看護学）」では、成人看護方法論Ⅰ～Ⅴで学んだ基礎的看護をもとに、応用として臨床判断を求められる演習をとおして状況を判断する力を学ぶことをねらいとした。成人は、長年の生活習慣があり、働く世代であり、何らかの労働に従事している。これらの特徴が成人疾患をひきおこす原因の基礎になっている。これらの背景をふまえ、あらわれる症状や検査データを解釈する必要がある。さらに働く世代を病が襲うとその家族にも大きな影響を与え、役割変化を余儀なくされることとなる。これらの特徴をアセスメントし回復に向けての臨床判断を学ぶ。

４）老年看護学

加齢に伴う高齢者の健康と疾病の予防に関して、「その人のもつ力」が発揮できるよう支援することを事例展開により学ぶ内容とした。老年期の特徴を深く理解し、多様な場で看護を必要とする高齢者に対する看護の方法を学ぶ内容とした。老年期は人生の集大成の時期である。加齢によってこれまでできていたことができなくなるなどの辛さや無力感を抱える時期でもある。その人らしく生活でき「その人のもつ力」が発揮できるよう支援することが重要となる。

「老年看護学概論」では、老いの意味を考え、加齢に伴う高齢者の健康状態の変化を説明できるとともに、老年期の対象の尊厳と権利擁護など倫理的問題を学ぶことをねらいとした。高齢においても「その人のもつ力」を信じてかかわる基本的な看護の考え方、高齢者の権利擁護

と倫理的問題を学ぶ。「老年看護方法論Ⅰ」では、加齢に伴う心身の変化と特徴を理解し、高齢者を取り巻く社会と保健福祉制度を理解することをねらいとして設定した。多様な場で展開する高齢者の看護、生活の場の移動、生活機能障害がある高齢者の自立とセルフケアへの支援を学ぶ。「老年看護方法論Ⅱ」では、高齢者におこりやすい症状と疾患における看護を理解することをねらいとした。様々な療養環境において、老年期疾患の特徴を理解するとともに、認知症高齢者と家族の生活障害と心理的苦悩の理解への看護実践を学ぶ。「老年看護方法論Ⅲ」では、老年期に起こり易い健康問題について、看護過程が展開できる能力を養うことをねらいとした。電子カルテの事例から情報収集をおこない、老年期特有の看護について学ぶ。「臨床判断演習Ⅳ（老年看護学）」では、老年看護方法論Ⅰ～Ⅲで学んだ基礎的看護をもとに、応用として臨床判断を求められる演習をとおして状況を判断する力を学ぶことをねらいとした。事例として特徴的な２疾患を取り上げ、ライフステージ最後の「死」について考えるとともに、人間としての尊厳を失わずその人らしい人生を全うできるよう安らかな死への援助をどのようにすべきかの臨床判断を学ぶ。

５）小児看護学

小児の成長・発達に関する看護の方法を、発達段階別に事例展開によりその特徴を学ぶ内容とした。小児期の特徴を深く理解し、様々な成長発達おける健康問題に家族を含めた環境からアセスメントする看護の方法を学ぶ内容とした。小児期は絶え間ない成長発達をとげる時期であり、小児期の過ごし方はその後の身体的・精神的・社会的発達や健康生活に大きく影響を与える。小児看護学は、子どもだけではなく、その家族も含めて看護が必要となることが特徴である。

「小児看護学概論」では、小児看護の特徴・理念・役割を理解し、小児期の成長・発達、および子どもを取り巻く環境と子どもと家族を支援するための法律と施策を理解する。少子高齢化に伴い、子どもを取り巻く環境は変化している。様々な年齢の人々との関わりが減り、社会性が育まれにくい環境にある。このような現状における看護の役割について学ぶ。「小児看護方法論Ⅰ」では、看護の対象となる子どもの各期の成長・発達の特徴について学ぶとともに子どもを取り巻く環境とそれらが与える子どもへの影響、各期の望ましいかかわりについて学ぶ。「小児看護方法論Ⅱ」では、疾病や障害を持つ子どもと家族の看護を学ぶ。アセスメントをするために必要な知識と技術を身につけるとともに、検査・処置の目的と具体的な支援の方法を理解する。「小児看護方法論Ⅲ」では、健康問題のある子どもと家族の事例から、情報収集・アセスメント・看護問題の明確化のプロセスを理解する。効果的な看護を展開するため子どもとその家族を対象とした援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。「臨床判断演習Ⅴ（小児看護学）」では、事例を通した演習により、成長・発達および子どもを取り巻く環境から子どもと家族をいかに支援するかについて実践的な臨床判断を行うための思考力を培う。

６）母性看護学

女性のライフサイクルにおける母性各期の健康問題を理解し、リプロダクティブヘルスから

のヘルスプロモーションに関する看護の方法を、周産期を中心にした事例展開によりその特徴を学ぶ内容とした。母性看護学では、周産期、思春期、更年期など女性の一生を通じた健康生活の維持・増進、疾病予防を目的とする。母性看護の対象は一生をとおしての女性であるが、周産期においては母子とその家族および地域をも含む。

「母性看護学概論」では、母性をめぐる様々な現状と動向を理解し、人間のセクシュアリティやリプロダクティブヘルス／ライツについて理解することをねらいとした。社会の変化とともに、女性の生き方やライフスタイルも多様化し、結婚や妊娠・出産を選択しない生き方も増えた一方で、妊娠を強く望みながらも、願いが叶わず苦しむ女性もいる。母性は種の保存に関わることから、女性のライフサイクルにおけるホルモン変動を理解し、その変動がもたらす健康問題についても学ぶ。子どもを産み育てる母性は保護されなければならない。母子保健における施策を知り、母性を保護する法律について学ぶ。「母性看護方法論Ⅰ」では、妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常な経過を学び、各期における対象のアセスメントおよび望ましい看護の実際について理解する。「母性看護方法論Ⅱ」では、正常を逸脱した母子に対する看護を学ぶ。健康状態をアセスメントし、正常へと導けるよう適切な援助ができる能力を養う。さらに、遺伝および不妊の問題についても学ぶ内容とし、自己決定を助けるために提供する情報や望ましい態度について理解する。「母性看護方法論Ⅲ」では、ウェルネス志向型看護診断が理解でき、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における看護過程が展開できることをねらいとした。妊娠・分娩・産褥は正常な経過ではあるが、短期間において大きな変化を遂げる。家族役割も大きく変化するためその適応は容易ではない。正常な経過ながら変化が大きいということは異常にも移行しやすい不安定な時期でもある。その中で女性が本来持っている力を引出せるよう、ウェルネスな視点での支援について学ぶ。「臨床判断演習Ⅵ（母性看護学）」では、女性の一生における特有な状況において、正常に導くための臨床判断ができることをねらいとした。現代に生活する女性には、複雑な問題が起こりうる状況がある。妊娠・分娩・産褥経過については正常な経過を辿れるよう導くことが期待される。様々な事例において、正常から逸脱するかもしれない気がかりな情報に対して、いかに”臨床推論”していくかについて演習を通して、臨床判断モデルにそって進める。

７）精神看護学

精神看護学における対象の特徴、心の健康について、看護の機能と役割について理解する。健康の保持・増進及び疾病の予防に関する精神看護の方法を学ぶ内容とする。心の不健康状態にある人々に対する看護の方法を学ぶ内容とする。精神看護学は看護のあらゆる領域におけるこころの健康維持・増進にかかわる。すべての人がこころの健康を維持・増進できるように、こころの健康問題を持った人がその人らしさを取り戻し、望む場で生活していくことを支援する。人には自分らしく生きていく権利があり、すべての人が変化と成長の可能性を持っている。さまざまな人とつながり自己実現へと向かうプロセスを支えることを様々な角度から学ぶ。

「精神看護学概論」では、精神看護の対象の特徴、心の健康について、その機能と役割につ

いて理解する。心のしくみと人格の発達が人の生活にどのように影響するのか、精神を病むとはどういうものかについて理解できる。家族・集団の人間関係としての特性とダイナミクスについても学ぶ。「精神看護方法論Ⅰ」では、心の不健康状態としての精神障害の種類と精神症状、それらに対しておこなわれる精神療法について学ぶ。精神の障害では脳の働きの変化によって、感情や行動に変化が見られる。罹病期間が長く、生活障害が大きいことが特徴である。一度改善しても再発しやすいことも精神障害の特徴でもある。発症を予防することが課題であり、発症した場合でも早めに対処を始めることの重要について学ぶ。「精神看護方法論Ⅱ」では、精神障害や疾患を抱えた人のケアの原則を理解し、入院治療と看護ケアについて学ぶことをねらいとした。精神科医療は課題を抱えながらも地域へと確実にシフトしつつある。現状でも地域で暮らす精神障害者のほうがはるかに多い。「症状や障害をもちながらもその人の人生をその人なりに生きていけること」が治療の目標となった。看護師との関係にも新たな発想が求められるようになってきた。精神障害をもった人々が、地域で生活するために必要な支援と課題、および精神保健医療福祉をめぐる法制度についても学ぶ。「精神看護方法論Ⅲ」では、事例・演習を通して精神に障害のある人々の看護過程を展開できることをねらいとした。精神障害者が地域で生活を送り、それを支えるための援助は、当事者の自発性や健康的な力に焦点を当てることである。援助は、その人の強み:ストレングスや長所などのプラス面に着目する。あらゆる場における看護の実際について、事例をとおして、コミュニケーション技術や看護理論を用いて看護が展開できる基礎的能力を養う。「臨床判断演習Ⅶ（精神看護学）」では、精神障害を持つ人々が日常生活を送れるように導くための臨床判断ができることをねらいとした。精神に障害のある人々が示す特徴的な症状は、様々な場と行動に現れる。その行動が示す意味を臨床推論することで、臨床判断をいかにし、援助するかの考え方を学ぶ。

８）看護の統合と実践

チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学ぶ内容、臨床判断を行うための基礎的能力を養う内容、専門基礎分野で学んだ内容をもとに看護実践を段階的に学ぶ内容として、「『連携と協働』の演習Ⅰ」～「『連携と協働』の演習Ⅳ」を設定した。さらに、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う内容、医療安全の基礎的知識を含む内容、災害の基礎的知識を含む内容、諸外国における保健・医療・福祉の課題を理解する内容、看護技術の総合的な評価を行う内容を設定した。看護の未来を志向し、創造性のある看護を目指しながら専門職業人として、国際的視野に立ち、いかなる状況下におかれていても安全でより実践的な援助方法を学ぶことである。目まぐるしく高度発展を遂げる医療に対して適切に看護できる能力、国際社会の中で看護を創造できる能力、救急時・災害時に即応できる看護実践力、医療安全に対する対処方法を理解する能力、看護情報の電子カルテ化に順応できる能力、看護管理能力の開発に努めるためである。臨床で直面する問題を医療政策・看護政策の観点から捉え、課題を整理できるように、看護を取り巻く制度・政策についても理解する。

「高度先駆的看護」では、国際社会の中で看護実践する専門職である自覚を持ち、広い視野で２１世紀の看護を創造する能力を習得することをねらいとした。高度先駆的医療の動向について理解する内容として、遺伝カウンセリング、周産期医療をはじめとする現代における高度医療の現状を取り上げる。「『連携と協働』の演習」Ⅰ～Ⅳは、①同学年協働学習、②異学年交流学習、③他学科多職種連携を３つの軸として、以下のように具体的内容として設定した。設定の意図として、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域における医療介護関係機関が連携して、包括的かつ継続的な治療・ケアを、患者またはその家族へのサービス体制が構築され、すでに提供されている。この連携を可能にするのは医療職種間の情報共有であることから、教育内容に設定した。医療情報のＩＣＴ化も含め展開する。「東洋医学」は、本校に鍼灸学科があることを生かし看護への応用を意図した教育内容とすることをねらいとした。看護への応用として、統合医療に用いられる補完代替医療を学ぶ内容とした。東洋医学は２０００年以上前の中国で発祥し、東アジアの地域で発展した医学である。「鍼灸治療」、「漢方治療」、「手技治療」の３つからなる。循環機能を改善し、身体のバランスを整える治療法である。統合医療の今日的な意義と、日本で利用頻度の高い東洋医学の概論について学ぶ。「リラクゼーション方法論」では、看護の基本は“手当て”であるという根流が、東洋医学における手を用いたケアと同流であることから、手によるケアの有用性を提供できることをねらいとした。リラクゼーションは「緩和」である。体の筋肉を緩めることで、心身ともに緊張をほぐし、ゆったりとした気分で過ごす癒やしとしての意味合いをもつ。現代人の生活のなかで崩れやすい自律神経のバランスは、リラクゼーションによって整えることができる。多様化する健康ニーズに添える看護専門職者として、指圧・マッサージ・ツボ療法等さまざまなリラクゼーションの方法を学ぶ。「医療安全管理」では、医療事故の構造と事故防止の視点から、現場に即した医療安全教育を展開することをねらいに設定した。医療機関における医療安全確保の観点から、　診療報酬に入院基本料算定が義務付けられている。つまり、安心・安全で質の高い医療を提供することは病院の使命であるとともに看護の使命でもある。医療安全は、ヒューマンエラーに関する”人間の特性”と”人間を取り巻く環境”の両面から取り組む必要がある。最善の医療を受ける患者の権利を保護し、最善の医療を提供する医療安全管理について学ぶ。「国際看護学」は、世界のヘルスニーズの現状と保健・医療システムについて、国内外における国際保健医療活動の役割が理解できることをねらいとした。国際看護は、世界の人々のよりよい健康維持・改善のために、グローバルヘルスの課題に取り組み、看護職者としての活動を行う。ＷＨＯなどの国際機関や政府機関、ＮＧＯ、ＪＩＣＡ、などで活躍する看護師の活動の一端を学び、海外でのフィールドワークに対して貢献することの必要性について知る機会とする。「看護管理」では、医療機関における看護の組織、看護体制、安全管理などのマネジメントについて理解することをねらいとした。ヒト、モノ、カネ、そして情報や時間、文化といった「経営資源」をどのようにやりくりすれば、組織が目標を達成できるのか、つまり「マネジメント」を考えることが必要である。勤務管理や業務管理、

看護師の配置、安全管理、新人看護師教育など、すべてが看護の質を高めることにつながっている。管理は、看護師の専門的な能力を発揮させ、看護の質を向上させるためのものである。資源には限りがあることから、計画や管理は常に効果的・効率的に行うことが求められる。「災害看護学」では、災害が人々の健康や社会生活に及ぼす影響や被災者への援助や心のケアについて理解するとともに、災害時の看護職者の役割を学ぶことをねらいとした。地球温暖化に伴う気候変動の影響があり、洪水や土砂災害などの災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している。このような状況の中で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、人々の健康にかかわる看護の専門職として役割を発揮していくことが求められる。「救急看護」では、医療現場での救急処置・救護が確実にできる看護師を養成することをねらいとして設定した。救急看護は、救急処置が必要な対象に実施される看護活動の中でも初療段階での看護実践である。場所、疾患、臓器、対象の発達段階、診療科、重症度を問うことはなくすべてが対象となるが、その際に緊急度を判断する必要がある。救急看護に一連の過程を学ぶ。「看護情報システム論」では、ほぼ全ての医療機関で電子カルテが導入され、日常の業務となった現状から、データを情報として活用する情報科学技術の知識を学ぶとともに、情報を活用する上で守らなければならない倫理、法的根拠を理解することをねらいとした。看護が医療チームの一員として機能するためには、多職種や患者にも提供できる看護情報システムの構築が不可欠である。①多職種間、看護職間で共有する情報の明確化、②標準化範囲、③医師の指示の実施から記録にいたる看護の責任範囲と協力体制の仕組み作りなどがおこなわれている。データベースもネットワーク化され、看護業務は変化している。医療情報システム・看護情報システムの役割と機能について学ぶ。「看護ゼミナール」では、看護学術集会に参加し、演題や基調講演・招聘講演・シンポジウムなどを聴講し、最新の看護研究の内容を学ぶ。「看護政策論」では、医療・看護に関する法や制度について概観し、看護政策の現状と課題、および看護職の役割を理解することをねらいとした。「クリティカルシンキングⅠⅡ」では、ケースレポートの意義・目的・特徴とプロセスについて学ぶとともに、看護実践を振り返り、クリティカルな思考で、文献検索・抄録・集録・発表原稿・プレゼンテーション資料の作成・発表ができることをねらいとした。

９）臨地実習

各看護学で学んだ知識・技術を看護実践の場面に適応し、看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を養うとともにチームの一員としての役割を学ぶ。また、保健医療福祉との連携・協働を通して、看護を実践できる能力を養う。

１年次後期の「基礎看護学実習Ⅰ（病院を知る実習）」では、対象が入院生活を送る環境について学ぶとともに、対象への看護実践を見学を通じて学ぶ。２年次後期の「基礎看護学実習Ⅱ（看護過程実習）」では看護過程を用いて、対象の個別性を考慮した看護を実践する方法を学ぶ。同じく２年次後期の「小児看護学実習Ⅰ」では、健康な生活を送る小児の成長発達を保育の場で学ぶ。３年次後期から４年次前期では、切れ目のない看護を提供するために、多様な場で実習を行うよう設定した。「地域・在宅看護論実習」では、在宅で生活し、看護を必要と

する対象者に対し、現状に基づいた看護援助を実践する基礎的能力を養うとともに、地域支援活動を通じて、保健医療福祉チーム内での看護の役割を考える。「成人看護学実習Ⅰ（外来診療実習）」では、外来で診察を受ける対象者の受療行動を理解し、診察や検査を受ける際の不安や戸惑いを理解した対応ができるよう設定した。「成人看護学実習Ⅱ（急性期・回復期）」では、周手術期における身体侵襲の影響を踏まえ、生命の保護が最優先される対象者への看護や、急性期・回復期の対象者への看護を実践する能力を養う。「成人看護学実習Ⅲ（慢性期）」では、疾患を持ちながら生活する対象者の特徴や病態を理解し、治療継続や自己管理の援助方法を学ぶ。また生活様式の変化やＡＤＬの低下がある対象者に対して、機能再獲得の援助を学ぶ。「成人看護学実習Ⅳ（終末期）」では、終末期にある対象および家族の特徴を理解し、対象の意思を尊重しその人らしく生きるための援助を学ぶ。「老年看護学実習」では、地域や介護福祉施設で生活する高齢者の支援体制を理解し、加齢や健康レベルに応じた援助を目指す。「小児看護学実習Ⅱ」では、健康を障害した小児とその家族に対して適切な看護を実践できる基礎的能力を養う。特に、入院生活を送る小児に対して、成長発達に応じた生活習慣を維持し、遊びや学習を通じて日常生活援助の実際を学ぶ。「母性看護学実習」では、女性のライフサイクルにおける性と生殖の意義を理解し、生命の尊厳を尊重する看護の実際を学ぶ。「精神看護学実習」では、精神障害を持つ対象者の特性を理解し、自立に向けた看護を実践する能力を養う。また、精神障害を持つ対象者の人権擁護の重要性を理解し、尊重する態度を養う。４年次後期の「統合実習」では、各専門領域での実習を踏まえ、実務に即した実習とする。一勤務帯（日勤）と通した実習、複数の患者を受け持ちチームの一員として多職種と連携・協働しながら看護を実践する実習、夜勤帯の実習、管理実習を設定した。

看護学科学年目標

1．学年別到達目標

【第１学年】

（１）課題意識を持って学習に参加することで、看護に対する興味・関心を深める。

（２）看護の概念を理解し、基礎的知識・技術・態度を習得する。

（３）生命の尊厳を重んじ人間に対する理解を深める。

【第２学年】

（１）学習した基礎看護技術（基本技術、援助技術、指導技術）を実習の中で対象の基本的ニード充足のために活用できる。

（２）対象の持つ健康上の問題を多面的に把握し、看護過程を展開できる。

（３）人間としての価値観・死生観・人生観を養い、領域別実習につなげることができる。

【第３学年】

（１）意思決定のプロセスを理解し、判断・行動ができる能力を体得する。

（２）状況に応じた問題解決の能力を身につける。

（３）学校生活、日常生活の中で人間関係の調整能力を養う。

（４）看護の専門職業人にふさわしい態度を育成し生涯学習が続けられる習慣を養う。

（５）東洋医学の意義と健康観を理解する。

【第４学年】

（１）医療・福祉・教育分野において、将来さらに専門性を深めていくことのできる基盤を身につける。

（２）看護実践の改善または看護学の発展のための看護研究基礎能力を習得する。

（３）自己成長ならびに専門職としての発展に役立つ活動に参加し、生涯学習へ継続できる。

（４）自己の意思決定への責任能力を習得する。

（５）看護チームの一員としてメンバーシップ、リーダーシップを理解し、より実践に近い状況での体験をし学校と臨床現場のギャップを少なくすることができる。

カリキュラム

区分			指定規則単位数	授業科目	単位数	項目別合計単位数	時間数	授業単位数			
								第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
基礎分野	科学的思考の基礎	自然科学系	14	物理学	1	18 (19)	15	1			
				化学	1		15	1			
				情報科学	1		15	1			
				情報科学演習	1		30	1			
				生涯スポーツ論	1		30	1			
	人間と生活・社会の理解	人文・社会学系		人間関係論	1		15	1			
				死生論	1		15				1
				家族社会学	1		30	1			
				発達心理学	1		15		1		
		コンプリメンタリーセラピー		日本語表現法	1		15	1			
				地域文化論	1		30	1			
				臨床心理学	1		30			1	
				笑いと医療	1		15			1	
				音楽療法	1		15		1		
				健康科学論	1		15	1			
		外国語		英語Ⅰ	1		30	1			
				英語Ⅱ	1		30		1		
				英語Ⅲ	1		30			1	
				＊中国語	(1)		(15)				(1)
		教育学		教育心理学	1	4	15			1	
				教育原理	1		15		1		
				教育評価	1		15				1
				教育方法論	1		15		1		
専門基礎分野	人体の構造と機能		16	解剖生理学Ⅰ	1	16	30	1			
				解剖生理学Ⅱ	1		30	1			
				病理学	1		30	1			
				看護に活かす解剖生理学	1		30		1		
				生活の中の解剖生理学	1		30			1	
	疾病の成り立ちと回復の促進			生体防御と感染症	1		15	1			
				疾病と治療Ⅰ（呼吸器・循環器）	1		30	1			
				疾病と治療Ⅱ（消化器・内分泌）	1		30	1			
				疾病と治療Ⅲ（脳神経・運動器・眼・耳）	1		30	1			
				疾病と治療Ⅳ（腎泌尿器・血液造血器・女性生殖器・歯）	1		30	1			
				疾病と治療Ⅴ（膠原病・感染症・皮膚）	1		15		1		
				疾病と治療Ⅵ（小児）	1		15		1		
				疾病と治療Ⅶ（母性）	1		15			1	
				薬理学・薬物療法	1		30		1		
				栄養学・食事療法	1		30	1			
				臨床検査学	1		30		1		
	健康支援と社会保障制度		6	医療行政論（関係法規）	1	6	15		1		
				くらしを支える手続き	1		30				1
				くらしの中の医療	1		30				1
				公衆衛生学	1		30		1		
				社会保障論	1		15				1
				地域福祉論	1		15			1	
専門分野	基礎看護学		11	看護学概論	1	18	30	1			
				看護理論	1		30		1		
				医療と看護倫理	1		30	1			
				基礎看護技術論Ⅰ（環境調整と活動・休息）	1		30	1			
				基礎看護技術論Ⅱ（清潔）	1		30	1			
				基礎看護技術論Ⅲ（感染防止と創傷管理）	1		30	1			
				基礎看護技術論Ⅳ（食事と排泄）	1		30	1			
				基礎看護技術論Ⅴ（救急処置と呼吸管理）	1		30	1			
				基礎看護技術論Ⅵ（与薬）	1		30		1		
				基礎看護技術論Ⅶ（生体機能管理と診察介助）	1		30		1		
				コミュニケーション技術	1		30	1			
				ヘルスアセスメント技術	1		30	1			
				看護過程展開の技術	1		30		1		
				臨床看護総論	1		30		1		
				健康教育の技術	1		15			1	
				看護研究Ⅰ	1		30		1		
				看護研究Ⅱ	1		30			1	
				臨床判断演習Ⅰ（基礎看護学）	1		15		1		

区分		指定規則単位数	授業科目	単位数	項目別合計単位数	時間数	授業単位数			
							第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専門分野	地域・在宅看護論	6	地域・在宅看護概論	1	7	30		1		
			地域・在宅看護方法論Ⅰ	1		15		1		
			地域・在宅看護方法論Ⅱ	1		30			1	
			地域の暮らしを守る演習	1		30	1			
			働く人々の健康を守る演習	1		30			1	
			地域・在宅看護方法論Ⅲ	1		30			1	
			臨床判断演習Ⅱ（地域・在宅看護論）	1		15				1
	成人看護学	6	成人看護学概論	1	7	30	1			
			成人看護方法論Ⅰ（呼吸器・循環器）	1		30		1		
			成人看護方法論Ⅱ（内分泌・消化器）	1		30		1		
			成人看護方法論Ⅲ（脳神経・運動器）	1		30		1		
			成人看護方法論Ⅳ（血液造血器・膠原病・感染症）	1		30		1		
			成人看護方法論Ⅴ（女性生殖器・腎泌尿器）	1		30			1	
			臨床判断演習Ⅲ（成人看護学）	1		30				1
	老年看護学	4	老年看護学概論	1	5	15	1			
			老年看護方法論Ⅰ	1		30		1		
			老年看護方法論Ⅱ	1		30		1		
			老年看護方法論Ⅲ	1		30		1		
			臨床判断演習Ⅳ（老年看護学）	1		15				1
	小児看護学	4	小児看護学概論	1	5	15		1		
			小児看護方法論Ⅰ	1		15		1		
			小児看護方法論Ⅱ	1		30			1	
			小児看護方法論Ⅲ	1		30			1	
			臨床判断演習Ⅴ（小児看護学）	1		15				1
	母性看護学	4	母性看護学概論	1	5	30		1		
			母性看護方法論Ⅰ	1		30		1		
			母性看護方法論Ⅱ	1		15			1	
			母性看護方法論Ⅲ	1		30			1	
			臨床判断演習Ⅵ（母性看護学）	1		15				1
	精神看護学	4	精神看護概論	1	5	15		1		
			精神看護方法論Ⅰ	1		30		1		
			精神看護方法論Ⅱ	1		30			1	
			精神看護方法論Ⅲ	1		30			1	
			臨床判断演習Ⅶ（精神看護学）	1		15				1
	看護の統合と実践	4	高度先駆的看護	1	17	15				1
			「連携と協働」の演習Ⅰ	1		30	1			
			「連携と協働」の演習Ⅱ	1		30		1		
			「連携と協働」の演習Ⅲ	1		30			1	
			「連携と協働」の演習Ⅳ	1		30				1
			東洋医学	1		30			1	
			リラクゼーション方法論	1		30			1	
			医療安全管理	1		15				1
			国際看護学	1		15				1
			看護管理	1		15				1
			災害看護学	1		15				1
			救急看護	1		15				1
			看護情報システム論	1		15				1
			看護ゼミナール	1		15			1	
			看護政策論	1		15			1	
			クリティカルシンキングⅠ	1		15			1	
			クリティカルシンキングⅡ	1		30				1
	臨地実習	23	基礎看護学実習Ⅰ（病院を知る実習）	1	24	45	1			
			基礎看護学実習Ⅱ（看護過程実習）	2		90		2		
			地域・在宅看護論実習	2		90				2
			成人看護学実習Ⅰ（外来診療実習）	2		90			2	
			成人看護学実習Ⅱ（急性期・回復期）	2		90			2	
			成人看護学実習Ⅲ（慢性期）	2		90			2	
			成人看護学実習Ⅳ（終末期）	2		90				2
			老年看護学実習（介護・福祉）	2		90			2	
			小児看護学実習Ⅰ	1		45		1		
			小児看護学実習Ⅱ	2		90				2
			母性看護学実習	2		90			2	
			精神看護学実習	2		90				2
			統合実習	2		90				2
指定規則科目合計		102	年次別合計	137	137	3,810	34	38	35	30 (31)
			卒業に必要な単位数合計	137	137	3,810	34	72	107	137
			選択科目を含む総合計	138	138	3,825	34	72	107	138

臨地実習計画表

臨地実習については下記のように計画している。

学年	領域	単位・時間	実習施設
１年次	基礎看護学実習Ⅰ	１単位　４５時間	ＫＫＲ高松病院・坂出市立病院 香川労災病院・まるがめ医療センター
２年次	基礎看護学実習Ⅱ	２単位　９０時間	
	小児看護学実習Ⅰ	１単位　４５時間	城東こども園・飯野こども園・城乾こども園・城南保育所・金倉保育所
３年次 ４年次	地域・在宅看護論実習	２単位　９０時間	坂出市立病院・訪問看護だん 訪問看護ステーションファミリア 宇多津町保健センター
	成人看護学実習 Ⅰ～Ⅳ	８単位　３６０時間	ＫＫＲ高松病院・坂出市立病院 香川労災病院・坂出聖マルチン病院 まるがめ医療センター
	老年看護学実習	２単位　９０時間	グランドガーデン
	小児看護学実習Ⅱ	２単位　９０時間	坂出市立病院・杢保小児科医院
	母性看護学実習	２単位　９０時間	四国こどもとおとなの医療センター 香川労災病院
	精神看護学実習	２単位　９０時間	三船病院 こころの医療センター五色台
	統合実習	２単位　９０時間	ＫＫＲ高松病院・坂出市立病院 香川労災病院・まるがめ医療センター
計		２４単位　１０８０時間	

四国医療専門学校　履修要綱

この要綱は、入学してから卒業するまでの学生の履修について、学則、その他の規程等を補足しながら特に注意しなければならない事項を規定する。

Ⅰ．学事について

１．学年

学年については、学則第９条に規定している。

授業は、学事暦に従って行われる。

学年は、４月１日から翌年３月３１日までとし、これを前期と後期の二期に分ける。

２．学期

学期については、学則第９条に規定している。

学年の学期は、次のとおりであるが、学校長は、必要によりこれを変更することができる。

前　期　：　　４月１日　から　９月３０日まで。

後　期　：　１０月１日　から　翌年　３月３１日まで。

３．休業日

休業日については、学則第１０条に規定している。

本校の休業日は、次のとおりとする。

１）　土曜日、日曜日

２）　国民の祝日に関する法律に規定されている休日

３）　創立記念日（１０月２５日）

４）　夏・冬・春季休業日（季節休業）

学校長が必要と認めるときは、休業日であっても授業または試験を行なうことができる。

５）　非常変災その他急迫の事情があるとき、又は教育の実施上特別の事情があるときは、臨時に授業を行わないときがある

（１）　荒天時の対応

荒天のため、宇多津町または丸亀市に、「特別警報」「暴風警報」が午前７時００分に発令されている場合は、通学待機とし、午前１０時００分においても継続されている場合は、その日は臨時休校とする。午前１０時００分までに解除された場合は、午後の授業は実施する。

（２）　授業中に、「特別警報」「暴風警報」が発令された場合や、公共交通機関（ＪＲ等）に運休等の支障が生じるような場合には、教育活動を中止し下校させることがある。

（３）　上記による対応を原則とするが、暴風警報以外の気象警報が発令された場合も含め、

その状況により、学校長が別途判断することがある。

（４） 感染症等の拡大の防止対策上、必要に応じて臨時休業することがある。

４．授業等及び時限

教育課程、単位数及び授業の方法は、学則第１２条に、始業及び終業時刻については、学則第１４条に、それぞれ規定している。

１） 授業は、単位制度に基づいて行なわれ、講義、演習、実習、実技、臨床実習及び臨地実習があり、他に学生が出席を求められるものに、特別講義、補習、学校行事がある。

２） 授業の質の保証及び効果的な教育が確保できる場合は、授業の形態として対面によらない授業（以下、「遠隔授業」という。）を必要に応じて行うことができる。
ただし、遠隔授業の合計時間を全体の４分の３未満とする。

３） 授業は、１時限９０分を原則とし、講義、演習、実習は、１時間を４５分とする。
臨床実習は、同６０分とし、臨地実習は、同４５分（６０分）とする。
授業時間の区分は、以下のとおりである。

授業時間の区分は、以下のとおりである。

区　　分				
時　限	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
時　間	９：００ ↓ １０：３０	１０：４０ ↓ １２：１０	１３：００ ↓ １４：３０	１４：４０ ↓ １６：１０

（１）鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科、柔道整復学科の臨床実習は、修業時間 （１０：４０～１６：１０）以外及び休業日に行うことがある。

４） 休講・補習・特別講義・学校行事

（１） 休講及び時間割の変更
学校や担当教員、その他やむを得ない事情により、休講や授業時間割の変更を行うことがある。これについては、掲示板により通知する。

（２） 補習及び特別講義
授業時間が必要時間数に満たない場合には、補習を行うことがある。また、学校長が必要と認めた場合には、特別講義を行うことがある。これらについても掲示板により通知する。

（３） 球技大会、体育祭などの学校行事には、学生の健康増進、学生間の親睦のために出席が求められる。

Ⅱ．出席、補講、休学、退学、転部及び在籍期間などについて

１．出席すべき日数

学年の学期期間で休業日以外は、出席しなければならない。

２．授業の出席

１）　講義、演習、実習は、授業時間数の３分の２以上の出席が必要である。

２）　実技は、授業時間数の５分の４以上の出席が必要である。

３）　臨床実習及び臨地実習は、原則として必ず出席しなければならない。

（１）鍼灸マッサージ学科及び鍼灸学科の臨床実習において、Ⅱ－５－３）のやむを得ない理由での欠課は、５分の１の範囲で認めることがある。

（２）柔道整復学科の臨床実習は、実習時間を満たさなければならない。

（３）理学療法学科及び作業療法学科の臨床実習において、Ⅱ－５－３）のやむを得ない理由での欠課は、５分の１の範囲で認めることがある。

（４）看護学科の臨地実習は、実習時間を満たさなければならない。

＜看護学科の臨地実習の履修について＞

基礎看護学実習Ⅰの単位修得をしていない者は、基礎看護学実習Ⅱを履修することはできない。

基礎看護学実習Ⅱの単位修得をしていない者は、専門分野別実習を履修することはできない。

ただし、小児看護学実習Ⅰについては、この限りでない。

また、専門分野別実習の単位修得をしていない者は、統合実習を履修することはできない。

４）　臨床実習・臨地実習における、Ⅱ－５－３）のやむを得ない理由の対応は学科の判断に従うこと。

３．授業中の心得

１）　講義・演習・実技・実習

以下の項目を遵守し、真摯な態度で授業に臨まねばならない。

（１）学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。

（２）体調の急変等Ⅱ－５－３）のやむを得ない理由による早退や、教員の指示等特別な事情のない限り、教室を退出しないこと。

（３）スマートフォン等は、必ず電源を切って鞄等に入れておくこと。また、授業以外でも節度を守って使用すること。

（４）担当教員の許可なしに、授業において写真撮影、録音、録画をしないこと。

（５）担当教員の許可なしに、授業中に飲食をしないこと（ガムを噛むことを含む）。

（６） 私語や居眠りをしないこと。

（７） 実技・実習科目受講の際は、実技にみあった服装（白衣・ジャージ、学校指定の靴）とし、化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の染色は控え、肩に付かないよう短くまとめること。

（８） 鍼灸マッサージ学科及び鍼灸学科は、所定の道具も準備すること。

２） 臨床実習及び臨地実習

学生の学外実習が可能なのは実習施設の医療人育成への理解と指導者の熱意と患者の協力によることを十分認識して実習を行うために、以下の項目を遵守し、真摯な態度で臨まねばならない。

（１） 実習委託先病院などと取り交わした実習委託契約書及び個人情報保護協定書等の遵守事項並びに守秘義務に従って行動する。

（２） 学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。

（３） 患者に不愉快な印象を与えないように配慮すること。

（４） 時間を厳守し、自己の存在をはっきりさせ、許可なく行動しない。事故については、すみやかに報告をする。

（５） 実習委託先病院などでの実習時間中においては、スマートフォン等情報通信機器は使用しないこと。撮影は厳禁とする。また、控室においては、実習指導者及び引率教員の指示に従うこと。

また、実習時間外でも、ルール及び節度を守って使用すること。

（６） 実習中知り得た情報は、個人情報保護法に基づき取り扱い、他言してはならない。

（７） 服装は清楚で、印象の良い身だしなみを心がける。化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の染色は控え、肩に付かないよう短くまとめる。

（８） 感染に注意し、また伝播者にならないよう感染予防の基本を実習委託先病院などのマニュアルにそって励行する。

（９） 実習中の事故については、すみやかに実習指導者に報告し指示を受ける。

（１０）臨床実習及び臨地実習の詳細については、学科毎に実習前のガイダンス時に説明する。

４．欠席、遅刻、早退及び欠課

欠席、遅刻、早退及び欠課については、学則第２１条に規定している。

１） 欠席は、１日の授業を全て休んだ場合をいう。

２） 遅刻は、授業開始より３０分以内に入室した場合をいう。

３） 早退とは、授業時間の６０分以上出席し退出した場合をいう。

４） 欠課とは、出席時間が６０分に満たない場合をいう。

５） 遅刻、早退は、同一科目２回を以ってその科目の１回の欠課として取り扱う。

６）　欠席、遅刻、早退及び欠課をするとき又はしたときは、それぞれの届を各学科の教務室に提出しなければならない。

５．追実習、補講、再実習及び補習実習等

１）　追実習

Ⅱ－５－３）のやむを得ない理由により臨地実習を欠席したものは、追実習を受けることができる。

追実習を受ける者は、それぞれの届を各学科の教務室に提出し許可を得ることとする。

２）　補講、再実習及び補習実習

補講については、学則第３５条に規定している。

（１）　出席時間数がⅡ－５－３）のやむを得ない理由により、当該科目の定められた出席時間数に達しない者は、補講を受けなければならない。

①　鍼灸マッサージ学科は、講義、演習は３分の２、実技、臨床実習は５分の４

②　鍼灸学科は、講義、演習は３分の２、実技、臨床実習は５分の４

③　柔道整復学科は、講義、演習は３分の２、実技は５分の４、臨床実習は５分の５

④　理学療法学科は、講義、演習、実習は３分の２、臨床実習は５分の４

⑤　作業療法学科は、講義、演習、実習は３分の２、臨床実習は５分の４

⑥　看護学科は、講義、演習は３分の２、臨地実習は５分の５

（２）　補講の受講は、Ⅱ－５－３）のやむを得ない理由のみとし、「補講受講許可願」とその証明書等を各学科の教務室に提出し、学校長が認めた場合に限る。

（３）　補講が認められた場合は、追試験のみ受験できる（本試験は受験不可）。

（４）　補講料は、１０，０００円／１時限（９０分）とする。ただしⅡ－５－３）のやむを得ない理由など、学校長が認めた場合は、補講料を減免することがある。

（５）　臨床実習及び臨地実習の場合

①　再実習

各実習期間内で実習単位の取得が不可の者は、長期休暇等を利用して、再実習を受けることができる。

ただし、「再実習願」を各学科の教務室に提出しなければならない。実習を長期に欠席した者は、再実習に準ずる。

再実習料は、５，０００円/日とする。

②　補習実習

実習を欠席または欠課した者は、補習実習を受けることができる。

再実習及び補習実習を受ける者は、再実習料を学生総合窓口へ納付すること

３）　公認となる授業等の欠席（やむを得ない理由）は、以下とする。

対象となるやむを得ない理由	理由を証明する書類
学校保健安全法施行規則（昭和３３年文部省令第１８号）１８条に規定する感染症に罹患した場合	本校発行の出席停止書類 診断書等の罹患したことを証明する書類
忌引き	会葬礼状等親族が亡くなったことが確認できる書類
裁判員制度 （裁判員又は裁判員候補者に選任された場合）	業務に従事したことを証明する書類
公共交通機関の運行停止	遅延証明書等
学生の住まいが自然災害等により損壊し欠席した場合	当該地方自治体の発行する罹災証明書

上記を「やむを得ない理由」とし、理由を確認できる書類により判断するため所属学科に提出すること。その他やむを得ない理由と判断されれば、追実習及び追試験の受験の対象となる。ただし、原則として、その事情が判明した段階で所属学科等に事前の連絡をしていなければならない。事後報告では認められない場合があるので、留意すること。

６．忌引期間

１）　忌引は、欠課には含まれないが、それらを証明するもの（会葬礼状等）を必ず提出のこと。提出がなされない場合は欠課とする。

２）　学生の親族等の死去に伴う忌引の期間は、下記のとおりとする。（期間は連続とし、最大の日数である）

続　　柄	期　　間	続　　柄	期　　間
配偶者	１０日	おじ・おば	１日
父母	７日	孫・曾祖父母	１日
子供	７日	配偶者父母	３日
祖父母	３日	配偶者祖父母	１日
兄弟姉妹	３日	配偶者兄弟姉妹	１日

遠隔地の場合は、旅行日として学校長判断により、２日以内の日数を認める場合がある。

７．感染症等による出席停止

出席停止については、学則第２３条に規定している。

下記の表に規定する感染症の場合は、出席停止とする。出席停止期間は、学校保健安全法施行規則に定める期間、医師の診断書にある期間、若しくは学校医の判断に従うものとする。

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属ＳＡＲＳコロナウイルスであるものに限る。）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属ＭＥＲＳコロナウイルス であるものに限る。）及び特定鳥インフルエンザ（感染症法第６条第３項第６ 号に規定する特定鳥インフルエンザをいう。） ※ 上記に加え、感染症法第６条第７項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第８項に規定する指定感染症、及び同条第９項に規定する新感染症 は、第一種の感染症とみなされる。
第二種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和２年１月に中華人民共和国から世界保健機関に対して人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

＜出席停止期間の基準＞

１） 第一種の感染症にかかった者については、治癒するまでの期間とする。

２） 第二種の感染症（結核及び髄膜炎菌性髄膜炎を除く）にかかった者については、次の期間とする。

ただし、病状により学校医の他の医師において、感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。

（１）インフルエンザ： 発症した後５日を経過し、かつ、解熱した後２日を経過するまで。

（２） 百日咳： 特有の咳が消失するまで、又は５日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。

（３） 麻しん： 解熱した後３日を経過するまで。

（４） 流行性耳下腺炎： 耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後５日を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで。

（５） 風しん： 発しんが消失するまで。

（６） 水痘： すべての発しんが痂皮化するまで。

（７） 咽頭結膜熱： 主要症状が消退した後２日を経過するまで。

（８） 新型コロナウイルス感染症：発症した後５日を経過し、かつ、症状が軽快した後１日を経過するまで。

３） 結核及び髄膜炎菌性髄膜炎、第三種の感染症にかかった者については、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。

※出席停止期間の算定の考え方

「〇〇した後△日を経過するまで」とした場合は、「〇〇」という症状が見られた日の翌日を第１日として算定する。

例えば、「解熱した後２日を経過するまで」の場合、月曜日に解熱ー火曜日（解熱後１日目）ー水曜日（解熱後２日目）ーこの間発熱がない場合ー木曜日から出席可能となる。

第二種の各出席停止期間は基準であり、症状により医師の診断により判断する。

８．休学

学生の休学については、学則第２２条に規定している。

９．復学

学生の復学については、学則第２４条に規定している。

原則、復学の時期は、年度の始めとする。

１０．退学

学生の退学については、学則第２５条に規定している。

１１．転学科

学生の転学科については、学則第２９条に規定している。

１２．在籍期間

在籍期間については、学則第３０条に規定している。

学生の在籍期間は、下記の表の年数を超えることができない。

学　　科	在籍年数
鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科、柔道整復学科	６年
理学療法学科、作業療法学科、看護学科	８年

Ⅲ．学業成績などについて

単位の認定は、履修した科目に出席し、受験資格を得たものに対して行われる。

また、試験方法は、筆記試験が主であるが、授業科目によっては、口頭、レポート、実技などによって行われる場合もある。

１．定期試験及びその他の試験（以下「定期試験等」という。）

試験については、学則第３２条に規定している。

学期末の試験を定期試験といい、学期中に必要に応じて、授業科目担当教員が実施するものを含む。

１）　前期及び後期のなかで、随時試験を行うことがある。行った場合の評価は、定期試験等の評価に加えることができる。

２）　看護学科においては、定期試験ではなく、授業科目の終了の都度試験が行われる。

２．受験資格

受験資格については、学則第３２条に規定している。

１）　講義、実習、演習の受験資格
授業時間数の３分の２以上出席している者

２）　実技の受験資格
授業時間数の５分の４以上出席している者

３）　臨床実習及び臨地実習の成績判定資格
実習時間の５分の４以上の出席している者
※柔道整復学科、看護学科については、実習時間を満たす者

３．追試験

追試験については、学則第３３条に規定している。

１）　Ⅱ－５－３）のやむを得ない理由により定期試験等を欠席した者及び学科が認めた場合は、追試験を受けることができる。
その場合は９０点を上限に採点する。

２）　受験料は、１科目あたり１，０００円とする。ただし、Ⅱ－５－３）のやむを得ない理由による追試験において受験料は発生しない。

３）　追試験を受ける者は、「追試験受験願」を期日までに、当該学科長、学生総合窓口を経由のうえ、学校長に提出し、許可を受けなければならない。

４）　追試験は、基本的に１回限りとする。ただし、追試験においても合格しない者は、学科会議での協議により再度試験を行うことがある。

４．再試験

再試験については、学則第３４条に規定している。

１）　定期試験等の成績が合格点に達しない者は、再試験を受けることができる。その場合は、６０点を上限に採点する。

２）　再試験を受ける者は、別に定める受験料を添えて「再試験受験願」を期日までに、当該学科長及び学生総合窓口を経由のうえ、学校長に提出し、許可を受けなければならない。

３）　受験料は、１科目あたり１，０００円とする。

４）　再試験は、基本的に１回限りとする。ただし、再試験においても合格しない者は、学科

会議での協議により再度試験を行うことがある。

５．試験にあたっての注意事項

１）　試験開始５分前には、定められた席に着席すること。

２）　試験開始時刻に遅刻した者は、受験することができない。ただし、公共交通機関のダイヤの乱れ等による場合は、遅延証明の提出を条件に、試験開始後１５分までの遅刻を認めることがある。

３）　受験に際しては、必ず学生証を携行すること。万一学生証を忘れてきた場合には、試験期間中に１回のみ、学生総合窓口にて、仮学生証の交付を受け代替とすることができる。仮学生証は、記載期間のみ有効とする。

４）　机上には、筆記用具及び持ち込みの認められたもの以外は置いてはいけない。

５）　試験開始後、原則、試験時間の半分を経過した後に退出することができる。ただし、一度退出した者は、再び入室できない。

６）　試験中に不正行為をした者は、退場を命ずる。直ちに当該学期の受験資格が与えられず、すでに受験した科目も無効とする。ただし、学外実習科目に関しては無効とする科目から除外される。

７）　答案用紙は必ず所定のものを用い、学年、学籍番号・氏名を記入しなければならない。答案用紙、問題用紙は持ち帰ることはできない。

８）　受験者が試験会場で次のような行為を行った場合、不正行為とみなされる。

（１）　テキスト、ノート、参考書、辞書等の持ち込みが許可されている場合でも、試験時間中にそれらを他人に使用させたり、他人のものを使用したりすること。

（２）　筆記用具等を試験時間中に他人に使用させたり、他人のものを使用したりすること。

（３）　代人として受験すること及び代人を受験させること。

（４）　持ち込みを許可されていないテキスト、ノート、参考書、辞書等を使用したり、他人に使用させたりすること。

（５）　あらかじめ机等に書き込んだり、又はカンニング・ペーパーその他試験に関する書き込みのある紙片・用具等を持ち込むこと。

（６）　他人の答案をのぞき見て写しとったり、写させたりすること。

（７）　試験内容に関する事項を口頭、紙片その他の手段により、他人に教えたり、教えさせたりすること。

（８）　電源の入ったスマートフォン等情報通信機器を机の上に置いたり、衣服のポケット等に入れて試験を受けること。（入室時には電源を切り、かばん等に入れておくこと。）

（９）　時計以外の機能をもつ時計（電卓機能、通信機能などの機能を備えた時計）を使用すること。

（１０）監督者の注意若しくは指示に従わないこと。

（１１）その他、前各号に類する行為をすること。

６．単位修得の認定と単位修得

試験の評価及び単位修得の認定については、学則第３２条及び第３６条に規定している。

１）　講義、実習等に必要な時間を修得しており、かつ、当該科目の成績において、６０点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。これを学校側からは、「単位修得の認定」、学生側からは、「単位修得」という。

２）　講義、演習、実習、実技の成績は、以下のとおりである。

秀・・・・・・９０点以上

優・・・・・・８０点以上９０点未満

良・・・・・・７０点以上８０点未満

可・・・・・・６０点以上７０点未満

不可・・・・６０点未満

３）　臨床実習及び臨地実習の成績評価

実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記（２）のように最終評価する。

※理学療法学科と作業療法学科は、実習前後の評価を臨床実習の成績評価に含めて成績評価する。

４）学業成績を総合的に評価するための基準（客観的な指標方法）

（１）　学業成績を総合的に評価するための基準として、ＧＰＡ（Grade Point Average）を用いる。

（２）　ＧＰＡは、累積にて算定する。

（３）　ＧＰＡの算定に当たっては、履修した各科目の評価に、ＧＰ（Grade Point）（以下「GP」という。）を割り当て、その平均を取ることとし、以下の数式により算定する。

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{\text{（履修登録したGPA対象科目のＧＰ×その科目の単位数）の合計}}{\text{履修登録したＧＰＡ対象科目の単位数の合計}}$$

（４）　ＧＰＡの対象科目は、学則別表（１～６）に定める授業科目のうち、成績評価で示すことのできる授業科目とする。

（５）　ＧＰの割り当てについては、学則第３２条第３項に定める試験の評価（以下「成績評価」という。）に応じて、次表に定めるＧＰを割り当てる。

成績評価	ＧＰ
秀（９０～１００点）	4
優（８０～８９点）	3
良（７０～７９点）	2
可（６０～６９点）	1
不可（５９点以下）	0

（６） ＧＰＡは、小数点以下第３位を四捨五入し、小数点以下第２位までを有効とする。なお、単位認定の認定科目、免除科目及び卒業要件に入らないカリキュラム以外の科目の単位は、ＧＰＡには算入しない。

５） 成績の通知

学生の成績結果は、前期、後期それぞれの成績集計後に、連帯保証人に郵送する。

Ⅳ．進級、卒業の認定について

１．進級の認定

進級の認定については、学則第３７条に規定している。

進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議の議を経て、学校長が決定する。

また、進級の条件に補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。

２．卒業の認定

卒業の認定については、学則第３８条に規定している。

卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を修得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議の議を経て、学校長が決定する。

Ⅴ．褒賞について

学生の褒賞については、学則第４０条に規定している。

詳細については、「四国医療専門学校表彰規程」による。

Ⅵ．懲戒について

学生の懲戒については、学則第４１条に規定している。

詳細については、「四国医療専門学校学生の懲戒に関する規程」による。

Ⅶ. 除籍及び復籍について

学生の除籍及び復籍については、学則第２６条に規定している。

詳細については、「授業料その他の納付金滞納者に係る除籍及び復籍の取扱に関する規程」等による。

Ⅷ. その他留意事項について

１．掲示及びSNSによる通知、連絡

学校からの学生への連絡は、原則として全て掲示又はSNSで通知する。

緊急の場合もありえるので、必ず朝夕の２回は各掲示板を見るようにしておくこと。また、掲示板の見落としに起因する責任は、学校側にはないので特に注意しておくこと。

２．提出物

各種申請書、レポート、その他当該学科の教務室及び学生総合窓口から学生に提出物を求められたときは、必ず定められた期限内に提出しなければならない。

３．不明な点は、当該学科教員及び学生総合窓口に問合せた上で、十分理解するように努めること。

４．大学併修（通信教育）

大学の併修（通信教育）については、学則第４６条に規定している。

本校では、看護学科は原則必須にて理学療法学科及び作業療法学科は任意にて、九州医療科学大学通信教育部と教育提携契約を締結している。履修方法等については、別に定める。

５．ここに定めない事項については、学校長の指示に従うものとする。

附　　則

１　この履修要綱は、学則、その他の規程等に基づき、令和４年１２月１３日に制定し、令和５年４月１日から施行する。

施行後の要綱は、令和５年４月１日以降の入学生に適用し、令和５年３月３１日以前の入学生については、各種届出及び申請様式以外は、なお従前の規程による。

附　　則（令和５年５月８日一部改正）

１　この履修要綱は、令和５年５月８日から施行する。

附　　則（令和５年８月２２日一部改正）

１　この履修要綱は、令和５年８月２２日から施行する。

施行後の要綱は、令和５年４月１日在籍学生に適用する。

附　　則（令和６年２月１３日一部改正）

１　この履修要綱は、令和６年４月１日から施行する。

施行後の要綱は、令和６年４月１日在籍学生に適用する。

附　　則（令和７年２月１３日一部改正）

１　この履修要綱は、令和７年４月１日から施行する。

施行後の要綱は、令和７年４月１日在籍学生に適用する。

大学併修制度

大学を卒業する為には、最低１２４単位以上の修得単位が必要です。本校看護学科では、九州医療科学大学との教育提携により本校を卒業した時点で、最大６０単位が包括認定されるため、残り６４単位以上を４年間で修得すれば「学士」の称号及び「社会福祉主事任用資格」が取得されます。なお、修得すべき６４単位のうち４年間で２３単位以上はスクーリングもしくはメディアによる単位を修得しなければなりません。

本校に入学する前に他の大学（短期大学）を卒業したものに対しては、大学の通信教育の全部または一部の履修を免除することがあります。

１．　学生の種類

通信教育で学ぶにあたり、本校は九州医療科学大学通信教育部社会福祉学部スポーツ健康福祉学科正科生として入学手続をとります。

※なお、通信教育における学生には次の２種類があります。

正科生	大学卒業資格取得を目的とする。
科目履修生	満 18 歳以上で、大学卒業資格取得を目的としない、希望科目のみを履修する。
特別履修生	満 18 歳以上で、大学入学資格をもたない者が、正科生としての入学資格を取得するための制度

２．　入学時期と出願期間

入学時期は春期入学となります。

本学合格と同時に大学の出願手続きを取ります。

３．　選考方法

入学試験（書類審査等）を行い、入学志願書の志望理由および、その他出願書類により九州医療科学大学で総合的に選考され、出願期間の最終受付日から１週間後に合否通知が郵送されます。合格者には入学手続に必要な書類（入学手続・学費などの振込み依頼書）が同封されます。

４．　カリキュラム

通信教育部社会福祉学部スポーツ健康福祉学科のカリキュラムは別表に示すとおりです。

４．　カリキュラム(別表)

２０２６年度入学生（例）

四国医療専門学校看護学科　九州医療科学大学履修科目

大学卒業学位・社会福祉主事

Ｔ：テキスト　Ｓ：スクーリング（面接授業）　Ｍ：メディア　ＴＭ：テキスト・メディア併用

ＴＳ：テキスト・スクーリング併用（Ｓ／Ｍは２３単位以上の取得が必要）

大学卒業学位	社会福祉主事	学年	科目名	単位数	授業形態	T	S	M	合計
4		1	哲学	4	TM	2		2	4
4	4		心理学と心理的支援	4	TM	2		2	4
4			生物学	4	T	4			4
4			情報処理入門	4	TM	2		2	4
2			総合福祉研究Ⅰ	2	S		2		2
2	2		社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	S		2		2
2	2		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	T	2			2
2	2		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	T	2			2
2	2		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	T	2			2
2			芸術療法入門	2	T	2			2
2			カウンセリング総論	2	S		2		2
30	12		計	30		18	6	6	30
2		2	総合福祉研究Ⅱ	2	S		2		2
2	2		医学概論	2	T	2			2
2	2		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	T	2			2
4	4		介護概論	4	T	4			4
4			ソーシャルワーク演習Ⅰ	4	T	4			4
4			ソーシャルワーク演習Ⅱ	4	TS	3	1		4
★ 2			教育心理学	2	M			2	2
4			心理療法	4	TS	2	2		4
★ 2			教職論	2	T	2			
2			カウンセリング各論	2	S		2		2
28	8		計	28		19	7	2	28
2	2	3	障害者福祉	2	T	2			2
2	2		貧困に対する支援	2	T	2			2
4			ソーシャルワーク演習Ⅲ	4	TS	2	2		4
4			芸術療法演習	4	TS	2	2		4
12	4		計	12		8	4	0	12
		4	３年次までに64単位修得できなかった学生のみ履修登録						
70	24		合計	70		45	17	8	70

※看護師養成所における看護教員の資格

大学在学中に★印の科目を履修し合格したものは、看護師養成所看護教員の資格を取得できます。

５．　学習を始めるにあたって

入学手続・学費等納入後「履修届」等を記入し郵送・提出することにより、主教材（履修する科目のテキスト・資料）が配布され学習開始となります。

九州医療科学大学通信教育部では、次の４つの授業形態があります。

１）テキスト科目（印刷授業）

テキスト教材を主として自己学習を随時進めていく科目です。自己学習の段階的な成果を見せるために、原則として２単位につき１回の添削課題が義務付けられ、この添削課題を提出し合格しなければ、最終的な科目単位認定試験を受けることができません。科目によっては添削課題の他にレポートなどを求められる場合もあります。添削課題の締め切り・課題返却日・科目単位認定試験は九州医療科学大学より郵送された日程表に従い、申込書を指定期日までに提出することにより受験ができます。

科目単位認定試験は春季・夏季・秋季・冬季の４回実施されます。つまり、テキスト科目については、年に４回の受験機会があります。試験は、択一式・レポートなどがあり、九州医療科学大学で定められています。１科目４５分８科目まで受験可能です。成績についても九州医療科学大学の定めによります。科目単位認定試験は授業支援システム（LMS）を利用して実施していますので、パソコンやタブレットが必要となります。この科目単位認定試験に合格することで科目の修了が認められます。

２）スクーリング科目（面接授業）

スクーリングの場所・日程は九州医療科学大学より郵送された日程表に従い、申込書を指定期日までに提出することにより受講ができます。

スクール、つまり学校で授業を受ける科目になり、スクーリング科目２単位につき３日間の集中的な講義が実施されます。原則１科目３日間です。本校はスクーリング会場を本校会場にて実施しています。スクーリングの最終講義時間には認定試験が実施されます。科目によってはスクーリング終了後にレポートを提出する場合もあります。これらの試験やレポートに合格することで、その科目の修了となります。

３）テキスト・スクーリング科目（併用授業）

テキストによる授業とスクーリング授業を組み合わせることで、より効果的な理解と実践能力を身につける授業形態です。テキスト部分およびスクーリング部分の２回の認定試験を受験し、両方に合格しなければなりません。

４）テキスト・メディア科目（併用授業）

メディア授業は、インターネット、あるいはCD-Rを利用して、先生の講義を聞きながら進めていくことになります。本校は視聴覚教室に設置されているパソコンをインターネットにアクセスして学習することもできます。講義は自宅のパソコンでも毎日順番に少しずつ見ていくこともできます。科目修了のためには、テキスト部分の科目認定試験に合格するとともに、メディア部分のレポートにも合格しなければなりません。

通信教育は家庭学習が主ですが、学生の負担を軽減するために、時間割の中にも組み込んでいます。

５）科目履修期間

科目履修期間は１年間です。「不合格」となった場合は、履修料が再度必要となります。在学期間は単位取得するまで科目認定試験を何度でも受験可能となります。

６）納付金

提携校のため次の下記のとおり納付金の一部が免除されます。

	入学検定料	入学金	科目登録料	授業料	スクーリング履修料	メディア履修料	CD－R教材費
提携校	10,000	免除	免除	104,000/年間	4,500/1単位	4,500/1単位	3,000/1科目

＊ CD-R教材費はメディア科目をCD-Rで受講する場合にのみ必要となります。

＊ ４年間で約５４０，０００円です。スクーリングは本校で実施されます。本校で受講できない場合の交通費・宿泊費等は個人負担となります。

＊ 納付時期等については、九州医療科学大学の指定する日までに、指定の方法にて納付してください。

７）資格等

①学士（社会福祉学）の学位

②社会福祉主事(任用資格)

社会福祉主事(任用資格)は、各種行政機関で保護・援助を必要とする人のために、相談・指導・援助の業務をおこなう専門家であり、所定の単位を取得することで資格を得ることができます。任用資格なので、公務員などに採用され、実際に業務についた場合に限り初めて名乗ることのできる資格ですが、昨今では、社会福祉施設職員や民間企業(福祉系)での採用基準として準用されるケースもあります。

８）学生相談

学習に関する事柄や事務手続きなどの相談事については随時受け付けております。

学事暦

前期

	月		火		水		木		金		土		日		
2026年4月					1		2		3		4		5		4月
	6	入学式/オリエンテーション/春季休業開始	7	入学時教育/白衣採寸	8	入学時教育	9		10	新入生歓迎会	11		12	カマタマーレ試験試合応援	
	13		14		15		16		17		18		19		
	20		21	胸部レントゲン	22		23		24	球技大会	25		26		
	27		28		29	昭和の日	30	4/12振替休業							
5月									1	7/4振替休業	2		3	憲法記念日	5月
	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7	臨地実習(4年)①/胸部レントゲン	8	臨地実習(4年)②	9		10	大学科目単位認定試験期間(5/8～5/10)	
	11	臨地実習(4年)③	12	臨地実習(4年)④	13	臨地実習(4年)⑤	14	ナイチンゲール献花祭/特別記念講演	15	臨地実習(4年)⑥	16		17	OC	
	18	臨地実習(4年)⑦	19	臨地実習(4年)⑧	20	臨地実習(4年)⑨	21	臨地実習(4年)⑩	22	臨地実習(4年)⑪	23		24		
	25	臨地実習(4年)⑫	26	臨地実習(4年)①/大島青松園見学(2年)	27	臨地実習(4年)②	28	臨地実習(4年)③	29	臨地実習(4年)④	30		31		
6月	1	臨地実習(4年)⑤	2	臨地実習(4年)⑥	3	臨地実習(4年)⑦	4	臨地実習(4年)⑧	5	臨地実習(4年)⑨	6		7		6月
	8	臨地実習(4年)⑩	9	臨地実習(4年)⑪	10	臨地実習(4年)⑫/自治総会	11		12		13		14		
	15	臨地実習(4年)①	16	臨地実習(4年)②	17	臨地実習(4年)③	18	臨地実習(4年)④	19	臨地実習(4年)⑤	20		21	OC	
	22	臨地実習(4年)⑥	23	臨地実習(4年)⑦	24	臨地実習(4年)⑧	25	臨地実習(4年)⑨	26	臨地実習(4年)⑩	27		28		
	29	臨地実習(4年)⑪	30	臨地実習(4年)⑫											
7月					1		2		3		4	学園祭	5		7月
	6	臨地実習(4年)①	7	臨地実習(4年)②	8	臨地実習(4年)③	9	臨地実習(4年)④	10	臨地実習(4年)⑤	11		12		
	13	臨地実習(4年)⑥	14	臨地実習(4年)⑦	15	臨地実習(4年)⑧	16	臨地実習(4年)⑨	17	臨地実習(4年)⑩/大掃除	18		19	OC	
	20	海の日	21	夏季休業開始/臨地実習(4年)⑪	22	臨地実習(4年)⑫/スクーリング(1・2・3年	23	スクーリング(1・2・3年生)	24		25	夏休み小学生宿題チャレンジ（4年）	26		
	27	スクーリング(1・2・3年生)	28	スクーリング(1・2・3年生)	29	スクーリング(1・2・3年生)	30	スクーリング(2年生)	31	スクーリング(2年生)					
8月											1		2	OC/大学科目単位認定試験期間(7/31～8/2)	8月
	3	スクーリング(1・2年生)	4	スクーリング(1・2年生)	5	スクーリング(1・2年生)	6		7	日本看護学校協議会学会(3年)看護ゼミ	8		9		
	10		11	山の日	12		13		14		15		16		
	17		18	ホームカミングデー（卒業生）	19		20		21	夏季休業終了	22	OC	23		
	24		25		26		27		28		29		30		
	31	臨地実習(3年)①													
9月			1	臨地実習(3年)②	2	臨地実習(3年)③	3	臨地実習(3年)④	4	臨地実習(3年)⑤	5		6		9月
	7	臨地実習(3年)⑥	8	臨地実習(3年)⑦	9	臨地実習(3年)⑧/夜間OC	10	臨地実習(3年)⑨	11	臨地実習(3年)⑩	12		13		
	14	臨地実習(3年)⑪	15	臨地実習(3年)⑫	16		17	クリティカルシンキングⅡ発表(4年)	18		19		20	OC	
	21	敬老の日	22	振替休日	23	秋分の日	24	臨地実習(3年)①	25	臨地実習(3年)②/山内先生公開講座	26	BLS(4年)	27	BLS(4年)	
	28	臨地実習(3年)③	29	臨地実習(3年)④	30	臨地実習(3年)⑤									
	月		火		水		木		金		土		日		

後期

	月		火		水		木		金		土		日		
10月							1	臨地実習(3年)⑥	2	臨地実習(3年)⑦/献灯式予行	3		4		10月
	5	臨地実習(3年)⑧	6	臨地実習(3年)⑨	7	臨地実習(3年)⑨/夜間OC	8	臨地実習(3年)⑪	9	臨地実習(3年)⑫/献灯式予行	10		11		
	12	スポーツの日	13	臨地実習(3年)①	14	臨地実習(3年)②	15	献灯式/特別記念講演	16	臨地実習(3年)③	17	OC	18		
	19	臨地実習(3年)④	20	臨地実習(3年)⑤/体育祭	21	臨地実習(3年)⑥	22	臨地実習(3年)⑦	23	臨地実習(3年)⑧	24		25	創立記念日	
	26	臨地実習(3年)⑤/(2年)①	27	臨地実習(3年)⑩/(2年)②	28	臨地実習(3年)⑪/(2年)③	29	臨地実習(3年)⑫/(2年)④	30	臨地実習(2年)⑤	31				
11月													1		11月
	2	臨地実習(4年)①(2年)⑥	3	文化の日	4	臨地実習(4年)②	5	臨地実習(4年)③	6	臨地実習(4年)④	7		8	OC/大学科目単位認定試験期間(11/6～8)	
	9	臨地実習(4年)⑤	10	臨地実習(4年)⑥	11	臨地実習(4年)⑦	12	臨地実習(4年)⑧	13	臨地実習(4年)⑨	14		15	OC	
	16	臨地実習(4年)⑩(1年)①	17	臨地実習(1年)②	18	臨地実習(1年)③	19	臨地実習(1年)④	20	臨地実習(1年)⑤	21		22	うたず～っと看護フェスタ(4年)	
	23	勤労感謝の日	24	臨地実習(1年)⑥	25	大掃除	26	OSCE(4年)	27		28		29		
	30	臨地実習(3年)①(2年)①													
12月			1	臨地実習(3年)②(2年)②	2	臨地実習(3年)③(2年)③	3	臨地実習(3年)④(2年)④	4	臨地実習(3年)⑤(2年)⑤	5		6		12月
	7	臨地実習(3年)⑥(2年)⑥	8	臨地実習(3年)⑦(2年)⑦	9	臨地実習(3年)⑧(2年)⑧	10	臨地実習(3年)⑨(2年)⑨	11	臨地実習(3年)⑩(2年)⑩	12		13		
	14	臨地実習(3年)⑪(2年)⑪	15	臨地実習(3年)⑫(2年)⑫	16	冬季休業開始	17		18		19		20	OC	
	21		22		23		24		25		26		27		
	28		29		30		31								
2027年1月									1	元日	2		3		1月
	4	冬季休業終了	5		6	臨地実習(3年)①	7	臨地実習(3年)②	8	臨地実習(3年)③	9		10		
	11	成人の日	12	臨地実習(3年)④	13	臨地実習(3年)⑤	14	臨地実習(3年)⑥	15	臨地実習(3年)⑦	16		17	OC	
	18	臨地実習(3年)⑧	19	臨地実習(3年)⑨	20	臨地実習(3年)⑩	21	臨地実習(3年)⑪	22		23		24	OC/大学科目単位認定試験期間(1/22～24)	
	25	臨地実習(3年)①	26	臨地実習(3年)②	27	臨地実習(3年)③	28	臨地実習(3年)④	29	臨地実習(3年)⑤	30		31		
2月	1	臨地実習(3年)⑥	2	臨地実習(3年)⑦	3	臨地実習(3年)⑧	4	臨地実習(3年)⑨	5	臨地実習(3年)⑩	6	OC	7	丸亀マラソンAED隊(1年)	2月
	8	臨地実習(3年)⑪	9	臨地実習(3年)⑫	10	卒業生キャリア講話(2.3年)	11	建国記念の日	12		13		14	看護師国家試験(仮)	
	15		16		17		18	卒業記念講演	19		20		21		
	22		23	天皇誕生日	24		25		26	大掃除	27		28		
3月	1		2	クリティカルシンキングⅠ発表(3年)	3		4		5		6		7		3月
	8		9		10		11		12	卒業式/春季休業開始	13		14	入試/かがわマラソンAED隊(3年)	
	15		16		17		18		19		20		21	春分の日/OC	
	22	振替休日	23		24		25		26		27		28		
	29		30		31										
	月		火		水		木		金		土		日		

注意事項　　学事暦の予定は変更する場合があります。その際は連絡します。

看護学科自治会会則

第一章　総則

第１条　　本会は四国医療専門学校看護学科自治会と称す。（以下、自治会という。）
第２条　　本会は四国医療専門学校の看護学科の全学生を正会員とする。
第３条　　本会は四国医療専門学校の看護学科の現教員を特別会員とする。

第二章　組織

第４条　　自治会に自治会本部会を置く。
１．看護学科自治会顧問として教員を１名おく。

第三章　自治会本部会

第５条　　自治会本部会（以下、本部会という）は、自治会活動に係る種々の問題等について協議および調整し、その活動が円滑にすすむよう支援する。
１．本部会は次の役員によって構成される。
１）自治会役員
（１）　会長　　１名
（２）　副会長　　２名
（３）　級長　　４名
（４）　書記　　２名
（５）　会計　　２名
（６）　会計監査　１名
２）各種委員会
（１）　体育祭実行委員　　４名
（２）　学園祭実行委員　　４名
第６条　　本部会は次のことを行う。
１．会則の立案及び変更案の作成
２．予算案及び決算案の作成
３．学生会の議決事項の周知
４．その他
第７条　　本部会は、役員の２分の１以上の出席をもって成立する。
第８条　　本部会役員の任期は４月１日より３月３１日までの１年とする。
第９条　　本部会役員の選出を行う。
１．本部会役員のうち会長、副会長、書記、会計、会計監査、体育祭実行委員および学園祭実行委員については、第２学年より選出する。
２．級長は各学年のクラスから１名ずつ選出する。
第１０条　本部会役員の役割を定める。
１．会長は、本部会を代表し本部会の運営等について責任を有する。
２．副会長は、会長を補佐し必要に応じて会長の職務を代行する。
３．級長は本部会での決定事項を各クラスに周知する。
４．書記は、本部会の記録業務にあたり、議事録等の作成を行う。
５．会計は、本部会および自治会の会計業務にあたり、自治会総会において決算報告および会計報告を行う。
６．会計監査は、本部会および自治会の決算報告および会計報告の内容に虚偽の表示等がないことを確認し、自治会総会においてその結果を報告する。
７．体育祭実行委員は、体育祭の準備、運営を行う。

８．学園祭実行委員は、学園祭の準備、運営を行う。
９．顧問は自治会役員の相談役とする。
第１１条　自治会役員は第２学年の会員より選出する。

第四章　自治会総会

第１２条　自治会総会は毎年１回とし次の事項を審議する。
１．予算、決算
２．会則の改廃
３．その他必要な事項
第１３条　自治会総会は、正会員の２分の１以上の出席をもって成立する。
第１４条　やむをえない理由のため自治会総会に出席できない正会員は、他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

第五章　事業

第１５条　１年生の諸行事に関する事項（入学式準備・新入生歓迎会の企画・運営）
第１６条　２年生の諸行事に関する事項（継灯式に関わる企画、運営・継灯生への記念品、花束の準備）但し対象学年になるので各クラスの級長に企画運営を委ねる。
第１７条　４年生の諸行事に関する事項（国家試験の壮行会の企画・運営、卒業生への記念品の準備・追い出しコンパ等の企画・運営）但し追い出しコンパについては２年生級長に企画・運営を委ねる。
第１８条　学科行事に関する事項（七夕に関する企画・運営、クリスマス会等の企画・運営）
第１９条　学生会主催行事に関する事項（球技大会・学園祭・体育祭等の企画運営に参加）
第２０条　コピー機の設置および管理運用に関する事項
１．コピー機は自治会活動および学生の学習支援を目的として使用する。
２．コピー機のレンタル料および用紙代は自治会会計より支出する。
３．使用方法その他必要な事項は、本部会において別に定める。

第六章　会計

第２１条　自治会の経費は会費及び、その他の収入によって充てる。
第２２条　自治会の会費は、自治会の活動目的を達成するために入学時に納入しなければならない。但し、留年生においては会計役員が直接徴収する。
１．看護学科自治会費　５，０００円×４年分
２．留年生会費　５，０００円×１年分
３．特別会員からの会費は徴収しない。
第２３条　自治会の会計は、一度納入すれば返却は認められない。
第２４条　自治会の決算は、毎会計年度終了後２ヶ月以内に本部会で行い、自治会総会において承認を得なければならない。
第２５条　自治会の予算割り当ては、毎年４月に本部会で立案し、総会において承認を得なければならない。
第２６条　当該会計年度の剰余金は次年次に繰り入れるものとする。

第七章　帳簿

第２７条　自治会に次の帳簿を置く。
１．自治会会則
２．各役員名簿
３．議事録

４．会計簿
５．備品台帳
６．その他

第八章　修正及び改正

第２８条　本会則の修正及び改正の動議は自治会員の３分の１以上の要求がある場合認められる。

第２９条　本会則の修正及び改正は、その動議が認められ、自治会総会出席者の３分の２の賛成がある場合可決される。

第九章　会員の権利及び義務

第３０条　自治会総会及び本部会において可決されたすべての事項に対して会員は忠実に実行する義務と責任を有する。

附　則
この看護学科自治会会則は、平成１９年４月１日から施行する。
附　則　　（平成２７年３月３１日一部改正）
この看護学科自治会会則は、平成２７年４月１日から施行する。
附　則　　（令和６年３月３１日一部改正）
この看護学科自治会会則は、令和６年４月１日から施行する。
附　則　　（令和８年３月３１日一部改正）
この看護学科自治会会則は、令和８年４月１日から施行する。

シ ラ バ ス

物 理 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	1単位	15時間	必修	白幡 泰浩

8 授業概要

医療・看護の現場で見られる多様な事象に対応するために，その背景にある物理学の基礎的知識を理解する。物理学は本来，実験を通して理解される学問であることから，本講義ではできるだけ簡単な実験や映像資料を用い，直感的な理解を促す。また，物理法則は数式によって表現されるため，基本的な数値計算や単位の重要性についても理解を深める。

9 到達目標 （関連するDP：2）

1. 物体の運動と力，運動量，仕事およびエネルギーについて理解し，説明できる。
2. 人体の運動を理解するために必要なモーメントや圧力の概念を理解し，それらを医療・看護の場面に関連付けて説明できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	なぜ物理学を学ぶのか	物理学を学ぶための基礎的準備 ①自然科学とはどんな学問か ②医療・看護に物理学が必要な理由 ③数値・単位の扱い方
第2回	物体の運動と力（1）	物体の運動を考えるために必要な速度・加速度・力の理解 ①速度 ②加速度 ③力 ④重力（万有引力）
第3回	物体の運動と力（2）	運動量 ー 加速度と力の関係の理解 ①運動量保存の法則 ②等速円運動 ③力のつり合い
第4回	物体の運動と力（3）	力のモーメント ー 人体を動かす力のはたらき ①てこの原理と力のモーメント ②重心 ③体位変換とモーメント
第5回	仕事とエネルギー（1）	仕事とエネルギーの基礎 ①仕事 ② 仕事率 ③エネルギー（運動エネルギーと位置エネルギー）
第6回	仕事とエネルギー（2）	エネルギー保存則の理解 ①力学的エネルギー保存則
第7回	圧力／第1回から第7回までの授業のまとめ	人体の内部における圧力の理解 ①圧力とは何か ②気圧・水圧 ③浮力 ④サイフォンの原理 第1回から第7回までの講義のまとめ
第8回	試験	講義で学んだ内容を総合的に理解し，適切に活用できるかを評価する

11 学習方法

講義を中心とし，必要に応じて演習問題や演示実験を取り入れる。

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

【電子版】基礎分野 物理学 医学書院／配布資料

参考書

看護学生プレトレーニング メヂカルフレンド社（入学前教育の教材として購入）

14 学生への要望

物理学は力やエネルギーなど目に見えない量を扱うため，難しい印象を持たれがちです。しかし，自然界で起こる現象の仕組みを理解することで，身近な現象も共通の原理で説明できます。また，医療分野で使用される電子機器も物理法則に基づいて動作しています。本講義では，こうした考え方を身につけるため，自ら考える姿勢を大切にしてください。

化　学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	1単位	15時間	必修	杉本孝作

8 授業概要

生命現象が、生物を構成する化学物質と化学反応によるものであることを理解する。まずは身のまわりにある化学を知り、医療に関連する内容として酸塩基平衡、浸透圧、酸化還元反応、高分子化学を学ぶ。これらが身体内で均衡を保持し内部環境を調整している根拠を理解する。

9 到達目標　（関連するDP：2）

1. 科学の基礎知識として身のまわりにある化学を理解し、記述できる。
2. 酸塩基平衡、浸透圧と身体におけるpHの関係性を説明できる。
3. 高分子化学（糖質、タンパク質、脂質）の性質を理解し、加水分解後の物質について列挙できる。

10 授　業　計　画		各時間で学ぶべきこと
第1回	身のまわりの化学	①コップ一杯の水 ②食塩水・砂糖水・レモン水 ③身のまわりの物質と化学反応
第2回	化学の単位と元素の周期表	量と単位 元素の周期表
第3回	物質の三態 気体の性質	分子間力と融合・沸点 ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則
第4回	液体・溶液の性質	質量パーセント濃度、モル濃度、質量モル濃度、浸透モル濃度、血中グルコース
第5回	化学反応	酸化還元反応（酸素・水素・電子の授受、酸化数の増減）
第6回	反応速度 化学平衡	活性化エネルギーと触媒 ルシャトリエの原理 電離と電解質、体液の酸塩基平衡
第7回	物質の構成	原子のモデル 高分子化学（糖質、タンパク質、脂質）
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書	参考書
【電子版】基礎分野　化学　医学書院	看護学生プレトレーニング　メヂカルフレンド社（入学前教育の教材として購入）

14 学生への要望

生命体は化学物質（分子とイオン）でできている。化学の基礎をしっかりと学んでほしい。

情 報 科 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	1単位	15時間	必修	梅木佳子 高畑美佳(看護師)

8 授業概要

コンピュータの仕組みを理解し、扱う情報を操作できる技術としての基礎的知識を学ぶ。情報社会における情報セキュリティや個人情報保護・著作権の基本的な考え方など、情報倫理と保護の重要性を理解する。ITの知識を深め、学術情報の検索と活用により、情報処理能力を身につける。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護の現場でどのように情報が取り扱われているのか実際を学ぶ。）

9 到達目標 （関連するDP:7）

1. コンピュータの仕組み、情報処理の仕組みなど、情報科学の基礎的な知識を理解し説明できる。
2. 情報セキュリティや個人情報保護・著作権の基本的な考え方を説明できる。
3. 情報科学の医療や看護にとっての必要性について説明できる。
4. ITの知識を深め、情報処理に必要な能力について列挙できる。
5. 学術情報の検索と活用と処理について、その方法を説明できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	情報科学の基礎	情報技術とコンピュータ／パソコン本体の構成
第2回	出力装置（印刷・スキャナー）	入力インターフェース／アプリケーションソフト
第3回	ネットワーク	LAN／インターネット／メール／ソーシャルメディア
第4回	情報セキュリティ（ウイルス・対策）	インターネット利用の心構え
第5回	保健医療における情報	看護と情報／情報と倫理／情報倫理と医療倫理
第6回	情報と倫理	患者の権利と情報／個人情報の保護
第7回	看護研究とコンピュータ	情報科学／文献情報の検索／地域看護と情報システム／実践例
第8回	試験	試験

第１～４回・第７・８回　梅木佳子（８０）、第５～６・８回　高畑美佳（２０）

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

情報リテラシー教科書Windows 11/Office 2021対応版
【電子版】別巻　看護情報学　医学書院
情報処理入門　九州医療科学大学通信教育部

参考書

14 学生への要望

アンテナを広げ取り込むべき情報はもらさず集めて多くを学んでください。

情 報 科 学 演 習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	梅木佳子 三上史哲 高畑美佳(看護師)

8 授業概要

情報科学での学びを基盤に、パソコンの基本操作としてWindows(Word、Excel、Powerpoint)の機能を実際に活用し演習することにより操作を習得する。タブレットを活用した基本操作やオンライン会議の実際について演習を通して学ぶ。また、社会の情報化に応じたICT教育の導入により情報活用能力を育成していく。

9 到達目標 (関連するDP:7)

1. コンピュータを使って基本的な情報処理ができる。
2. コンピュータを使って、ワードによるレポートを作成ができる。
3. コンピュータを使って、プレゼンテーション演習及び発表ができる。
4. タブレットの基本操作の活用方法が理解できる。
5. エクセルを活用した統計処理の実際を理解できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1～2回	パソコンの基本操作	Windowsの基本的な操作／文字入力＆変換
第3～6回	Word活用	ビジネス文章／表作成／長文編集等Windows
第7～9回	Powerpoint活用	プレゼンテーションの基礎／演習Windows
第10回	タブレットの使い方	タブレットの基本操作／演習
第11～14回	Excelを活用した統計処理	研究に活用する統計処理・見方／尺度／単純集計／記述統計／帰無仮説・対立仮説/正規分布／カイ二乗検定、t検定
第15回	試験:実技	試験:実技(梅木)

第１～９・１５回　梅木佳子（６０）、第１０回　高畑美佳（１０）、
第１１～１４回　三上史哲（３０）

11 学習方法

講義／タブレッド・パソコンを活用した演習／グループワーク

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

情報リテラシー教科書Windows 11/Office 2021対応版
情報処理入門　九州医療科学大学通信教育部
【電子版】基礎分野　統計学　医学書院
【電子版】別巻　看護研究　医学書院

参考書

14 学生への要望

遅刻・欠席しないこと。コンピュータを使って、論文の発表ができるように期待しています。
USBを各自用意して下さい。

生涯スポーツ論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	1単位	30時間	必修	六川利康 松本嘉次郎 山本幸男

8 授業概要

ライフステージにおいて個人の年齢・体力・嗜好に応じたスポーツをおこなうための知識・技術を学び、スポーツを楽しくおこなえる実践能力を身につける。 地域でおこなわれている介護予防活動や高齢者がおこなえるスポーツを通しての支援の方法を身につける。自らの体力の状態を査定することによって、実施する運動の種類と程度を根拠に基づいて判断し選択できる力を養う。

9 到達目標 （関連するDP：1.5.6.7）

1. 各スポーツ種目の演習を通して、それぞれに楽しむための基礎的技術を習得し、魅力的なゲームの実践を行い、生涯スポーツに対する運動習慣の重要性を理解する。
2. 新体力テストにより自分の体力状態を査定し運動の重要性を根拠に基づいて理解する。
3. 高齢者の体力測定の方法や実践されている介護予防での体操を学び、対象者への指導内容が理解できる。
4. 高齢者への支援方法の一つとしてノルディック・ウォークの実際を学び、生涯にわたり運動の重要性を理解できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	オリエンテーション：5号館HR教室	生涯スポーツの意義／研究レポート
第2回	体力測定：3号館講堂	基礎的な体力測定を行い自身を知る
第3～4回	屋外スポーツ ：香川短期大学グラウンド 等	屋外で行える運動やスポーツを楽しむ
第5～6回	ラケットスポーツ 等 ：別館または3号館講堂	基礎／応用／ゲーム／実技テスト
第7～8回	ボールスポーツ等 ：別館または3号館講堂	基礎／応用／ゲーム／実技テスト
第9～10回	高齢者の体力測定・介護予防体操	高齢者の体力測定 【演習】介護予防体操の実際
第11回	ガイダンス 自分の体力を測定する	体力とは、身体活動とは 【実技】新体力テスト／まとめ
第12回	ノルディックウォーキング 1	【実技】宇多津の街をポールを使って歩いてみよう
第13回	ノルディックウォーキング 2	【実技】宇多津の街をポールを使って歩いてみよう
第14回	自分の体力を見える化する	体力テスト：レーダー図、 歩数：折れ線グラフ身体活動量（棒グラフ） 基礎代謝（円グラフ）／まとめ
第15回	試験：5号館HR教室	筆記試験（六川）

第１～８・１５回 六川利康（６０）、第９～１０回 松本嘉次郎（１０）、
第１１～１４回 山本幸男（３０）

11 学習方法

講義／演習

12 評価方法

体力測定及び実技試験と筆記試験、運動に関するレポート提出、授業への取り組む姿勢等の総合評価

13 教科書

特になし（配布資料）

参考書

14 学生への要望

多くのスポーツを体感することで、身体を動かすことの楽しさ重要性を理解し、健康な身体づくりや体力向上も視野に入れ、より健全な心身が培われるよう、体調を管理し受講してください。

人 間 関 係 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	1単位	15時間	必修	辰巳裕子

8 授業概要

人間の本質、関係性、生き方、環境や文化から人間のあり様を多角的にとらえ、理解する。変貌する社会の中で、自他の理解を深め、人間関係を構築する力を身につける。看護師として質の高いケアを提供するためには、対象との援助関係・信頼関係が重要となる。対象を深く理解し、人間関係を構築するための基本的な考え方や、アプローチの方法を学ぶ。

9 到達目標 （関連するDP：1.3.4）

1. 人間関係の中にある自己と他者について理解し、説明できる。
2. 対人関係における役割と行動の関係性について説明できる。
3. コーチングやコミュニケーション理論の理解を深め、実施するためのスキルを理解し実践できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	人間関係の中の自己と他者	人間関係とは、自己認知、対人認知
第2回	対人関係と役割 態度と対人行動	対人関係の成立、対人関係の維持と崩壊、対人葛藤と対処、 社会的役割、態度と態度変化、説得的なコミュニケーション
第3回	集団と個人	集団の特性、集団での課題遂行、集団での問題解決と意思決定
第4回	カウンセリングと心理療法	カウンセリング・心理療法の理論とスキル
第5回	コーチング	コーチングの理論とスキル
第6回	アサーティブコミュニケーション	アサーションの理論とスキル
第7回	保健医療における人間関係	保健医療チームの人間関係、患者を支える人間関係、 家族を含めた人間関係、地域をつくる人間関係
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク／ロールプレイ／口頭発表

12 評価方法

レポート／口頭発表／筆記試験

13 教科書

【電子版】基礎分野 人間関係論 医学書院 / 配布資料

参考書

14 学生への要望

人との関わりが得意な人も、苦手な人も職業人になることを意識して積極的に授業に取り組んでもらいたい。

死 生 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	小阪 清行

8 授業概要

現代社会は核家族化、在宅出産の減少、病院死の増加、葬儀手段の簡略化などを通して、人間が生き、そして死ぬということはどういうことなのかについて触れる機会が少なくなっている。「生・老・病・死」を自己の生老病死だけではなく、他者の生老病死をいかに受け止め、それにどのように関わっていくかを考える。

9 到達目標 （関連するDP：1.4）

1. 生と死について、文学者や宗教家たちの考え方を参考にしながら、知見を広める。
2. 日本人と外国人の死生観の違いについて理解を深める。
3. 死に関する多様な文化に触れ、自分の死についても考えを深める。
4. 自分自身の死生観を深めることによって、看護師としての仕事に厚みをもたせる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	死生学とは	生と死
第2回	キリスト教にみる死生観	キリスト教理解のために
第3回	仏教にみる死生観	仏教理解のために
第4回	文学にみる生と死	文明の表層性と病根
第5回	近代が抱える問題	ゲーテと三木成夫(解剖学者・思想家)
第6回	医療現場と実践者たち	ナイチンゲール、ダミアン神父etc.
第7回	若さと老い	老いらくの恋、若さの秘訣
第8回	試験（あるいはレポート提出）	試験

11 学習方法

講義

12 評価方法

筆記試験、あるいはレポート提出

13 教科書

講師作成テキスト

参考書

14 学生への要望

われ未だ生を知らず、いずくんぞ死を知らんや （孔子）
「生と死」について一緒に考えてみましょう。

家 族 社 会 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	佐藤友光子

8 授業概要

医療／看護の現場において、クライエントの家族的背景への理解に立脚しつつ信頼関係と連携体制を構築することの重要性は論をまたない。一方、家族の多様化・個人化が進行するなかで、家族外生活者を含むクライエントの様々な生活状況に対する「想像力」が一層求められる時代となっている。この授業では、社会学的な視点から現代の家族状況の特徴および家族をめぐる問題群／課題群についてグループワークおよび講義を通じて理解する。

9 到達目標 （関連するDP：1.4.5）

1. 現代家族の特徴および家族をめぐる問題群／課題群について理解し、解説できる。
2. 家族現象をデータに基づいて把握し、その説明のために十全に活用できる。
3. グループワークを通じて主体的に情報を収集・整理し、ルールに則ったレジュメを作成しつつその成果を効果的にプレゼンテーションできる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	オリエンテーション	「社会学」とはどのような」学問か。なぜ「家族社会学」を学ぶのか。統計データでみる現代家族の特質について。
第2回	グループワークについて	グループワークの説明。グループ分けと分担箇所の決定。レジュメのきり方について等。
第3回	グループワークの実施①	テキストの要約と資料の収集・整理、発表レジュメの作成。
第4回	グループワークの実施②	同上
第5回	グループワークの実施③	同上
第6回	グループワークの実施④	同上
第7回	グループワークの実施⑤	同上
第8回	グループワーク成果報告と教員によるテキストの解説①	テキスト1章 ポスト近代社会におけるリスクと家族 テキスト2章 前近代から近代への家族変動
第9回	グループワーク成果報告と教員によるテキストの解説②	テキスト3章 戦後日本の家族の変化 テキスト4章 企業中心社会の成立と就業・家族
第10回	グループワーク成果報告と教員によるテキストの解説③	テキスト5章 労働社会の変化とリスク テキスト6章 ジェンダーと家族
第11回	グループワーク成果報告と教員によるテキストの解説④	テキスト7章 結婚 テキスト8章 セクシュアリティと家族
第12回	グループワーク成果報告と教員によるテキストの解説⑤	テキスト9章 生殖と家族 テキスト10章 子どもと家族
第13回	グループワーク成果報告と教員によるテキストの解説⑥	テキスト11章 離婚・再婚 テキスト12章 高齢者と家族
第14回	グループワーク成果報告と教員によるテキストの解説⑦	テキスト13章 単独世帯の増加と「家族」のオルタナティブ テキスト14章 家族の多様化と貧困・社会的排除
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

グループワークと成果発表／講義

12 評価方法

筆記試験の結果にグループワークへの参加状況および成果発表の出来ばえを加味して評価する。

13 教科書	参考書
下夷 美幸 家族問題と家族支援 (財)放送大学教育振興会	

14 学生への要望

グループワークを通じてチームメンバーと有意義なコミュニケーションをはかり、主体的に授業に参加してくださることを望みます。質問・意見等積極的な発言を期待しています。

発 達 心 理 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	2学年	前期	1単位	15時間	必修	宮地和樹

8 授業概要

発達の各段階における心の機能とその特徴及びその変化を学習する。人間の発達を誕生したときから死に至るまでの期間全体と捉え、ライフサイクルの視点から各年代の発達課題を学ぶ。その上で実際の生活上の発達的問題を各々が考えるきっかけを持てるようになることをねらいとする。

9 到達目標 （関連するDP：1.3.4）

1. 人の成長過程と発達段階における生活上の変化や、そこで生じる「こころ」の問題について考えを述べることができる。
2. ①各発達段階の特徴を理解できる、②発達援助の方法について理解し、自分の意見としてまとめる。

10 授 業 計 画		各時間で学ぶべきこと
第1回	発達とは何か	反抗期とは何か、 発達心理学は人のどのような側面を扱っているか、 授業で扱う発達心理学、ハビィーガストの発達心理学
第2回	乳児期の発達	子どもの発達と環境、自我の発達
第3回	認知発達の理論	乳児期から7歳ごろまで各期の特徴、発生的認識論
第4回	記憶	記憶とは、記憶の種類
第5回	記憶の忘却と維持・精密化	忘却、エビングハウスの実験、記憶の精密化、既有知識の活性化
第6回	社会性と道徳性の発達	愛着形成、社会性の発達、道徳性の発達理論
第7回	青年期の発達	エリクソンの青年期、キャリアの発達
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義

12 評価方法

筆記試験 などで評価

13 教科書	参考書
配布資料	

14 学生への要望

単に人間の発達の流れを追うのではなく、自分自身に置き換えながら理解をする視点を培ってもらいたいと思います。また、講義の最後に毎回感想と質問を書いてもらいます。

日本語表現法

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	1単位	15時間	必修	神原 周

8 授業概要

伝えたいことを分りやすく的確に表現するためには、日本語の語彙、文法、文体、表記法など、日本語そのものに対する理解を深める必要がある。まず日本語について言語学的に学び、その表現法について実践を通して身につけていくことを目的とする。言語とは何かを理解し、日本語での読む、書く、話すといった基本、適切な言葉づかいと話し方を身につける。

9 到達目標　（関連するDP:3）

1. 日本語での読み書き、話すといった基本を学び、自己表現として語りの技術を習得し、実践できる。
2. 対話する際のマナーや敬語のルールを理解し、日常生活において活用できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	概論	言語とは 自己紹介
第2回	言語学概論	コミュニケーション 他己紹介
第3回	社会言語学	日本語のバラエティ
第4回	書くという行為①	執筆の基礎 紹介文
第5回	書くという行為②	意見文
第6回	話すという行為	敬語の用法 ビジネス敬語のルール
第7回	適切な言葉づかい	状況に合わせた言葉づかい やさしい日本語
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習

12 評価方法

筆記試験、授業プリントの提出、実技、授業での諸成果による総合評価

13 教科書	参考書
配布資料	看護学生プレトレーニング　メヂカルフレンド社（入学前に購入）

14 学生への要望

積極的に学び、伸びたい学生を歓迎します。学生のレベルや希望をある程度、考慮します。
クリティカルシンキングや論理的思考は看護を行う上で重要です。難しく考えず取り組みましょう。

地 域 文 化 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	1単位	30時間	必修	山中 雅大

8 授業概要

さぬきの歴史、文化における理論や手法について学びを深める。また看護と讃岐人の文化と心についても触れ、昔から地域に根付いているお接待の心を学ぶことで、現代社会において集団から個人化する社会の現状を明らかにする。風景には、自然の造景のみでなく、人々の活動の歴史が刻まれている。ここでは、地元香川の風景を基に、その自然と人々の活動について、文化人類学的に読み解いていく。その中で、香川の文化を再発見する。

9 到達目標 (関連するDP:5)

1. 讃岐文化であるお接待の心を学び、個人化する人々への看護を提供する方法を述べることができる。
2. その看護方法を讃岐の文化を持ち、育ってきた地域の人に必要とする看護を説明することができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	イントロダクション:講義概要・課題・評価方法	講義ガイダンス
第2回	地域とは①	地域における諸概念と動向
第3回	地域とは②	地域における諸概念と動向
第4回	文化とは①	文化の諸相
第5回	文化とは②	文化の諸相
第6回	文化とは③	文化の諸相
第7回	中讃地方の歴史と文化①	歴史・営み・風景の変遷
第8回	中讃地方の歴史と文化②	歴史・営み・風景の変遷
第9回	質的調査の種類と方法①	質的調査の概要とフィールドワークにおけるポイント
第10回	質的調査の種類と方法②	質的調査の概要とフィールドワークにおけるポイント
第11回	グループワーク①	フィールドワークに向けたテーマ・ルート・役割分担決め
第12回	グループワーク②	フィールドワークに向けたテーマ・ルート・役割分担決め
第13回	フィールドワーク①	宇多津におけるフィールドワーク
第14回	フィールドワーク②	宇多津におけるフィールドワーク
第15回	発表	フィールドワークのまとめ発表

11 学習方法

講義／グループ・ワーク／フィールドワーク／発表

12 評価方法

平常点／各種課題／フィールドワーク／発表

13 教科書	参考書
配布資料	

14 学生への要望

香川県の自然風景、人文風景について理解し、私見を述べることができるようになってほしい。

臨 床 心 理 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	3学年	後期	1単位	30時間	必修	竹森元彦

8 授業概要

臨床心理学は心理的問題の解決や改善を支援する実践活動と、その活動の有効性を保証するための理論や研究から構成されている学問である。心の動きの基礎的概念を理解し、心の健康維持と増進についての心理的援助方法を学び、メンタルセラピーとして人に癒しを与える心を学ぶ。

9 到達目標 （関連するDP：1.3.4.7）

1. 臨床心理学に関する基礎的理論や歴史について学習し、説明できる。
2. 心理テスト、心理療法、カウンセリングに関する基礎的学習から実践に必要な内容を説明できる。
3. 心理アセスメントや心理テスト、映画分析などを通じて自分と他者について深く考え、癒しを与える方法を説明できる。
4. カウンセリングシナリオの実習を通じてカウンセリングコミュニケーションについて学び、実践できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	臨床心理学とは	臨床心理学の基礎知識、心への問い
第2回	現代社会と臨床心理学	現代社会における臨床心理学の状況
第3回	自分と臨床心理学	心理学と自己分析
第4～6回	心理アセスメント	映画の臨床心理学／心理をアセスメントする
第7～9回	カウンセリングコミュニケーションの実際	シナリオ法によるカウンセリングコミュニケーション
第10～11回	心理療法の実際①	性格検査、投影法、コラージュ療法／自己分析
第12～13回	心理療法の実際②	性格検査、投影法、コラージュ療法／自己分析
第14回	振り返り	臨床心理学の学びを看護の現場でどう生かすか
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／レポート／演習
毎回の授業について感想及び質問などを書いてもらう。それを次回の授業の際にとりあげ補足説明をおこなう。

12 評価方法

筆記試験（レポート課題）

13 教科書

「医療系のための臨床心理学」竹森元彦著 講談社

参考書

竹森元彦「スクールカウンセリングにおける生徒学校家庭の支え方について」心理臨床研究第18巻第4号

14 学生への要望

心とからだの調和・バランスを考え人に癒しを与える看護師として成長してほしい。
実習や演習など自分と関係しながら展開しますので、積極的・主体的に学習をしてください。

笑いと医療

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	3学年	後期	1単位	15時間	必修	熊谷恵利子 山本幸男

8 授業概要

私たちが笑うと、免疫のコントロール機能をつかさどっている間脳に興奮が伝わり、情報伝達物質の神経ペプチドが活発に生産される。"笑い"が発端となって作られた"善玉"の神経ペプチドは、血液やリンパ液を通じて体中に流れ出し、NK細胞を活性化する。その結果、免疫力が高まる。笑いがもたらす医学的効用と笑いを通して対人間コミュニケーションの向上を図る。対象との心が通うコミュニケーションのユーモアセンス・実践力を養う。

9 到達目標　（関連するDP：1.3.4）

1. 笑いがもたらす医学的効用と笑いを通して患者さんとの対人間コミュニケーション力の向上を図る方法を説明できる。
2. 対象である患者と心が通うコミュニケーションを図るためのユーモアセンスについて理解し、実践できる。
3. クラウン（道化師）セラピーを学び、看護の実践に活かすことができる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	笑いと医療とは	クリニクラウンの実践に学ぶユーモアコミュニケーション
第2～3回	ユーモアコミュニケーション	自分をみつめる・非言語コミュニケーション
第4回	オープンマインド	自分と他者の関係性・オープンマインド
第5回	癒しのコミュニケーション	笑いのメカニズム
第6回	癒しのコミュニケーション	笑いとヨガ①
第7回	癒しのコミュニケーション	笑いとヨガ②
第8回	試験	試験（熊谷／山本）

第１～４・８回　熊谷恵利子（６０）、第５～７・８回　山本幸男（４０）

11 学習方法

講義／演習／グループワーク／ロールプレイ／口頭発表

12 評価方法

レポート／口頭発表／筆記試験

13 教科書

配布資料

参考書

14 学生への要望

いつも笑顔を！（授業は楽しく人生は面白く）

音楽療法

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	2学年	後期	1単位	15時間	必修	岩永十紀子

8 授業概要

補完医療として確立されてきた音楽療法の歴史・理論・実践について学ぶ。音楽療法の基礎理論や音楽史を学習し、鑑賞や演奏等の活動を通して、情操豊かな人間形成を目指す。生活の中に芸術を取り入れることによって、より生き生きとした人間的価値にあふれた生活が得られることを知る。さらに、音楽療法の実践をとおして、具体的な治療効果について学び、音楽療法の有効性を実感する。

9 到達目標　（関連するDP：1.4.7）

1. 音楽が人間にもたらす作用を学習し、障害をもつクライアントに対して音楽が治療として有効であることを知る。
2. 人間関係構築のためのコミュニケーション手段である音楽の価値を理解し、活用法を体得することができる。
3. 音楽療法の有効性を示す歴史的背景や理論的考察、さらに具体的な技法について学習し、癒しや機能改善の役割を果たす音楽療法へのアプローチができる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	音楽療法の概要	音楽とは何か、音楽療法の定義、音楽療法の歴史、対象について
第2回	音楽の作用	音楽が人間に及ぼす影響について
第3回	音楽療法演習Ⅰ	高齢者の音楽療法
第4回	音楽療法演習Ⅱ	精神障害者の音楽療法
第5回	音楽療法演習Ⅲ	身体障害児（者）の音楽療法
第6回	高齢者音楽療法の実際Ⅰ	高齢者を対象とした音楽療法の方法と留意点、ハンドベル、トーンチャイム等を使った合奏
第7回	高齢者音楽療法の実際Ⅱ	高齢者事業所における音楽療法セッション見学
第8回	高齢者音楽療法の実際Ⅲ	セッションのフィードバック、まとめ

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

記録／レポート

13 教科書

配布資料

参考書

14 学生への要望

音楽療法についての知識の獲得だけでなく、演習に積極的に参加することによって、音楽の持つ力を体験的に学習してください。

健 康 科 学 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	1単位	15時間	必修	漆原光徳

8 授業概要

健康に暮らしていくためには、病気を予防し健康増進を図るための知恵が必要である。健康科学では、健康に生活するための理論と具体的な方法について探求すると共に、人々の健康増進とその維持に役立てることを学ぶ。健康を維持するため、人体の特徴や仕組み、運動や栄養が体に及ぼす影響といった観点から、健康増進とその維持に役立つ知識を習得していく。

9 到達目標 （関連するDP：1.4）

1. 身体運動の重要性を、運動学および健康スポーツ科学の立場から理解し、説明できる。
2. 人間の身体の仕組みを理解し、健康科学の基礎的知識を身につけ、自己管理として実践できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	健康科学とは？	体重管理の基礎理論
第2回	肥満と疾病・中年太りはなぜ起こる？	自分のカラダを正しく知る 肥満の原因を科学的に探る
第3回	有酸素運動と無酸素運動・ 筋肉と脂肪燃焼	ウォーキング＆トレーニングの実際 体脂肪を燃焼させるエクササイズ 筋肉で体脂肪は燃える
第4回	部分やせは科学的に可能か？	肥満と食事・ドリンクの因果関係 肥満とメタボリックシンドローム
第5回	食事と健康・太らない食事法	ダイエット日誌をチェックする 現在の食事状況を検証する まちがいだらけのダイエットを検証する
第6回	最新のダイエット理論	トップアスリートの肉体改造論
第7回	サプリメントと健康	実際に行ったさまざまなダイエット法
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

「大学ダイエット講義」漆原光徳著　二見書房

参考書

14 学生への要望

この講義で、人間のカラダの基本的な仕組みを理解し、「健康」の基本的な概念を身につけて欲しい。

英 語 Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	1単位	30時間	必修	新宮久子

8 授業概要

英語は日常の生活の中に浸透してきた。身の回りのほとんど全ての"もの"や短文を英語にすることで、普通に生活しているだけで英語にふれる機会が増す。大切なことは、わからない単語が出てきたらすぐに調べることである。単語が出現する文の雰囲気で理解することによって応用が利くようになる。最後はシャドーイング。シャドーイングとは、英語を聞いて即座にそれを真似して発音する練習法である。シャドーイングは授業でおこなわれるが、どこでもできるため、通学中の時間を活用する。英語Ⅰでは、日常会話を体得していく。

9 到達目標 (関連するDP:1)

英語を使うさまざまな状況ですぐに役立つ英会話を身につけて、世界を拡げていく。

10 授 業 計 画		各時間で学ぶべきこと
第1～3回	人と知り合う	Unit 1 Hi, I'm Rina. Unit 2 How do you spell that? Unit 3 What's the time? Unit 4 Where are you from?
	理解度の確認	第1回 試験
第4～7回	好み／家族／日々の暮らし	Unit 5 What's your favorite food? Unit 6 How often do you get your hair cut? Unit 7 What kinds of music do you like? Unit 8 Who's older, you or your sister?
	理解度の確認	第2回 試験
第8～11回	今までに経験したこと／これからのこと	Unit 9 How was your weekend? Unit 10 Have you ever been abroad? Unit 11 What kinds of movies do you like? Unit 12 What's the weather going to be like?
	理解度の確認	第3回 試験
第12～15回	服／スマホ／バイト／街	Unit 13 What' s your favorite coffee shop? Unit 14 Do you have a part-time job? Unit 15 How long have you had your phone? Unit 16 What kinds of clothes do you like to wear?
	理解度の確認	第4回 試験

11 学習方法

講義／ヒアリング／スピーキング／ロールプレイ

12 評価方法

4回の筆記試験との各課の暗唱

13 教科書	参考書
J.Cronin & E.Bray "New Getting Into English" 南雲堂	

14 学生への要望

知らない単語や熟語は前もって調べておくこと。
中辞典を持っていない学生には"ジーニアス英和辞典"(大修館)をお薦めします。

英語 Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	新宮久子

8 授業概要

なぜ看護師にも英語が必要なのか。日本でも国際化が進み、観光や仕事での来日や、日本に居住する外国人が増えた。医療機関に掛かる機会も増えた。看護師が適切な対応をするためには意思の疎通が必要となる。看護師の仕事を続けて

9 到達目標 （関連するDP:1）

英語Ⅰで身につけた基本的な英会話の世界を拡げて、看護の現場で役立つ英語を修得する。

10 授 業 計 画		各時間で学ぶべきこと
第1～3回	外来患者との会話	Unit 1: Please speak more slowly. Unit 2: Where are you from? Unit 3: Could you tell me your address, please?
	理解度の確認	第1回 試験
第4～7回	診療科／院内案内／症状	Unit 4: What department do you want to visit? Unit 5: Where is the X-ray department? Unit 6: What are your symptoms?
	理解度の確認	第2回 試験
第8～11回	症状／病歴／薬の服用	Unit 7: Where does it hurt? Unit 8: Have you ever had any serious illnesses? Unit 9: Take one tablet, four times a day.
	理解度の確認	第3回 試験
第12～15回	検査／手術／入院患者との会話	Unit 10: Let me make an appointment for your test. Unit 11: Your surgery will be tomorrow at 9 a.m. Unit 12: How are you feeling today?
	理解度の確認	第4回 試験

11 学習方法

講義／ヒアリング／スピーキング／ロールプレイ

12 評価方法

4回の筆記試験と各課の暗唱

13 教科書	参考書
クリスティーンのやさしい看護英会話 知念クリスティーン 上瀧真紀恵 医学書院	

14 学生への要望

知らない単語はあらかじめ調べておくこと。

英 語 Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	ブラスコ ミゲル イグナシオ

8 授業概要

日本語をはさんで理解する方法では、理想的な英会話能力は身につかない。英語スキル向上の秘訣は、英語を英語のまま理解できるようになること。英語Ⅲでは、病院でよくある場面、学生自身も経験があるであろう状況を英語で学ぶ。健康・医療・看護ケアに関するさまざまな文章を読みこなすことで英語の言葉の感覚も身につくようになってくる。英語Ⅲでは、看護英語の基礎力を短い会話で培う。

9 到達目標 （関連するDP:1）

1. 短い看護のエピソードを購読する。
2. 今後英文を読む機会に役立ちそうな構文を確認しながら、看護のさまざまな面がわかる。
3. 毎回短い会話も取り入れて、これまでに培ってきた会話力が鈍らないようにする。

10 授 業 計 画		各時間で学ぶべきこと
第1回	イントロダクション	Introduction to ThEngliSheet (English grammar cheat sheet),
第2回	Chapter1 外来での基本対応	よくある症状① 痛みがある よくある症状② 発熱がある
第3回	Chapter1 外来での基本対応	よくある症状③ 腹部症状がある よくある症状⑥ うつ傾向がある
第4回	Chapter1 外来での基本対応	よくある症状⑧ 呼吸器のトラブル 英語が話せる人に対応を替わる
第5回	Chapter1 外来での基本対応 Chapter2 入院生活時の対応	入院生活の案内 食事内容を確認
第6回	Chapter2 入院生活時の対応	トイレ･浴室の案内 ベッド周囲設備の説明
第7回	Chapter2 入院生活時の対応	院内設備を案内 検温ラウンド①検温･吸引
第8回	Chapter2 入院生活時の対応	検温ラウンド②排泄･睡眠 検温ラウンド③疼痛･痛みの対処
第9回	Chapter2 入院生活時の対応	ナースコール対応 ベッド上の排泄支援
第10回	Chapter2 入院生活時の対応	車椅子の移乗支援 着替えの介助
第11回	Chapter3 検査・手術・処置の対応	身長測定 血液検査
第12回	Chapter3 検査・手術・処置の対応	尿検査 予防接種の案内
第13回	復習	復習（第1～6回）
第14回	復習	復習（第7～12回）
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／演習

12 評価方法

筆記試験／予習

13 教科書	参考書
配布使用	

14 学生への要望

医療英語を楽しく学びましょう！！

中 国 語

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	4学年	後期	1単位	15時間	選択	董 琴

8 授業概要

中国語の基礎文法を習得し、簡単な挨拶や日常会話を身につけることを目標とする。
中国の文化、歴史等について、講義の内容に合わせて紹介し、中国の看護事情等についても学習し、国際化する看護の場において安心して支援できるように学びを深める。

9 到達目標 （関連するDP:1）

1. ピンイン（中国語の発音記号）に従って、中国語の発音の基礎が実践できる。
2. 簡単な挨拶や日常会話である基本的な会話ができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	ウォーミングアップ	中国事情紹介、中国はどんな国？、中国語はどんな言葉？ 発音練習
第2回	発音練習・第1課 あなたのお名前は？	人称代名詞と「～である」の文法
第3回	第2課 これは何ですか？	疑問文と「～の～」の文法
第4回	第3課 どこへ行くのですか？	動詞文、所有を表す「有」の文法
第5回	第4課 この指輪はいくらですか？	助数詞の使い方、疑問詞の入った文法
第6回	第5課 今晩予定がありますか？	数字を使って、日付、時刻の表現
第7回	第6課 一週間に何日それをしますか？	時間量の表現
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

≪最新版≫中国語はじめの一歩 白水社刊（CD付）

参考書

14 学生への要望

中国語で一番難しいのは発音だといわれます。“よく聞く”、“よく話す”を続けることが上達の近道ですので、恥ずかしがること無く、しっかりと声を出して発音の練習をしてください。また、付属のCDも充分活用ください。
毎授業開始時に発音の練習、前回の復習をします。

教育心理学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	3学年	前期	1単位	15時間	必修	宮地和樹

8 授業概要

教育心理学においては、人間の精神および知能の発達や人格形成などと教育の関係を取り上げる。
また、教育過程の諸現象を心理学的に明らかにし、効果的な教育の方法を理解する。さらに、教育の場面に現れる問題を一般心理学の見地から解釈し、実際の教育に応用する。この講義では、学習者の心理と学習過程における心理学的な特徴を理解する。

9 到達目標　（関連するDP：1.2.4.7）

1. 対象となる青年期の心理的発達過程について理解し、心理的アプローチの具体的な方法を説明できる。
2. 教育学と心理学との関連づけができ、教育上の諸問題に柔軟に対処する姿勢を身につけ、実践できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	教育心理学とは何か	教育と心理学の関係性
第2回	発達	遺伝と環境を守る立場 遺伝論、環境論
第3回	学習と条件づけ	古典的条件づけのメカニズム
第4回	古典的条件づけの応用	古典的条件づけ 事例1：犬にお手を学習させる 事例2：正の罰＝負の強化の影響
第5回	技能学習	感覚器系と運動系との協応 ドレファスモデル　事例1：看護師の熟達モデル
第6回	動機づけ	オペラント条件づけ 行動を発動させ、方向つける条件、多発的動機づけ
第7回	教師の悩み／学校教育が持つ意義	原因帰属 効力期待と結果予期
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

配布資料

参考書

14 学生への要望

教育とは、学習し発達する存在である人間を指導・支援することである。教育心理学は、学習心理学および発達心理学と密接な関わりをもっている。それぞれの内容をよく理解しその意味を熟知しながら学んでもらいたい。看護は地域で生活する人々を含めた幅広い対象にあらゆる機会で指導・支援していく。したがって、これらの基礎知識を十分に理解してもらいたい。

教 育 原 理

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	2学年	前期	1単位	15時間	必修	柳澤良明

8 授業概要

「教育」と「医療」の共通する「人間」を対象とし、その「変容」を扱うという点に着目し、看護師とクライアントとの関わり方を考える。具体的には、第一に、公教育論、学校参加論に関する講義をとおして、「チームとしての学校」の取り組みを手がかりとして、「チーム医療」において求められる看護師の行動様式について考える。第二に、事前レポートの発表をおこない質疑応答をおこなうことで、自らの人間形成において看護師を目指すようになった原点を確認すると共に、自らの看護師像を省察する。

9 到達目標 （関連するDP：1.4.6.7）

1. 公教育や学校参加について学ぶことを通して、「チームとしての学校」の取り組みを手がかりに、「チーム医療」において求められる看護師の行動様式について説明することができる。
2. 学校教育において興味・関心あるテーマに関して、自らの見解をプレゼンテーションすることができる。
3. 自らの人間形成を振り返ることを通して看護師を目指すようになった自らの原点を確認するとともに自らの看護師象を省察することで、自らの学習課題を明らかにすることができる。

10 授 業 計 画		各時間で学ぶべきこと
第1回	授業のテーマと方法 ／教育の考え方	【講義】授業のテーマと方法／教育の考え方（a. 教育の2側面、b. 「教える-学ぶ」関係、c. 教育課程と隠れたカリキュラム、d. 学校の自主性・自律性の必要性、e. 教職の特徴） 【発表】私の人間形成
第2回	公教育論Ⅰ	【講義】公教育論Ⅰ：学校体系の3類型 【発表】私の人間形成
第3回	公教育論Ⅱ	【講義】公教育論Ⅱ：公教育の成立と展開 【発表】私の人間形成
第4回	公教育論Ⅲ	【講義】公教育論Ⅲ：公教育の三原理 【発表】私の人間形成
第5回	学校参加論Ⅰ	【講義】学校参加論Ⅰ：開かれた学校づくりの展開 【発表】私の人間形成
第6回	学校参加論Ⅱ	【講義】学校参加論Ⅱ：学校運営協議会制度の理念と課題 【発表】私の人間形成
第7回	学校参加論Ⅲ	【講義】学校参加論Ⅲ：地域学校協働活動と学校参加の課題 【発表】私の人間形成
第8回	学校参加論Ⅳ ／試験	【講義】学校参加論Ⅳ：ドイツの生徒参加 【試験】試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書	参考書
使用しない。適宜、授業資料（データ）を配布する。	柳澤良明他編（2023）『世界に学ぶ 主権者教育の最前線』学事出版。

14 学生への要望

講義の合間に随時、事前レポートの発表時間を設ける。提出期日までに、しっかりと事前レポートの作成に取り組み、自信を持って発表に臨んでほしい。

教 育 評 価

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	柳澤良明

8 授業概要

教育評価の種類、意義、機能、方法、制度について学ぶことをとおして、医療分野における評価活動についての基礎的理解を深めるとともに、本校における自らの学びを振り返ることをとおして、教育評価の在り方、さらには医療分野における評価活動のあり方について考える。

9 到達目標 （関連するDP:1.4.7）

1. 教育評価の種類、意義、機能、方法、制度について説明することができる。
2. 医療分野における評価活動の在り方について、教育評価の考え方をもとに説明することができる。
3. 本校における自らの学びについて教育評価の考え方をもとに振り返ることをとおして、自らの学びを客観的に捉え直すことができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	授業のテーマと方法 ／教育評価の種類と意義Ⅰ	【講義】授業のテーマと方法／教育評価の種類と意義Ⅰ:①学力評価 ②授業評価 【発表】事前レポート
第2回	教育評価の種類と意義Ⅱ	【講義】教育評価の種類と意義Ⅱ:①カリキュラム評価 ②学校評価 ③教員評価 【発表】事前レポート
第3回	教育評価の機能Ⅰ	【講義】教育評価の機能Ⅰ:①評価の次元 ②評価の主体 ③評価の対象 【発表】事前レポート
第4回	教育評価の機能Ⅱ	【講義】教育評価の機能Ⅱ:①診断的評価 ②形成的評価 ③総括的評価 【発表】事前レポート
第5回	教育評価の方法Ⅰ	【講義】教育評価の方法Ⅰ:評価方法の原理(a. 客観性 b. 妥当性 c.信頼性 d. 公正性 d. 実行可能性) 【発表】事前レポート
第6回	教育評価の方法Ⅱ	【講義】教育評価の方法Ⅱ:①目標に準拠した評価 ②到達度評価 ③真正の評価(a. パフォーマンス評価 b. ポートフォリオ評価) 【発表】事前レポート
第7回	教育評価の制度Ⅰ	【講義】教育評価の制度Ⅰ:①相対評価 ②絶対評価 【発表】事前レポート
第8回	教育評価の制度Ⅱ ／試験	【講義】教育評価の制度Ⅱ:①指導要録 ②通知表 ③内申書 【試験】試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

使用しない。適宜、授業資料(データ)を配布する。

参考書

田中耕治(2008)『教育評価』岩波書店。

14 学生への要望

講義の合間に随時、事前レポートの発表時間を設ける。提出期日までに、しっかりと事前レポートの作成に取り組み、自信をもって発表に臨んでほしい。

教 育 方 法 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	2学年	前期	1単位	15時間	必修	内藤知佐子

8 授業概要

教育方法論は、子どもを教え育てるにあたっての方法とその理論について検討する。子どもは本来、自然にその周囲から学び成長する。子ども達に「何を伝えるか」、「どのように教えるか」、「どう成長させるか」という問題は、深く検討すべきである。そこで本科目では、歴史的経緯も踏まえつつ、教育の方法について学ぶ。具体的には、教育方法に関わる認知（記憶、思考等）、理論と教授展開に必要な教育技術の基本を学び、看護教育における方法論につなげる。

9 到達目標 （関連するDP：1.7）

1. 教育方法の理論と授業展開に必要な教育技術の基本を学び、わかりやすく興味ある授業にデザインしていく視点を身につけ、実施できる。
2. 看護領域における教育目的･方法について理解し、具体的な方法を述べることができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	学習はどのように進むか	教科理解とその指導 認知発達の過程
第2回	教科理解とその指導	文章の理解と生成 数の理解、科学的認識、社会的認識
第3回	教授･学習の方法	教師中心の教授 学習者中心の教授
第4回	個人差に応じた教育	知能の個人差 動機づけ、適正処遇交互作用、適合教育
第5回	他者との相互交渉による学習	教師と子どもの相互交渉 子どもどうしの相互交渉
第6回	教授･学習の研究方法	相互作用分析 教授技術の構成要素、マイクロティーチング
第7回	看護教育の概念と目的	看護教育方法
第8回	発表／レポート	発表／レポート

11 学習方法

講義／ビデオ／演習／グループワーク

12 評価方法

発表による評価／グループ討議への参加状況／レポート

13 教科書

【電子版】基礎分野 教育学 医学書院

参考書

・看護教育学 第4版 杉森みどり 舟島なをみ 医学書院
・「看護教育評価の基礎と実際」田島桂子 医学書院

14 学生への要望

学習指導要領では、目標が「主体的で対話的な深い学び」とあるが、グループでの対話で質の高い学びを得させるところに高いハードルを感じる。ここでは、ヒトに教育はなぜ必要か、ヒトの認知と記憶、動機付けと学習との関係など、最近の諸科学によって教育の原点を学ぶことで、深い学びとは何かを、考えてもらいたい。

解 剖 生 理 学 Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	前期	1単位	30時間	必修	山内高圓

8 授業概要

人体について、人体の構造的側面と統合された人体の正常な機能を、構造と機能の両面から理解する。
つまり、解剖では正常な身体の構造について学び、機能としての生理では生体の正常な働きや生命現象の基本を学ぶ。

9 到達目標 （関連するDP：2.7）

1. 人体各部位・器官の名称と、構造の特徴を説明できる。
2. 各器官のはたらきを専門用語を用いて具体的に説明できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	栄養の消化と吸収①	口・咽頭・食道、腹部消化管の構造と機能
第2回	栄養の消化と吸収②	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能、腹膜
第3回	呼吸と血液のはたらき①	呼吸器の構造：呼吸器の構成、上気道、下気道と肺、胸膜・縦隔
第4回	呼吸と血液のはたらき②	呼吸：内呼吸と外呼吸、呼吸器と呼吸運動、呼吸器量、ガス交換とガスの運搬
第5回	呼吸と血液のはたらき③	肺の循環と血流、呼吸運動の調節、呼吸器系の病態生理
第6回	呼吸と血液のはたらき④	血液：血液の組成と機能、赤血球、白血球、血小板、血漿タンパク質と赤血球沈降速度、血液の凝固と線維素溶解
第7回	血液の循環とその調節①	循環器系の構成、心臓の構造、心臓の拍出機能
第8回	血液の循環とその調節②	末梢循環系の構造、血液の循環の調節、血圧・血流量の調整
第9回	血液の循環とその調節③	微小循環、循環器系の病態生理、リンパとリンパ管
第10回	体液の調節と尿の生成①	腎臓：腎臓の構造と機能、糸球体の構造と機能、尿細管の構造と機能、クリアランス
第11回	体液の調節と尿の生成②	排尿路：排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿 体液の調節：脱水、電解質バランス
第12回	内臓機能の調節①	自律神経による調節、内分泌による調節
第13回	内臓機能の調節②	全身の内分泌腺と内分泌細胞、膵臓、副腎、性腺
第14回	内臓機能の調節③	ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／演習／グループワーク／VTR／模型／標本

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門基礎分野 解剖生理学 医学書院

参考書

・人体のしくみとはたらき SENKOSHA(入学前に購入)
・看護学生プレトレーニング メヂカルフレンド社（入学前に購入）
・解剖生理学ワークブック 医学書院
・生体のしくみ標準テキスト 医学映像教育センター

14 学生への要望

解剖生理学Ⅰ：生命を維持するために食べる行動により、それを消化吸収する。吸収された栄養は、肺でのガス交換で体内に取り込まれた酸素とともに血液中に入り体内を循環する。この循環によって、腎臓での体液の調節とともに内分泌としてのホルモンの平衡も保たれる。この一連の生命過程を理解することがすべての分野の基礎となる。人の生命との関連を考え学習して欲しい。

解 剖 生 理 学 Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	前期	1単位	30時間	必修	横井広道 大北真哉・村山美咲

8 授業概要

人体について、人体の構造的側面と統合された人体の正常な機能を、構造と機能の両面から理解する。
つまり、解剖では正常な身体の構造について学び、機能としての生理では生体の正常な働きや生命現象の基本を学ぶ。

9 到達目標 （関連するDP：2.7）

1. 人体各部位・器官の名称と、構造の特徴を説明できる。
2. 各器官のはたらきを専門用語を用いて具体的に説明できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	解剖生理学のための基礎知識①	形からみた人体（体表から触知する人体の構造、人体の構造と区分、人体の部位と器官）
第2回	解剖生理学のための基礎知識②	素材からみた人体（人体とはどのようなものか、細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギーの生成、細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体、分化した細胞がつくる組織）、機能から見た人体（体液とホメオスターシス）
第3回	身体の支持と運動①	骨格とはどのようなものか、骨の連結、骨格筋
第4回	身体の支持と運動②	体幹の骨格と筋
第5回	身体の支持と運動③	上肢の骨格と筋、下肢の骨格と筋
第6回	身体の支持と運動④	頭頸部の骨格と筋、筋の収縮
第7回	情報の受容と処理①	神経系の構造と機能、脊髄と脳
第8回	情報の受容と処理②	脊髄神経と脳神経、脳の高次機能
第9回	情報の受容と処理③	運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路
第10回	情報の受容と処理④	眼の構造と視覚、耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚、痛み（疼痛）
第11回	身体機能の防御と適応①	皮膚の構造と機能、生体の防御機構
第12回	身体機能の防御と適応②	代謝と運動、体温と調節、
第13回	生殖・発生と老化のしくみ①	男性生殖器、女性生殖器
第14回	生殖・発生と老化のしくみ②	授精と胎児の発生、成長と老化
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

第１～６・１５回　横井広道（４０）、第７～１０・１５回　大北真哉（２５）、
第１１～１４・１５回　村山美咲（２５）

11 学習方法

講義

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門基礎分野　解剖生理学　医学書院

参考書

・人体のしくみとはたらき SENKOSHA(入学前に購入)
・看護学生プレトレーニング メヂカルフレンド社（入学前に購入）
・解剖生理学ワークブック　医学書院
・生体のしくみ標準テキスト 医学映像教育センター

14 学生への要望

解剖生理学Ⅱ：人体は生殖を経て1つの細胞から発生し組織や器官を形成する。人が重力の影響を受けながら活動するにあたっては骨格という身体の支持を可能にし、筋を使って動くことができる。人が行動するには、意思を伝える脳神経系や感覚器系によって、情報の受容と処理がおこなわれる。さらなる安全には生体の防御機構を働らかせ環境に適応して行くこととなる。この一連の生命過程を理解することがすべての分野の基礎となる。人の生命との関連を考え学習して欲しい。

病 理 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	水津 太

8 授業概要

病気の本態(病因)と、成り立つ機序(病理発生)について理解を深めることにより、種々の疾病がもたらす身体や細胞の変化の要因と関連して学べることをねらいとする。

9 到達目標 (関連するDP:2.7)

1. 疾病の成り立ちや機能と基本的疾病について学び、その病因、病理発生について説明できる。
2. 臓器別に代表的疾患の病因、病理発生とを関連させて身体内部での変化を具体的に説明できる。

10 授 業 計 画		各時間で学ぶべきこと
第1回	病理学とは	病気とは、病理学とは、細胞・組織の障害と修復
第2回	循環障害	循環器系の概要、充血とうっ血
第3回	炎症 免疫	炎症の原因・経過・治療 免疫に関する細胞、アレルギーと自己免疫疾患
第4回	感染症	感染と宿主の防御機構、主な病原体と感染症、 感染症の治療と予防、感染症法
第5回	代謝障害	脂質代謝障害、糖質代謝障害、先天異常と遺伝子異常
第6回	腫瘍	腫脹とは何か、腫瘍の発生病理・発生要因、腫瘍マーカー
第7回	老化と死	細胞の老化と個体の老化、死の判定と死因の究明
第8回	循環器系の疾患	血管の疾患、心臓の疾患の病態変化 これまでのまとめ
第9回	血液・造血器系の疾患	骨髄および血液の疾患、貧血、白血球増加症と減少症、 リンパ系および脾臓の疾患の病態変化
第10回	呼吸器系の疾患	気管・気管支・肺の疾患、肺炎、間質性肺炎と肺線維症、 閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患の病態変化
第11回	消化器系の疾患	口腔・食道の疾患、胃の疾患の病態変化
第12回	腎・泌尿器・生殖・内分泌系の疾患	腎・泌尿器の疾患、生殖器・内分泌系の疾患の病態変化
第13回	脳・神経・筋肉系の疾患	脳・神経系の循環障害と外傷、脳・神経系の病態変化
第14回	骨・関節・耳・眼・皮膚の疾患	骨髄炎、関節炎、耳・眼・皮膚の疾患の病態変化
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／演習／グループワーク／VTR／模型／標本

12 評価方法

筆記試験

13 教科書	参考書
【電子版】専門基礎分野 病理学 医学書院 配布資料	病気のしくみとなりたち 宣広社

14 学生への要望

他科目との関連のある科目のためしっかり学習すること。
特に解剖生理学を想起し復習しながら授業に臨むこと。

看護に活かす解剖生理学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	後期	1単位	30時間	必修	藤川幸子(看護師)

8 授業概要

看護学を学ぶにあたり、人間はどのような体の構造としくみを使って生きているのか、日常生活行動を営んでいるのか、体のしくみが障害されたとき、それが生きていることや日常生活活動にどう影響するのかを理解する必要がある。看護は、人が呼吸をする・活動する・排泄する・睡眠するなど、活動をおこなう上での困難さへの支援をおこなう。看護技術やケアのしくみやエビデンスに解剖生理学の知識を根拠に説明できることを目的に学ぶ。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護に活かす解剖生理学について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:2.7)

1. 日常生活行動における体のしくみを表現することで看護の必要性を述べることができる。
2. 看護技術やケアが人体にどのように実施されているのかそのメカニズムを理解し、説明できる。
3. 模型作成を通して人体の構造から看護技術の実施における注意点が説明できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1～2回	食べる、消化吸収の機能	【模型作成とシナリオ演習】 舌の動きと咀嚼／摂食と嚥下 [看護技術：食事介助・口腔ケア・胃管カテーテル]
第3～4回	呼吸の機能	【模型作成とシナリオ演習】 呼吸と肺の動き／肺胞とガス交換／咳・くしゃみ・あくび [看護技術：体位ドレナージ・排痰ケア]
第5～6回	心臓・血液循環の機能	【模型作成とシナリオ演習】心臓と血液循環・血圧の調節 [看護技術：バイタル測定、薬物療法、運動療法]
第7～8回	排泄の機能	【模型作成とシナリオ演習】尿意と排泄のしくみ／便意と排便のしくみ [看護技術：尿失禁ケア・導尿、排便を促す援助・浣腸]
第9～10回	身体を動かす機能	【模型作成とシナリオ演習】 神経から筋への伝達と筋の収縮／随意運動／骨格・骨格筋・関節 [看護技術：基本的動作(立つ・座る・歩く) の援助]
第11～12回	恒常性維持のための神経調整	【模型作成とシナリオ演習】 中枢神経 (脳と脊髄) ／末梢神経 (脳神経・脊髄神経・自律神経) ／情報伝達 [看護技術：体位変換、車いす移乗、歩行介助]
第13～14回	発表	作成した模型を使って、看護に活かす解剖生理について発表
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

模型作成と事例演習／グループワーク／発表

12 評価方法

作成した模型の完成度、シナリオに基づいた事例発表、グループワークの参加度

13 教科書

配布資料

参考書

【電子版】専門基礎分野 解剖生理学 医学書院
【電子版】専門基礎分野 病態生理学 医学書院
【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

14 学生への要望

人間が生活する上での活動のしくみを模型を作成することで理解を深める。そのため、作成する模型にはその仕組みがより理解できるよう完成度を求める。説明の際には、シナリオを作成し、看護の必要性が見えるように発表してもらいたい。必要に応じて、資料を作成したり、パワーポイントで補足できるように準備する。

生活の中の解剖生理学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	3学年	後期	1単位	30時間	必修	竹森公美（看護師）

8 授業概要

疾患をもつ患者は、その疾患と向き合いながら日常生活を送っている。その疾患がもたらす微細な症状と向き合いながら自己統制をし、自己管理をおこなっている。患者は、生活をする中では、様々な場面で感じる困難さがある。そのような生活のなかでの"生活のしづらさ"はどのようにしてもたらされるのであろうか。そのメカニズムを解明することによって、その困難さとの共生を目指す。生活する患者の体験を思考しナラティブに語ることで、生活の中の解剖生理の知識を深める。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、生活の中の解剖生理学について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：2.4.7）

1. PBL学習を基盤としてグループディスカッションができる。
2. 提示した事例に関する解剖生理学及び病態生理学の知識を用いて"生活のしづらさ"をアセスメントできる。
3. 人々の"生活のしづらさ"に対する日常生活への工夫を提案することができる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	学習方法のガイダンス	【グループワーク】 臨地実習で受け持った患者の事例選定
第2～3回	消化器系疾患の治療後に残る "生活のしづらさ"	【GW／シナリオ演習】 直腸がんによる人工肛門 治療後の身体の解剖生理 と看護ケアの根拠
第4～5回	脳神経系疾患の治療後に残る "生活のしづらさ"	【GW／シナリオ演習】 脳梗塞による治療 治療後の身体の解剖生理と看護ケアの根拠
第6～7回	呼吸器系疾患の治療後に残る "生活のしづらさ"	【GW／シナリオ演習】 肺がんによる肺切除術／抗がん剤投与 治療後の身体の解剖生理 と看護ケアの根拠
第8～9回	循環器系疾患の治療後に残る "生活のしづらさ"	【GW／シナリオ演習】 慢性心不全／ペースメーカー植え込み術 治療後の身体の解剖生理 と看護ケアの根拠
第10～11回	内分泌・腎泌尿器系疾患の治療後に残る "生活のしづらさ"	【GW／シナリオ演習】 糖尿病／慢性腎不全の血液透析 治療後の身体の解剖生理と看護ケアの根拠
第12～13回	血液造血器疾患の治療後に残る "生活のしづらさ"	【GW／シナリオ演習】 急性骨髄性白血病／化学療法 治療後の身体の解剖生理と看護ケアの根拠
第14～15回	女性生殖器系疾患の治療後に残る "生活のしづらさ"	【GW／シナリオ演習】 乳がんによる乳房温存術／放射線・化学療法 治療後の身体の解剖生理と看護ケアの根拠

11 学習方法

講義／PBL学習／GW

12 評価方法

筆記試験・小テスト／グループ評価

13 教科書

【電子版】専門基礎分野　解剖生理学　医学書院
【電子版】専門基礎分野　病態生理学　医学書院

参考書

14 学生への要望

病気が発症し入院しても在院日数は短いため退院後も、しばらく続く症状を持ちながらも生活することとなる。住み慣れた地域で生活する人々のもつ"生活のしづらさ"に、看護は向き合わねばならない。看護が"生活のしづらさ"に向き合うとは、人々の生活の中を知ることである。看護学生として、家族や地域の人々の体験をロールプレイを通して、"生活のしづらさ"を知ってもらいたい。
事前に事例を提示する。授業までに課題学習をおこなう。学習方法としてはアクティブラーニングを活用しているので、主体的に学習に取り組んでもらいたい。

生体防御と感染症

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位	15時間	必修	根ヶ山 清

8 授業概要

病原微生物の種類と特徴、感染経路、ヒトの生体防御機構について学ぶ。
看護職は感染対策において中心的な役割を担っており、自身の感染防止とともに感染予防の観点から正しい知識を身につけ、的確な対策を行えるように病原微生物の基礎知識習得を目指す。

9 到達目標 （関連するDP:2）

1. 重要な病原微生物の性質を述べることができる。
2. 感染症の検査と診断、治療法について理解できる。
3. 院内感染として問題となる病原微生物と院内感染対策について理解できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	微生物の特徴と構造機能	細菌、真菌、原虫、ウイルス
第2回	感染に対する生体防御機構、感染経路、消毒と滅菌	自然免疫、獲得免疫、粘膜免疫、感染経路等
第3回	病原微生物各論Ⅰ	主な病原微生物と感染症（細菌、真菌等）
第4回	病原微生物各論Ⅱ	新主な病原微生物と感染症（寄生虫、ウイルス等）
第5回	病原微生物感染症の検査と診断	検体の採取と保存法、病原体を検出する方法 （形態学的検査・分離培養・免疫学的検査法・遺伝子学的検査法）
第6回	感染症の治療と薬剤耐性	抗菌薬、薬剤耐性機構、薬剤感受性試験法について
第7回	院内感染対策	院内感染の現状とその対策
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義

12 評価方法

筆記試験

13 教科書

【電子版】専門基礎分野 微生物学 医学書院
配布資料

参考書

14 学生への要望

臨床での感染予防に役立てて欲しい。

疾病と治療Ⅰ（呼吸器・循環器）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	丸川將臣 吉川　圭

8 授業概要

健康な人体は、各器官が特徴ある構造を生かし機能的な働きをしている。健康時は生理学的な均衡状態を維持している。しかし、その部位にひとたび病変ができると、その機能は何らかの障害を受ける。その結果として特徴的な症状が出現し、総体的には疾病を形成する。その疾病を特定するためにおこなわれるのが検査であり、その検査の結果に応じて治療が選択的におこなわれる。呼吸器系、循環器系の疾病と治療及び検査について理解を深める。

9 到達目標　（関連するDP：2.4.7）

1. 呼吸器、循環器系の障害によっておこる疾患が理解でき、その症状と徴候が説明できる。
2. 呼吸器、循環器系の疾患に対して実施する検査・治療・処置の方法が説明できる。

10 授業計画		各時間で学ぶべきこと
第1回	呼吸器系疾患における病態生理	構造と機能、症状
第2回	呼吸器系疾患における検査	診察と診断の流れ 胸水検査、内視鏡検査、画像、生検、呼吸機能検査、 睡眠時呼吸モニタリング
第3回	呼吸器系疾患における治療・処置	吸入療法、酸素療法、人工呼吸療法、呼吸リハビリテーション、 気道確保、胸腔ドレナージ、外科手術
第4回	呼吸器系の疾患理解	感染症、間質性肺疾患、気道疾患
第5回	呼吸器系の疾患理解	肺血栓塞栓症、呼吸不全、呼吸調整に関する疾患
第6回	呼吸器系の疾患理解	肺腫瘍、肺・肺血管の形成異常
第7回	呼吸器系の疾患理解	胸膜・縦隔・横隔膜の疾患、肺移植、胸部外傷
第8回	循環器系疾患における病態生理	構造と機能、症状
第9回	循環器系の検査	診察と診断の流れ、心電図、胸部X線検査、心エコー法、 脈波検査、心臓カテーテル、血行動態モニタリング、 心臓核医学検査
第10回	循環器系の治療・処置	内科・外科治療、補助循環装置
第11回	循環器系の疾患理解	虚血性心疾患
第12回	循環器系の疾患理解	心不全、血圧異常
第13回	循環器系の疾患理解	不整脈、弁膜症
第14回	循環器系の疾患理解	心膜炎、心筋疾患、肺性心、先天性心疾患、 動脈系・静脈系・リンパ系疾患
第15回	試験	試験（呼吸器／循環器）

第１～７・１５回　丸川將臣（５０）、第８～１４・１５回　吉川　圭（５０）

11 学習方法

講義／VTR／模型／標本

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野　呼吸器　医学書院
【電子版】専門分野　循環器　医学書院

参考書

14 学生への要望

呼吸器、循環器系の障害によっておこる症状と疾患・治療について学ぶ。疾病により機能が障害されると、様々な症状を引きおこし生活に影響を及ぼす。各疾患の特徴や検査及び治療法について理解し、看護実践における観察や判断の根拠としてもらいたい。

疾病と治療Ⅱ（消化器・内分泌）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	岡田節雄 次田 誠

8 授業概要
健康な人体は、各器官が特徴ある構造を生かし機能的な働きをしている。健康時は生理学的な均衡状態を維持している。しかし、その部位にひとたび病変ができると、その機能は何らかの障害を受ける。その結果として特徴的な症状が出現し、総体的には疾病を形成する。その疾病を特定するためにおこなわれるのが検査であり、その検査の結果に応じて治療が選択的におこなわれる。消化器系、内分泌代謝系の疾病と治療及び検査について理解を深める。

9 到達目標 （関連するDP：2.4.7）
1. 消化器、内分泌系の障害によっておこる疾患が理解でき、その症状と徴候が説明できる。
2. 消化器、内分泌系の疾患に対して実施する検査・治療・処置の方法が説明できる。

10 授 業 計 画		各時間で学ぶべきこと
第1回	消化器系における病態生理	構造と機能、症状
第2回	消化器系疾患の検査	診察と治療の流れ 糞便検査、肝機能検査、膵外分泌機能検査、超音波、内視鏡検査、肝生検、放射線検査、X線CT、PET
第3回	消化器系疾患の治療・処置	薬物療法、栄養療法・食事療法、手術療法、放射線療法
第4回	消化器系の疾患理解	食道の疾患、胃・十二指腸疾患
第5回	消化器系の疾患理解	腸および腹膜疾患：過敏性腸症候群、腸炎、腹膜炎、虫垂炎、ヘルニア、腸閉塞、腸内寄生虫疾患、消化管憩室
第6回	消化器系の疾患理解	腸および腹膜疾患：腸管ポリープおよびポリポーシス、大腸がん、肛門疾患
第7～8回	消化器系の疾患理解	肝臓・胆嚢の疾患：肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、肝不全、肝がん
第9～10回	消化器系の疾患理解	肝臓・胆嚢の疾患：肝外傷、胆石症、急性胆嚢炎および胆管炎、胆管がん、胆嚢がん、胆嚢ポリープ、肝寄生虫疾患、膵臓の疾患、急性腹症、腹部外傷）
第11回	内分泌・代謝系における病態生理、検査	構造と機能、症状、内分泌器官とホルモンの機能、代謝の概要と機能 内分泌疾患の検査、代謝疾患の検査、脂質異常に関連した検査
第12回	内分泌・代謝系の疾患理解	内分泌疾患：視床下部の疾患、甲状腺疾患、副腎疾患、性腺疾患
第13回	内分泌・代謝系の疾患理解	膵・消化管神経内分泌腫瘍、多発性内分泌腫瘍症、内分泌の救急治療
第14回	内分泌・代謝系の疾患理解	代謝性疾患：糖尿病、脂質異常症、尿酸代謝異常
第15回	試験	試験（消化器／内分泌）

第１～１０・１５回　岡田節雄（６０）、第１１～１４・１５回　次田　誠（４０）

11 学習方法
講義／VTR／模型／標本

12 評価方法
レポート／筆記試験

13 教科書
【電子版】専門分野　消化器　医学書院
【電子版】専門分野　内分泌・代謝　医学書院

参考書

14 学生への要望
消化器系、内分泌代謝系系の障害によっておこる症状と疾患・治療について学ぶ。疾病により機能が障害されると、様々な症状を引きおこし生活に影響を及ぼす。各疾患の特徴や検査及び治療法について理解し、看護実践における観察や判断の根拠としてもらいたい。

疾病と治療Ⅲ（脳神経・運動器・眼・耳）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	横井広道・大垣修一・小槌聡子（看護師）

8 授業概要

健康な人体は、各器官が特徴ある構造を生かし機能的な働きをしている。健康時は生理学的な均衡状態を維持している。しかし、その部位にひとたび病変ができると、その機能は何らかの障害を受ける。その結果として特徴的な症状が出現し、総体的には疾病を形成する。その疾病を特定するためにおこなわれるのが検査であり、その検査の結果に応じて治療が選択的におこなわれる。脳神経、運動器系、眼、耳鼻咽喉の疾病と治療及び検査について理解を深める。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、耳鼻咽喉の疾患に対する病態・検査・治療について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：2.4.7）

1. 脳神経、運動器系、眼、耳鼻咽喉の障害によっておこる疾患が理解でき、その症状と徴候が説明できる。
2. 脳神経、運動器系、眼、耳鼻咽喉の疾患に対して実施する検査・治療・処置の方法が説明できる。

10 授　業　計　画

		各時間で学ぶべきこと
第1～2回	脳・神経系における病態生理、検査と治療	構造と機能、症状／神経学的診察、画像診断、電気生理学検査、外科・内科的治療法
第3～4回	脳・神経系における疾患理解	脳疾患、脊髄疾患、末梢神経障害、筋疾患・神経筋接合部疾患、脱髄・変性疾患
第5回	脳・神経系における疾患理解	脳・神経系の感染症、中毒、てんかん、認知症、内科疾患に伴う神経疾患
第6～7回	運動器系における病態生理、検査と治療	構造と機能、症状 診察・診断の流れ、検査、画像検査、電気生理学的検査、関節鏡検査、保存療法、手術療法、義肢と装具
第8～9回	運動器系の疾患理解	外傷性（外因性）の運動器疾患、骨折、脱臼、捻挫および打撲、神経内因性（非外傷性）の運動器疾患 先天性疾患、骨・関節の炎症性疾患、骨腫瘍および軟部腫瘍、代謝性骨疾患、腱の疾患
第10回	運動器系の疾患理解	内因性（非外傷性）の運動器疾患 神経・筋疾患、上肢および上肢帯の疾患、脊椎の疾患、下肢および下肢帯の疾患、ロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニア、廃用症候群
第11～12回	眼の疾患における病態生理、検査と治療、疾患の理解	構造と機能、症状／検査と治療・処置 機能の障害、部位別の疾患
第13～14回	耳鼻咽喉における病態生理、検査と治療、疾患の理解	構造と機能、症状、検査と治療・処置／耳の疾患、鼻の疾患、口腔・咽喉頭疾患、気道・食道・頸部疾患と音声・言語
第15回	試験	試験（脳神経・運動器／眼／耳）

第１～１０・１５回　横井広道（７０）、第１１～１２・１５回　大垣修一（１５）、
第１３～１４・１５回　小槌聡子（１５）

11 学習方法

講義／VTR／模型／標本

12 評価方法

筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野　脳・神経　医学書院
【電子版】専門分野　運動器　医学書院
【電子版】専門分野　眼　医学書院
【電子版】専門分野　耳鼻咽喉　医学書院

参考書

14 学生への要望

脳神経、運動器系、眼、耳鼻咽喉の障害によっておこる症状と疾患・治療について学ぶ。疾病により機能が障害されると、様々な症状を引きおこし生活に影響を及ぼす。各疾患の特徴や検査及び治療法について理解し、看護実践における観察や判断の根拠としてもらいたい。

疾病と治療Ⅳ（腎泌尿器・血液造血器・女性生殖器・歯）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	阿部真吾・丸川將臣 粟井京子・竹内幸恵・ 竹内一貴

8 授業概要

健康な人体は、各器官が特徴ある構造を生かし機能的な働きをしている。健康時は生理学的な均衡状態を維持している。しかし、その部位にひとたび病変ができると、その機能は何らかの障害を受ける。その結果として特徴的な症状が出現し、総体的には疾病を形成する。その疾病を特定するためにおこなわれるのが検査であり、その検査の結果に応じて治療が選択的におこなわれる。腎泌尿器、血液造血器、女性生殖器系、歯・口腔の疾病と治療及び検査について理解を深める。

9 到達目標 （関連するDP：2.4.7）

1. 腎泌尿器、血液造血器、女性生殖器、歯・口腔の障害によっておこる疾患が理解でき、その症状と徴候が説明できる。
2. 腎泌尿器、血液造血器、女性生殖器、歯・口腔の疾患に対して実施する検査・治療・処置の方法が説明できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1～2回	腎・泌尿器系における病態生理、検査と治療	腎臓、尿管、膀胱、尿道、男性生殖器の構造と機能／症状、検査と治療・処置
第3回	腎・泌尿器系の疾患理解	腎不全とAKI・CDK、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、全身性疾患による腎障害
第4回	腎・泌尿器系の疾患理解	尿細管間質性腎炎、腎血管性病変、尿細管機能異常、尿路・性器の感染症、尿路の通過障害と機能障害
第5回	腎・泌尿器系の疾患理解	尿路損傷および異物、尿路結石症、尿・性器の腫瘍、発生発育の異常、男性不妊症、男性機能障害
第6～7回	血液造血器における病態生理、検査と治療	血液の生理と造血のしくみ、検査・診断と症候 赤血球系の異常、白血球系の異常
第8回	血液造血器の疾患理解 造血器腫瘍	造血器腫瘍とは、分類、治療計画とIC、基本理念、支持療法、急性白血病、骨髄異形成症候群、慢性骨髄性白血病、骨髄増殖性腫瘍
第9回	血液造血器の疾患理解 造血器腫瘍	慢性リンパ性白血病、成人T細胞白血病リンパ腫、悪性リンパ腫、骨髄腫および類縁疾患、血球貧食症候群、出血性疾患
第10回	女性生殖器における病態生理、検査と治療	構造と機能、症状理解、診察・検査と治療・処置（診察・検査）
第11回	女性生殖器の疾患理解	性分化疾患、臓器別疾患：外陰の疾患、膣の疾患、子宮の疾患、卵管の疾患、卵巣の疾患
第12回	女性生殖器の疾患理解	臓器別疾患：骨盤内炎症性疾患、乳房の疾患、機能的疾患、感染症
第13～14回	歯・口腔の疾患における病態生理、検査と治療、疾患理解	構造と機能、症状、検査と治療・処置／歯の異常と疾患、口腔領域の炎症、口腔粘膜の疾患、口腔領域の嚢胞、口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患、歯と顎骨の外傷、顎関節・咀嚼筋の疾患、唾液腺の疾患、神経の疾患、歯科心身症
第15回	試験	試験（腎泌尿器／血液造血器／女性生殖器／歯）

第１～５・１５回　阿部真吾（４０）、第６～９・１５回　丸川將臣（３０）、
第１０～１２・１５回　粟井京子（２０）、第１３～１４・１５回　竹内幸恵・竹内一貴（１０）

11 学習方法

講義／VTR／模型／標本

12 評価方法

筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野　腎泌尿器　医学書院
【電子版】専門分野　血液・造血器　医学書院
【電子版】専門分野　女性生殖器　医学書院
【電子版】専門分野　歯・口腔　医学書院

参考書

14 学生への要望

腎泌尿器、血液造血器、女性生殖器、歯・口腔の障害によっておこる症状と疾患・治療について学ぶ。疾病により機能が障害されると、様々な症状を引きおこし生活に影響を及ぼす。各疾患の特徴や検査及び治療法について理解し、看護実践における観察や判断の根拠としてもらいたい。

疾病と治療Ⅴ（膠原病・感染症・皮膚）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	前期	1単位	15時間	必修	次田　誠・丸川將臣 須崎規之 高橋浩美（看護師）

8 授業概要

健康な人体は、各器官が特徴ある構造を生かし機能的な働きをしている。健康時は生理学的な均衡状態を維持している。しかし、その部位にひとたび病変ができると、その機能は何らかの障害を受ける。その結果として特徴的な症状が出現し、総体的には疾病を形成する。その疾病を特定するためにおこなわれるのが検査であり、その検査の結果に応じて治療が選択的におこなわれる。膠原病、感染症、アレルギー、皮膚等の疾病と治療及び検査について理解を深める。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、皮膚の疾患に対する病態・検査・治療について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：2.4.7）

1. 膠原病、感染症、アレルギー、皮膚の障害によっておこる疾患が理解でき、その症状と徴候が説明できる。
2. 膠原病、感染症、アレルギー、皮膚の疾患に対して実施する検査・治療・処置の方法が説明できる。

10 授　業　計　画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	膠原病における病態生理、 検査と治療	自己免疫疾患とその機序 症状とその病態生理、検査と治療
第2回	膠原病の疾患理解	関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、 抗リン脂質抗体症候群、シエーグレン症候群、全身性強皮症、 多発筋炎、皮膚筋炎、混合性結合組織病、ベーチェット病、 血管炎症候群、リウマチ性多発筋痛症、成人発症スティル病
第3回	感染症における病態生理、 検査と治療	感染症とは 検査、診断、治療
第4回	感染症の疾患理解	発熱・不明熱、上気道感染症、下気道感染、 心血管系感染症、消化管感染症、肝胆道系感染症、尿路感染症、 中枢神経感染症、悪性腫瘍、造血幹細胞移植、 固形臓器移植に伴う感染症、HIV感染症と日和見感染、 多剤耐性細菌感染症
第5回	アレルギーにおける病態生理、 検査と治療	免疫のしくみとアレルギー 診断・検査と治療
第6回	アレルギーの疾患理解	気管支喘息、アレルギー性鼻炎、結膜炎、食物アレルギー、 アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、 接触性皮膚炎、職業性アレルギー
第7回	皮膚における病態生理、 検査と治療、疾患理解	構造と機能、症状とその病態生理、検査と治療・処置、疾患の理解
第8回	試験	試験（膠原病／感染症／アレルギー／皮膚）

第１～２・８回　次田　誠（３０）、第３～４・８回　丸川將臣（３０）、
第５～６・８回　須崎規之（３０）、第７・８回　高橋浩美（１０）

11 学習方法

講義／VTR／模型／標本

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野　アレルギー　膠原病　感染症　医学書院
【電子版】専門分野　皮膚　医学書院

参考書

14 学生への要望

膠原病、感染症、アレルギー、皮膚等の障害によっておこる症状と疾患・治療について学ぶ。疾病により機能が障害されると、様々な症状を引きおこし生活に影響を及ぼす。各疾患の特徴や検査及び治療法について理解し、看護実践における観察や判断の根拠としてもらいたい。

疾病と治療Ⅵ（小児）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	前期	1単位	15時間	必修	岩井艶子

8 授業概要

健康な人体は、各器官が特徴ある構造を生かし機能的な働きをしている。健康時は生理学的な均衡状態を維持している。しかし、その部位にひとたび病変ができると、その機能は何らかの障害を受ける。その結果として特徴的な症状が出現し、総体的には疾病を形成する。その疾病を特定するためにおこなわれるのが検査であり、その検査の結果に応じて治療が選択的におこなわれる。小児が罹患した場合の特徴的な小児疾患について理解を深める。

9 到達目標　（関連するDP：2.4.7）

1. 小児疾患の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解し、説明できる。
2. 疾病の成り立ちと回復の促進について学び、疾患と病態生理を科学的に理解し、適切な看護と関連させ実践できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	染色体異常／新生児・未熟児の疾患	染色体異常、ダウン症／新生児の疾患（仮死、黄疸、感染症、メレナ）/低出生体重児の疾患
第2回	代謝性疾患／内分泌疾患／アレルギー性疾患／免疫疾患／リウマチ性疾患	糖尿病とその治療法／内分泌疾患総論／食物アレルギー、喘息／原発性免疫不全症／若年性特発性関節炎
第3回	感染症総論	感染経路と感染防止策、ウイスル感染症、細菌感染症
第4回	呼吸器疾患／循環器疾患	急性細気管支炎／先天性心疾患
第5回	消化器疾患	先天性横隔膜ヘルニア、先天性の消化器疾患各論、腸閉塞・イレウス、肝胆道系疾患
第6回	血液・造血器疾患/悪性新生物	貧血、出血性疾患、輸血／急性白血病、脳腫瘍、神経芽腫
第7回	腎疾患／神経疾患／不慮の事故	急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病／てんかん、言語発達遅滞、筋ジストロフィー症／不慮の事故総論、事故の防止と処置
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク／VTR／模型／標本

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野　小児臨床看護各論　医学書院

参考書

14 学生への要望

小児が罹患した場合の特徴的にみられる症状と疾患・治療について学ぶ。疾病により機能が障害されると、様々な症状を引きおこし生活に影響を及ぼす。各疾患の特徴や検査及び治療法について理解し、看護実践における観察や判断の根拠としてもらいたい。

疾病と治療Ⅶ（母性）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	3学年	後期	1単位	15時間	必修	澤田裕子 三谷順子 池下真央

8 授業概要

母性疾患に関する臓器の解剖・生理を理解した上で、それぞれの主要疾患を学ぶ。ここでの学びは母性の妊娠・分娩・産褥に関する患者の看護を学ぶ上での基礎的知識となる。そのため、症候から病態を把握し、診断、治療過程を学び、看護に繋げるよう理解する。

9 到達目標　（関連するDP：2.4.7）

1. 母性における疾病の成り立ちと回復の促進について理解し、説明ができる。
2. 妊娠・分娩・産褥・新生児の異常における診断・治療・検査が理解し、看護と関連させ実践できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	妊娠の異常	Aハイリスク妊娠
第2回	妊娠の異常	C妊娠疾患、D多胎妊娠、E妊娠持続期間の異常、F異所性妊娠
第3回	分娩の異常	A産道の異常、B娩出力の異常、C胎児の異常による分娩障害、D胎児の附属物の異常
第4回	分娩の異常	E胎児機能不全、F分娩時の損傷、G分娩第3期・直後の異常、H分娩時異常出血
第5回	分娩の異常	I産科処置と産科手術、J異常分娩時の産婦の看護
第6回	新生児の異常	A新生児仮死　B分娩外傷　C低出生体重児
第7回	産褥の異常	A子宮復古不全　B産褥期の発熱　C産褥血栓症　D精神障害
第8回	試験	試験

第１～８回　澤田裕子、三谷順子、池下真央（１００）

11 学習方法

講義／演習／グループワーク／VTR／模型／標本

※1：「合併する全身疾患」は疾病と治療で既習できていることを前提に妊娠による影響について講義する。

※2：「妊娠期の感染症」は微生物学で既習していることを前提に胎児への影響を主に講義する。

12 評価方法

筆記試験

13 教科書	参考書
【電子版】専門分野　母性看護学各論　医学書院	

14 学生への要望

※1※2については予習をして講義に臨むこと。

薬理学・薬物療法

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	立石謹也

8 授業概要

化学物質である薬物が生体に対してどのように作用するか、薬物と生体との相互作用について学ぶ。
薬物の生体への影響、作用部位、作用機序など、生体に投与された薬物が、どのように吸収、分布、代謝、排泄される知識について理解する。これらの基礎知識を基にして、疾患に対する治療法、薬物療法を理論的に習得すると共に、薬品の取り扱いや管理方法についても理解する。

9 到達目標 （関連するDP:2.7）

1. 薬効の発生機序、作用特性、有害作用などを理解し、説明できる。
2. 各疾患に対する薬物療法を科学的根拠に基づいて理解し、説明できる。
3. 薬物の取り扱いや管理方法について理解し、実施できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	薬理学の基礎知識①	薬物とは何か、使用目的、薬が作用するしくみ、薬の体内動態、「薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子、薬物使用の有益性と、危険性、薬と法律
第2回	抗感染症薬	感染症治療に関する基礎知識、抗菌薬、抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬、感染症の治療における問題点
第3回	抗がん薬	がん治療に関する基礎知識、抗がん薬各論、分子標的薬
第4回	免疫治療薬	免疫系の基礎知識、免疫抑制剤、免疫増殖薬・予防接種薬
第5回	抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風、高尿酸治療薬
第6回	末梢での神経活動に作用する薬物	神経系による情報伝達、自律神経系の作用薬、交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬
第7回	中枢神経に作用する薬物①	中枢神経系のはたらきと薬物、全身麻酔薬、催眠・抗不安薬、抗精神薬
第8回	中枢神経に作用する薬物②	抗うつ・気分安定薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬、片頭痛治療薬
第9回	循環器系に作用する薬物①	降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬
第10回	循環器系に作用する薬物②	利尿薬、脂質異常症治療薬、血液凝固・線溶系に作用する薬物、血液に作用する薬物
第11回	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物①	呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物
第12回	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物②	消化器系に作用する薬物、生殖器系・泌尿器系に作用する薬物
第13回	物質代謝に作用する薬物 皮膚科用薬・眼科用薬	ホルモンとホルモンの拮抗薬、治療薬としてのビタミン 皮膚に使用する薬物、眼科用薬
第14回	救急に際に使用される薬物 漢方薬、消毒薬	救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義

12 評価方法

レポート／筆記試験等

13 教科書

【電子版】専門基礎分野 薬理学 医学書院

参考書

14 学生への要望

薬理学とは、生理学、生化学、微生物学、物理および化学を基盤とする生命科学の一分野である。そのため、薬理学の基礎となるこれらの科目については、充分に知識を整理して臨んでもらいたい。看護師は臨床において、処方された薬物の直接的な投与者となる。そのため、薬物の作用・副作用の発現時間などを熟知し、投与後の観察にあたる。さらには、取り扱いや管理も十分に学んで欲しい。

栄養学・食事療法

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	村川みなみ

8 授業概要

栄養学の基礎として、栄養素を中心に学ぶ。エネルギー産生栄養素の代謝を知るために必要なキーワードを理解する。食品と栄養素の関係、栄養素の役割、特性などの身体と食事の関係を知るために必要な基本的な知識を理解する。食事療法では、治療食の献立・材料・調理法・味について調理実習を組み合わせて人の栄養状態を適正化する方法を総合的に習得する。

9 到達目標　（関連するDP：2.4.7）

1. 食物と栄養の関係、栄養素などの身体内での働きや代謝を理解し、ライフステージ毎の栄養特性について説明できる。
2. 栄養と疾病・障害の関係を知り食事療法について理解し、調理実習で実践できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	栄養学・食事療法の概要	栄養学・食事療法
第2回	栄養素の種類とはたらき①	炭水化物・脂質・たんぱく質の栄養
第3回	栄養素の種類とはたらき②	ビタミン・ミネラルの栄養、食品と食事
第4～5回	栄養素の消化・吸収・代謝①②	栄養素の消化・吸収・代謝(1)(2)
第6回	ライフステージと栄養①	母性栄養と小児栄養の特性とその特徴
第7回	ライフステージと栄養②	成人栄養と高齢期栄養の特性とその特徴
第8～9回	臨床栄養①②	栄養ケアの概要(1)(2)
第10回	臨床栄養③	治療食の基礎
第11～12回	治療食の実際	【調理実習】治療食の実際(ｸﾞﾙｰﾌﾟで実施)
第13～14回	臨床栄養④⑤	疾患別治療食の基本(1)(2)
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／調理実習

12 評価方法

提出物／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門基礎分野　栄養学　医学書院
【電子版】別巻　栄養食事療法　医学書院

参考書

参考図書等については、授業でその都度紹介

14 学生への要望

①生理学等で学ぶことと関連付けながら授業に臨んでもらいたい。
②学ぶことは、自身の生活に直結していますので、知識を生活に取り入れてもらいたい。
③復習をしっかりする。テキストや参考書をよく読んで理解の助けにし、質問があれば積極的に言ってほしい。
④調理実習では、体調管理、衛生管理に気をつけること。事前に配布される資料をよく読んで臨んでもらいたい。

臨 床 検 査 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	平川 栄一郎 立石謹也 森西起也

8 授業概要

臨床検査が現代医療の中で果たす役割を理解すると共に、検査は何のためにおこなわれ、またどのような方法で実施されているかを学ぶ。検査内容と疾患のつながりを臓器別に理解すること、臨床検査の基礎知識を習得する。また放射線医学の役割、画像診断の種類や方法など学習する。検査値や画像を正しく読み取り、患者の状態をアセスメントする基盤とするために学びを深めることを目的とする。

9 到達目標 （関連するDP:2.4.7）

1. 病態把握に必要な検査の目的や方法を知り、検査データの査定を説明できる。
2. 臨床検査が医療の中で果たす役割を理解すると共に、患者への説明責任、業務上の注意点が説明できる。
3. 病態把握に必要な検査の目的やデータの基準範囲を列挙できる。
4. 単純X線写真、CT、MRI、超音波検査の目的と診断のあり方について説明できる。
5. 核医学、IVRの目的と診断のあり方について説明ができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	臨床検査とその役割	診察における臨床検査の役割、臨床検査の種類、臨床検査の場面と目的、臨床検査結果の評価
第2回	一般検査・血液検査	尿検査、便検査、体腔内貯留液検査、脳脊髄液（髄液）検査、関節液検査、消化液検査、血液検査、出血・凝固検査
第3回	化学検査①	血清タンパク質、血清酵素、糖代謝、脂質代謝、胆汁排泄関連物質、窒素化合物、骨代謝関連検査
第4回	化学検査②	腎機能検査、水・電解質検査、血液ガス分析、鉄代謝関連検査、銅代謝関連検査、ビタミン検査、血中濃度検査
第5回	免疫・血清検査	炎症マーカーの検査、液性免疫検査、細胞性免疫検査、自己抗体検査、アレルギー検査、免疫学的妊娠反応、腫瘍マーカー検査、輸血に関する検査
第6回	内分泌的検査 微生物検査	各ホルモン検査について 感染症の診断と検査、各種感染症と検査、各種病原体と検査
第7回	臨床検査値の読み方	第1～6回で学んだ学習内容を実際に読み解く
第8回	病理検査	細胞診、病理組織検査、剖検診断
第9回	生理機能検査	循環機能検査、呼吸機能検査、神経機能検査
第10回	放射線医学の成り立ちと意義 X線診断	医療における放射線医学の役割、X線診断の特徴、成り立ち、検査の実際、X線診断
第11回	CT検査	CTの特徴、CT装置と画像のなりたち、CT診断（頭部、胸部、腹部）
第12回	MRI検査	MRIの特徴、成り立ち、検査の実際、MRI診断（頭部、脊椎・脊髄、膝関節、乳腺、骨盤、血管）
第13回	超音波検査	超音波検査の特徴、成り立ち、実際、超音波画像診断（甲状腺、乳腺、肝臓、胆嚢・胆道、泌尿器）
第14回	核医学検査 IVR・血管造影	核医学検査の特徴、成り立ち、実際、実際と診断（シンチグラフィ・SPECT、PET）、IVR・血管造影の特徴、成り立ち、実際と主な副作用
第15回	試験／まとめ	試験

第１～７・１５回　立石謹也、第８・９回　森西起也（７０）
第１０～１４・１５回　平川 栄一郎（３０）

11 学習方法

講義／グループワーク

12 評価方法

筆記試験

13 教科書

【電子版】別巻　臨床検査　医学書院
【電子版】別巻　臨床放射線医学　医学書院

参考書

14 学生への要望

患者の状態を把握したり、治療をおこなう上で検査データの査定、画像診断は重要である。臨床で検査データや画像の判断ができるようになって欲しい。

医 療 行 政 論(関係法規)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	後期	1単位	15時間	必修	神田かなえ

8 授業概要

わが国の保健医療に関する諸制度の概要を理解し、社会保障の理念と基本的な制度の考え方を理解する。
また、生活者の生活に対する法律と人々の健康を守るためのサービス提供に関する基本的な法律について学ぶ。

9 到達目標 (関連するDP:4.5.6.7)

1. 社会保障の理念と基本的な制度、医療に関する関係法規の種類を列挙できる。
2. 生活に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について考え、解決方法を述べることができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	法の概念 衛生法の概念	法の概念、衛生法、厚生行政のしくみ
第2回	看護法	保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保の促進に関する法律
第3回	医事法	医療法、医療関係資格法、医療支える法
第4回	保健衛生法	共通保健法、分野別保健法、感染に関する法、食品に関する法、環境衛生法
第5回	薬務法 社会保険法	薬事一般に関する法律、麻薬・毒物などの法 医療・介護の費用保障、年金
第6回	福祉法	福祉の基盤、児童分野、高齢分野、障害分野、手当
第7回	労働法と社会基盤整備 環境法	労働法、社会基盤整備 環境保全の基本法、公害防止の法、自然保護法
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク／VTR

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門基礎分野 看護関係法令 医学書院

参考書

14 学生への要望

医療、看護に携わる人の身分や業務が法令で規制されていることを理解し、より良い安全な看護をおこなってもらいたい。

くらしを支える手続き

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	4学年	後期	1単位	30時間	必修	六車輝美(看護師)

8 授業概要

本講義では、一人の人物のライフステージごとのエピソードを題材にし、各段階で求められる手続きを学ぶ。ライフステージに応じて暮らしに必要な手続きがある。地域で生活する人々は、様々な手続きのもとに暮らしている。私たちはその状況になってはじめて、当事者としてまた家族として、手続きをおこなうこととなる。医療従事者である私たちは、これらの手続きに関わる機会が少なからずある。そのため、地域の人々の暮らしを理解し、暮らしを支えるために必要な手続きを知っておくことが大切である。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、くらしを支える手続きについて講義する。)

9 到達目標　(関連するDP:4.5.6.7)

1.各ライフステージで必要となる手続きに関する知識を習得できる。
2.手続きに関する法的根拠や制度について理解を深めることができる。
3.手続きに関する相談窓口や支援制度について知ることができる。
4.将来、医療従事者として患者さんの生活を支援する上で、本講義で得た知識を役立てることができる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	結婚をめぐる手続き	【シナリオにそった事例演習】 婚姻届／戸籍謄本／転入届／住民票の移動の手続き／名義変更手続き(運転免許証・銀行口座・生命保険・パスポート)
第2回	働く女性の妊娠を巡る手続き	【シナリオにそった事例演習】 妊娠届／母子健康手帳交付／健康診査を受けるための時間の申請／保健指導申請書／母性健康管理指導事項連絡カード
第3回	働く女性の出産をめぐる手続き	【シナリオにそった事例演習】 出生届／出産手当金／出産育児一時金申請／育児休業給付金／他申請(育児時間・勤務時間短縮等の措置・看護休暇申請)
第4回	出産後におこなう児の手続き	【シナリオにそった事例演習】 乳幼児医療費助成申請／児童手当申請／未熟児養育医療給付金申請／健康保険証作成手続き／医療費控除申請／高額療養費の助成
第5回	子育てをめぐる手続き	【シナリオにそった事例演習】 乳児一般健康診査／保育施設等の利用申込み／病児保育利用／入学前支給申請
第6回	障がいをめぐる手続き	【シナリオにそった事例演習】特別児童扶養手当／障害児福祉手当／受給者証／身体障害者手帳／療育手帳／精神障害者保健福祉手帳／障害者手帳の等級に該当する手当
第7回	介護をめぐる手続き	【シナリオにそった事例演習】要介護認定の申請／訪問調査／介護予防サービス(予防給付)申請／介護サービス(介護給付)申請
第8～9回	死亡をめぐる手続き	【シナリオにそった事例演習】 死亡届／火葬許可申請書／世帯主の変更／資格喪失届出(健康保険・年金)／住民票の除票／相続
第10回	暮らしを維持しつづける手続き	【シナリオにそった事例演習】飼い犬登録・狂犬病予防注射・死亡届／ライフライン(電気・ガス・水道)の手続き
第11～14回	手続きを受理する役所の実際	【講義】ライフステージにおけるくらしの中の諸手続きの実際
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／グループワーク／演習／体験学習

12 評価方法

レポート／グループワークの成果物と発表／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野　母性・小児・成人・老年・精神看護学　医学書院
【電子版】専門基礎分野　看護関係法令　医学書院
【電子版】専門基礎分野　公衆衛生　医学書院
公衆衛生がみえる　メディックメディア

参考書

14 学生への要望

人生の中で、ライフステージに応じた手続きが必要になることを理解し、地域の人々がどのような手続きを行っているのかを知ることが大切です。医療従事者として、私たちもこれらの手続きに関わる場面があるかもしれません。ですので、地域の暮らしを支えるために、必要な手続きをしっかり学んでいきましょう。

くらしの中の医療

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	4学年	後期	1単位	30時間	必修	小林佐也加、消防士、栗原直和、木村奈美、山下久美子（看護師）、百合葵（看護師）

8 授業概要

健康な暮らしを送るなかでは、家族が急な異変を呈することに少なからず遭遇する。このように家族が急変した場合、どのように対処すればよいのか家族は戸惑う。健康を害したときのために、医療のしくみや医療保険などは地域の人々が活用できなければならない。地域で開催されているマラソン大会では、AED隊として参加し、身近に起こる危険への対応の実際を学ぶ。受診や入院の際には、調剤費を窓口に支払う仕組みがある。これらのことは暮らしの中の日常として存在する。身近で起こり得る事例を基に、その初期対応やその後に展開される医療に関する知識を学ぶ。また、予測されない死に直面することもある。日々の生活の中で身近な人と死について話すことや、ライフプランを考える必要性を学ぶ機会とする。

（病院の看護業務に携わった経験をもつ教員が、くらしの中の医療について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：4.5.6.7）

1. 地域の人々はどのような日常を送っているのか。その日常に潜む危険な場面を考えることができる。
2. 家庭の日常に潜む生命をおびやかす場面に対する初期対応ができる。
3. 日常の中で医療を受けた際の報酬として、支払う医療費に関する請求方法の実際について説明できる。
4. 健康であり続けるための薬とのつきあい方が理解でき、実践できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1～2回	身近に起こる危険と初期対応：マラソン時の対応	【体験学習】 かがわマラソンのAED隊として参加する
第3～4回	授業のガイダンス 夜間の急変	【シナリオにそった事例演習】「子どもの発熱」 救急相談／夜間の受診方法／小さな子どもが2人以上の場合／
第5回	家庭の日常に潜む危険と初期対応：小児	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸによる事例演習】 抽出した日常における危険な場面とその初期対応
第6回	地域の人々の日常 家庭の日常に潜む危険	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸと演習・発表】地域の人々はどのような日常を送っているのか／病気と共に地域で生活を送ること
第7～8回	在宅における意思決定支援	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸによる事例演習】 在宅におけるACP/在宅看取り
第9回	家庭の日常に潜む危険と初期対応：高齢者	【シナリオにそった事例演習】「高齢者の骨折」 初期対応／急性期から回復期の治療／転院／退院後の生活／医療費
第10回	くらしの中で考える死	終活とは／地域での取り組み／もしバナゲームで意思決定を考える
第11～12回	健康であり続けるための薬とのつきあい方	地域における薬剤師、調剤薬局の役割／特定の機能を持つ薬局の認定制度／地域連携薬局の在り方
第13回	【体験実習】地域にある保険調剤薬局	医薬分業（調剤業務）／調剤報酬のしくみ／処方箋にもとづく薬の調剤
第14～15回	まとめ／発表	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ・発表】健康な暮らしを続けるための医療の役割

第１～２回　山下久美子（１０）、第３～５回、１４～１５回　百合葵（３０）、第６～８回　小林佐也加（２０）、第９回　消防士（１０）、第１０回　木村奈美（１０）、第１１～１３回　栗原直和（２０）

11 学習方法

講義／グループワーク／演習／体験学習

12 評価方法

レポート／グループワークの成果物と発表

13 教科書

【電子版】専門分野　地域・在宅看護論の基盤　医学書院
【電子版】専門分野　地域・在宅看護論の実践　医学書院
【電子版】専門基礎分野　看護関係法令　医学書院
【電子版】専門基礎分野　公衆衛生　医学書院
公衆衛生がみえる　メディックメディア

参考書

14 学生への要望

地域で生活する人々には暮らしがあり、生活の場である家庭では健康な日常が展開されている。ひとたび病気になると、受診し入院するという非日常となる。しかし、医療を受け回復することによって、再び地域に帰り健康を維持する日常の生活をとり戻すこととなる。従って、人々にとっての暮らしを維持するために医療はあるといえるが、その日常の中にある医療を理解してもらいたい。

公 衆 衛 生 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	後期	1単位	30時間	必修	須那 滋

8 授業概要

公衆衛生の目的は、組織的な社会の活動と努力を通じて、地域に暮らす全ての人々の健康を保持増進することである。公衆衛生学ではそのための理論と方法について学ぶが、講義では、まず公衆衛生学の成り立ちと発展、保健・医療における疾病予防の概念、わが国の健康水準、疫学的方法論等について学習し、さらに、地域、学校、産業の場における公衆衛生の制度と保健衛生活動の実際について学習していく。

9 到達目標 （関連するDP：4.5.6.7）

1. 公衆衛生看護の活動領域と対象の特徴について説明できる。
2. 保健活動における法律や施策の重要性について説明できる。
3. 健康の保持増進に向けた公衆衛生看護の役割について説明できる。
4. 保健活動に必要な最新の情報を調べることができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	健康と公衆衛生	公衆衛生の定義、健康の概念、公衆衛生の歴史、憲法・法・制度
第2回	健康と公衆衛生	包括的保健医療、プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション
第3回	人口と公衆衛生	出生、人口の年齢構造、死亡
第4回	人口と公衆衛生	平均寿命、国民の傷病と健康
第5回	疫学と公衆衛生	記述疫学と分析疫学
第6回	疫学と公衆衛生	演習
第7回	感染症対策	感染症の歴史と感染症対策
第8回	環境と健康	公害、大気汚染、水質汚濁
第9回	環境と健康	廃棄物問題、地球環境
第10回	地域保健	栄養改善、国民栄養、食品保健対策
第11回	地域保健	母子保健、成人・老人保健、老人福祉、精神保健福祉
第12回	学校保健	学齢期の健康、保健管理と保健教育、学校環境衛生、学校給食
第13回	産業保健	労働衛生行政、労働衛生管理体制、健康保持増進対策、労災補償
第14回	産業保健	作業環境管理、作業管理、生物学的モニタリング、健康管理、産業中毒、職業病、作業関連疾患ほか
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／演習

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門基礎分野 公衆衛生 医学書院
公衆衛生がみえる メディックメディア
配布資料

参考書

厚生統計協会編集『国民衛生の動向』

14 学生への要望

公衆衛生学は自然科学から社会科学まで、きわめて広範囲の応用科学により成り立つ実践的な学問であり、このため総合的な理解力が要求されることを念頭に置き、学習してほしい。

社 会 保 障 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	山下妙子(看護師)

8 授業概要

人は、老齢や、思いがけない事故・病気、失業などによって、いつでも労働生活が不可能になるリスクに囲まれている。そのような時に、安定した生活を保障するための制度が社会保障である。さらに、少子高齢化を迎えるなか、社会的な再分配機能としての社会保障の諸制度はどのようになっているのか。社会保障の歴史から現状をもとに諸制度を概観する。
制度・政策、援助の背景となる基本思想・理念、社会福祉実践の専門性について理解する。

（病院の看護業務に携わった経験を持ち、社会福祉分野の資格を有する教員が社会福祉について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：4.5.6.7）

1. 社会福祉の基本理念、人間に対する視座について説明できる。
2. 社会福祉の歴史を通して、人間が社会的問題にどう関わってきたか理解しその問題の解決方法を述べることができる。
3. 社会保障の制度全体を把握しつつ、医療・看護との関連分野との連携について具体的に説明できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	社会保障と社会福祉	社会保障と社会福祉の概要、社会保障の種類
第2回	現代社会の変化と社会保障／社会福祉の動向	近年の我が国における社会や経済の変化 今後の社会保障 社会福祉の方向性
第3回	医療保障、介護保障	医療保障制度 介護保障制度の特徴
第4回	所得保障、公的扶助	所得補償制度 生活保護制度の概観 生活者の生活背景
第5回	社会福祉の分野サービス	各分野の社会サービスの実態と課題
第6回	社会福祉実践と医療看護	医療現場の地域社会への支援方法
第7回	社会福祉の歴史	社会福祉の歴史 今後の社会福祉の展開
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／グループ討議

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院

参考書

14 学生への要望

限られた回数で全体像を把握しなければならないので、予習を必ずすること。
講義は学生の発表・討論を主体とするので、積極的に発言すること。

地 域 福 祉 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門基礎分野	3学年	前期	1単位	15時間	必修	山下妙子(看護師)

8 授業概要

地域福祉は、地域住民が抱える具体的な生活問題を予防・解決することを通して地域社会を変えていくためのものである。誰もが自分らしく、住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくことができるような地域社会を、地域の力を結集してつくり出していくものである。地域住民が抱える生活問題の現状を踏まえ、新たな質の地域社会を形成していく可能性を考える必要性がある。現代の社会福祉における重要な意義と役割を持つ地域福祉についての知識を理論と実践の両側にわたって理解する。

(病院の看護業務に携わった経験を持ち、社会福祉分野の資格を有する教員が社会福祉について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:4.5.6.7)

1. 地域福祉の理念と内容が理解し、説明できる。
2. 地域福祉の推進方法を理解し、事例を通して具体的に説明ができる。
3. 事例を活用し、実際の場面を想定しながら、医療機関や地域との連携について考え、述べることができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	新しい社会福祉システム 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方	諸外国における地域福祉の実践 我が国の新しい福祉サービスシステム
第2回	地域福祉の考え方	地域福祉の基本的な考え方
第3～4回	行政組織と民間組織の役割と実際／コミュニティソーシャルワーカーと専門職の役割	【グループワーク】地域福祉における機関 コミュニティソーシャルワークの考え方
第5回	ソーシャルサポートネットワークの考え方／地域における社会資源の活用	事例を通してソーシャルサポートを考える
第6回	地域のおける福祉ニーズの把握方法および福祉サービスの評価方法	アウトリーチの必要性 地域における質的な福祉ニーズの方法 量的な福祉ニーズの方法
第7回	災害支援と地域福祉	災害における法的制度や災害後の生活課題
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院
社会福祉士養成講座 精神保健福祉養成講座6
地域福祉と包括支援体制 中央法規出版

参考書

14 学生への要望

地域福祉に関しては多くの出版物があるので図書館などで目を通しておくこと。

看 護 学 概 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	前期	1単位	30時間	必修	六車輝美(看護師)

8 授業概要

団塊の世代が75歳に達し、後期高齢者が急増する2025年が到来する。我が国は高齢多死社会をすでに迎えている。看護の場は医療施設から生活の場にシフトしつつある。看護活動の場はますます拡大し変化していく。この現状に看護師に求められているものは何かを学ぶ。

（病院の看護業務・管理に携わった経験を持つ教員が、看護の概念について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：1.2.4.7）

1. 看護の定義と概念を理解し、説明できる。
2. 健康・人間・環境の概念を理解し、その関係性を看護中心に説明できる。
3. 保健・医療・福祉における看護の現状と看護の役割を理解し、具体的に述べられる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	看護とは何か	看護の定義：2大業務／業務・名称独占／絶対的・相対的医療行為/保助看法
第2回	歴史の中の看護	看護の歴史／ナイチンゲールの功績
第3回	歴史の中の看護	看護覚書
第4回	歴史の中の看護	看護覚書
第5回	健康のとらえ方	健康の定義／環境の影響を受ける健康／障害とは何か
第6回	看護の対象の理解	人間とは／体と心の恒常性／病気による反応
第7回	看護の対象の理解	ニード論：ヘンダーソン／マズロー
第8回	国民の健康の全体像	国民生活基礎調査／患者調査／生活のしづらさなどに関する調査
第9回	生活者としての人間の暮らしと環境	生活者としての人間／生活習慣／健康日本21／1次-3次予防
第10回	看護の提供の仕組み	看護サービス提供の場／医療費と国民皆保険制度、診療報酬、医療法
第11回	多職種の理解と連携	資格を持つ保健・医療・福祉職
第12回	医療安全と医療の質保障	ヒューマンエラー／事故レベル分類/インシデントレポート
第13回	災害時における看護	災害の定義・種類／災害発生時におけるトリアージ／被災者とコミュニティの回復過程
第14回	看護の国際化	健康と保健医療の世界的課題／格差と差異／多文化理解／外国人が利用できる医療サービス
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

グループワークの成果物／レポート 課題の提出／ 筆記試験

13 教科書および参考書

【電子版】専門分野 看護学概論 医学書院
『看護覚え書』フローレンス・ナイチンゲール著 小玉香津子・尾田葉子訳 日本看護協会出版社

参考書

看護職の基本的責務 日本看護協会出版

14 学生への要望

自己の看護観につながるなりたい看護師像を描きつつ授業に参加してもらいたい。
今後の学年次で学ぶ科目の理解につながる基本となる内容であるため、十分に学習してもらいたい。

看 護 理 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	30時間	必修	山下久美子(看護師)

8 授業概要

1. 看護実践をよりよいものに導き、人々により良いケアを提供するために看護学の知識体系が発展した。この知識体系は実践を記述し、説明し、より良い結果を予測する看護理論が大きな役割を果たしている。主要な看護理論を理解し、実践への応用ができるよう学ぶ。
2. 看護実践の現象は複雑であることから、一つの看護理論です全ての現象を説明することは難しい。そのため様々な看護理論が活用できるよう学ぶ。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護の理論について講義する)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.4.7)

1. 各理論の概念枠組みが理解でき、現象を理論枠組みに沿って分析することができる。
2. 看護の対象である人間を理解するための看護理論から実践への示唆を得ることができる。

10 授 業 計 画		各時間で学ぶべきこと
第1回	看護理論への招待	看護理論とは何か／理論の構成要素／メタパラダイム／看護理論の分類／看護理論の開発の歴史
第2回	看護理論概観	テーマによる理論の概要、各理論の主要概念の特徴 ナイチンゲール:環境の要素／病気の捉え方／看護の視点
第3～4回	看護理論探求(1)	理論家の背景／理論の源泉／理論の概要／活用方法 【グループワーク】
第5～6回	看護理論探求(2)	理論家の背景／理論の源泉／理論の概要／活用方法 【プレゼンテーション】
第7～8回	ニード理論	ヘンダーソン:基本的欲求／基本的看護の構成要素／看護の独自の機能 オレム:セルフケア／セルフケア不足／看護システム【事例演習】
第9～10回	相互作用理論	オーランド:ダイナミックな人間関係／看護過程の3要素 ウィーデンバック:援助へのニード／熟慮した行為／再構成 ペプロウ:治療的人間関係／精神力学的看護 トラベルビー:対人関係過程／人間対人間の関係の確立に至るプロセス
第11～12回	システム理論	ロイ:適応看護モデル／3つの刺激／対処機制／適応様式／【事例演習】
第13回	ケアリング理論	レイニンガー:文化ケア／民間的ケアと専門的ケア／サンライズモデル ワトソン:ヒューマンケアリング／トランスパーソナルケア／カリタスプロセス ベナー:技術習得モデル／卓越性／理論的知識と実践的知識
第14回	機能的健康パターンと中範囲理論	看護過程と看護診断／ゴードン11の機能的健康パターンにおけるアセスメント視点／看護診断上の構成要素(PES方式)／中範囲理論の活用方法
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／事例演習／グループワーク　※各回で次回までの課題を提示する

12 評価方法

筆記試験/グループワークの成果と課題提出(グループワークにおいては出席状況も評価対象とする)

13 教科書

実践に生かす看護理論19 サイオ出版
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断
第5版 ヌーヴェルヒロカワ

参考書

・NANDA-Ⅰ看護診断 定義と分類
監訳 日本看護診断学会 医学書院
・関連図でよくわかる病態・看護診断・看護記録
かみくだき診断過程 日総研出版

14 学生への要望

看護理論を学ぶことで、看護の対象をどう捉えるか、看護の本質をどう考えるかについて重要な示唆が得られる。また、看護理論は実践で活用することが重要であるため、どのような時にどのように理論を活かしていくのか、事例でしっかりと考えるようにして欲しい。臨地実習で受け持ち患者への看護を行う上で迷った時に、学んだ看護理論が活用できるように主体的に学び、さらに、ケーススタディの発表及び論文をまとめる際には、是非、看護理論を用いた分析考察を期待する。

医療と看護倫理

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	松田美穂(看護師)

8 授業概要

「どのような医療やケアが患者にとって最善か」を常に考えながら日々のケアにあたる看護師にとって、倫理は礎ともなるものである。看護倫理学分野では、看護師が日々直面する倫理の課題について論点を整理し、議論の枠組みに基づき検討を重ねることから、よりよい看護とは何か、よりよい患者-医療従事者関係における看護師の役割とは何かを学ぶ。一人でも多くの看護師に倫理に興味を持ってもらい、すべての人々のWell-beingの向上に寄与する看護実践に貢献できることを目指す。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護倫理について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.4.7)

1. 人間の生命に対する基本的理念について説明ができる。
2. 専門職業人としての職業倫理が理解でき、具体的に説明ができる。
3. 医療現場で起こりうる倫理的諸問題について理解し、倫理的配慮の考え方を事例と照らし合わせて考え、述べることができる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	倫理とは何か	倫理の定義、倫理原則、倫理理論
第2回	看護倫理とは	看護職の倫理綱領、看護の倫理原則
第3回	看護実践上の倫理的概念	アドボカシー、ケアリング、インフォームドコンセント他
第4～5回	性・生殖と生命倫理	リプロダクティブヘルツ、リプロダクティブライツ、女性の権利 不妊治療、優性思想
第6～8回	先端医療と生命と倫理	移植医療、脳死、臓器移植、再生医療
第9～10回	死の生命倫理	死生観、死を前にした人の心理、告知についての問題、終末期の治療方針
第11回	医療事故、身体拘束と倫理	医療事故・身体拘束と倫理的問題 倫理カンファレンス
第12回	看護研究の倫理	研究倫理の歴史・背景、倫理的配慮の要点
第13～14回	倫理的ジレンマへの対処	事例を用いた演習(臨床倫理4分割法の活用)
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

筆記試験／レポート／グループワーク成果物

13 教科書

【電子版】専門分野 看護学概論 医学書院
【電子版】別巻 看護倫理 医学書院

参考書

・看護職の基本的責務 日本看護協会出版
・医療倫理学の方法原則・手順・ナラティブ 著:宮坂 道夫 医学書院
・身近な事例で学ぶ看護倫理 著:宮脇美保子 医学書院
・具体的なジレンマからみた看護倫理の基本 坪倉繁美 医学芸術社

14 学生への要望

命の深さと尊さを学び、よりよい看護につなげてください。
看護倫理の大切さを学び、看護師としての資質を養ってください。
高い倫理性と責任感を持って判断し、行動できる能力の育成に努めること。

基礎看護技術論Ⅰ（環境調整と活動・休息）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	前期	1単位	30時間	必修	藤井園美子（看護師）

8 授業概要

人と環境は密接な関係にあり、生活に大きく関与している。人は環境に適応しながら生活しているため、療養者が適切な療養環境となるよう整える必要がある。そこで疾病の回復や健康の保持・増進のための環境調整の技術を学ぶ。
活動と休息のバランスは人間が生きていく中でとても重要である。患者・看護師ともに負担の少ない効果的な姿勢や動作を行うためのボディメカニクスを学び、患者の安楽に配慮した活動と休息の援助を学ぶ。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活の自立支援技術および基礎看護技術について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.7）

1. 対象者を取り巻く環境は、法律に基づき環境基準が定められていることが理解できる。
2. 快適な療養生活を送るための環境調整が実施できる。
3. ボディメカニクスの定義を理解し、実際の援助時に活用できる。
4. 車いす、ストレッチャー移乗・移送の目的を知り、安全に配慮した援助を実践することができる。
5. 罨法の基礎的知識が理解できる。
6. 休息・睡眠の援助が必要な対象を知りどのような援助が有効か理解できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	看護技術の根底をなすもの、 看護技術とは何か 環境とは	看護技術の基盤、看護技術の特徴、技能と技術 療養生活の環境 病室の環境のアセスメントと調整
第2～3回	環境調整の技術① ・ベッドメーキング	【講義】ベッドメーキングの準備と方法 【演習】2人1組でベッドメーキング実施
第4回	活動・休息の技術① ・基本的活動の援助（基礎知識、体位） 苦痛の緩和・安楽確保の技術①	【講義】よい姿勢、ボディメカニクス、体位の種類 体位保持（ポジショニング） 【演習】重心と支持基底面、体位の種類を体験、体位保持の実際
第5～6回	活動・休息の技術②③ ・基本的活動の援助（体位、体位変換、歩行、移乗・移送）	【講義】体位変換 【演習】ベッド上左右への移動、スライディングシートの移動、仰臥位から側臥位への移動、仰臥位から長座位、端座位、立位への移動、自動運動の実際
第7～8回	環境調整の技術② ・リネン交換 ・環境調整	【講義】対象者に応じた安楽なリネン交換、病室の環境調整 【演習】2人1組で臥床患者のリネン交換実施、環境調整（照度・騒音計・室温・湿度測定）
第9～10回	活動・休息の技術④⑤ ・基本的活動の援助（体位、体位変換、歩行、移乗・移送）	【講義】歩行の援助、車いす移乗・移送 【演習】杖歩行、車いす移乗、移送（段差、エレベーターの乗降）、立位保持困難な患者への車いす移乗
第11回	活動・休息の技術⑥ ・基本的活動の援助（体位、体位変換、歩行、移乗・移送）	【講義】ストレッチャーへの移動、移送 【演習】ストレッチャーへの移動、移送（進行方向、エレベーターの乗降）、歩行の援助
第12～13回	活動・休息の技術⑦⑧ ・基本的活動の援助（体位、体位変換、歩行、移乗・移送）	【実技試験】車いす移乗：立位保持困難な患者の車いす移乗
第14回	活動・休息の技術⑨ 睡眠・休息の援助 苦痛の緩和・安楽確保の技術②	【講義】睡眠の種類、メカニズム、睡眠障害のアセスメント、 【講義】罨法の基礎知識、身体ケアを通じてもたらされる安楽 睡眠・休息の援助
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／視聴覚教材／演習／グループワーク

12 評価方法

筆記試験75点／実技試験15点／演習への取り組み・提出物10点

13 教科書

【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
【電子版】eナーストレーナー　医学書院

参考書

14 学生への要望

安全・安楽に配慮した看護の基本的知識や援助技術が身につくよう予習・復習に取り組んでほしい。演習は積極的に取り組んでほしい。

基礎看護技術論Ⅱ（清潔）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	前期	1単位	30時間	必修	木戸みどり 荻田育代（看護師）

8 授業概要

生理学的観点からも、身体を清潔に保つことは日常生活において欠かすことのできない基本的な行為である。しかし、患者は疾患や障害の影響により、自ら清潔を保持することが困難となる場合がある。清潔を維持するためには、皮膚や粘膜の生理学的特徴を理解し、科学的根拠に基づいた援助技術を身につける必要がある。また、清潔援助は患者の全身状態を観察するとともに、より良いコミュニケーションを図るための重要な機会でもある。本授業では、患者を全人的に捉え、清潔援助を通し皮膚や粘膜の状態を的確に観察し、健康上の問題を早期に発見するための基礎的知識および技術を学ぶ。（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活援助技術について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.7）

1. 対象者を取り巻く環境すべてが環境基準に基づいていることを理解できる。
2. 対象者が安全で安楽な療養生活が送れるように科学的根拠に基づき、基本技術の体得ができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	清潔・衣生活援助技術① 清潔に対する概念	【講義】療養生活における清潔の理解
第2回	清潔・衣生活援助技術② 寝衣交換の考え方	【講義】療養生活における衣生活援助方法、対象者の活動に応じた衣類選択
第3回	清潔・衣生活援助技術③ 寝衣交換演習	【演習】対象者に安全かつ安楽な寝衣交換援助の実際 2人1組でプライバシーや安全安楽に配慮しながら臥床患者の寝衣交換実施（和式セパレート式寝衣→和式セパレート式寝衣、和式寝衣→和式寝衣）
第4回	清潔・衣生活援助技術④ 身体の保清の種類と考え方	【講義】療養生活における身体における清潔方法の理解、対象者の活動に応じた身体を清潔にする方法の選択
第5回	清潔・衣生活援助技術⑤ 全身清拭・陰部洗浄（清拭）演習	【演習】対象に応じた清潔援助の方法 2人1組でプライバシーや安全安楽に配慮しながら全身清拭・陰部洗浄実施
第6～7回	清潔・衣生活援助技術⑥ 手浴・足浴、フットケア、 整容・爪切りの考え方	【講義】療養生活における清潔方法の理解　対象者の活動に応じた部分浴の方法や整容の選択
第8回	清潔・衣生活援助技術⑦ 足浴・手浴の演習	【演習】2人1組でプライバシーや安全安楽に配慮しながら足浴・手浴（仰臥位・座位）の実施
第9～10回	清潔・衣生活援助技術⑧ 口腔ケアの実際	【講義・演習】口腔ケアの実際
第11～12回	清潔・衣生活援助技術⑨ 片麻痺患者のある患者の寝衣交換	【実技試験】片麻痺がある仰臥患者の寝衣交換を一人で行う（和式セパレート式寝衣→和式セパレート式寝衣）
第13回	清潔・衣生活援助技術⑩ 洗髪の考え方	【講義】療養生活中の安静度に応じた洗髪方法の選択
第14回	清潔・衣生活援助技術⑩ 洗髪の演習	【演習】2人1組で安全安楽に配慮しながら洗髪の実際（ケリーパッド、洗髪台、洗髪車）
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／校内演習／電子版テキスト内動画視聴／eナーストレーナ視聴／授業前の予習レポート

12 評価方法

筆記試験　70点／実技試験（口頭試問含む）15点／提出物　15点

13 教科書

【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
【電子版】eナーストレーナー　医学書院

参考書

【電子版】専門基礎分野　解剖生理学　医学書院

14 学生への要望

科学的根拠に基づいた基礎看護技術を習得することを目標としていますので、自ら予習学習をおこない授業に臨んでください。また臨地実習時、自信をもって基礎看護技術の活用がおこなえるように主体性をもって真摯に練習をしていきましょう。

基礎看護技術論Ⅲ（感染防止と創傷管理）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	川本真理子（看護師）

8 授業概要

安全な医療の提供と信頼を確保するためには感染予防は重要である。しかし、医療現場では、感染の原因となる病因菌を持つ患者も数多く存在している。患者に接する看護師は自らが感染源とならないよう感染に関する基礎的知識をもち、原則に基づいた行動をとらなければならない。感染予防の意義と原則を理解し、感染予防の方法を学ぶ。
創傷ケアにおいては、創が治癒過程のどの段階にあるのかを判断し、その治癒を円滑に進める創傷治癒環境を保つことが大切である。創傷とその治癒のメカニズムを知り、自らが回復しようとする力を支える看護技術として創傷処置の実際について学ぶ。演習を通して、創傷治癒過程を促進するための創傷管理技術を身につける。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活援助技術について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.7）

1. 標準予防策を正しく実践できるようになる。
2. 無菌操作について学び、無菌操作方法を習得する。
3. 褥瘡予防ケアを理解し、安楽のニーズ充足に向けた援助技術を習得する。

10 授業計画		各時間で学ぶべきこと
第1回	感染防止の技術① ・標準予防策の実際、 感染経路別予防策	【講義】個人防護用具、感染経路別予防策の基礎知識 （接触予防策、飛沫予防策、空気予防策）
第2～3回	感染防止の技術②③ ・洗浄、消毒、滅菌、 個人防御用具着用法	【講義】洗浄・消毒・滅菌の基礎知識、個人防御用具の着用方法 【演習】個人防御用具の着用（ガウン、マスク、手袋）と脱ぎ方
第4～5回	感染防止の技術④⑤ ・無菌操作	【講義】無菌操作の基礎知識、滅菌物の保管方法・取り扱い、 無菌操作の実際、滅菌手袋の装着方法 【演習】無菌操作（滅菌包装の取り扱い、攝子、ガーゼの取り出し方、滅菌手袋の装着、創洗浄
第6回	感染防止の技術⑥ ・感染性廃棄物の取り扱い、針刺し 防止策、医療施設における感染管理	【講義】感染性廃棄物の基礎知識（判断基準、分別・表示、 取り扱い）、針刺し防止の基礎知識（針刺し防止対策と対応）、 医療施設における感染管理の組織、感染症発生時の対応 【演習】感染性廃棄物の取り扱い、針刺し事故の防止
第7～8回	感染防止の技術⑦⑧	【実技試験】感染症のある患者の入室する際の個人防御用具の 取り扱い （ガウン、マスク、手袋）
第9回	創傷管理技術① ・創傷管理の基礎知識	【講義】創傷治癒過程、創傷治癒のための環境づくり、 創傷処置、術後一次縫合創とドレーン創の処置
第10回	創傷管理技術② ・創洗浄と創保護、テープによる皮膚障害	【講義】創洗浄と創保護、テープによる皮膚障害の内容 【演習】創洗浄と創保護、テープ、フィルムのはがし方、無菌操作の実際
第11回	創傷管理技術③ ・褥瘡予防	【講義】褥瘡の発生要因と好発部位、 褥瘡発生リスクアセスメントと評価、褥瘡評価スケール 皮膚の観察ポイント
第12回	創傷管理技術④ ・褥瘡対策・包帯法の基礎知識	【講義】褥瘡対策ケア、体圧分散と除圧スキンケア 包帯法の基礎知識と援助の実際、三角布を用いた上肢の固定
第13回	創傷管理技術⑤ ・褥瘡対策	【演習】ずれを排除したギャッチアップ 踵部の除圧 包帯法の実際、三角布を用いた上肢の固定
第14回	安全確保の技術	【講義】安全確保の基礎知識、患者誤認防止、転倒・転落防止 【演習】患者誤認、転倒・転落しやすい状況や環境を分析
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／演習／視聴覚教材

12 評価方法

筆記試験80点／実技試験10点／レポート課題10点

13 教科書	参考書
【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 【電子版】eナーストレーナー　医学書院 【電子版】専門分野　臨床看護総論　医学書院 【電子版】専門分野　皮膚　医学書院	

14 学生への要望

根拠に基づいた看護技術を習得するために自ら調べて考察し、演習を重ねていきましょう。
グループ演習ではお互いに調べ、話し合い、技術チェックをし合いながら課題に取り組みましょう。

基礎看護技術論Ⅳ（食事と排泄）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	高橋浩美（看護師）

8 授業概要

人は生命を維持するために必要な物質や栄養素を取り入れ、不必要な物質・有害物質を体外に排出している。食事と排泄には人間の内部環境を維持するはたらきがあり、また、適切に食事・排泄行動をとることは、社会生活上必要不可欠な生活行動である。また、排泄行為は、生理的な意味だけでなく、その人の社会性や尊厳にも関わる大切な行為であるため、援助の際には、様々な側面への配慮、観察の視点の必要性を理解する。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、食事・排泄の基礎看護技術について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.7）

1. 栄養や美味しい食事を支える消化・吸収の理解や環境、行為、味わいについて知る。
2. 様々な健康状態にある人に適した食事内容や方法を理解し、対象にあわせて必要な援助ができる。
3. 様々な健康状態にある人に適した排泄方法を理解し、対象にあわせて必要な援助ができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	食事援助技術① ・食事援助のための基礎的知識	【講義】食事の意義／栄養状態、摂取能力、 食欲や食に対する認識のアセスメント／医療施設の食事の種類
第2～3回	食事援助技術②③ ・食事の介助	【講義】援助の基礎知識／実際 【演習】食事の介助が必要な対象の援助
第4回	食事援助技術④ ・摂食・嚥下訓練 ・非経口的栄養摂取の援助	【講義】援助の基礎知識／援助の実際／嚥下検査、 摂食嚥下障害のアセスメント／経管栄養法（胃管挿入、栄養注入）、 中心静脈栄養法
第5～6回	食事援助技術⑤⑥ ・経管栄養法（胃管挿入、栄養注入） ・中心静脈栄養法	【講義・演習】経管栄養法（胃管挿入、栄養注入）、中心静脈栄養
第7回	排泄援助技術① ・自然排尿および自然排便の介助	【講義】自然排尿および自然排便の基礎知識／排泄のアセスメント
第8～9回	排泄援助技術②③ ・自然排尿および自然排便の介助の実際	【講義】トイレ、ポータブルトイレ、床上排泄、おむつの排泄援助、 おむつ交換 【演習】おむつの排泄援助、おむつ交換
第10～11回	排泄援助技術④⑤	【講義】一時的導尿／持続的導尿 【演習】一時的導尿
第12～13回	排泄援助技術⑥⑦	【実技試験】腰痛があり臀部挙上が困難な患者のおむつ交換
第14回	排泄援助技術⑧ ・排便を促す援助	【講義】浣腸（グリセリン）／摘便／ストーマケア 【演習】浣腸（グリセリン）／床上排泄の援助
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／校内演習／電子版テキスト内動画視聴／eナーストレーナ／授業前の予習レポート

12 評価方法

筆記試験80点／実技試験10点／レポート課題10点

13 教科書

【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
【電子版】eナーストレーナー　医学書院

参考書

【電子版】専門基礎分野　解剖生理学　医学書院

14 学生への要望

食事・排泄技術は高齢社会や在宅医療の普及に伴い、近年、病院施設内だけでなく、様々な場で必要とされている。
対象の健康障害に応じた食事・排泄方法のアセスメントについて意欲的に学びを深め、看護者として安全・安楽な食事・排泄援助がおこなえるよう練習を重ねてもらいたい。

基礎看護技術論Ⅴ（救急処置と呼吸管理）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	竹森公美（看護師）

8 授業概要

呼吸管理の基本は血液ガスを正常域に保つことである。生命の維持には各臓器への酸素供給が十分に保たれていなければならない。つまり、呼吸管理は患者の呼吸活動を阻害せずに維持・促進することである。呼吸管理で低酸素血症が改善すると、それだけ心臓の負担も軽減する。呼吸から循環などの生体機能に障害をきたした患者に対しては、観察だけではなく、機器類からの生体情報を得るためのモニタリングも必須となる。このような対象者への看護ケアを実践するために、必要な基本的知識と技術を習得する。また、急変はいつどこで起こるか分からない。救命救急処置が必要な現場で対応できる知識と技術を習得することを目指す。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、呼吸や循環にかかわる看護技術について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.7）

1. 呼吸や循環に関わる援助の目的が説明できる。
2. 呼吸や循環に関わる援助の方法や注意点について、事前に自分で調べて列挙することができる。
3. 体位ドレナージ、吸引、吸入の看護技術の方法について根拠を説明しながら実施できる。
4. 救急処置の技術の方法が理解でき、状況に応じた方法を選択し実施できる。

10 授 業 計 画		各時間で学ぶべきこと
第1～2回	気道管理①②	【講義】気道管理の基礎知識（加温・加湿、排痰ケア） 気道管理の援助の実際（体位ドレナージ、咳嗽介助・ハフィング）/吸入・吸引（一時的吸引：口腔・鼻腔・気管内）援助の基礎知識 吸引援助の実際
第3回	気道管理③	【演習】体位ドレナージ・吸引・吸入
第4～5回	酸素吸入療法①②	【講義】酸素吸入療法の基礎知識、援助の実際 人工呼吸療法の基礎知識と援助の実際
第6回	酸素吸入療法③	【演習】酸素療法（中央配管や酸素ボンベの操作と残量測定、酸素療法）
第7回	体温管理の技術 末梢循環促進ケア	【講義】体温管理の基礎知識と援助の実際、循環促進ケア（弾性ストッキング・下腿マッサージ）の基礎知識と援助の実際
第8回	救命救急処置技術①	【講義】救急救命処置の基礎知識救急（対応の考え方、救急・急変時における初期対応、トリアージ）
第9回	救命救急処置技術②	【講義】一次救命処置の基礎知識と実際、二次救命処置（気管挿管）
第10～11回	救命救急処置の実際	【演習】心肺蘇生法・AEDの使用
第12～13回	救命救急処置の実際	【演習】一時救命処置の実際、二次救命処置の気管挿管の介助を実施
第14回	救命救急処置技術③	【講義】止血法の基礎知識と実際、院内急変時の対応
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／事前学習レポート／校内演習

12 評価方法

事前学習内容／演習レポート／筆記試験

13 教科書	参考書
【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 【電子版】別巻　クリティカルケア看護学　医学書院	【電子版】eナーストレーナー　医学書院

14 学生への要望

実践できる技術を身につけるため、講義のあとは演習までに必ずeナーストレーナーの視聴や事前学習をするようにしてください。

基礎看護技術論Ⅵ（与薬）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	30時間	必修	浅尾友博（看護師）

8 授業概要

医師の指示に基づき安全かつ確実に投与されることは治療において非常に重要である。看護師が与薬を行う際は、薬物動態への理解や安全で適切な技術も必要になる。また輸血については、血液製剤についての理解、準備から投与の一連のプロセス、輸血前～輸血後の観察点と留意点など看護の実際を学ぶ。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、与薬とその技術について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.7）

1. 薬物の特徴を理解し、正しい与薬・薬剤の管理方法を説明できる。
2. 注射の基礎知識を理解し、準備から実施の実際を学び、実施できる。
3. 輸血管理の基礎知識を理解し、援助の実際を学び、演習で実施できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	与薬の基礎知識	【講義】薬物の基本的性質、看護師の役割、薬の管理
第2回	経口与薬・口腔内与薬の援助 吸入・点眼・点鼻の援助	【講義】援助の基礎知識
第3回	経皮的与薬・直腸内与薬の援助	【講義】援助の基礎知識
第4～5回	注射の基礎知識	【講義】注射の基礎知識と実施上の責任、 注射の準備(シリンジ・薬液の吸い上げ) 【演習】注射の準備
第6～7回	皮内注射・皮下注射の技術 筋肉内注射・静脈内注射の技術	【講義】注射部位の選択・実施前の評価・必要物品 【演習】注射部位の確認、筋肉注射・静脈内注射
第8回	点滴静脈内注射の技術	【講義】注射部位の選択・実施前の評価・必要物品、 翼状針・静脈内留置針・輸液ラインの使用および交換時期、 援助の実際と留意点 【演習】点滴静脈注射の準備と実施、実施前～実施後の観察
第9～10回	シリンジポンプ・輸液ポンプの操作技術	【講義・演習】シリンジポンプ・輸液ポンプを使用した静脈内輸液 点滴の実際、点滴静脈内注射による混注(側管注・側管点滴)
第11回	中心静脈内カテーテルの管理技術 安全技術の実際	【講義】中心静脈内カテーテル留置と輸液ラインの交換 【講義】安全確保の基礎知識、誤薬防止、チューブ類の事故防止
第12回	輸液速度の調整・計算方法	【講義】滴下数の計算方法、投与量の計算方法、 薬液希釈の計算方法
第13回	輸血の基礎知識	【講義】血液および輸血の基礎知識、主な輸血用血液製剤 (分類・効能効果・貯法・有効期限)
第14回	輸血の実際	【演示】輸血実施前の評価・必要物品・患者への説明、 援助の実際と留意
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／VTR／演習／グループワーク

12 評価方法

筆記試験／演習への取り組み／レポート

13 教科書

【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
【電子版】専門分野　臨床看護総論　医学書院
【電子版】根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術　医学書院

参考書

・【電子版】eナーストレーナー　医学書院
・看護学生プレトレーニング　メヂカルフレンド社（入学前に購入）

14 学生への要望

与薬や輸血にあたって必要となる知識と技術を清潔操作や感染予防技術を踏まえて学んでほしい。
演習ではそれぞれの技術および具体的方法とともに、与薬や輸血にあたっての留意点、観察点と実施時のコミュニケーションなども意識してほしい。

基礎看護技術論Ⅶ（生体機能管理と診察介助）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	荻田育代（看護師）

8 授業概要

病気の診断においては、まず画像検査等により病変部位を確認し、その後、正確な診断を行うための検査へと進むという一定の過程がある。正確な診断のためには、病変部の一部を採取して調べる検査が実施される。また、人体に検査機器を挿入する検査は、対象に不安や身体的苦痛を伴うこともある。本講義および演習では、診察・検査・処置の一連の流れと、それに伴う看護師の役割を理解することを目的とする。さらに、生体に及ぼす影響を踏まえ、看護理論に基づいた診察介助ならびに検査・処置における基本的な看護技術の修得を目指す。演習では、ロールプレイやシミュレータ、トレーニングモデルを用いて実際の場面を想定した体験的学習を行う。患者および家族の不安や苦痛に配慮し、尊厳を尊重した看護実践に必要な感性と実践力を養う。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、生体機能管理の看護技術および診察介助について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.7）

1. 検査時の看護師の役割を述べることができる。
2. 各種生体検査および検体検査の目的と方法、留意点が説明できる。
3. ｼｭﾐﾚｰﾀ･ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾓﾃﾞﾙを使用し、内視鏡検査の援助・12誘導心電図・腰椎穿刺・静脈内採血が実施できる。
4. 死亡時の看護を理解し、患者の苦痛と家族の想いに配慮した対応について述べることができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	臨床検査の流れと看護師の役割についての概要①	【講義】臨床検査の流れ・臨床検査の準備 検査を受ける患者への説明 検体の採取法、保存・移送法
第2回	臨床検査の流れと看護師の役割についての概要②	【講義】検査に伴う危険とその防止 生体検査とその介助・検査結果の取り扱い・ セルフアセスメントの必要な患者への指導
第3回	生体機能管理技術の管理技術と看護師の役割（排泄物の検査）	【講義】症状・生体機能管理技術の基礎知識 検体検査(尿検査・便検査・喀痰検査・鼻咽頭咽頭ぬぐい液・唾液)
第4回	生体機能管理技術の管理技術と看護師の役割（血液の検査）	【講義】症状・生体機能管理技術の基礎知識 検体検査(静脈血採血・動脈血採血・血糖測定)
第5～6回	症状・生体機能管理技術の管理技術（排泄物・血液の検査の演習）	【演習】検体検査(尿検査・便検査・喀痰検査)前の説明 （ ロールプレイ演習） 【演習】真空採血管を用いた採血(シュミレーター)検体の取り扱い
第7回	生体情報のモニタリング、診察・検査・処置における技術と看護師の役割	【講義】生体情報のモニタリング(心電図検査と心電図モニター・肺機能検査・Spo_2モニター・血管留置カテーテルモニター)
第8回	生体情報のモニタリング、診察・検査・処置における技術（心電図の演習）	【演習】人形を使用し心電図の電極を装着する 電極装着部位や患者への説明についてワークする。
第9回	診察・検査・処置における技術と看護師の役割（画像診断検査）	【講義】安全性の確保・セーフティマネジメントの原則（X線検査・CT検査・MRI検査・内視鏡検査・超音波検査・核医学検査・IVRを受ける患者の看護）
第10回	診察・検査・処置における技術と看護師の役割（画像診断検査の演習）	【演習】CT検査、MRI検査、超音波検査（造影剤有無）の検査前後の説明 上部消化管検査（前～後）を受ける患者の説明 （ ロールプレイ）
第11回	診察・検査・処置における技術と看護師の役割（穿刺検査）	【講義】安全性の確保・セーフティマネジメントの原則（胸腔検査・腹腔検査・腰椎検査：ルンバール・骨髄検査を受ける患者の看護）
第12回	診察・検査・処置における技術と看護師の役割（穿刺検査の演習）	【演習】胸腔検査・腹腔検査・腰椎検査：ルンバール・骨髄検査を受ける（前・中・後）患者への説明と関わり方（ ロールプレイでの演習です）
第13回	死の看取りの援助 （死にゆく人と周囲の人々へのケア）	【講義】死に至るまでの様々な過程・死にゆく人と家族の人々へのケア・ 【GW】患者の思い、家族の思いについて考える 患者家族と看護師のグリーフワーク
第14回	死後のケア	【講義】死後のケアの基礎知識、死後のケアの援助と実際 【GW】看護師が行う「死にゆく人、死後のケア時」の配慮
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／校内演習／グループワーク／視聴覚教材

12 評価方法

筆記試験／小テスト／レポート課題

13 教科書

【電子版】専門分野　看護学概論　医学書院
【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
【電子版】別巻　臨床検査/臨床放射線医学　医学書院

参考書

【電子版】eナーストレーナー　医学書院

14 学生への要望

本科目では、対象にとって身体的・精神的侵襲の大きい診療（検査・治療等）や処置（死後の処置を含む）について学習します。これまでに学習した看護概論、医療と看護倫理、臨床検査学、死生論、コミュニケーション方法論の知識と関連付けながら、看護理論に基づいた安全で安楽な看護技術の習得を目指しましょう。
校内演習では、対象の心理に配慮しつつ、看護師の役割や具体的な援助方法について主体的に取り組んでください。合わせて患者の理解度のアセスメントしていきましょう。

コミュニケーション技術

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	前期	1単位	30時間	必修	高橋浩美(看護師)

8 授業概要

コミュニケーションスキルは、相手と十分な意思疎通をおこなうための技術である。日ごろから「聴く」「話す」を意識してトレーニングすることによってスキルアップすることができる。患者との間でも、医療職の間でも、メッセージが上手く共有されなければ、効果的な医療を望むことはできない。しかし、共感していることが相手に伝わってはじめて、共感の効果が期待できるのであり、そのためには共感していることを上手く伝えるテクニック(技術)が必要になる。共感的なメッセージを伝えることは、信頼関係を築く上では欠かせない。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、医療におけるコミュニケーション技術について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.7)

1. 医療におけるコミュニケーションの重要性と基本的な方法について学び、実践できる。
2. 様々な対象へ適切なメッセージを伝える方法を理解し、実施できる。
3. コミュニケーション障害がある人の特徴と効果的な対応を学び、具体的な方法を説明できる。
4. ロールプレイによるプロセスレコードにより客観的に自己を振り返る。
5. ISBAR基づいて適切な報告ができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	コミュニケーションとは何か コミュニケーションの種類	【講義】コミュニケーションの構成要素と成立過程 コミュニケーションの特徴、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
第2～3回	コミュニケーションに影響するもの	【講義】コミュニケーションにおける4つの交流 コミュニケーションに影響する要因 【GW】自分が考える看護師像について意見を出し合い発表する
第4～5回	医療(看護)におけるコミュニケーション 良好なコミュニケーションに必要な技法	【講義】聴くための技法、積極的傾聴と共感 【GW】技法を用いたコミュニケーション
第6～7回	看護面接のプロセスの13STEP 看護面接のトレーニング	【講義】患者中心の面接、医療者中心の面接への移行 【GW】看護学生と患者の設定でコミュニケーションをおこなう
第8～9回	高度なコミュニケーション 多職種連携とコミュニケーション	【講義】臨地実習で看護学生が遭遇するコミュニケーション困難な状況 【GW】事例を提示し話し合う。
第10～11回	患者家族とのコミュニケーション 新たな時代のコミュニケーション	【講義】患者と家族とのコッミュニケーション 【GW】場面を設定し患者家族とのコミュニケーションをおこなう
第12～14回	ISBARとは	【講義・GW】事例を提示し実習場面を想定した演習をおこなう 教室内で事例を考え発表する
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／視聴覚教材／グループワーク／ロールプレイ

12 評価方法

筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
看護コミュニケーション 医学書院

参考書

14 学生への要望

さまざまな背景や価値観を持つ対象と相互の発するメッセージの意味や感情の理解を深め、信頼できる関係性を築くことを目的にコミュニケーションについて学びます。医療職者としての役割を踏まえ、演習に臨んでください。

ヘルスアセスメント技術

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	前期	1単位	30時間	必修	竹森公美(看護師)

8 授業概要

ヘルスアセスメントとは、対象の健康状態を把握するためのフィジカルアセスメントと心理・社会的アセスメントを統合したアセスメントである。対象の身体的側面を査定するためのフィジカル・イグザミネーションの技法のみならず、心理的・社会的側面へのアセスメントの方法も学び、対象を全人的にアセスメントできる知識・技術の習得を目指す。対象の健康状態を分析的に判断・査定し、分析結果にもとづいて看護の必要性を判断することで、看護診断や看護ケアを方向づけていく。今後どうなるか、重症度・緊急度もアセスメントする技術を習得する科目である。
(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、ヘルスアセスメント技術について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.7)

1. 看護におけるヘルスアセスメントの概念と目的、必要性を理解し、説明できる。
2. ヘルスアセスメントに必要な観察技術・基本的技術を理解でき、実施できる。
3. 対象の体温測定・脈拍測定・呼吸測定・血圧測定の必要性を理解し、適した方法を選択し実施できる。
4. 体温・脈拍・呼吸・血圧の正常と異常が判断でき、アセスメントし報告できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	ヘルスアセスメントとは ヘルスアセスメントに必要な技術	【講義】ヘルスアセスメントがもつ意義、観察、視点/健康歴とセルフケア能力のアセスメント/フィジカルアセスメントに必要な基本技術(問診、視診、聴診、打診、触診)
第2回	バイタルサインの観察とアセスメント① パルオキシメータとは	【講義】体温測定、体温の正常と異常の判断、方法/脈拍測定、脈拍の正常と異常の判断、方法/呼吸測定、呼吸の正常と異常の判断、方法、パルオキシメータとは
第3回	バイタルサインの観察とアセスメント②	【講義】血圧測定の実際、血圧の正常と異常の判断、血圧の影響因子 【演習】血圧測定技術の実際
第4回	計測	【講義】身長・体重測定、皮下脂肪厚の計測、腹囲の計測
第5回	バイタルサイン測定の実際① パルスオキシメータの実際 計測の実際	【演習】体温測定・脈拍測定・呼吸測定・血圧測定の実際 パルオキシメータの装着方法/身長・体重測定、皮下脂肪厚の計測、腹囲の計測の実際と計測値のアセスメント
第6回	系統別フィジカルアセスメント①	【講義】呼吸器系のフィジカルアセスメント 【事例演習】事例:術後の発熱のある患者
第7回	系統別フィジカルアセスメント②	【講義】循環器のフィジカルアセスメント 【事例演習】息が苦しいと訴える患者
第8回	系統別フィジカルアセスメント③	【講義】乳房・腹部のフィジカルアセスメント 【事例演習】疝痛のある患者
第9回	系統別フィジカルアセスメント④	【講義】筋・骨格系、神経系、頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント 【事例演習】リハビリ期の患者の看護
第10回	系統別フィジカルアセスメント⑤	【演習】系統別フィジカルアセスメントの実際
第11回	系統別フィジカルアセスメント⑥	外皮系(皮膚・爪)のフィジカルアセスメント
第12～13回	バイタルサイン測定の実際②	【実技試験】バイタルサイン測定 提示事例の測定を実施
第14回	心理・社会状態のアセスメント	【講義】身体・心理・社会を統合したアセスメント 【演習】事例:統合アセスメント
第15回	試験/まとめ	試験/まとめ

11 学習方法

講義/演習/実技試験

12 評価方法

筆記試験80点/実技試験10点/レポート課題10点

13 教科書

【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
フィジカルアセスメントガイドブック 第2版 山内 豊明 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

14 学生への要望

フィジカルアセスメント技術は、「患者様を知る」ためのひとつの手段です。解剖生理学の理解が技術の根拠へと変化したり、体を多角的に捉えることで、身体内部の興味が深まっていく科目です。

看護過程展開の技術

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	藤川幸子(看護師)

8 授業概要

看護過程を展開する目的は、患者情報を基に、その患者に適した(必要な)ケアは何かを判断し、そのケアを患者に合った方法で、実施することである。つまり、看護過程は、患者さんにあった適切なケアをするためのツール(道具)である。患者の状態を観察、判断、実施したケアの評価をするための思考過程の手段であることを理解し、事例を用いて、看護過程の展開方法を学ぶ。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護過程の展開について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.7)

1. 看護過程の意義と目的が理解でき、説明できる。
2. 看護過程の展開は、対象の状態を観察、判断、実施したケアの評価をする思考過程の手段を事例と照らし合わせて説明できる。
3. 看護過程の各段階について理解し、説明ができる。
4. ペーパー・ペイシェントの事例を基に看護過程を展開することができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	看護過程とは	問題解決過程、クリティカルシンキング
第2回	看護過程の各段階	アセスメントとは、アセスメントの枠組み
第3～4回	アセスメント	事例(肝硬変)情報の収集と分析
第5～6回	全体像の把握	事例(肝硬変)関連図
第7～8回	看護問題の明確化	事例(肝硬変)看護問題の種類と優先順位、問題リスト
第9～10回	看護計画	事例(肝硬変)期待される成果、看護の立案
第11～12回	看護過程の展開	事例(肝硬変)看護計画の実施と評価
第13回	看護記録	事例(肝硬変)SOAP、フローシート、実習記録
第14回	看護過程の実際:まとめ・発表	事例展開:グループワーク 事例①肝硬変
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／グループワーク

12 評価方法

提出物／視聴覚教材／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院
疾患別看護ケア関連図 中央法規
症状別看護ケア関連図 中央法規

参考書

14 学生への要望

看護過程は、看護の対象者にとって必要な援助を見極め、安楽で安全に提供するための手段・方法論です。
臨地実習で必要な記録に関しても学習します。履修に必要な事前学習と復習をし、授業に取り組んでください。
PCやタブレット端末については、必要時持参し受講してください。

臨 床 看 護 総 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	辰野浩美(看護師)

8 授業概要

健康から逸脱した、身体的不均衡・心理的不安定状態・社会的葛藤がある患者を理解し、健康状態に応じた看護の考え方を学ぶ。逸脱した病状は経過により特徴的な変化を示す。その変化は特徴的な症状として現われ、その症状に対する治療・処置がおこなわれる。その際の看護援助は、基本的で各領域にも共通した思考過程があり、それを基礎として各領域では応用した看護実践を展開することとなる。多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、臨床看護総論について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.7)

1. 主要な症状を示す対象者への看護について提示した事例に基づいて必要なニーズを考え述べることができる。
2. 周手術期にある看護を理解し、必要な支援について説明できる。
3. 放射線療法を受ける対象者への看護を学び、必要な支援及び看護師として自己の安全を守る方法を説明できる。
4. 集中治療室、化学療法を受ける患者の看護について学び、患者の安全を守る看護を説明できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護・健康状態の経過に基づく看護	【講義】ライフサイクル・家族の機能からとらえた健康上のニーズと看護健康状態の経過とそれにおける看護
第2回	主要な症状を示す対象者への看護:呼吸、循環	【講義】呼吸や循環に関連する症状を示す対象者への看護
第3回	主要な症状を示す対象者への看護:栄養・代謝、排泄	【講義】栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護排泄に関連する症状を示す対象者への看護
第4回	主要な症状を示す対象者への看護:活動・休息、生体防御、安楽	【講義】活動や休息・認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護、安楽に関連する症状を示す対象者への看護
第5回	集中治療を受ける対象者への看護 創傷処置を受ける対象者への看護	【講義】集中治療・創傷処置を受ける対象者への看護
第6回	医療機器の原理と実際	【講義】医療機器の概要、医療機器を安全に使うために
第7回	手術をうける対象者への看護①	【講義】手術療法による生体への侵襲
第8回	手術をうける対象者への看護②	【講義】術前・術中の看護
第9回	手術をうける対象者への看護③	【講義】手術室における看護師の役割
第10回	手術をうける対象者への看護④	【講義】周手術期における看護
第11～12回	化学療法を受ける対象者への看護	【講義】化学療法の目的・副作用 【演習】抗がん剤暴露からの防護
第13～14回	放射線療法を受ける対象者への看護	【講義】放射線療法の特徴 【演習】放射線量の測定
第15回	試験/まとめ	試験

11 学習方法

講義/視聴覚教材/演習/ワークシート課題

12 評価方法

筆記試験/レポート課題/演習課題

13 教科書及び参考書

【電子版】専門分野 臨床看護総論 医学書院
【電子版】別巻 クリティカルケア看護学 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院
【電子版】別巻臨床外科総論 医学書院

参考書

病態生理と実践がみえる関連図と事例展開 根拠がわかる疾患別看護過程 南江堂
【電子版】別巻 臨床放射線医学 医学書院
【電子版】別巻 がん看護学 医学書院

14 学生への要望

健康上のニーズは対象者それぞれの発達課題や家族背景、生活の場で違っている。対象者の健康上のニーズ、健康状態の特徴、症状や治療・処置を理解し、臨床における個別性のある看護展開のための知識を習得してほしい。

健康教育の技術

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	1単位	15時間	必修	髙橋浩美(看護師)

8 授業概要

1. 健康教育は、「教育・指導」から「学習支援」へとシフトしている。学ぶ人が新たなものを想像する思考や、探求する態度・方法を新しく形作っていくことが求められる。学ぶ人が何を経験し、それをどのように意味づけたかが明確になるように支援することを学ぶ。
2. 看護師の「教えたいこと」を学習者の「学びたいこと」に変化させていく意図的な教育活動として学習指導案がある。看護師が健康教育をするにあたり、どのような意図やねらいをもって、どのように進めていくのか、その構想を一定の形式で書き表す方法について学ぶ。

(病院の看護業務に携わった経験をもつ教員が、健康教育の技術について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3)

1. 健康教育としての「学習支援」のあり方について説明できる。
2. 健康教育を意図的・計画的におこなう方法を理解し、実施できる。
3. 学習指導案の構成に沿って指導案が作成できる。
4. 作成した学習指導案に沿って健康教育が模擬的に実施できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	看護における学習支援	「教育・指導」から「学習支援」へ／健康に生きることを支える学習支援／変更状態の変化に伴う学習支援
第2回	健康づくりの過程と教育指導案	患者の健康に対する考察 (1)患者観 (2)教材観 (3)指導観
第3回	学習目標と評価の検討	目指す健康／評価の観点と評価方法
第4回	学習指導案の構成要素	指導案の構成要素:導入・展開・まとめ 時間配分、指導内容、指導方法、指導教材
第5回	指導展開—指導案の書き方	事例を基にした学習指導案の展開 学習形態・教材の選択・指導技術・自己管理法・ワークシート
第6回	指導案作成	【事例演習・GW】事例に応じた患者指導の実際 (栄養指導、服薬指導など)
第7回	発表	【ロールプレイ】指導媒体を使った健康教育の実際
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

発表／提出物:指導案／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院

参考書

14 学生への要望

臨床実習で患者を受け持った場合、何らかの健康教育を実施することとなる。その多くは、患者本人への個別指導であることから、自らが健康について考え、自己管理していけるような健康教育を実施してもらいたい。
さらには、保育所や介護施設などでは集団指導がおこなわれ、学生もその一部を担当している現状がある。いずれの場合にも指導案が必要となることから、基礎的知識を習得してもらいたい。

看護研究Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	30時間	必修	辰野浩美(看護師)

8 授業概要

未知のことに興味を持ち探求しようとする心は「好奇心」である。好奇心は研究の原動力である。疑問に思うことを探索すると次々に新しいことを知ることができる。知り得た知識を組み立て、推論し、現象を読み解くことは看護学を発展させることに繋がる。日常的に「なんだろう？」「なぜだろう？」と探索をすることから研究は始まる。今まで明らかになっていなかった疑問や問題を解決するために、系統的で論理的な方法を用いて探求する手法を学ぶ。

(病院の看護業務及び看護研究に携わった経験を持つ教員が、看護学領域における研究について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:2.7)

1. 研究を学ぶ意義を理解し説明できる。
2. 研究をすすめていく手法を理解し説明できる。
3. 質的研究と量的研究の進め方を理解し説明できる。
4. 研究計画書が作成できる。
5. 研究論文の構成が説明できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	看護研究とは何か	1)看護研究とは 2)問いを立てる
第2回	文献レビューと方法 研究目的の設定	1)文献検索方法 2)文献クリティーク 3)文献検討の記述と研究目的の設定
第3回	研究の設定と方法の選択	1)研究デザインの種類 2)研究デザインの選択
第4回	倫理的配慮	1)研究における倫理的配慮の原則 2)依頼書と同意書の書き方
第5回	研究計画書の作成	1)研究計画書の意義 2)研究計画書の書き方
第6回	ケースレポート・事例研究のすすめ方	1)ケースレポート(事例検討)とは、すすめ方 2)事例研究とは、すすめ方
第7回	質的研究のすすめ方	1)質的研究とは 2)質的研究におけるデータ収集
第8回	質的研究のすすめ方	1)質的研究におけるデータ分析
第9回	質的研究のすすめ方	1)質的研究におけるデータ分析
第10回	量的研究のすすめ方	1)量的研究とは 2)量的研究におけるデータ収集
第11回	量的研究のすすめ方	1)量的研究におけるデータ分析
第12回	論文作成・学会発表	1)研究成果のまとめ方 2)研究成果の伝え方
第13回	論文作成・学会発表(研究発表会聴講)	1)研究成果をまとめ方 2)研究成果の伝え方
第14回	論文作成・学会発表(研究発表会聴講)	1)研究成果をまとめ方 2)研究成果の伝え方
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／演習

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

【電子版】別巻 看護研究 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

14 学生への要望

看護研究Ⅰを基礎として、看護研究Ⅱでは量的研究にグループで演習として取り組む。つまり、調査研究や実験研究を実施することを授業内容としている。そのため、アンケートの組み立てや実験研究の変数設定の土台となる内容であることから、授業内容の理解に努めてもらいたい。看護研究Ⅰは、さらには、3,4年次のクリティカルシンキングへと発展するものである。

看護研究Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	1単位	30時間	必修	山下久美子(看護師)他

8 授業概要

研究を始めるにあたっては、リサーチクエスチョンのレベルに合わせどのような研究デザインが適しているかを考える。 看護研究Ⅱでは、量的研究の基礎を学ぶことを科目目的としている。したがって、実態調査研究・相関研究のいずれか絞りグループで研究に取り組む。得られた量的データの処理方法として統計解析についても学ぶ。さらに、研究計画書の作成から研究成果のまとめ・発表を通じて看護実践に役立つ「研究力」の芽を養う。

(病院の看護業務及び看護研究に携わった経験を持つ教員が、看護学領域における研究について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.7)

1. 日常の中にある看護に関する疑問を明らかにできる。
2. 研究計画書を基にデータを収集し、得られたデータを分析し、解釈することによって、結果を導くことができる。
3. 系統的・科学的な思考を身につけるための量的研究の基礎が理解できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	オリエンテーション —量的研究方法の実際—	1)調査研究の進め方 2)実験研究の進め方
第2回	興味・関心・疑問からのリサーチクエスチョン	1)調査対象の範囲と母集団 2)変数と操作指標 3)サブストラクション
第3回	文献検索とクリティーク	1)文献収集 2)本研究で明らかにしたいこと
第4～5回	研究計画書	1)研究テーマ 2)研究動機・意図・背景 3)研究目的 4)研究方法
第6～7回	研究方法の決定	1)アンケートの構成:研究依頼・フェイスシート(属性)・質問項目 2)プレテスト
第8～9回	データ収集	1)調査・測定の実施
第10～11回	データ分析	1)収集したデータの入力 : ①生データのチェック ②データのコード化:名義尺度・順序尺度・間隔尺度 ③欠損値
第12～13回	データ解析	統計解析ソフトExcel 1)変数の特徴をつかむ ①分布をながめる ②特徴の要約 ③散らばりぐあい 2)変数の関連性を見る ①仮説検定 ②検定法の選択
第14回	研究成果をまとめる	解析したデータの結果の記述
第15回	研究成果の公表	研究テーマに沿った発表

11 学習方法

講義／演習

12 評価方法

グループワークの主体的参加度／研究成果

13 教科書

【電子版】別巻 看護研究 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

14 学生への要望

看護研究Ⅱでは量的研究の手法をグループで学ぶ。
日常の中にある看護に関連した疑問を、数字の持つ客観性から明らかにしていく。得られたデータから、データの持つ意味を解釈する。さらに、データ間の関係性については、統計解析のソフトを使って分析する。研究データと向き合うに当たっては、グループ全員が謙虚にデータと向き合うことから真理を追求する姿勢を学んでほしい。

臨床判断演習Ⅰ（基礎看護学）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	15時間	必修	山内豊明 六車輝美（看護師）

8 授業概要

臨床判断モデルのプロセスには「気づき」「解釈」「反応」「省察」の4つの相がある。この臨床判断モデルを活用して、事例のプロセスを「看護師のように考える」ことで臨床判断能力を育むことができる。実際の現場で活用しているフィジカルアセスメントの具体的な手法を臨床判断を支える基礎として学ぶ。この学びを活かして、臨床判断モデルのプロセスを活用したシュミレーションを実施する。事例は症状とフィジカルアセスメントに焦点を当てる。意図的な情報収集から今後の病態を予測した必要な看護につながり、臨床判断モデルの理解を深め、看護の実践につなげる。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、基礎分野においての臨床判断について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.6.7）

1. 臨床判断モデルのプロセス「気づき」「解釈」「反応」「省察」のそれぞれが持つ意味を理解し説明できる。
2. フィジカルアセスメントの具体的は手法を臨床判断を支える基礎を学び、実践に活用できる。
3. シュミレーションを通して事例を臨床判断モデルに沿って得られた学びをクラスで共有できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	臨床判断モデルの枠組みを用いて情報整理	【講義】シュミレーション事例の紹介 臨床判断モデルの枠組みを用いて情報整理／ 【GW】グループで整理した情報の意見交換
第2～5回	看護師の臨床判断を支える基礎	【講義】臨床推論の考え方／ 臨床の場における具体的なフィジカルアセスメントの手法（呼吸器・循環器・消化器）
第6回	提示した事例の情報を整理する	【GW、シナリオ作成】 解釈から観察項目やフィジカルイグザミネーションを抽出／ グループでシナリオ作成／クラスで共有
第7回	提示した事例のシュミレーション学習	【シュミレーション学習】 患者看護師役となりシナリオに沿って演習／演習後省察／ グループ討議、クラスで共有
第8回	試験	試験

第１・６～８回　六車輝美、第２～５回　山内豊明（１００）

11 学習方法

講義／演習／グループワーク／レポート

12 評価方法

レポート、GW、シュミレーション学習の成果物（40点）／筆記試験（60点）

13 教科書

【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
フィジカルアセスメントガイドブック　第2版　山内　豊明　医学書院
【電子版】eナーストレーナー　医学書院

参考書

臨床判断ティーチングメソッド　医学書院

14 学生への要望

看護の現場において、臨床判断という言葉をよく聞きます。しかし、一言で説明することは難しい概念です。なぜなら頭の中の思考をさし、眼に見えて実態があるものではないからです。また臨床判断はその場の状況によって変化します。同じ疾患でも結論は異なるのです。この臨床判断の能力を高めることは看護実践に必要なことです。タナーの臨床判断モデルを活用し思考を育むことができるようにグループによる学習を積極的に取り組んでください。

地域・在宅看護概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	阿部美知子(看護師)

8 授業概要

在宅療養者と家族の生き方、生活を理解し住み慣れた地域でその人らしく生きていくことができるように、尊厳を守り、QOLの維持・向上を目指した在宅看護の機能と役割を理解する。地域で生活する・療養する人とその家族を支える保健医療福祉について学ぶ。また地域包括ケアシステムの理念と看護の役割を理解する。

(訪問看護の経験を持ち、在宅看護領域における資格を有する教員が在宅看護について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 生活者としての療養者と家族が理解でき、在宅で療養している人々の生活や特性を理解し説明できる。
2. 地域保健医療福祉の全体像、地域看護の概念枠組み、地域看護のおこなわれる場について理解し説明できる。
3. 在宅療養者とその家族の特徴を知り、在宅看護の基礎を理解し説明できる。
4. 地域包括ケアシステムを理解し、看護の役割を説明できる。
5. 在宅医療・ケアの関連制度や政策について理解し説明できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	在宅看護の理念と定義 在宅看護の必要性と背景	在宅看護の定義、理念／在宅看護が求められる背景／在宅看護の現状と在宅看護の目指すもの
第2回	在宅医療・看護の目的とその役割	在宅看護の目的、役割／在宅看護が提供される場
第3回	在宅看護の対象としての個人・家族・地域	在宅看護の対象の特徴
第4回	生活の場に応じた看護の特徴と看護の役割	療養者の様々な場／生活の場に応じた看護の特徴と役割
第5回	在宅療養者の家族への支援	家族の定義／家族の形態の変遷と特徴／家族介護者の介護の現状／介護負担が引き起こす問題／レスパイトケア／ピアサポート
第6回	在宅看護の特徴	在宅看護の基本となるもの／在宅療養者の自立を支援する看護／生活の場における看護／在宅看護の提供方法
第7回	在宅療養者と家族の生き方を支援する意思決定支援	情報提供と意思決定支援／ACP／QOL／リビングウィル
第8回	在宅療養者の状態・状況にあわせた看護 医療機関・施設との入退院時の連携	在宅療養者の状態・状況に合わせた看護／療養者のケアニーズに応じた在宅看護の提供／医療機関・施設との入退院時の連携／サービス担当者会議／退院前カンファレンス／療養の場の移行
第9回	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用	介護保険制度／医療保険制度／障害者総合支援法／難病法／医療介護総合確保推進法／医療法
第10回	訪問看護制度の法的枠組みと訪問看護サービスの仕組みと提供	訪問看護の利用者と訪問回数／訪問看護ステーションに関する規程／介護保険法・健康保険法に基づく訪問看護事業／訪問看護サービスの提供
第11回	在宅看護におけるケアマネジメントについて	ケアマネジメントの概念／ケアマネジメントの要素・機能・過程／介護保険制度におけるケアマネジメント
第12回	在宅看護における権利保障	個人の尊厳／自己決定権／個人情報の保護／看護師の守秘義務／成年後見制度／虐待の防止／サービス提供者の権利擁護
第13回	社会資源の理解と活用	社会資源とは／介護保険法の社会資源との連携／その他の社会資源との連携
第14回	地域包括ケアシステムと地域における多職種連携	地域包括ケアシステムとは／地域包括ケアにおける訪問看護師の役割／多職種連携の実際
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／自己学習／VTR

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

【電子版】専門分野 〔1〕地域・在宅看護の基盤 医学書院
【電子版】専門分野 〔2〕地域・在宅看護の実践 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

参考文献や図書については適宜授業時に紹介します

14 学生への要望

地域と暮らしで学習した内容を生かして、在宅で療養する人々と家族の生活や特性を理解してほしい。在宅看護の対象者を「生活者」という視点でとらえられるように、視聴覚教材や事例を用いながら授業を行います。社会情勢、保健医療システムの変化と併せ、常に関心をもって学習に望むこと。

地域・在宅看護方法論Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	15時間	必修	百合 葵(看護師)

8 授業概要

在宅看護において療養者と家族の"生活する"ことを支える視点での日常生活の支援や日常生活を中心とした在宅援助を学ぶ。
(訪問看護の経験を持ち、在宅看護領域における資格を有する教員が在宅看護について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 在宅看護の活動におけるコミュニケーションについて理解し説明できる。
2. 療養上のリスクマネジメントが理解し、対処や予防の方法を述べることできる。
3. 療養者の日常生活を生活行為として総合的に理解し、実施できる。
4. 在宅における日常生活の援助が実践できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	在宅看護の活動を支えるコミュニケーション	・療養者や家族を支援するためのコミュニケーション技術 ・信頼関係を築くためのコミュニケーションポイント 【演習】コミュニケーションの支援(文字盤、意思伝達装置)
第2回	療養上のリスクマネジメント	・在宅看護におけるリスク ・環境の整備による安全の確保、身体損傷の防止、薬物による事故の防止
第3回	呼吸に関する在宅看護技術	・在宅看護における呼吸管理・ケアの特徴 ・呼吸に関するアセスメント、援助のポイント 【演習】自分で出来る呼吸リハビリテーション
第4回	食生活・嚥下に関する在宅看護技術	・在宅での食生活の特徴 ・食生活・嚥下に関するアセスメント、援助のポイント 【演習】市販の介護食、栄養補助食品を実際に食べてみよう
第5回	移動・移乗に関する在宅看護技術	・在宅での移動・移乗の特徴 ・移動・移乗に関するアセスメント、援助のポイント 【演習】ノーリフトケア(リフト、スライディングシート・グローブ、トランスファーボード)を体験しよう
第6回	排泄・清潔に関する看護技術	・在宅での排泄の特徴 ・排尿・排便のアセスメント ・尿失禁・便秘・便失禁の予防と工夫 ・在宅での清潔援助の特徴 ・清潔に関するアセスメント、援助のポイント
第7回	清潔に関する在宅看護技術	【演習】 寝たきり療養者への洗髪:手作りケリーパットを用いて 2型糖尿病の療養者へのフットケア:足浴 療養者の好みに合わせた工夫 シャボンラッピング
第8回	試験	試験

11 学習方法

自己学習／講義／VTR／演習

12 評価方法

筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野 〔1〕地域・在宅看護の基盤 医学書院
【電子版】専門分野 〔2〕地域・在宅看護の実践 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

14 学生への要望

在宅看護では療養者の生活を支えていきます。それに伴って日常生活に対する支援は信頼関係を構築する上でもとても重要になります。基礎看護でも学習している日常生活の援助の原理原則は自分で復習し、在宅ならではの物品の工夫や限られた時間内でおこなう方法を講義や演習で学んでください。

地域・在宅看護方法論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	長内秀美・難波朱美 高橋浩美・百合 葵(看護師)

8 授業概要

年々療養の場の広がりから医療的ケアが必要な在宅療養者が増加している。医療的ケアがあっても在宅療養を継続していくためには、療養者とその家族に対して看護師によるサポートが重要になってくる。この科目では在宅における医療的援助の基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を学ぶ。また様々な事例から、療養者と家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学ぶと共に、既存の看護の知識を応用し、在宅看護の実践に結び付ける。
(訪問看護の経験を持ち、在宅看護領域における資格を有する教員が在宅看護について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1,2,3,4,5,6,7)

1. 在宅での医療的ケア技術の基本と看護が理解できる。
2. 在宅療養者の症状・状態別看護が理解できる。
3. 在宅療養者の家族に対する援助が理解できる。
4. グループ演習を通して、在宅療養者とその家族への看護を実践できる。
5. 保健所見学を通して、事業内容や市町村と諸機関との連携、看護師・保健師の役割を理解する。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1～2回	在宅人工呼吸療法(HMT)を行っている療養者への看護	・HMTの適応条件、HMTを行う療養者への在宅看護 ・排痰に関する在宅看護技術 【グループワーク】もし、あなたやあなたの家族が、人工呼吸器を装着するかどうかの決断を迫られた時どうしますか？ (動画視聴)慢性呼吸器疾患のある療養者の看護～HMT～
第3回	在宅酸素療法(HOT)を行っている療養者への看護	・HOTについて・・HOTを用いる在宅療養者への在宅看護 (動画視聴)在宅酸素療法を行う療養者への看護
第4～5回	在宅看護の対象者としての家族への支援	・家族のアセスメント・家族への支援 (意思決定支援／療養・介護指導／相談と支持的援助／家族関係の調節) ・地域システムの視点から家族を支える (地域のサポート／ピアサポート／レスパイトケア) 【演習】認知症療養者とその家族に対する服薬指導
第6回	在宅中心静脈栄養法(HPN)、経管栄養法を行っている療養者への看護	・HPMについて ・HPNを用いる療養者への看護(用いる機材とその管理方法、皮下埋め込み式ポートへの穿刺と抜針方法、カテーテルの感染管理、緊急時の対応、関係職種との連携) ・経鼻経管栄養法、胃瘻の合併症・経管栄養法での生活の工夫 【演習】在宅で経管栄養法を行っている療養者とその家族への指導 (動画視聴)在宅栄養療法を行う療養者への看護～中心静脈栄養法、経腸栄養法～
第7～8回	排泄機能に障害のある在宅療養者への看護(膀胱留置カテーテル、消化管ストーマ、尿管ストーマ)	・膀胱留置カテーテルを適応している療養者への在宅看護 ・プライバシーの保護と生活の工夫 ・ストーマを造設している在宅療養者への看護、生活の工夫 【演習】膀胱留置カテーテル挿入中の療養者とその家族への指導 (動画視聴)皮膚ケアを必要とする療養者の看護～ストーマ～
第9回	在宅における褥瘡の予防とケア	・皮膚の構造、機能／スキンケア、スキンテアの予防とケア ・褥瘡の予防(スケールの活用、マットレスの選定、体圧の管理、疾患管理、皮膚ケア、姿勢管理、介護力の評価) ・褥瘡発生時の対応、治療、ケア計画の実際
第10回	外来がん治療の支援 在宅における疼痛緩和療法について	・外来がん治療支援の基本 ・外来がん薬物療法／放射線療法をうける療養者の支援 ・在宅における疼痛緩和ケア ・疼痛緩和ケアを受ける療養者への在宅看護
第11～12回	在宅で療養する子どもへの看護	・小児在宅医療の目的、小児在宅医療の対象となる子どもの特徴 ・退院前からの連携、障害児を持つ家族のストレス ・小児訪問看護の実際 【グループワーク】在宅療養を開始する重症心身障がい児
第13～14回	中讃保健所施設見学	・保健所で実施されている事業とその概要 ・市町村及び諸機関との連携協働 ・保健所の機能 ・保健師の役割
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

第１～６・１５回 百合 葵(５０)、第７～９・１５回 難波朱美(２０)、
第１０～１２・１５回 長内秀美(２０)、第１３～１４・１５回 高橋浩美(１０)

11 学習方法

講義／自己学習／VTR／グループワーク／演習

12 評価方法

筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野 〔1〕地域・在宅看護の基盤 医学書院
【電子版】専門分野 〔2〕地域・在宅看護の実践 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア メディカ出版

14 学生への要望

医療依存度の高い在宅療養者が増えています。住み慣れた場所で療養者と家族が生活することを支えるためには看護師の医療的ケア技術の習得は必要不可欠です。講義と演習を通して在宅療養者とその家族に対する看護の実践能力を高めていきましょう。

地域の暮らしを守る演習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	荻田育代(看護師)

8 授業概要

地域で暮らす多様な人々の日常生活や、さまざまな年齢層の人々が行っている健康づくりの取り組みや活動について理解する。近年、健康意識の高まりにより、マラソンなどのスポーツイベントが各地で開催されており、参加者が安心して活動できるよう、AEDの設置を含む救護体制が整えられている。これらの地域活動への理解を通して、ファーストエイドとしての実践的な役割や、日常生活に潜むリスクを予測し備えることの重要性を学ぶ。
また、地域の暮らしの実際から、市町村や社会福祉協議会などが地域と協働し、健康な生活に向けた課題を共有・発見していく過程について理解を深める。
(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、地域の暮らしについて講義する。)

9 到達目標　(関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 地域の日常の中の防災を知り、日頃の災害への備えについて提案できる。
2. 地域で暮らす健康福祉の取り組みに参加し、どのような支援を行っているか理解する。
3. マラソン大会のAED隊に参加し、ファーストエイドとしての役割を理解する。
4. 認知症サポーターの役割を学び、地域で暮らす認知症のある方との対応を理解する。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	地域に暮らす人々の健康とその支援①	地域の暮らしを理解する必要性についての説明 グループ編成紹介、事前学習や記録方法の説明
第2～3回	地域に暮らす人々の健康とその支援②	【聴講】宇多津町の特徴、宇多津町民の健康と福祉の取り組みについて学ぶ〔宇多津町役場〕
第4～5回	地域に暮らす人々の健康とその支援③	【体験学習・グループワーク】 認知症サポーターの方から講義を受け、認知症の方の援助方法を学び、オレンジサポーター登録を行う 認知症サポーターの講義で学んだ内容をまとめる
第6回	地域に暮らす人々の健康とその支援④	【体験学習】住民の健康・福祉の取り組みに参加、インタビューを通して健康な生活を考える(地域包括センター、保健センター:はぐはぐ、健康診断、コスモス、まんでがん体操)
第7～9回	災害から暮らしを守る	【体験学習】災害の体験を通して、地域での災害への備えや防災について学ぶ。防災時の看護師や看護学生の役割を考える。[香川県防災センター]
第10～11回	地域で開催されるマラソン大会のAED隊の役割を知る	【体験学習】 ファーストエイドの役割として丸亀ハーフマラソンのAED隊として参加する
第12～13回	地域の日常の中の防災・緊急対応	【聴講・体験学習】緊急時の支援、病院とのつながりを知る [丸亀消防署]
第14～15回	まとめ	【グループワークと発表】 演習を通して、地域の多様な人々の暮らしを守るシステムや、自分たちにできることを考え、発表

11 学習方法

講義／グループワーク／体験実習／見学実習

12 評価方法

レポート／グループワークの成果物と発表

13 教科書

【電子版】専門基礎分野　社会保障・社会福祉　医学書院
【電子版】専門基礎分野　看護関係法令　医学書院
【電子版】専門分野　〔1〕地域・在宅看護の基盤　医学書院
【電子版】専門分野　〔2〕地域・在宅看護の実践　医学書院
【電子版】eナーストレーナー　医学書院

参考書

防災センター　パンフレット

14 学生への要望

本科目は、地域・在宅看護論に関連する科目を学んでいくための土台となる科目です。官公庁をはじめとした地域のさまざまな組織は、法令に基づいて活動し、地域で暮らす人々の安全で安心な生活を支えています。
日々の暮らしがどのような仕組みによって守られているのか、また災害時には地域がどのように連携して人々を支えているのかについて、講義や体験を通して少しずつ理解を深めていきましょう。
学んだことを自分自身の生活や将来の看護実践と結びつけながら、関心をもって主体的に取り組むことを期待します。

働く人々の健康を守る演習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	平尾智広 小槌聡子（保健師）

8 授業概要

私たちが生活する地域にはどのような産業があり、私たちの暮らしがあるのかを知ることで、地域で働く人々の健康を考えることができる。健康的な生活の維持・増進を図ることが、地域の発展を支えることとなる。働く人々に生じる健康問題と職場における健康管理のしくみを理解し、働く人々の健康を守る活動を看護職としてどのように展開すればよいかを体験実習等を通して考える。

（産業で看護業務に携わった経験を持つ教員が、働く人々の健康について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 私たちが生活する地域の産業を知り、そこで働く人々の労働環境を理解する。
2. 労働がもたらす健康への影響を体験から考えることができる。
3. 働く人々の健康を維持するための予防活動が理解できる。
4. 働く人々の健康を守る看護職の役割を考えることができる。

10 授　業　計　画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	働く人々の健康とは	【講義】働く人々とは、生活と健康
第2回	働く人々の健康を守るしくみ	【講義】労働衛生管理の3管理と5領域／労働安全衛生法／産業保健活動
第3～4回	健康維持のための一次予防	【見学実習】健康診断・人間ドック
第5回	地域での生活	【講義】健康診断・人間ドック 【グループワーク】地域の産業
第6～9回	地域の産業に携わる人々の健康	【見学実習】企業の労働者
第10～12回	地域の産業に携わる人々の健康	【体験実習】農業で働く労働者
第13回	労働がもたらす健康への影響	【グループワーク・講義】職業と健康
第14～15回	働く人々の健康を守る看護職の役割	【グループワーク／発表】働く人々の労働環境／ 働く人々の栄養・休息・睡眠と生活への提案／看護職の役割

第１回　平尾智広、第２～１５回　小槌聡子（１００）

11 学習方法

講義／グループワーク／体験実習／見学実習

12 評価方法

演習日誌／レポート／グループワークの成果物と発表/小テスト

13 教科書	参考書
【電子版】専門基礎分野　公衆衛生　医学書院	職場の健康がみえる　メディックメディア

14 学生への要望

私たちが暮らす地域には、どのような産業が存在するのかを知ってもらいたい。地域で働く人々の職業を知り、実際の企業や職場に赴いた見学、体験から、看護職としてできることを積極的に考えてほしい。
地域で生活する人々が病気になった時には地域の医療機関を受診する。学生が医療機関で出会う人々はこのような地域の人々である。授業を通して、働く人々の健康を守るための看護職としての役割を考える機会としてもらいたい。
また、看護職としてのキャリアアッププランのひとつとして、健康増進を支える役割を担えることを知ってほしい。

地域・在宅看護方法論Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	阿部美知子（看護師）

8 授業概要

在宅における看護のゴールは、望む場所での療養継続やセルフケア機能の維持・低下防止が挙げられる。つまり、疾患を抱えつつも生活者として生きていく療養者とその家族を支えていくことが重要である。価値観や生活習慣、要望に配慮した目標や計画を立案していくといった在宅看護過程の特徴を理解した上で、事例を通し展開方法を学ぶ。

（病院の看護業務の経験を持ち在宅看護領域における資格を有する教員が、在宅の看護過程の展開について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 在宅看護の事例・演習を通して、看護過程の展開ができる。
2. 情報収集・看護診断・計画立案・実施・評価ができる。
3. 在宅療養者の病期に応じた看護が理解できる。
4. 在宅療養者やその家族に対し、健康維持、QOL維持向上を目指した看護が理解できる。

10 授 業 計 画		各時間で学ぶべきこと
第1回	在宅看護過程の展開方法 在宅看護過程の展開方法のポイント	在宅看護過程の展開方法／在宅看護過程の展開方法のポイント
第2～3回	日常生活動作(ADL)の低下及び疾病の再発の予防が必要な在宅療養者	(事例)脳血管障害 日常生活のアセスメントと環境整備／ 在宅療養者と家族のセルフマネジメントの維持向上のための支援／ 異常の早期発見と対応／在宅におけるリハビリテーション／ 居住環境アセスメントと社会資源の活用、調整
第4～5回	急性期にある在宅療養者の看護	(事例)誤嚥性肺炎 緊急性と重症度のアセスメント／状態に合わせた対応、 看護／急性症状への対応／感染症への対応
第6～7回	慢性期にある在宅療養者の看護	(事例)COPD 慢性期の特徴を踏まえた状態のアセスメント／ 状態に合わせた対応・調整／急性増悪の早期発見と対応／ 在宅酸素療法／社会資源の活用
第8～10回	終末期(看取り期)にある在宅療養者の看護	(事例)膵臓がん 症状アセスメント／意思決定支援／終末期緩和ケアの実際／疼痛マネジメント／看取りの援助／家族へのグリーフケア 【演習】デスカンファレンス
第11～12回	認知症の在宅療養者に対する看護	(事例)アルツハイマー型認知症 症状アセスメント／認知症高齢者の日常生活自立度判定基準／在宅療養継続のための療養者の健康管理、家族支援／療養者の自立支援とQOLの維持、向上のための在宅療養支援
第13～14回	難病の在宅療養者に対する看護	(事例)筋萎縮性側索硬化症 症状アセスメント／在宅療養継続のための療養者の健康管理、家族支援／療養者の自立支援とQOLの維持、向上のための在宅療養支援／社会資源の活用、調整 【演習】在宅人工呼吸療法を行っているALS療養者への援助
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／演習／自己学習／グループワーク

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書	参考書
【電子版】専門分野 〔1〕地域・在宅看護の基盤　医学書院 【電子版】専門分野 〔2〕地域・在宅看護の実践　医学書院 【電子版】eナーストレーナー　医学書院	参考文献や図書については適宜授業時に紹介します

14 学生への要望

在宅看護における看護過程の特徴を学び、個別性のある展開に活かしてほしい。
演習、グループワークには積極的に参加してほしい。事前学習をして授業に臨むこと。
国家試験出題基準を確認し学習すること。

臨床判断演習Ⅱ（地域・在宅看護論）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	百合葵（看護師）

8 授業概要

病院では薬剤の使用判断など医療的な判断は通常、医師が行う。しかし、在宅療養患者においては、すべての場面で医師の指示があるわけではなく、看護師は患者の状態に基づいて独自の判断を行い、適切な介入をする必要がある。在宅療養における看護師の臨床判断プロセスを学び、多職種が連携する地域ケア会議を通じて、患者に最適なケアを提供するための判断能力を養うことを目指す。さらに、看護師がどのように臨床判断を行い、制度やサービスを利用して患者支援をしていくかを実践的に学ぶ。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、地域・在宅看護においての臨床判断について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 地域・在宅における看護師の役割を理解し、臨床判断プロセスを適切に活用できる。
2. レビー小体型認知症の臨床推論を用い、的確な介入を導き出せる。
3. 腎不全（腹膜透析）の患者に対し、予測される健康問題を把握し、必要な看護実践を実施できる。
4. 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の進行に応じた健康課題を予測し、適切な看護介入を実施できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	地域・在宅看護における場面で遭遇する臨床判断の実際	地域・在宅看護で必要な基礎知識とその視点 【VTR】 高齢者の在宅における多職種連携 ～地域ケア会議：ケアや地域の連携を考える～
第2回	【事例1】レビー小体型認知症への臨床判断	【事例演習】レビー小体型認知症患者の事例の看護実践場面を臨床判断のおける4つのプロセス「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」でとらえる。
第3回	【事例1】レビー小体型認知症における臨床判断	【事例演習】レビー小体型認知症患者の事例の看護実践をさらに「行為後に省察」し、より的確な看護実践を導き出す。
第4回	【事例2】腎不全（腹膜透析）における臨床判断	【事例演習】腎不全（腹膜透析）患者の事例の看護実践場面を臨床判断のおける4つのプロセス「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」でとらえる。
第5回	【事例2】腎不全（腹膜透析）における臨床判断	【事例演習】腎不全（腹膜透析）患者の事例の看護実践をさらに「行為後に省察」し、より的確な看護実践を導き出す。
第6回	【事例3】筋萎縮性側索硬化症（ALS）における臨床判断	【事例演習】筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の事例の看護実践場面を臨床判断のおける4つのプロセス「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」でとらえる。
第7回	【事例3】筋萎縮性側索硬化症（ALS）における臨床判断	【事例演習】筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の事例の看護実践をさらに「行為後に省察」し、より的確な看護実践を導き出す。
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／VTR／グループワーク／演習

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

【電子版】専門分野 〔1〕地域・在宅看護の基盤 医学書院
【電子版】専門分野 〔2〕地域・在宅看護の実践 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

看護学生のためのACPワークブック
メジカルフレンド社

14 学生への要望

地域・在宅における多職種連携について学び、住み慣れた地域で最後まで暮らすことができるようにサポートできるよう知識を深めましょう。

成人看護学概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	六車輝美(看護師)

8 授業概要

成人期は人生でも長く変化の著しい期間でもある。成人看護学の対象は、社会で働く人や家庭生活で家事や育児・介護の中心である人などが社会的役割や責任をもちながら生活をしている人々である。このような人々が健康を害した時に安心して治療を受けられるよう、健康回復を促す看護や、健康課題を持ちながらもその人らしく生活するための看護を一人ひとりの立場や役割、生活習慣と関連づけて考える。つまり、身体的な健康レベルだけでなく、その人が生活している家庭や社会における役割、生活習慣、価値観や心理的側面を理解することが求められる。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 成人期の成長発達や健康問題の特徴について述べることができる。
2. 健康状態に応じた看護について理解し説明できる。
3. 成人看護学で用いられる代表的な看護理論を事例と照らし合わせて考えることができる。
4. 成人期の人々の発達課題や健康問題の特徴を踏まえた看護を提供することの意義とその方法を考察できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	成人と生活	【講義】対象の理解、生涯発達の特徴、成人各期の特徴 【GW・発表】事例:青年期と壮年期の特徴を捉える
第2回	生活と健康	【講義】成人を取り巻く環境と生活からみた健康 【GW】事例:健康な生活を目指す、事例:制度の活用
第3回	生活と健康	【講義】生活と健康をまもりはぐくむシステム
第4回	成人への看護アプローチの基本①	【講義】大人の学習、学習に基づく行動形成(アンドラゴジー、バンデューラーなど)、症状マネジメント、医療における人間関係
第5回	成人への看護アプローチの基本②	【講義】集団グループへのアプローチ、看護のマネジメント、倫理的判断、チームアプローチ
第6回	ヘルスプロモーションと看護	【講義】ヘルスプロモーションとは、健康増進のための環境づくり、地域・職場のヘルスプロモーション活動
第7回	健康をおびやかす要因と看護	【講義】健康バランスの構成要素・要因、ストレスが健康に及ぼす要因、ストレス対処方法(ストレスコーピングプロセス)
第8回	健康生活の急激な破綻から回復支援する看護①	【講義】生命の危機状態、急性期にある人が受ける医療と看護、事例検討:危機モデル(フィンク、アギュララとメズイック)
第9回	健康生活の急激な破綻から回復支援する看護②	【講義】急性期の治療過程にある患者の看護、ボディイメージ修正への支援
第10回	慢性病と共に生きる人を支える看護	【講義】慢性病とともに生きる、生きる人を支える、不確かさ、病みの軌跡、慢性病の管理:ヘルスビリーフモデル、自己効力感に基づく支援方法
第11回	障害がある人と生活とリハビリテーション	【講義】障害とは、生活を支援する看護、急性期と回復期のリハビリテーションと看護
第12回	人生の最後のときを支える看護	【講義】緩和ケア、死の判定、死への軌跡(キューブラロス)、トータルペイン、ケアリング、意思決定支援、ACP、事例:患者と家族への支援
第13回	様々な健康レベルにある人の継続的な移行支援	【講義・動画】移行支援、療養の特徴、意思決定、多職種支援、社会資源の活用、事例:移行支援(脳梗塞、乳がん)
第14回	あらたな治療法、先端医療と看護	【講義】移植と再生医療、治験 【GW】新しい治療法とその課題
第15回	試験/まとめ	試験/まとめ

11 学習方法

講義/グループワーク/PBL/視聴覚教材

12 評価方法

筆記試験70%/レポート30%(事前・事後の課題など)

13 教科書	参考書
【電子版】専門分野 成人看護学総論 医学書院	【電子版】eナーストレーナー 医学書院

14 学生への要望

成人期の患者を看護する上での大切なことを学び、、その実践にはどのような概念や知識が必要なのかについて考え実践に繋げます。能動的に授業となるよう、事前の学習課題をしっかりとおこない、授業に取り組んでください。

成人看護方法論Ⅰ（呼吸器・循環器）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	小槌聡子（看護師） 都築かおり（看護師）

8 授業概要

呼吸器・循環器の病変によって症状はおこる。その症状に対して検査がおこなわれ、その検査結果に基づく判断で治療・処置がおこなわれる。この一連の過程で看護は重要な役割を果たしている。この一連の看護を学ぶと共に、代表的な疾患の事例を基に演習として展開する。呼吸器・循環器に起こっている状況をアセスメントし、その看護援助がおこなえる基礎的能力を養う。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が成人看護学領域における看護技術について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 呼吸器・循環器の病態と看護の特徴を理解する。
2. 急激な健康状態の変化が起こっている患者に対し、観察や適切な対処、医療処置、心理的安定などを理解する。
3. 集中治療の特徴と治療を受けている患者の心理を理解する。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	肺がんの胸腔鏡下手術を受ける患者の看護①	【事例展開】入院までの状況、入院から術前までの準備、身体所見 吸気訓練（インセンティブースパイロメトリ）
第2～3回	肺がんの胸腔鏡下手術を受ける患者の看護②	【事例展開】 周手術期（術後） クリティカルパス／胸腔ドレナージを受ける患者の看護（刺入部の処置）
第4回	肺がんの胸腔鏡下手術を受ける患者の看護③	【事例展開】回復期 手術後から退院に至るまでの看護
第5回	肺がんの胸腔鏡下手術を受ける患者の看護③	【事例展開】退院から退院後の生活、 セルフマネジメント、退院指導、外来との連携
第6回	慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の経過と看護①	【事例展開】 慢性期（安定期）患者の看護
第7回	慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の経過と看護②	【事例展開】 慢性期（急性増悪期）患者の看護
第8回	慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の経過と看護③	【事例展開】 終末期（在宅酸素療法導入）患者の看護
第9回	慢性心不全患者の経過と看護①	【事例展開】 急性期（急性増悪期）の看護 スワンガンツカテーテル 循環動態モニタリング 非侵襲的陽圧換気NPPV
第10回	慢性心不全患者の経過と看護②	【事例展開】 回復期の看護 心臓リハビリテーション
第11回	慢性心不全患者の経過と看護③	【事例展開】 慢性期の看護／終末期の看護 セルフモニタリング 意思決定支援
第12回	冠状動脈バイパス術を受ける患者の手術直後の看護①	【事例展開】入院まで 心筋梗塞・狭心症をひきおこす要因分析
第13回	冠状動脈バイパス術を受ける患者の手術直後の看護②	【事例展開】手術中・手術直後 冠状動脈造影・OPCAB 侵襲に対する生体の反応、呼吸・循環動態の状態
第14回	恒久的ペースメーカー植え込み術を受ける患者の看護①	【事例展開】 一過性脳虚血発作TIA 心電図：完全房室ブロック ペーシング設定
第15回	試験／まとめ	試験

第１～８・１５回 小槌聡子（６０）、第９～１４・１５回 都築かおり（４０）

11 学習方法

講義／グループワーク／PBL／視聴覚教材

12 評価方法

筆記試験／提出物

13 教科書

【電子版】専門分野 呼吸器 医学書院
【電子版】専門分野 循環器 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

14 学生への要望

成人期における呼吸器・循環器に関する看護について学ぶ科目です。看護の実践に繋がりますので、自分の将来の姿と重ねながらどのような看護が必要か思慮深く考えましょう。

成人看護方法論Ⅱ（内分泌・消化器）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	中澤尚子 川本真理子（看護師）

8 授業概要

消化器・内分泌の病変があると、症状はおこる。その症状に対して検査がおこなわれ、その検査結果に基づく判断で治療・処置がおこなわれる。この一連の過程で看護は重要な役割を果たしている。この一連の看護を学ぶと共に、代表的な疾患の事例を基に演習として展開する。消化器・内分泌に起こっている状況をアセスメントし、その看護援助がおこなえる基礎的能力を養う。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が成人看護学領域における看護技術について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 成人看護の内分泌・消化器疾患の病態と看護の特徴を理解する。
2. 各疾患についての検査・処置・治療・看護技術など理解する。
3. 各疾患の治療を受けている患者の心理を理解する。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	内分泌・代謝・消化器疾患の特徴	【講義】内分泌・代謝・消化器疾患とは 症状、検査
第2回	甲状腺疾患の理解	【講義】甲状腺疾患の理解 【事例展開】バセドウ病 症状
第3回	バセドウ病患者への看護	【事例展開】バセドウ病 検査、薬物療法を受ける患者の看護、心理的支援
第4回	内分泌疾患患者への看護	【講義】内分泌疾患の検査を受ける患者の看護 内分泌疾患の症状と看護
第5回	糖尿病患者への看護	【事例展開】糖尿病 急性期～回復期～慢性期 急性合併症、治療、行動変容ステージ、食事制限、 生活に与える影響、シックデイ、自己管理、フットケア
第6・7回	糖尿病患者の血糖管理	【演習】血糖測定 【講義】アドヒアランスとコンプライアンス
第8回	胃がん患者への看護	【事例展開】胃がん 胃の解剖、分類、治療
第9回	胃がんで手術をうける患者への看護	【事例展開】胃がんに対する手術後の看護 ダンピング症候群、胃の状態に合わせた食事管理
第10回	消化器疾患患者への看護	【講義】消化器疾患を持つ患者への看護 疾患、症状、症状に対する看護
第11回	大腸がん看護①	【講義】手術～装着までの看護
第12回	大腸がん看護②	【演習】ストーマ装着の実際
第13回	大腸がん看護③	【講義】回復期の看護、社会復帰に向けた支援
第14回	大腸がん看護④	【講義・演習】日常性生活についての援助
第15回	試験／まとめ	試験

第１～１０・１５回 川本真理子（７０）、第１１～１４・１５回 中澤尚子（３０）

11 学習方法

講義／グループワーク／校内演習

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

【電子版】専門分野 内分泌 医学書院
【電子版】専門分野 消化器 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

14 学生への要望

成人期における内分泌・消化器に関する看護について学ぶ科目です。看護の実践に繋がりますので、自分の将来の姿と重ねながらどのような看護が必要か思慮深く考えましょう。

成人看護方法論Ⅲ（脳神経・運動器）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	塩田和代・藤沢千春 川本真理子（看護師）

8 授業概要

脳神経・運動器の病変によって症状はおこる。その症状に対して検査がおこなわれ、その検査結果に基づく判断で治療・処置がおこなわれる。この一連の過程で看護は重要な役割を果たしている。この一連の看護を学ぶと共に、代表的な疾患の事例を基に演習として展開する。脳神経・運動器におこっている状況をアセスメントし、その看護援助がおこなえる基礎的能力を養う。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が成人看護学領域における看護技術について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 成人期に及ぼす脳神経機能障害や運動機能障害の病態を理解し、必要な看護援助について学習することができる。
2. 障害のある患者へのリハビリテーションと看護の役割について理解できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	リハビリテーションの看護概論	【講義】運動器、脳・神経疾患に関する医療の動向と看護、患者の特徴、看護師の役割
第2回	大腿骨骨幹部骨折の患者の看護	【講義】大腿骨骨幹部骨折の患者の経過と看護 【演習】牽引
第3回	大腿骨頸部骨折による人工骨頭置換術後患者の看護①	【事例展開】入院から手術後までの経過 【演習】術後の疼痛コントロール、ドレーン管理、脱臼肢位
第4回	大腿骨頸部骨折による人工骨頭置換術後患者の看護②	【事例展開】術後から退院、退院後生活状況 【演習】退院指導
第5回	脊髄損傷患者の看護①	【事例展開】入院までの経過 【演習】日常生活への支援
第6回	脊髄損傷患者の看護②	【事例展開】術後の経過、障害受容の経過、家族支援
第7回	脊髄損傷患者の看護③	【事例展開】回復リハビリテーション病棟への転院 【演習】排泄セルフコントロール：自己導尿
第8回	脊髄損傷患者の看護④	【事例展開】回復リハビリテーション病棟への転院 【演習】ケースカンファレンス
第9～10回	リハビリテーション看護の実際	【講義・演習】杖歩行、MMT、ROM、他動自動運動、大腿四頭筋セッティング
第11～12回	脳梗塞の患者の看護	【事例展開】発症から入院までの経過：脳梗塞発症による入院、治療（薬物療法）、検査所見（画像） 【演習】意識レベルの観察（瞳孔反射などフィジカルイグザミネーション及びアセスメント）
第13～14回	脳梗塞の患者の看護	【事例展開】入院時の状態、手術後までの経過、リハビリテーション看護
第15回	試験／まとめ	試験

第１～８・１５回　川本真理子（６０）
第１１～１４・１５回　塩田和代（３０）、第９～１０回　藤沢千春（１０）

11 学習方法

講義／演習

12 評価方法

筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野　脳・神経　医学書院
【電子版】専門分野　運動器　医学書院
【電子版】別巻　リハビリテーション看護　医学書院
【電子版】eナーストレーナー　医学書院

参考書

14 学生への要望

リハビリテーションの基本や方法、疾患に対する治療・看護について学び臨地実習での看護に役立ててほしい。

成人看護方法論Ⅳ（血液造血器・膠原病・感染症）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	30時間	必修	渡邉美奈・嘉納香代子・高橋浩美（看護師）

8 授業概要

血液造血器の病変および膠原病・アレルギー・感染症によって症状はおこる。その症状に対して検査がおこなわれ、その検査結果に基づく判断で治療・処置がおこなわれる。この一連の過程で看護は重要な役割を果たしている。この一連の看護を学ぶと共に、代表的な疾患の事例を基に演習として展開する。血液造血器の病変および膠原病・アレルギー・感染症により身体におこっている状況をアセスメントし、その看護援助がおこなえる基礎的能力を養う。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が成人看護学領域における看護について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 各疾患の医療の動向や患者の特徴と看護の役割が理解できる。
2. 各疾患の主要な症状や検査、治療を受ける患者の看護が理解できる。
3. 患者の疾患別の看護が理解できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	血液・造血器疾患をもつ看護（患者の経過と看護）	【講義】血液・造血器疾患に関する医療の動向、看護師の役割
第2～3回	急性骨髄性白血病患者の看護①	【講義】診断時から治療開始までの患者へのケア、化学療法・輸血療法を受ける患者へのケア
第4～5回	急性骨髄性白血病患者の看護②	【GW・事例展開】寛解導入療法を受ける患者の看護展開 【講義】造血幹細胞移植を受ける患者へのケア
第6～7回	悪性リンパ腫患者の看護①	【事例展開】外来における治療 【GW】外来における化学療法の副作用の看護
第8回	悪性リンパ腫患者の看護②	【事例展開】ボディイメージの変化 【GW】日常生活、精神的症状、社会的側面を含めた支援
第9回	膠原病の疾患を持つ患者の看護①	【講義】膠原病に関する医療の動向と看護、患者の特徴、看護師の役割 疾患をもつ患者の看護：関節リウマチ、シェーグレン症候群、全身性強皮症
第10回	膠原病の疾患を持つ患者の看護②	【講義】膠原病に関する医療の動向と看護、患者の特徴、看護師の役割 【GW・事例展開】事例：全身性エリテマトーデス患者の経過と看護 【演習】退院支援
第11～12回	褥瘡患者の看護	【講義】褥瘡の予防とケアの動向、褥瘡発生のメカニズム 、スキンケア、褥瘡の重症度（深さ）分類 、褥瘡のリスクアセスメント、褥瘡ケアの実際
第13～14回	熱傷患者の看護・創傷管理	【事例展開】熱傷による入院、疼痛コントロール、創部管理、社会復帰と退院後の処理の指導 【講義】手術創の特徴と管理、ドレーン管理、創傷管理方法
第15回	試験／まとめ	試験

第２～５・１５回　渡邉美奈（３０）、第１・６～１０・１５回　高橋浩美（４０）、第１１～１４・１５回　嘉納　香代（３０）

11 学習方法

講義／グループワーク

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

【電子版】専門分野　血液・造血器　医学書院
【電子版】専門分野　アレルギー、膠原病、感染症　医学書院
【電子版】専門分野　皮膚　医学書院
【電子版】専門分野　眼　医学書院
【電子版】専門分野　耳鼻咽喉　医学書院
【電子版】専門分野　歯・口腔　医学書院

参考書

【電子版】別巻　クリティカルケア看護学　医学書院
【電子版】別巻　臨床外科総論　医学書院
【電子版】eナーストレーナー　医学書院

14 学生への要望

成人期で、疾患により種々の障害をあわせもつ可能性のある1人ひとりの人間、すなわち看護の対象としての人間のあらゆる変化に対応できるように知識、技術、態度を学びとってほしい。

成人看護方法論Ⅴ（女性生殖器・腎泌尿器）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	西紋佳奈・阿部真吾 粟井京子

8 授業概要

女性生殖器・腎泌尿器の病変によって症状はおこる。その症状に対して検査がおこなわれ、その検査結果に基づく判断で治療・処置がおこなわれる。この一連の過程で看護は重要な役割を果たしている。この一連の看護を学ぶと共に、代表的な疾患の事例を基に演習として展開する。女性生殖器・腎泌尿器に起こっている状況をアセスメントし、その看護援助がおこなえる基礎的能力を養う。

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 乳がんの手術を受ける患者の看護が理解できる。
2. 手術及び抗がん剤治療を受ける卵巣がん患者の看護が理解できる。
3. 糖尿病性腎症から透析導入となった患者の看護が理解できる。

10 授 業 計 画		各時間で学ぶべきこと
第1回	乳がんの患者の看護	乳がんの病型と進行／検査・治療
第2回	乳がんの手術を受ける患者の看護	【事例展開】乳がん発見から入院、手術前日・手術当日
第3回	乳がんの手術を受ける患者の看護	【事例展開】術後の観察と合併の予防／化学療法
第4回	乳がんの手術を受ける患者の看護	【事例展開】日常行動への援助／ボディイメージの変化の受容
第5回	ｸﾞﾙｰﾌﾟ発表	発表・総評
第6回	卵巣がん患者の看護	【事例展開】 検査の介助：超音波・組織診・CT画像／検査データの解釈
第7回	卵巣がん患者の看護	【事例展開】 化学療法:抗がん剤による副作用・リンパ浮腫
第8回	卵巣がん患者の看護	【事例展開】 ホルモン療法／妊孕性への支援
第9～10回	子宮がん患者の看護	【事例展開】 広汎性子宮全摘出術／残尿測定・自己導尿・骨盤底筋運動
第11回	透析導入となった患者の看護	【事例展開】 糖尿病からの腎症発症 入院時の検査結果の分析／治療方針 医学的適応・自己決定支援・生活スタイルの変更支援
第12回	透析導入となった患者の看護	【事例展開】 血液透析：体液の管理・シャント管理・食事管理・薬物管理
第13回	透析導入となった患者の看護	【事例展開】 腹膜透析：バッグ交換操作・出口部カテーテルケア・自己管理記録
第14回	透析導入となった患者の看護	【事例展開】 退院後指導／通院による自己管理・自己管理記録
第15回	試験／まとめ	試験

第１～５・１５回　西紋佳奈（４０）、第６～１０・１５回　粟井京子（３０）、
第１１～１４・１５回　阿部真吾（３０）

11 学習方法

グループワーク／事例演習・校内演習／視聴覚教材によるイメージ化

12 評価方法

筆記試験／課題提出

13 教科書	参考書
【電子版】専門分野　女性生殖器　医学書院 【電子版】専門分野　腎泌尿器　医学書院 【電子版】eナーストレーナー　医学書院	

14 学生への要望

テキストの事例を使用した看護過程を展開する。展開するにあたっては、検査・治療時の看護についてその役割を学ぶ。代表的な疾患を取り上げていることから、臨床における実習に活用してもらいたい。

臨床判断演習Ⅲ（成人看護学）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	1単位	30時間	必修	小槌聡子（看護師）

8 授業概要

成人期の特徴を踏まえて臨床で遭遇しやすい「脊椎損傷」「食道癌」「くも膜下出血」「脳梗塞」「心不全」の事例を用いて患者とその家族の問題を推測し、適切な看護介入を導き出すための思考の展開の実際を学ぶ。
看護介入の前後で患者とその家族の背景、状態や変化を「解釈」「省察」し、看護を展開する際、実践の基盤となる臨床判断について学ぶ。
（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護においての臨床判断について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 成人期の健康障害の特徴と、その治療過程における看護について、知識と技術を統合し臨床判断能力を培う。
2. 患者とその家族の問題を明らかにし、臨床推論に基づいて的確な介入を導き出せる。
3. 事例展開を通して患者とその家族の看護を踏まえ、臨床場面において起こりうる問題を臨床判断できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	臨床判断過程の展開 【事例1】看護場面で遭遇する疾患・患者の理解：脊髄損傷	【講義・GW】 事例提示・客観的臨床能力試験の概要説明、事例理解
第2～3回	臨床判断過程の展開 【事例1】脊椎損傷患者の看護 排泄援助：導尿場面	【講義・演習】 脊椎損傷患者の導尿場面をとらえグループに分かれて導尿の演習
第4～5回	臨床判断過程の展開 【事例1】脊椎損傷患者の看護 排泄援助：浣腸場面	【講義・演習】 脊椎損傷患者の浣腸場面をとらえグループに分かれて浣腸の演習
第6回	臨床判断過程の展開 【事例2】看護場面で遭遇する疾患・患者の理解：食道癌	【講義・GW】 事例理解、化学療法・放射線療法の場面をとらえ事前学習してきた内容についてグループワーク
第7回	臨床判断過程の展開 【事例3】看護場面で遭遇する疾患・患者の理解：くも膜下出血・麻痺性イレウス	【講義・GW】 CT・MRI・レントゲン・PET画像検査、撮影時の援助や注意点
第8～9回	臨床判断過程の展開 【事例3】看護場面で遭遇する疾患・患者の理解：くも膜下出血・麻痺性イレウス	【講義・演習】 麻痺のある患者の場面をとらえ脱臼予防の方法について三角巾の巻き方や車椅子移乗の演習
第10～11回	臨床判断過程の展開 【事例4】看護場面で遭遇する疾患・患者の理解：心不全	【講義・演習】 薬剤、検査データ、心電図電極装着・心電図波形
第12回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際：ショック	【講義・GW】 ショックの種類と症状の理解、ISBARCを用いた報告
第13～14回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際 客観的臨床能力試験	【試験】 客観的臨床能力試験 学習してきた事例を受け持ち臨床判断を行う。看護実践後、「省察」し、より的確な看護実践を導き出す
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

グループワーク／事例演習・校内演習

12 評価方法

筆記試験／実技試験／課題提出

13 教科書	参考書
【電子版】専門分野 成人看護学1～15 医学書院 【電子版】eナーストレーナー 医学書院	

14 学生への要望

看護師として必要な臨床判断能力を身につけるべく自己研鑽に励んでほしい。

老 年 看 護 学 概 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	後期	1単位	15時間	必修	西原和代

8 授業概要

老年期は人生の集大成の時期である。加齢によってこれまでできていたことができなくなるなどの辛さや無力感を抱える時期でもある。その人らしく生活でき「その人のもつ力」が発揮できるよう支援することが重要となる。高齢においても「その人のもつ力」を信じて関わる基本的な看護の考え方を学ぶ。具体的には老いとは何か、老年期の発達課題から老年期の特徴を理解する。また、シニア体験により加齢変化を理解し、高齢者の権利擁護と倫理的問題を学ぶ。

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 老いの意味を考え、高齢者に関心を持つことができる。
2. シニア体験により、加齢に伴う高齢者の健康状態の変化を説明できる。
3. 老年期にある対象の特徴とその健康生活について理解し、具体的に述べることができる。
4. 老年期の対象の尊厳と権利擁護を学び、事例と照らし合わせて考え、説明できる。
5. 老年看護における倫理的問題を学び、看護実践できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	高齢者の理解 「老いる」ということ	【グループワーク】(視聴覚教材)「老いとは何か」 【講義】老いのイメージ、高齢者の定義
第2回	高齢者の理解 老年期と発達・変化、加齢と老化	【講義】発達と成熟、発達課題、高齢者のスピリチュアリティ、 老年期の健康と生活 ・有訴・通院・入院率
第3回	高齢者の理解—個別性・多様性、 その人らしい生活、高齢者の健康と疾病	【講義】加齢に伴う身体的特徴、加齢に伴う精神的、社会的、 spiritual な特徴、高齢者にとってのQOL
第4回	高齢者の理解—加齢への適応 シニア体験①	【演習】シニア体験 疑似白内障、疑似難聴、疑似手指・体幹感覚、 疑似関節拘縮の装備をしてペアで校内と5号館周辺を移動する。
第5回	高齢者の理解—加齢への適応 シニア体験②	【演習】高齢者体験発表
第6回	高齢者をとりまく社会	【講義】高齢者の生活と家族 、高齢者と家族のライフサイクル、 【グループワーク】高齢者のいる家族の変化
第7回	高齢者の権利擁護	【講義】高齢者の倫理的課題と法的整備、差別の防止、虐待の防止 【グループワーク】安全確保と身体拘束
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／グループワーク／校内演習

12 評価方法

筆記試験／課題レポート

13 教科書

【電子版】専門分野 老年看護学 医学書院

参考書

令和元年高齢社会白書
(内閣府https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2019/html/zenbun/index.html)

14 学生への要望

高齢者に対して、老化現象というマイナスイメージではなく、エイジングの多様でポジティブな側面に着目しつつ、広い視野から老年看護を学び始めましょう。シニア体験により高齢者の加齢による身体的・心理的および社会的特徴について理解を深め、超高齢社会の動向や日頃のニュースや地域の行事等に関心をもって生活しましょう。

老 年 看 護 方 法 論 Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	藤井園美子(看護師)

8 授業概要

老年期の特徴を踏まえ、様々な健康段階にある高齢者が社会資源を活用し人生で培ってきた経験や考え方を生かし、その人らしく生活するための手段や方法について学習する。また、加齢や身体機能の低下に伴いできることが限られてきたり、大切な存在との別離を経験するが、「年齢を重ねる＝ネガティブなこと」ではない。しかしながら老年期は人生の最終ステージの時期でもあるためエンドオブライフを豊かにする(高齢者のQOLの向上)ための援助について学習していく。
(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、加齢現象が日常生活に及ぼす援助について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 老年期の対象を取り巻く社会と保健福祉制度の種類を列挙できる。
2. 老年看護の発展と定義を学び老年看護の役割を理解し、説明できる。
3. 高齢者の生活機能を整える看護について学びを深め、実施できる。
4. 高齢者の健康段階及び生活・療養の場における看護について学びを深め、実施できる。
5. 高齢者におけるエンドオブライフケアについて理解し、説明できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	多様な場で展開する高齢者の看護 高齢者を支える制度と社会資源	超高齢社会の統計的輪郭 高齢者に関する保健・医療・福祉の変遷
第2回	高齢者看護の特性と諸理論	老年看護の定義・役割、老化理論・心理社会面理論・生涯発達理論・高齢者看護の概念・幸福論・ウエルネスアプローチ・コンフォート理論・エンパワメント・スピリチュアリティー理論
第3回	高齢者への看護技術の特徴 1)高齢者の自立とセルフケア支援	日常生活動作のアセスメント、転倒やその他の事故のアセスメント及び健康づくり・転倒予防・介護予防
第4回	高齢者への看護技術の特徴 2)高齢者のQOLへの支援	事例を通した生活機能障害のある高齢者の援助の実際 【演習】摂食嚥下障害のアセスメント、食事姿勢への援助
第5回	高齢者への看護技術の特徴 3)高齢者のQOLへの支援	事例を通した生活機能障害のある高齢者の援助の実際 【演習】介護食(ソフト食等)の試食、食事摂取時のケア
第6回	高齢者への看護技術の特徴 4)安全性・安楽性・効率性への支援	事例を通した生活機能障害のある高齢者の援助の実際 【演習】排泄のアセスメント、排尿及び排便時のケア
第7回	高齢者への看護技術の特徴 5)安全性・安楽性・効率性への支援	事例を通した生活機能障害のある高齢者の援助の実際 清潔のアセスメントと清潔ケア、生活リズムのアセスメントとケア
第8回	高齢者への看護技術の特徴 6)安全性・安楽性・効率性への支援	事例を通した生活機能障害のある高齢者の援助の実際 コミュニケーション能力のアセスメントと方法、セクシュアリティについて
第9回	高齢者の健康段階に応じた看護— 急性期・周術期	事例を通した生活機能障害のある高齢者の援助の実際 手術療法:術後せん妄
第10回	高齢者の健康段階に応じた看護— 検査・入院治療・外来受診	検査・治療・介護を必要とする高齢者の家族の看護 (退院支援・退院調整も含む)
第11回	生活・療養の場における看護— 生活の場の移動	医療施設・介護保険施設、地域密着型サービス・居宅サービスの利用、社会資源とは、社会参加、地域包括ケア、ケアマネジメント
第12回	生活・療養の場における看護— 多職種連携、災害看護	多職種連携実践による活動 災害に伴う看護
第13回	高齢者の健康段階に応じた看護— 1)End-of-life care	エンドオブライフケアの概念・「生ききる」ことを支えるケア 意思決定への支援・アドバンスケアプランニング
第14回	高齢者の健康段階に応じた看護— 2)End-of-life care	事例を通した末期段階にある高齢者と家族の援助の実際 高齢者の末期段階における身体的変化とアセスメント、苦痛緩和するケア
第15回	試験／まとめ	試験

11 学習方法

講義／グループワーク／校内演習

12 評価方法

筆記試験／課題レポート

13 教科書

【電子版】専門分野 老年看護学 医学書院

参考書

【電子版】eナーストレーナー 医学書院

14 学生への要望

人はみな老いを経験することで、老年期の身体的変化や精神的変化を実感します。しかし老いを経験していない皆さんはそのことを実感しづらい状況です。目に映る老いのみで高齢者を理解していると思い込んでしまうこともあります。授業を通して年を重ねて老いていくこと深く熟知し、高齢者像を現実のものと捉えそして関わっていけるようになって欲しいと考えています。高齢者数が増える日本で切っても切り離せない問題であり看護師国家試験にも出題傾向が多いため、日頃からニュースや新聞に興味を持ち授業を受けてください。

老 年 看 護 方 法 論 Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	荻田育代(看護師)

8 授業概要

高齢者に特徴的な、起立歩行障害、感覚機能障害などの老年症候群の視点から「予防」、「治療」、「看護」を学ぶ。認知機能障害のある認知症高齢者と家族の生活障害と心理的苦悩の理解に基づいた看護の展開の方法を具体的事例を通して学習する。また、高齢者の薬物療法に対する看護師の役割や評価スケール・アセスメントスケールの活用について学習し、多職種との連携ついて考える。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、老年看護学について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 高齢者のフィジカルアセスメントの特徴を理解し、説明できる。
2. 老年看護に必要な評価スケール・アセスメントツールを学び、実際に活用できる。
3. 老年症候群とその看護の方法を習得する。
4. 高齢者に多い疾患とその特徴・看護を理解し実施できる。
5. 認知症の機序と治療方法、診断技術を理解し、重症度とBPSDのアセスメント能力を身につけて、高度で、専門的な生活への看護実践ができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	高齢者のフィジカルアセスメント(1)	高齢者の特徴 ・アセスメントの注意点 問診・視診・触診・打診・聴診 体温測定、血圧測定、栄養評価
第2回	高齢者のフィジカルアセスメント(2)	アセスメントツール ・アセスメントの手順 ・アセスメントの課題
第3回	老年症候群と看護(1)	老年症候群の特徴、おもに急性疾患に付属する症候、 おもに慢性疾患に付属する症候
第4回	老年症候群と看護(2)	おもにADL低下に合併する症候、フレイル
第5回	高齢者と薬	薬物動態上の注意点、ポリファーマシーの問題点、 服薬支援とアセスメント
第6回	高齢者の疾患の特徴	循環器系の疾患、呼吸器系の疾患、消化器系の疾患、 内分泌・代謝系の疾患、精神・神経疾患
第7回	高齢者の疾患の特徴	自己免疫疾患、血液の疾患、腎・泌尿器系の疾患、 運動器の疾患、皮膚の疾患、感覚器の疾患、歯・口腔の疾患、 感染症
第8回	認知機能低下のある高齢者の看護	認知症 症状(中核症状、行動・心理症状)に対する看護
第9回	認知機能低下のある高齢者の看護	認知症高齢者における環境の影響を理解する 1)コミュニケーションの特徴 2)ユマニチュード、パーソンセンタードケアの考え方
第10回	認知機能低下のある高齢者の看護	認知症高齢者における倫理的問題
第11回	認知機能低下のある高齢者の看護	認知症治療のための入院と看護 認知機能障害のある高齢者への看護技術
第12回	認知機能低下のある高齢者の看護	他疾患で治療を要する認知症高齢者の看護 大腿骨転子部骨折で牽引をする認知症の高齢者の看護 人工透析における認知症高齢者の看護
第13回	高齢者のリハビリテーション	内部障害リハビリテーション
第14回	高齢者のリハビリテーション	フレイル、サルコペニアとリハビリテーション
第15回	試験/まとめ	試験/まとめ

11 学習方法

講義/グループワーク/校内演習

12 評価方法

筆記試験/課題レポート

13 教科書

【電子版】専門分野 老年看護学 医学書院
【電子版】専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院

参考書

【電子版】eナーストレーナー 医学書院

14 学生への要望

授業で知識・技術と老年看護の心を養うと同時に、老年看護の対象である高齢者の健康状態が本人の生活にどのような影響を与え、高齢者にはどのような機能障害と潜在的な強みがあり、どのような看護技術を提供することにより、より「その人らしい生活」の実現を支援できるか、ということを考えながら学んでいきましょう。ポリファーマシーや認知機能障害のある高齢者の看護やについても、様々な視点から主体的に情報を収集して臨地実習で活用できる看護技術を習得しましょう。

老 年 看 護 方 法 論 Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	30時間	必修	六車輝美(看護師)

8 授業概要

テキスト・電子カルテの事例から、老年期に起こり易い健康問題のアセスメント、看護援助計画・立案の知識・技術を習得し、看護過程が展開できる能力を養う。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、老年期にある対象の看護過程について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 高齢者の特徴を活かした看護過程の基本的な考え方が理解できる。
2. 事例の中で提示された情報を対象の療養生活の視点で分析・解釈できる。
3. 提示した事例の対象の強みを活かした看護目標・看護計画の立案ができる。
4. 提示した事例の対象に合わせたケアの一部を実践、評価ができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	老年看護過程の考え方 老年看護過程における理論・概念、事例紹介	高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方 生活行動モデルによる看護過程(目標設定型思考と問題解決思考、6つの生活行動モデル、生活機能の考え方) 事例の紹介:脳梗塞後遺症、肺炎(誤嚥性)
第2回	入院2日目の情報整理	入院2日目に受け持った設定として、経過記録とフローシートを記載する
第3回	事例の情報整理、分析・解釈①	事例の情報整理① 事前課題をグループで共有し発表
第4回	事例の情報整理、分析・解釈②	事例の情報整理② 事前課題をグループで共有し発表
第5回	事例の統合	事例の情報整理、解釈・分析からPESを統合する
第6回	事例の関連図・問題リスト	事例を関連図に全体像として示す 関連図から問題を選定し問題リストに優先順位を記載する
第7回	事例の看護計画を立案	事例の問題リストから2つ看護計画を立案する
第8回	事例の看護計画を実践①	グループに分かれて、提示した看護計画の一場面をロールプレイとして動画撮影
第9～10回	事例の看護計画を実践②～③	グループに分かれて、提示した看護計画の一場面をロールプレイとして動画撮影したものを発表する
第11回	事例の看護計画を実践／振り返り 事例紹介②	動画撮影し発表した内容について振り返る、口腔ケア、唾液腺マッサージ 事例紹介:電子テキスト脳梗塞右片麻痺、構音障害のある患者
第12回	事例の情報整理、解釈分析、統合	電子テキストから事例の情報整理、解釈・分析からPESを統合する、事前課題をグループで共有し発表
第13回	事例の関連図・問題リスト	事例を関連図に全体像として示す 関連図から問題を選定し問題リストに優先順位を記載する
第14回	事例の看護計画	事例の問題リストから2つ看護計画を立案する 事前課題をグループで共有し発表
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／グループワーク／校内演習

12 評価方法

筆記試験／課題レポート

13 教科書

【電子版】専門分野 老年看護学 医学書院
【電子版】専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

14 学生への要望

演習は老年期の患者に多い事例を取り上げ、事例を反転学習を通しながら看護過程の理解を深めていきます。
反転授業とは、知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認の要素を教室でおこなう授業形態です。事前に授業外で学習を済ませ、授業内での発表を通して学生双方の学びを深めることができます。学生相互に意見交換をして主体的な学習ができることを期待します。

臨床判断演習Ⅳ（老年看護学）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	藤井園美子（看護師）

8 授業概要

老年期の特徴を捉え臨床で遭遇しやすい「大腿骨頸部骨折」「パーキンソン病」の2つの事例を用いて高齢者とその家族の問題を推測し、適切な看護介入を導き出すための思考の展開の実際を学ぶ。
看護介入の前後で高齢者とその家族の背景、状態や変化を「解釈」「省察」し、看護を展開する際、実践の基盤となる臨床判断について学ぶ。
（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、老年看護においての臨床判断について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 老年期に起こりやすい健康障害の特徴と、その治療過程における看護を理解する。
2. 高齢者とその家族の問題を明らかにし、臨床推論に基づいて的確な介入を導き出せる。
3. 事例展開を通して高齢者とその家族に必要な臨床判断ができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際 高齢者の全体像を捉える。	【講義】 高齢者の理解（高齢者とは、高齢者の特徴と理解） 加齢に伴う変化（身体機能の生理的変化、心理・精神機能の変化、社会的機能の変化）の全体像を捉える。
第2回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際 【事例1】大腿骨頸部骨折患者の看護	【講義・GW】 大腿骨頸部骨折患者の看護 事例の看護実践場面を臨床判断のおける4つのプロセス「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」で捉える。
第3～4回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際 【事例1】大腿骨頸部骨折患者の看護	【GW・演習】 大腿骨頸部骨折患者の看護 事例の看護実践をさらに「行為後に省察」し、より的確な看護実践を導き出す。
第5回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際 【事例2】パーキンソン病患者の看護	【講義・GW】 パーキンソン病患者の看護 事例の看護実践場面を臨床判断のおける4つのプロセス「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」で捉える。
第6～7回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際 【事例2】パーキンソン病患者の看護	【GW・演習】 パーキンソン病患者の看護 事例の看護実践をさらに「行為後に省察」し、より的確な看護実践を導き出す。
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／グループワーク／校内演習

12 評価方法

筆記試験／課題レポート

13 教科書

【電子版】専門分野 老年看護学 医学書院
【電子版】専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院
【電子版】別巻 緩和ケア 医学書院

参考書

【電子版】eナーストレーナー 医学書院

14 学生への要望

当科目では、老年看護の代表的な疾患について事例を展開する。どの病態・病期の高齢者にも治療や健康レベルに応じた潜在的な力（強み）がある。看護者は基本的な病態生理をおさえると共に、高齢者の強みを活かした臨床判断をおこない、健康状態の維持や予防的な健康行動について学びを深めてほしい。

小 児 看 護 学 概 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	15時間	必修	辰野浩美(看護師)

8 授業概要

1. 現在の子どもと家族の概況や倫理的観点から、小児看護の役割と課題を学ぶ。
2. 子どもの成長・発達に関する基本的な知識について学ぶ。
3. 子どもと家族を取り巻く社会とそれらに対する政策について学ぶ。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、小児看護の特徴と成長発達について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 小児看護の特徴、理念、役割を理解し、説明できる。
2. 小児期の成長・発達の基本的な時性を理解し、説明できる。
3. 子どもを取り巻く環境と子どもと家族を支援するための法律と施策の方法を説明できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	小児看護の特徴と理念	【講義】小児看護の目指すところ、小児と家族の諸統計、小児看護の変遷と課題、小児看護における倫理
第2回	子どもと家族を取り巻く社会①	【講義】児童福祉施策と母子保健施策の変遷、児童福祉・母子保健、小児と家族の諸統計
第3回	子どもと家族を取り巻く社会②	【講義】医療費の支援、児童虐待防止法
第4回	子どもと家族を取り巻く社会③	【講義】予防接種、学校保健、特別支援教育、臓器移植
第5回	子どもの事故防止	【講義】小児の事故の特徴と要因、事故防止と安全教育 【グループワーク】発達段階別の事故防止
第6回	子どもの栄養	【講義】子どもにとっての栄養の意義、発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護
第7回	家族の特徴とアセスメント	【講義】子どもにとっての家族、家族アセスメント 様々な状況の家族、家族への支援、きょうだいへの支援
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／グループワーク

12 評価方法

課題／提出物／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

参考書

【電子版】eナーストレーナー 医学書院

14 学生への要望

成長発達過程にある子どもと子どもを取り巻く社会について学びましょう。
小児看護の役割や意義について考えましょう。

小児看護方法論Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	15時間	必修	藤川幸子(看護師)

8 授業概要

1. 看護の対象となる子どもの各期の成長・発達の特徴について学ぶ。
2. 子どもを取り巻く環境とそれらが与える子どもへの影響、各期の望ましい関わりについて学ぶ。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、小児各期における特徴と発達課題への援助について講義する。)

9 到達目標　(関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 小児各期の成長・発達とその特徴を説明できる。
2. 各期の子どもを取り巻く環境を踏まえ、子どもへの理解を深めると共に望ましい関わりを説明できる。
3. 子どもが健康な生活を送り健全に発達を遂げるため必要な援助を身につけ、実施できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	子どもの成長発達の特徴	【講義】小児各期の区分、成長発達の原則と影響因子 成長発達評価、成長発達に関する理論 (Erikusonの自我発達課題・Bowlbyのアタッチメント理論・Piagetの認知発達理論)
第2回	新生児・乳児・幼児の成長発達① 生理機能的発達、形態的発達	【講義】生理機能的発達(循環・呼吸・血液・消化器・腎機能 水分代謝・体温調節・神経・免疫・反射など) 形態的発達(身長・体重・頭囲・胸囲・身体バランス・骨年齢・生歯)
第3回	新生児・乳児・幼児の成長発達② 生理機能的発達、形態的発達	【講義】精神運動機能の発達(粗大運動・微細運動) 心理・社会的発達(ブリッジェスの情緒の分化、言語、感覚機能 社会性の発達、遊びの発達)
第4回	乳幼児の基本的生活習慣の形成過程の理解と獲得へ向けた援助① ・小児への接し方 ・睡眠	【講義】子どもとのコミュニケーションの取り方、 小児期の基本的生活習慣の形成過程の理解と獲得に向けた援助 小児にとっての睡眠の意義、規則的な睡眠リズムの獲得に向けた援助
第5回	乳幼児の基本的生活習慣の形成過程の理解と獲得へ向けた援助② ・清潔習慣 ・排泄習慣	【講義】乳幼児期の小児の清潔の意義と生理的機能 乳幼児期の衣類の世話と清潔習慣の獲得に向けた援助 乳幼児期の排泄機能の成長発達、乳幼児期の排泄習慣獲得に向けた援助、おむつ交換実施時の留意点
第6回	学童期・思春期の成長発達	【講義】形態的発達、第二次性徴、知的・情緒・社会的機能の発達 心理社会的適応に対する問題、疾病予防
第7回	小児の日常生活援助	【演習】オムツ交換、抱っこ、更衣 育児用ミルクの調乳 子どもの咀嚼機能の発達に応じた離乳食のモデル
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

課題／提出物／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野　小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院

参考書

【電子版】eナーストレーナー　医学書院

14 学生への要望

身体・心理・社会的側面から各期の子どもの成長発達を具体的に捉え、理解を深めてください。
子どもへの共感・理解を持って、望ましい関わりについて学びましょう。
子どもの認知やコミュニケーションについて意識して演習に臨んでください。

小児看護方法論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	髙畑美佳(看護師)

8 授業概要

1. 疾病や障がいを持つ子どもと家族の看護を学ぶ。
2. 子どものアセスメントをするために必要な知識と技術を身につける。
3. 検査・処置の目的と具体的な支援の方法を理解する。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、疾病や障害を持つ小児に必要な看護について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 疾病や障害が子どもとその家族に及ぼす影響と反応を理解し説明できる。
2. 疾病や障害を持つ子どもとその家族に応じた看護を実施できる。
3. 健康障害のある子どものアセスメントができる。
4. 検査・処置を受ける子どもへの支援が説明できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	【講義】病気・障害を持つ子どもと家族の看護
第2回	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 入院中、外来	【講義】子どもの状況に応じた看護の理解
第3回	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 災害	【講義】災害時の子どもと家族への看護
第4回	子どもにおける疾病の経過と看護 慢性期 子どもにおける疾病の経過と看護 急性期 子どもにおける疾病の経過と看護 周手術期 子どもにおける疾病の経過と看護 終末期	【講義】事例:小児がんの子どもと家族の看護 【動画】終末期の子どもと家族 わが子を看取る
第5回	子どものアセスメント	【講義】 身体的アセスメント(一般状態)
第6回	症状を示す子どもの看護①	【講義】不機嫌、啼泣、痛み、発熱、嘔吐、下痢、便秘、脱水、浮腫、発疹
第7回	症状を示す子どもの看護②	【講義】呼吸困難、チアノーゼ、ショック、意識障害、痙攣、便秘、出血、貧血、黄疸
第8回	検査・処置を受ける子どもと家族の看護①	【講義】検査・処置を受ける子どもと家族の看護
第9回	検査・処置を受ける子どもと家族の看護②	【講義】検査・処置を受ける子どもと家族の看護
第10回	検査・処置を受ける子どもと家族の看護③	【講義】検査・処置を受ける子どもと家族の看護 【動画】小児に対する一次救命処置
第11回	障害のある子どもと家族の看護	【講義】事例:障害の子どもと家族の看護 【動画】障害児支援動画
第12回	虐待児症候群の子どもと看護	【講義】虐待児症候群の子ども看護 【動画】人権啓発ビデオ「虐待防止シリーズ」児童虐待
第13回	子どものアセスメント演習	【演習】子どものアセスメント 演習 バイタルサインの測定、身体測定の技術
第14回	検査・処置を受ける子どもの看護 演習	【演習】検査・処置を受ける子どもの看護 点滴の固定の技術
第15回	試験/まとめ	試験/まとめ

11 学習方法

講義/動画/演習/グループワーク
小児看護学実習Ⅰを踏まえて、子どもの特有疾患の病態・治療・看護など基礎的知識をレポート提出する。

12 評価方法

課題/提出物/演習/筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

参考書

【電子版】eナーストレーナー 医学書院

14 学生への要望

健康障害を持つ子どもの特徴と症状、看護の実際について学びましょう。
健康障害を持つ子どもを支える家族に対する看護について学びましょう。

小 児 看 護 方 法 論 Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	髙畑美佳(看護師)

8 授業概要

1. 健康問題のある子どもと家族の事例から、情報収集・アセスメント・看護問題の明確化のプロセスを理解する。
2. 効果的な看護を展開するため子どもとその家族を対象とした援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、小児の健康上の問題について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 子どもの代表的疾患について、病態・治療が説明できる。
2. 健康障害のある子どもの健康に関わる問題についてアセスメントし看護過程の展開ができる。
3. 2の知識を基に、その疾患や子どもの特徴に含わせた看護援助が説明できる。
4. 子どもとその家族への援助方法を具体的に説明できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1～4回	事例展開① 乳児期にあるロタウイルス感染症の子どもとその家族の看護	【講義】乳児期にあるロタウイルス感染症の子どもとその家族の事例展開 情報のアセスメント、全体像の統合 まとめ発表
第5～8回	事例展開② 学童期にある気管支喘息の子どもとその家族の看護	【講義】学童期にある気管支喘息の子どもとその家族の事例展開 情報のアセスメント、全体像の統合 まとめ発表
第9～12回	事例展開③ 幼児期前期にある川崎病の子どもとその家族の看護	【講義】幼児期前期にある川崎病の子どもとその家族の事例展開 情報のアセスメント、全体像の統合 まとめ発表
第13～14回	小児看護技術 事例患児の発達段階を考慮した子どもとその家族への説明・支援ツールの作成・発表 プレパレーション	【演習】事例患児の発達段階を考慮した子どもとその家族への説明・支援ツールを作成 患者指導プレパレーション ロールプレイで発表
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

2年次に受講した小児看護学概論と小児看護方法論Ⅰを十分に復習した上で、健康な子ども像をイメージしながら講義・演習に臨む。
事前に子どもの代表的な疾患の病態・治療に関して復習し臨む。その知識を基に看護過程の展開をおこなう。
常に子どもならではの特徴を意識し、援助の根拠と関連させながら受講する。
小児看護学実習Ⅱを踏まえて、子どもの特有疾患の病態・治療・看護など基礎的知識をレポート提出する。

12 評価方法

課題／提出物／演習／グループワーク／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
【電子版】専門分野 小児臨床看護各論 医学書院

参考書

【電子版】eナーストレーナー 医学書院

14 学生への要望

「疾病と治療Ⅴ」の授業内容を理解していることを前提として進めていきます。子どもの解剖生理、疾患の病態生理、治療などの復習をして授業に臨んでください。
授業の理解度によっては、講義の内容や順番が変更になる場合があります。

臨床判断演習Ⅴ（小児看護学）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	高畑美佳・藤川幸子（看護師）

8 授業概要

小児看護学領域では、対象となる子どもの年齢や発達段階、おかれている状況によって必要となる具体的な援助が異なる。そのため、対象に必要な援助を導き出す思考を習得することが重要である。学生は、対象に見合った援助を抽出するために、臨床判断と状況アセスメント能力を養う必要がある。この授業では、実践的な臨床判断を行うための思考力を培うことを目指す。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、小児看護においての臨床判断について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 疾患を持つ子どもの年齢や発達段階、おかれている状況や全身状態をアセスメントができる。
2. 疾患を持つ子どもの事例に対して、臨床判断過程を展開できる。
3. 事例展開を通して症状の臨床判断ができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	看護場面で遭遇する症状における臨床判断の実際 【事例1】循環器疾患をもつ子どもと家族の理解：ファロー四徴症	【講義】小児の疾患（ ファロー四徴症 ）について、基礎的臨床医学知識と看護援助の復習
第2回	臨床判断過程を展開 全身状態をアセスメント	【講義・GW】 シュミュレーション演習シナリオ作成
第3～4回	臨床判断過程を展開の実際	【GW・演習】シュミュレーション演習の練習と発表 演習のまとめ、小試験
第5回	看護場面で遭遇する症状における臨床判断の実際 【事例2】血液・造血器疾患をもつ子どもと家族の理解：急性リンパ性白血病	【講義】小児の疾患（ 急性リンパ性白血病 ）について、基礎的臨床医学知識と看護援助の復習
第6回	臨床判断過程を展開 全身状態をアセスメント	【講義・GW】シュミュレーション演習シナリオ作成
第7～8回	臨床判断過程を展開の実際	【GW・演習】シュミュレーション演習の練習と発表 演習のまとめ、小試験

第1～8回 高畑美佳（50）、第9～15回藤川幸子（50）

11 学習方法

課題／提出物／グループワーク参加・貢献度/演習/小試験

12 評価方法

課題／提出物／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
【電子版】専門分野 小児臨床看護各論 医学書院

参考書

【電子版】eナーストレーナー 医学書院

14 学生への要望

これまでに学習してきた知識を基に、科学的根拠に基づいた臨床判断を経験しましょう。

母性看護学概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	西原和代

8 授業概要

母性とは何かを幅広くとらえ、母性をめぐる様々な現状と動向を理解する。人間のセクシュアリティやリプロダクティブヘルス／ライツについて理解するとともにヘルスプロモーションの考え方について学ぶ。

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 母性とは何か、現代における母性の捉え方について理解できる。
2. 母性統計の動向及び母子保健における施策を知り、母性を保護する法律について理解できる。
3. 女性のライフサイクルにおける母性各期のホルモン変動からリプロダクティブヘルスが理解できる。
4. 母性各期における健康問題が理解できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	母性とは	親になることの生物学的・発達心理学的・社会文化的な意味
第2回	母子保健統計の動向	出生に関する統計／死亡に関する統計
第3回	母性を取り巻く社会の変遷と現状	婚姻に関する指標／女性の教育と就労に関する指標
第4回	母子保健にかかわる施策	母子保健施策／出産・育児にかかわる経済的支援／妊娠・出産包括支援事業／健やか親子21
第5回	母子保健・福祉にかかる法律	母子保健法／母体保護法／戸籍法／死産の届け出に関する規程／母子および父子な選びに寡婦福祉法
第6回	女性の就労と母性保護に関する法律	労働基準法／男女雇用機会均等法／育児・介護休業法／少子化社会における次世代育成支援に関する法律
第7回	母子関係と家族発達	愛着行動／母親役割獲得：ルービン・マーサー／母子相互作用：バーナード／健やかな家族機能／家族の発達課題
第8回	国際化社会と母性	在日外国人母子における保健施策と課題
第9回	性周期における変化	月経周期／卵巣の周期的変化／子宮内膜の周期的変化
第10回	妊娠の成立と胎児の性分化 人間の性と生殖	妊娠の成立過程と性分化のメカニズム／性的マイノリティ
第11回	思春期女性の特徴と健康問題	ホルモンの変動による性徴／月経異常
第12回	家族計画とリプロダクティブヘルス	家族計画／受胎調節法：月経周期を利用した方法／排卵抑制と着床防止
第13回	リプロダクティブヘルスに関連した問題	人工妊娠中絶／性暴力
第14回	性成熟期および更年期女性の特徴と健康	性成熟期女性の特徴／更年期女性の特徴／健康問題
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法

講義／演習

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

【電子版】専門分野　母性看護学概論　医学書院
【電子版】eナーストレーナー　医学書院

参考書

14 学生への要望

母性を取り巻く環境、特に国際化と性の多様性とは大きく変化し、その変化は法にまで及んでいる。
社会情勢にも注意を払ってもらいたい。

母性看護方法論Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	30時間	必修	松田美穂(助産師)

8 授業概要
妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常な経過を学び、各期における対象のアセスメントおよび望ましい看護の実際について理解する。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常な経過について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)
1. 妊娠・分娩・産褥期および新生児期の正常な経過が理解できる。
2. 正常な経過にある妊産褥婦・新生児の身体・心理・社会的特徴と各期に必要な看護が理解できる。
3. 母児の愛着形成、児をむかえる家族との関わり、母子保健の役割と実際について理解できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	妊娠期の身体的特徴	【講義】妊娠の成立・胎児の発育・母体の身体・生理的変化
第2回	妊娠期の心理・社会的特徴	【講義】妊婦の心理・社会的特徴とその変化・妊娠期の社会的特徴
第3回	妊娠期に行う検査とその目的	【講義】妊婦健診・血液検査・感染症検査・内診・超音波検査・胎児心拍数モニタリング
第4回	妊婦と胎児のアセスメント	【講義】妊娠各期の妊婦および胎児のアセスメント
第5回	妊婦と家族の看護	【講義】母子保健サービス・妊娠各期のマイナートラブル・保健指導・親になるための準備教育
第6回	分娩の要素と分娩の経過	【講義】分娩の3要素と機序・正常分娩の経過・産婦の身体・心理・社会的変化
第7回	産婦・胎児・家族のアセスメント	【講義】分娩期の母子のアセスメント・産婦と家族の心理・社会的アセスメント・分娩経過中の胎児心拍数モニタリング
第8回	産婦と家族の看護	【講義】産婦の身体・心理的ニード・安全・安楽な分娩への看護
第9回	分娩期の看護の実際	【講義】分娩第1期～第4期のアセスメントと看護・分娩進行を促す援助
第10回	産褥期の身体・心理・社会的特徴	【講義】産褥期の身体・心理・社会的特徴と変化
第11回	産褥経過のアセスメントと看護	【講義】産褥経過のアセスメントと正常な経過を促進する看護
第12回	愛着形成と児を迎える家族の看護	【講義】母子の愛着形成・児を迎える家族への看護・母子保健
第13回	新生児の身体・生理的特徴	【講義】新生児の身体・生理的特徴・子宮外環境への適応過程
第14回	新生児のアセスメントと看護	【講義】新生児のアセスメントと看護・生理的体重減少・生理的黄疸・出生から退院までに行われる検査
第15回	試験／まとめ	試験／まとめ

11 学習方法
講義／VTR／演習／グループワーク

12 評価方法
筆記試験／レポート

13 教科書
【電子版】専門分野 母性看護学各論 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

14 学生への要望
妊娠・分娩・産褥の正常経過を理解するために必要な基礎知識、アセスメントに必要な知識を獲得してほしい。
妊娠・分娩・産褥を経て変化する母性や家族の有り様と母子への支援・看護の実際について学んでほしい。

母性看護方法論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	1単位	15時間	必修	粟井京子

8 授業概要

母性各期において正常を逸脱した母子に対して健康状態のアセスメントをし、対象への適切な看護ができる能力を養う。

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 遺伝および不妊の問題について、自己決定を助けるために提供する情報や態度について理解できる。
2. 妊娠・分娩・産褥経過中に見られる異常とその問題に対する看護について理解できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	遺伝相談・出生前診断	出生前診断を受ける対象へのケア／遺伝カウンセリング
第2回	不妊症・不妊検査・不妊治療	不妊治療を受けている不妊夫婦の心理社会的特徴と支援
第3回	異常妊娠と看護	合併症を有する妊婦の看護 （心疾患・糖代謝異常・妊娠高血圧症候群・前置胎盤・常位胎盤早期剥離・切迫流早産）
第4回	異常分娩と看護	異常のある産婦の看護 （破水・遷延分娩・帝王切開術・胎児機能不全）
第5回	産褥の異常と看護	異常のある褥婦の看護 （子宮復古不全・乳房トラブル・精神障害・母乳感染）
第6回	新生児の異常と看護	異常のある新生児の看護 （新生児仮死・分娩外傷・低出生体重児）
第7回	新生児の異常と看護	異常のある新生児の看護 （高ビリルビン血症・ビタミンK欠乏症）
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

【電子版】専門分野　母性看護学各論　女性生殖器　医学書院
【電子版】eナーストレーナー　医学書院

参考書

14 学生への要望

看護学生は正常な妊産褥婦の看護を中心におこなう。しかし、異常な状況に至る前にその兆候を早期に発見し、悪化しないよう観察とケアをおこなうための知識を習得してもらいたい。

母性看護方法論Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	松田美穂(助産師)

8 授業概要

女性は妊娠・分娩・産褥各期を通じ、身体面・精神面・社会的役割それぞれにおいて、連続的で大きな変化を遂げる。成長発達が著しい胎児期から新生児期もまた、子宮内から子宮外へと環境が変化するに伴ってダイナミックな変化を遂げる。このような変化の過程に母子それぞれがストレスなく適応できるよう、ウェルネスの視点で各期での健康課題や健康問題とそれらに対する看護援助の実際を学ぶ。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、母性看護について講義する。)

9 (関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 事例展開を通じ、妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある母子とその家族についてアセスメントできる。
2. 事例展開を通じ、妊娠・分娩・産褥および新生児期にある母子とその家族への看護援助を説明できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	母性看護におけるウェルネス志向	母性看護学におけるウェルネス志向 問題志向型とウェルネス志向型
第2～3回	事例展開:妊娠初期	妊婦の基礎情報のアセスメント 妊娠初期のアセスメントと看護援助 (母児および胎児付属物の状態・妊婦の心理・適応過程・家族・適応過程・生活・社会環境)
第4～5回	事例展開:妊娠中期	妊娠中期のアセスメントと看護援助 (母児および胎児付属物の状態・妊婦の心理・適応過程・家族・適応過程・生活・社会環境)
第6～7回	事例展開:妊娠後期	妊娠後期のアセスメントと看護援助 (母児および胎児付属物の状態・妊婦の心理・適応過程・家族・適応過程・生活・社会環境)
第8～9回	事例展開:分娩期	分娩期のアセスメントと看護援助 (分娩進行状態・母児および胎児付属物の状態・産婦の心理・適応過程・家族・適応過程・生活・社会環境)
第10～11回	事例展開:産褥期	産褥期のアセスメントと看護援助 (進行性変化・退行性変化・褥婦の全身状態・褥婦の心理・適応過程・家族・適応過程・生活・社会環境)
第12～13回	事例展開:新生児期	新生児期のアセスメントと看護援助 (成長・発達・子宮外生活への適応・健康状態・栄養状態・養育環境・愛着行動・家族・適応過程)
第14回	事例展開:帝王切開術を受けた褥婦	帝王切開術を受けた褥婦のアセスメントと看護援助 (術後の全身状態・セルフケア行動・進行性変化・退行性変化・母子接触と愛着形成過程・心理・適応過程・家族・適応過程・生活・社会環境)
第15回	試験/まとめ	試験/まとめ

11 学習方法

講義/演習/グループワーク

12 評価方法

筆記試験/レポート

13 教科書

【電子版】専門分野 母性看護学各論 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

14 学生への要望

事例のアセスメントを通じて、正常経過の維持促進、健康からの逸脱の予防、逸脱からの回復に必要な看護援助のための基礎的能力を培います。これまで学んだ妊娠・分娩・産褥期の女性と胎児・新生児および家族の生理的・心理的・社会的特徴についての知識をもとに、エビデンスに基づいた看護援助、それぞれの対象の特徴や思いもふまえた看護援助のあり方について学びましょう。

臨床判断演習Ⅵ（母性看護学）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	松田美穂（助産師）

8 授業概要

臨床で遭遇しやすい「妊娠高血圧症候群」「糖代謝異常合併妊娠」「高ビリルビン血症」の3つの事例を用いて周産期にある母子の健康問題を推測し、適切な看護介入を導き出すための思考展開の実際を学ぶ。
看護介入の前後で母子の背景、状態・変化を「解釈」「省察」し、看護を展開する際に実践の基盤となる臨床判断について学ぶ。
（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、母性看護においての臨床判断について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 妊娠高血圧症候群の妊婦の経過を正常に導くための臨床判断ができる。
2. 糖代謝異常合併妊娠の母子の健康問題を明らかにし、臨床推論に基づいて的確な介入を導き出せる。
3. 臨床判断を用いて、高ビリルビン血症の児とその母に予測される健康問題と必要な看護実践を導き出せる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際 【事例1】妊娠高血圧症候群	妊娠高血圧症候群の臨床判断に必要な知識と視点 事例演習のオリエンテーション
第2回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際 【事例1】妊娠高血圧症候群	事例演習「妊娠高血圧症候群と診断された妊産婦への援助」 事例の看護実践場面を臨床判断のおける4つのプロセス「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」でとらえる。
第3回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際 【事例1】妊娠高血圧症候群	事例演習「妊娠高血圧症候群と診断された妊産婦への援助」 事例の看護実践をさらに「行為後に省察」し、より的確な看護実践を導き出す。
第4回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際 【事例2】糖代謝異常合併妊娠	糖代謝合併妊娠の臨床判断に必要な知識と視点 事例演習「糖代謝合併妊娠と診断された妊産婦と児への援助」 事例の看護実践場面を臨床判断のおける4つのプロセス「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」でとらえる。
第5回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際 【事例2】糖代謝異常合併妊娠	事例演習「糖代謝異常合併妊娠と診断された妊産婦と児への援助」 事例の看護実践をさらに「行為後に省察」し、より的確な看護実践を導き出す。
第6回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際 【事例3】高ビリルビン血症	高ビリルビン血症の臨床判断に必要な知識と視点 事例演習「高ビリルビン血症と診断された児への援助」 事例の看護実践場面を臨床判断のおける4つのプロセス「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」でとらえる。
第7回	看護場面で遭遇する状況における臨床判断の実際 【事例3】高ビリルビン血症	事例演習「高ビリルビン血症と診断された児への援助」 事例の看護実践をさらに「行為後に省察」し、より的確な看護実践を導き出す。
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

演習課題／提出物／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野　母性看護学概論　医学書院
【電子版】専門分野　母性看護学各論　医学書院
【電子版】eナーストレーナー　医学書院

参考書

14 学生への要望

演習においては、根拠に基づいた分析的推論が行えるよう、必要な知識や視点を身につけ、同時に事例の個別性やナラティブな側面にも注目して妥当な看護介入を見出せる力＝臨床判断能力を培ってほしい。

精神看護学概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	15時間	必修	入倉佐也加

8 授業概要

精神看護学は看護のあらゆる領域におけるこころの健康維持・増進に関わる。すべての人がこころの健康を維持・増進できるように、こころの健康問題や病を持った人がその人らしさを取り戻してその人が望む場で生活していくことを支援する。人は、生きていくなかでさまざまな出来事に遭遇し「生きにくさ」と直面する。何らかの方法で危機を乗り越えられれば、成長のチャンスにもなる。人には自分らしく生きていく権利があり、すべての人が変化と成長の可能性を持っている。人がさまざまな人とつながり自己実現へと向かうプロセスを支えることを様々な角度から学ぶ。

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 精神看護学の位置づけ、目的、対象の特徴、心の健康について、看護の機能と役割について説明できる。
2. 人格がそれぞれの人の生活にどのような影響があるか述べることができる。
3. 人間関係としての家族・集団の特性とダイナミクスについて学び、実践に繋げることができる。
4. 精神を病むとはどういうものか理解し、説明できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	精神看護学で学ぶこと	心のケアと現代社会、精神看護学とその課題、 精神障害者の体験と精神看護　精神看護の課題についてグループワーク
第2回	精神保健の考え方	精神の健康とは　精神の健康に関わる13の能力についてグループワーク
第3回	精神保健の考え方	心身の健康に及ぼすストレスの影響、トラウマと回復
第4回	人間の心のはたらきと人格形成	人間の心の諸活動、学習と行動、心理的特性をはかる検査
第5回	人間の心のはたらきと人格形成	フロイトの精神分析と精神力動理論　グループワーク
第6回	人間の心のはたらきと人格形成	エリクソンの発達段階　ライフラインチャートの作成、振り返り（個人ワークとグループワーク）
第7回	関係のなかの人間	全体としての家族、人間と集団　グループワーク
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野　精神看護の基礎　医学書院

参考書

14 学生への要望

講義とグループワーク、個人ワークを通じて精神看護の課題を理解し、心のはたらきや心の健康を学ぶなかで、心を病むという意味を考えてほしい。

精神看護方法論Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	30時間	必修	秋山知代 山野泰子

8 授業概要

精神の障害では脳の働きの変化によって、感情や行動などに変化が見られる。罹病期間が長く、かつ生活障害が大きいことが特徴である。本格化すれば数ヶ月から数年に及ぶこととなる。一度改善しても再発しやすいことも精神障害の特徴でもある。本格的な「病気」となる前に気付いて発症を予防することが課題であり、発症した場合でも早めに対処を始めることが重要である。精神の障害がきたす様々な症状を学ぶと共に、これらに対しておこなわれる精神療法について学ぶ。

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 精神障害と呼ばれている心の不健康状態に、どのような種類があるか、精神障害とは何かを正しく理解できる。
2. 精神障害のときにしばしばみられる精神症状の主なものを説明できる。
3. 精神科での治療について学び、どのような看護が必要か述べることができる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	精神を病むことと生きること	「病の経験」の理解／疾患と病／病気の説明の仕方／看護と精神医学
第2回	さまざまな精神症状	思考の障害／感情の障害／意欲の障害
第3回	さまざまな精神症状	知覚の障害／意識の障害／記憶の障害／局在症状
第4回	精神障害の診断と分類	診断と疾病分類：DSM・ICD／外因・心因・内因の分類
第5回	統合失調症	病型と症状／疫学と成因／治療／発病と回復のプロセス
第6回	気分障害	病の体験／主要症状／経過と予後／疫学と成因／治療
第7回	神経症性障害・ストレス関連障害	恐怖症不安症害／強迫性障害／ストレス反応と適応障害／解離性障害／身体表現性障害
第8回	精神作用物質による精神・行動の障害	アルコール症／精神作用物質使用による障害／ゲーム障害／ギャンブル障害
第9回	各発達段階であらわれやすい精神障害	知的能力障害／てんかん／発達障害／摂食障害／パーソナリティ障害
第10回	各発達段階であらわれやすい精神障害	適応障害／ミッドライフクライシス／認知症／高次機能障害／周期的な心的不調
第11回	精神療法	個人療法／集団精神療法／家族療法
第12回	薬物療法	向精神薬／抗うつ薬／気分不安定薬
第13回	精神科での治療	抗不安薬／睡眠薬／抗てんかん薬／抗酒薬
第14回	精神科での治療	電気痙攣療法／身体療法／環境療法／社会療法
第15回	試験／まとめ	試験（秋山／山越）

第１～４、１１～１５回　秋山知代（１００）、５～１０回　山野泰子

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野　精神看護の基礎　医学書院

参考書

【電子版】eナーストレーナー　医学書院

14 学生への要望

精神看護の基礎を学習し、精神看護の役割と進むべき方向を展望してほしい。

精神看護方法論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	浅尾友博（看護師）・柏民和美・岩田正剛・三浦幸子

8 授業概要

精神科医療は課題を抱えながらも入院中心から地域でのケアへと確実にシフトしつつある。現状でも地域で暮らす精神障害者のほうがはるかに多い。かつて精神科疾患が長期化していたのは「症状がなくなり『ふつうの人』と同じように生活できるようになること」が治療の目標とされていたが、「症状や障害をもちながらもその人の人生をその人なりに生きていけること」が治療の目標となった。つまり、地域の状況に応じた精神福祉サービスのシステム構築がなされるようになった。それに伴い看護師との関係にも新たな発想が求められるようになってきた。すなわち、看護者には自己実現に向けて回復への道のりを進んでいこうとする当事者の伴送者としての役割が期待されていることについて学ぶ。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、精神看護について講義する。）

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 精神障害や疾患を抱えた人をケアする際の原則について説明できる。
2. 入院治療と看護の展開について理解し説明できる。
3. 精神保健医療福祉をめぐる法制度について学び、事例と照らし合わせて考え説明できる。
4. 地域で生活するために必要な支援と課題について考察できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1～2回	医療におけるメンタルヘルスと看護 災害時のメンタルヘルスと看護	リエゾン看護・リエゾン看護師の役目 災害が人々にどのようなストレスをもたらすか 精神科病院において災害から患者を守る対策
第3～4回	社会のなかの精神障害	精神障害者の治療と人権についての歴史 精神障害と法制度
第5回	社会のなかの精神看護 入院治療の意味	地域で暮らす精神障害者生活を支える制度
第6回	ケアの人間関係	ケアの原則
第7回	ケアの人間関係	患者と話をする際の注意点
第8回	回復を支援する	精神障害者の回復とはどのようなものか
第9回	回復を支援する	回復を支援するために看護師にできること
第10回	身体をケアする	身体のケアと心のケアの関連
第11回	身体をケアする	精神疾患を持つ患者におこりやすい身体合併症
第12回	安全を守る	患者の行動制限を最小限にするために重要なこと
第13回	安全を守る	通信・面会・隔離・身体的拘束についてどのような基準があるか
第14回	地域におけるケアと支援	地域で暮らす精神障害者のセルフケアを支える方法、 社会福祉サービス
第15回	試験／まとめ	試験

第１～５・第８～９回・１５回　浅尾友博（５０）、第６～７回　柏民和美、第１０～１３回　岩田正剛、第１４・１５回　三浦幸子（５０）

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野　精神看護の基礎　医学書院
【電子版】専門分野　精神看護の展開　医学書院

参考書

【電子版】eナーストレーナー　医学書院

14 学生への要望

多様な精神症状の背景には、解決できないまま抱え続けてきた葛藤や、傷ついた体験があり、精神障害者ゆえにスティグマを負った人生があるということに気づいてほしい。

精神看護方法論Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	浅尾友博(看護師)・石原佳明

8 授業概要

精神障害者が地域で生活を送り、それを支えるための援助は、当事者の自発性や健康的な力に焦点を当てることである。つまり、その人の強みや長所などのプラス面に着目する援助の方法論としてストレングスモデルがある。それには、社会資源や制度の活用、多職種と連携しながらの地域ネットワークづくりが必要になる。あらゆる場における看護の実際について、事例を通して、コミニュケーション技術や看護理論を用いて看護が展開できる基礎的能力を養う。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、精神障害のある患者の看護の展開について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 事例・演習を通して看護過程を展開し、精神看護の能力を養うことができ実践できる。
2. 地域で生活する精神障害者の援助を理解し、計画できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	治療的コミニュケーション	プロセスレコード
第2回	事例1)統合失調症急性期の事例展開	看護過程の展開:症状について
第3回	事例1)統合失調症急性期の事例展開	看護過程の展開:閉鎖病棟・入院環境(鍵・私物の管理・通信・面会)・隔離・拘束
第4回	事例1)統合失調症急性期の事例展開	看護過程の展開:薬物療法(拒薬・作用・副作用)
第5回	事例1)統合失調症急性期の事例展開	看護過程の展開:作業療法
第6回	事例2)気分障害の事例展開	看護過程の展開:症状について
第7回	事例2)気分障害の事例展開	看護過程の展開:自殺予防
第8回	事例2)気分障害の事例展開	看護過程の展開: 緊急時の対応について
第9回	統合失調症・気分障害まとめ	統合失調症・気分障害のレポート/試験
第10回	対人関係的技術(治療的ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ)	カウンセリング理論に基づく技法
第11回	対人関係的技術(治療的ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ)	認知行動理論に基づく技法
第12回	治療的コミュニケーションの実践演習	ロールプレイでのグループ演習
第13回	治療的コミュニケーションの実践演習	ロールプレイでのペア演習
第14～15回	地域における精神障がい者への看護	・精神障がい者の現状 ・精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムのポイント ・精神科訪問看護の実際、就労支援・多職種連携・家族支援 【グループワーク】生活の自立を目指す精神障がい者

第1～13回 浅尾友博(90)、14～15回 石原佳明(10)

11 学習方法

講義/演習/グループワーク/クラス討議/VTR

12 評価方法

それぞれの講師で試験方法を提示(レポート、筆記試験)

13 教科書

【電子版】専門分野 精神看護の基礎 医学書院
【電子版】専門分野 精神看護の展開 医学書院

参考書

【電子版】eナーストレーナー 医学書院

14 学生への要望

人間関係という視点は、病気の成り立ちを理解する上でも、傷ついた心が癒されるためにも重要であることを学んでほしい。

臨床判断演習Ⅶ（精神看護学）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	浅尾友博（看護師）

8 授業概要

精神に障害のある患者が示す特徴的な症状は、さまざまな場面や行動に現れる。精神看護学では、患者への距離感や言語を介した関わり方により、患者の尊厳を守り、日常生活に適応できるように導くことが求められる。事例を通じて、精神疾患を患う患者の気がかりな情報をタナーの臨床判断モデルを活用しどのように捉え、考えるべきかを学ぶ。事例演習を通じて、実践的な臨床推論のプロセスを理解し、判断能力を養う。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、精神看護においての臨床判断について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 精神障害を持つ患者が日常生活を送れるように導くための臨床判断ができる。
2. 特殊な状況下にある精神障害者がとる行動を臨床推論し、平穏を維持することへと導くことができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	看護場面で遭遇する症状における臨床判断の実際 【事例1】統合失調症①	【事例演習】 統合失調症の症状に対する臨床判断に必要な基礎知識
第2回	看護場面で遭遇する症状における臨床判断の実際 【事例1】統合失調症②	【事例演習】 統合失調症の看護実践場面を臨床判断のおける4つのプロセス「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」でとらえる。
第3回	看護場面で遭遇する症状における臨床判断の実際 【事例1】統合失調症③	【事例演習】 統合失調症の事例の看護実践をさらに「行為後に省察」し、より的確な看護実践を導き出す。
第4回	物質関連障害における臨床判断 【事例2】アルコール依存症、薬物依存症	【事例演習】 依存症患者の看護実践場面を臨床判断のおける4つのプロセス「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」でとらえる。 事例の看護実践をさらに「行為後に省察」し、より的確な看護実践を導き出す。
第5回	精神状態の変動、衝動行為に対する臨床判断 【事例3】精神状態不安定、衝動行為のある患者	【事例演習】 衝動行為のある患者に対する看護実践場面を臨床判断のおける4つのプロセス「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」でとらえる。 事例の看護実践をさらに「行為後に省察」し、より的確な看護実践を導き出す。
第6回	【事例4】 境界性人格障害における臨床判断①	【事例演習】 境界性人格障害患者の看護実践場面を臨床判断のおける4つのプロセス「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」でとらえる。 事例の看護実践をさらに「行為後に省察」し、より的確な看護実践を導き出す。
第7回	【事例4】 境界性人格障害における臨床判断②	【事例演習】 社会復帰に向けた退院指導の場面における臨床判断
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野 精神看護の基礎 医学書院
【電子版】専門分野 精神看護の展開 医学書院

参考書

過去問完全攻略集 精神看護学 さわ研究所編

14 学生への要望

精神科における対象の問題に気付き、多角的に分析する力を養って欲しい。

高度先駆的看護

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	水重克文・前田和寿 伊藤嘉信・宮下郁子 岩井艶子・小槌聡子 (看護師)

8 授業概要

医療技術が発展していく中で看護実践する専門職である自覚を持ち、広い視野で21世紀の看護を創造する能力を習得する

9 到達目標　(関連するDP:1.4.7)

1. 国際社会の中で看護実践する専門職業人である自覚を持ち、広い視野で21世紀の看護を創造する能力を習得する。
2. 高度先駆的医療の動向について理解する。
3. 遺伝子カウンセリングの現状と課題について理解し、対象に応じた看護実践できる。
4. 周産期医療の現場でおこなわれる高度先駆的医療を必要とする患者や家族を援助するために必要な知識を習得する。
5. 最新の精神障害者看護を理解し、対象のニードにあった看護実践ができる。
6. 看護のキャリアアップを目指し、認定看護師や専門看護師の役割と実践能力を理解し卒業後の指針とする。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	現代における先進医療と特徴的な看護について調査する	提示したテーマに従って先進医療を調査し、まとめる
第2回	遺伝カウンセリングの現状	遺伝カウンセリングの現状と今後の展開
第3～4回	呼吸循環ケア	最新の循環器医療に伴う検査・治療と看護
第5回	精神科領域における医療の現状	現代社会における精神科領域の医療の現状について
第6回	周産期領域における医療の現状	周産期ケア／3D・4D胎児超音波画像診断／ 周産期医療に必要な緊急処置とケアポイント、 育成医療の方向性と最新の小児医療のあり方
第7回	診療看護師の役割と看護実践活動	診療看護師の現状と課題、やりがいや強み、病院内の連携
第8回	試験	試験

第１・８回　小槌聡子（５０）、第２回　岩井艶子（１０）、
第３～４回　水重克文（１０）、第５回　伊藤嘉信（１０）、
第６回 前田和寿（１０）、第７回 宮下郁子（１０）

11 学習方法

講義／グループワーク

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】医学書院　各種

参考書

14 学生への要望

各自、新刊雑誌には常に目を通しておくこと。

「連携と協働」の演習Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	竹森公美(看護師)

8 授業概要

この科目はⅠ～Ⅳに区分している。社会福祉協議会とのガイダンスを通して、ボランティア活動の意義や役割を理解する。また活動の目的に沿って地域の人々と協働する経験を通して、地域と関わるための基礎的な視点を養う。また、1年生から他学年との異学年による交流学習をおこなう。学習進度が異なる学年が、事例を基に演習をおこない、「学び合う」ことで看護実践力を高め合える機会となるように設定した。また異学科との交流学習をおこない、多職種連携について学ぶ。まず入学後改めて看護への想いを明確化し、3年生と臨床判断の観点で気づきとは何かについてを理解を深める。また実習前に、4年生が患者役、看護師役として1年生がバイタルサイン測定、観察、記録の作成、報告、カンファレンスの持ち方ができるよう支援演習をおこなう。多職種連携は互いの職種理解ができるよう1年の学びを共有し、自分の職種の専門性を考える。
（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、臨床判断能力の強化及び多職種連携について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 地域ボランティア活動に参加し、活動の目的や内容を理解するとともに、地域の人々と協働する経験を通して、地域と関わることの意義を説明できる。
2. 異学年との交流学習を通して、既習内容を想起し事例に基づいて看護実践をおこなうことができる。
3. 異学科との交流学習を通して、それぞれ自分の目指す職種の専門的な役割、必要な知識を具体的に述べることができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	社会福祉協議会によるガイダンス、地域ボランティア活動の紹介および事前調査	【講義】地域ボランティア活動の紹介および事前調査
第2回	地域ボランティア活動の実践	地域ボランティア実践
第3～4回	授業の進め方、ガイダンス 看護への想いを伝える	【発表】入学前教育の"看護への想い"1分間スピーチ／思考の共有（ポートフォリオ）
第5回	看護観の探求	4年生と交流学習 【GW】看護とは何かを語る 1年生：看護への想い、4年生：実習の事例を交えて語る
第6回	事例の理解：発熱のある患者への対応（症例の共有）	4年生と交流学習 【GW】発熱のある患者の対応：症例を理解する
第7～8回	事例の理解：発熱のある患者への看護の実際（症例の共有）②ISBARの報告	【演習・GW】 発熱のある患者の情報把握、応じた看護の実施 4年生と交流学習 【シュミレーション学習】発熱のある患者の対応、ISBARでの報告を学ぶ
第9～10回	事例の理解：発熱のある患者への看護の実際（症例の共有）③カンファレンス、看護実習記録	4年生と交流学習 【GW】発熱のある患者の対応：カンファレンスの運営を学ぶ、看護実習記録実際を学ぶ
第11～12回	入院患者の取り巻く環境： 間違い探し演習	3年生と交流学習 【演習】実習室で事例の患者環境を設定、 環境をよりよくするための意見交換および発表
第13回	多職種とは何か、多職種の役割理解	【GW】 病院や地域で活躍する職種とは／提示した事例に関与する職種
第14～15回	多職種の役割理解（看護師・理学療法士・作業療法士）	【GW、発表】異学科交流（理学療法学科、作業療法学科） 1年間の学びを語る：自分の目指す職種の専門的な役割、必要な知識について意見交換

11 学習方法

講義／事前学習／提出物／グループワーク・発表／演習

12 評価方法

事前学習のレポート／講義後のレポート／グループワークの成果と発表／ボランティア参加とレポート

13 教科書

【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

臨床判断 ティーチングメソッド 医学書院

14 学生への要望

先輩や異学科の学生との交流をおこないながら、看護師の役割について学びを深めます。普段話すことの少ない人との関わりはコミュニケーション能力の向上にも繋がります。積極的な発言や行動は、多くの学びを得られます。また臨床判断能力を育めるよう「気づき」を大切にして、興味関心をもって主体的に学習できる内容としています。地域におけるボランティア活動では、社会課題や地域のニーズに対する活動を経験し、様々な役割・立場の方々との協働を学びます。積極的な発言や意見交換で視野を広げ、お互いの役割を理解ができるよう期待しています。

「連携と協働」の演習Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	30時間	必修	藤川幸子(看護師)

8 授業概要

この科目はⅠ～Ⅳに区分になっている。社会福祉協議会とのガイダンスを通して、ボランティア活動の意義や役割を理解する。また、活動の目的に沿って地域の人々と協働する経験を通して、地域と関わるための基礎的な視点を養う。また、3･4年生の異学年による交流学習をおこなう。学習進度が異なる学年が、事例を基に演習をおこない、「学び合う」ことで看護実践力を高め合える機会となるように設定した。事例を通して、疾患や日常生活の場面から、看護実践の場に活用する具体的方法について学ぶ。臨床判断能力を育成するために「気づく」トレーニングとして基礎看護学実習編の場面をモデルに沿って思考を高める。実習前に臨床判断能力が身につくよう演習をおこなう。多職種連携の理解として、理学・作業療法学科の学生と異学科交流により学習を深める。事例を通して、各専門職の視点で事例にある問題と対策について、グループワークする。また、多職種連携を行う必要性や利点についても学びを深める。

9 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 具体的な事例を用いて意識して気づきのトレーニングをおこない、言語ができる。
2. 異学年交流を通して、気づきや学びを省察し話し合い、。
3. 提示した事例に関与する多職種の役割が理解でき、実践に繋げて説明できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	授業の進め方、ガイダンス 社会福祉協議会によるガイダンス	【講義】 授業の進め方、事前学習の方法、評価方法 地域ボランティア活動の意義、活動の紹介、事前調査
第2～3回	地域ボランティア活動の実践	【体験学習】 地域ボランティア活動の実践 （5月～翌年1月までの地域ボランティア活動の中から選択した活動の実施）
第4回	疾病の成り立ち、患者教育を学ぶ	【GW･演習】 糖尿病の病態と治療･看護、交流学習に向けての事前学習
第5～6回	対象に応じた患者教育 の実際を考える	【4年生と交流学習】 糖尿病の病態と治療･看護、患者教育について実践の場で活用する方法について学ぶ。
第7回	臨床判断 気づくトレーニング	【演習･GW】 DVD「臨床判断 気づくトレーニング」ケース3 食事の援助場面 臨床判断モデルを活用して討議
第8～9回	対象に応じた"与薬"の実際を考える	【3年生との交流学習】 DVD「臨床判断 気づくトレーニング」与薬の援助場面／ 臨床判断モデルを活用して討議
第10回	臨床判断 気づくトレーニング	【演習･GW】 DVD「臨床判断 気づくトレーニング」ケース1 排泄の援助場面 ケース2清潔の援助場面／臨床判断モデルを活用して討議
第11～13回	チーム医療と多職種連携①	【GW･演習】 脳梗塞の病態と治療、看護、交流学習に向けての事前学習 看護過程の方法を使って問題点の抽出と看護計画
第13～14回	チーム医療と多職種連携②	【GW、発表】 各専門職の視点での患者の困りごと、その気づきや生活の工夫について、多職種連携の必要性と利点 実習室でロールプレイ

11 学習方法

講義／事前学習／グループワーク･発表／演習

12 評価方法

事前学習のレポート／講義後のレポート／グループワークの成果と発表/ボランティア活動の参加レポート

13 教科書

【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

臨床判断 ティーチングメソッド 医学書院

14 学生への要望

後輩･先輩との交流は、普段話すことの少ない人との関わりはコミュニケーション能力の向上にも繋がります。積極的な発言や行動は、多くの学びを得られます。また臨床判断能力を育めるよう「気づき」を大切にして、興味関心をもって主体的に学習できる内容としています。チーム医療や多職種連携についても理解を深めて臨地での実習では実践として活かせるよう学習に取り組んでください。

「連携と協働」の演習Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	1単位	30時間	必修	藤井園美子(看護師)

8 授業概要

この科目はⅠ～Ⅳと段階的に履修するなかで臨床や地域における様々な職種・役割との協働と連携について学ぶ。Ⅲにおいては低学年との交流学習を通じ、情報の共有や協力のあり方を、他学科との交流学習では、それぞれの職種の特性や役割をふまえ、事例学習を通して多職種連携や協力の仕方を学ぶ。また、ボランティア活動を通じて様々な役割・職種の人々と関わり、地域における課題やニーズとその解決・解決に向けた活動を経験する。また、地域社会における看護職の役割について考える。
(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、臨床判断能力の強化及び多職種連携について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.3.4.5.6.7)

1. 協働に必要な情報共有や協力的なコミュニケーションのあり方について理解できる。
2. それぞれの医療専門職の特性や役割をふまえた効果的な連携や協力、役割分担について理解できる。
3. ボランティア活動を通じ、地域社会における協働と連携、看護職の役割について理解を深めることができる。

10 授 業 計 画		各時間で学ぶべきこと
第1～2回	授業の進め方、ガイダンス 社会福祉協議会によるガイダンス 地域におけるボランティア活動	【講義】 授業の進め方、事前学習の方法と評価について 地域ボランティア活動の意義、活動の紹介、事前調査 地域でのボランティア活動の実践
第3回	臨床判断 気づくトレーニング①	【GW・演習】 DVD「臨床判断 気づくトレーニング」事例1 術後患者の観察ポイントに気づく／臨床判断モデルを活用して討議、実習室で再現
第4回	臨床判断 気づくトレーニング②	気づくトレーニングの事例から、術後の患者について学びを深める
第5回	対象に応じた"与薬"①	事例について学びを深める
第6～7回	対象に応じた"与薬"②	対象の状態を捉え、経口薬、静脈注射が及ぼす影響を学ぶ 2年生と交流学習・グループワーク DVD「臨床判断 気づくトレーニング」与薬の援助場面／ 臨床判断モデルを活用して討議／実習室で再現
第8回	思考発話とは	協働に有用な思考発話について学ぶ 交流学習の事例について学びを深める
第9回	事例の提示と相互学習	1年生との演習に際して、事例の疾患・患者の背景について発表形式で情報共有する
第10～11回	入院患者の取り巻く環境:演習	1年生と交流演習 【演習】事例の患者環境を設定し、「安全で安楽な環境」をテーマに協働の実際を学ぶ。演習後に発表を通じて学びを共有する。
第12～13回	多職種協働の実際①	【GW、演習】"事例"の情報整理、看護師の役割
第14～15回	多職種協働の実際②	理学療法学科、作業療法学科と交流学習 【GW、演習】"事例"に基づいてそれぞれの役割をふまえて ケースカンファレンスを実施し多職種との連携を学ぶ。

11 学習方法

講義／事前学習／グループワーク・発表／演習

12 評価方法

事前学習のレポート／講義後のレポート／グループワークの成果と発表／ボランティア活動参加とレポート

13 教科書	参考書
【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 【電子版】eナーストレーナー 医学書院 【電子版】別巻 リハビリテーション看護 医学書院	臨床判断 ティーチングメソッド 医学書院

14 学生への要望

学内においては、異学年との交流学習を通じて、協働のための情報やアセスメントの視点の共有、そのためのコミュニケーションの実際を学びます。また、他学科との共同学習を通じて多職種への理解と協働、看護師の役割について学びます。地域におけるボランティア活動では、社会課題や地域のニーズに対する活動を経験し、様々な役割・立場の方々との協働を学びます。積極的な発言や意見交換で視野を広げ、お互いの役割を理解ができるよう期待しています。

「連携と協働」の演習Ⅳ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	1単位	30時間	必修	辰野浩美(看護師)

8 授業概要

この科目はⅠ～Ⅳに区分しており、1年生から4年生の異学年による交流学習をおこなう。学習進度が異なる学年が、事例を基に演習をおこない、「学び合う」ことで看護実践力を高め合える機会となるように設定した。また異学科との交流学習をおこない、多職種連携について学ぶ。多職種連携の理解として退院カンファレンスを想定して、理学・作業療法学科の学生と異学科交流により学習を深める。また、これまでのボランティア活動および臨地実習での学びを統合し、看護職者として地域社会にどのように貢献できるかについて考える。さらに、多重課題に直面したときに同僚や多職種とどう連携して対処するか臨床判断モデルに沿って思考を高める。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、臨床判断能力の強化及び多職種連携について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. これまでの学修経験を踏まえ、看護職者として地域社会に果たす役割および社会的責任について説明できる。
2. 異学年と学習を通して、看護観を伝え、後輩の考えを聞き出すことができる。
3. 多職種連携では、異学科と学生と"事例"に基づいてそれぞれの専門的な視点で退院カンファレンスを実施できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	授業の進め方、ガイダンス 地域ボランティア活動の実践	地域ボランティア活動の実践
第2回	地域ボランティア活動の実践	地域ボランティア活動の実践
第3回	看護観の探求	1年生と交流学習 【GW】看護とは何かを語る 1年生：看護への想い、4年生：実習の事例を交えて語る
第4～5回	対象に応じた患者教育の実際を考える	2年生と交流学習 DVD「臨床判断 気づくトレーニング」患者のレディネスに気づく／臨床判断モデルを活用して討議
第6回	発熱のある患者への対応①	1年生と交流学習にむけた事前学習 【シュミレーション学習】発熱のある患者の対応
第7回	事例の理解：発熱のある患者への対応（症例の共有）	1年生と交流学習 【GW】発熱のある患者の対応：症例を理解する
第8～9回	事例の理解：発熱のある患者への看護の実際（症例の共有）②ISBARの報告	【演習・GW】 発熱のある患者の情報把握、応じた看護の実施 1年生と交流学習 【シュミレーション学習】発熱のある患者の対応、ISBARでの報告を学ぶ
第10～11回	事例の理解：発熱のある患者への看護の実際（症例の共有）③カンファレンス、看護実習記録の指導	1年生と交流学習 【GW】発熱のある患者の対応：カンファレンスの運営を学ぶ、看護実習記録指導を行う
第12回	多重課題の事例から対応を考える	DVD視聴：よくある場面から学ぶ多重課題 事例【予定変更】【報告・相談】【複数の行為の優先度】【複数の人との関わり】
第13回	多職種協働の実際：退院カンファレンス①	【GW、発表】"事例"の情報整理、看護師の役割 事前学習
第14～15回	多職種協働の実際：退院カンファレンス②	理学療法学科、作業療法学科と交流学習 【GW、発表】"事例"に基づいてそれぞれの専門的な視点で退院カンファレンスを実施

11 学習方法

講義／事前学習／グループワーク・発表／演習

12 評価方法

事前学習のレポート／講義後のレポート／グループワークの成果と発表、ボランティア活動の参加とレポート

13 教科書

【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
【電子版】専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

臨床判断 ティーチングメソッド 医学書院

14 学生への要望

後輩との交流は、普段話すことの少ない人との関わりはコミュニケーション能力の向上にも繋がります。また臨床判断能力を育めるよう「気づき」を大切にして、興味関心をもって主体的に学習できる内容としています。異学科交流として退院カンファレンスをおこない、多職種の理解・協働について学びを深めます。ボランティア活動では、社会課題や地域のニーズに対する活動を経験し、様々な役割・立場の方々との協働を学びます。

東 洋 医 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	池田佳代 加藤淑美 襖田和敏

8 授業概要

東洋医学は2000年以上前の中国で発祥し、東アジアの地域で発展した医学である。日本で国家資格者がおこなう医療業と認められている治療法は、人体にある経穴に対して鍼や灸を用いて刺激を与える「鍼灸治療」、生薬を組み合わせて人体に処方する「漢方治療」、手を用いて刺激を与える「手技治療」の3つである。これらの治療法は、循環機能を改善し、身体のバランスを整える。統合医療の今日的な意義と、統合医療のひとつであり日本で利用頻度の高い東洋医学の概論について学び、全人的医療の知識と態度を身につける。

9 到達目標 （関連するDP:1.4）

1. 中医学薬膳の基本を理解する。
2. 統合医療に用いられる、補完代替医療や伝統医療の位置づけが理解できる。
3. 伝統医療の一部である東洋医学の考え方が理解できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	薬膳とは	薬膳の考え方
第2～3回	今の自分の体質を知ろう 食べ物が持つ力	「薬膳茶実習」 五味・五性・帰経
第4～5回	薬膳の基本 薬膳調理実習	粥とスープ、レシピの組み立て方 グループ別にメニューを考え作成する（気虚証・血虚証・陰虚証）／レポート提出
第6～7回	東洋医学の考え方	自己紹介・東洋医学って何？ 東洋医学の考え方①気血水②陰陽論③五行論
第8～9回	臨床で生かす鍼灸の実際	看護アセスメントやケアに活用できる東洋医学の技【その①】（四診・頭部マッサージ） 看護アセスメントやケアに活用できる東洋医学の技【その②】養生について（四診・呼吸法・ヨガ）
第10回	産婦人科領域での鍼灸の実際	女性のライフステージのおける養生・東洋医学
第11回	東洋医学の基礎	イントロダクション・東洋医学の復習・鍼灸全般の紹介・小テスト（8点）
第12回	つぼの効果を体験	つぼについて・体質チェック、円皮鍼（パイオネックス等）体験・小テスト（8点）
第13回	お灸の効果を体験	お灸について・女性によくみられる症状に対するお灸（せんねん灸等）体験・小テスト（8点）
第14回	耳つぼ効果を体験1	耳つぼについて・女性によくみられる症状に対する耳つぼ（マグレイン等）体験・小テスト（8点）
第15回	耳つぼ効果を体験2	耳つぼについて・様々な症状に対する耳つぼ（マグレイン等）体験・小テスト（8点）

第１～５回　池田佳代（３０）、第６～１０回　加藤淑美（３０）、
第１１～１５回　襖田和敏（４０）

11 学習方法

講義／実技

12 評価方法

それぞれの講師で試験方法を提示（レポート、筆記試験）

13 教科書	参考書
配布資料	

14 学生への要望

四国医療専門学校ならではの東洋医学と西洋医学を融合させた授業内容です。自分のカラダつくりとして「食養生」の一つの方法として取り入れてください。

リラクゼーション方法論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	大麻陽子

8 授業概要

リラクゼーションは「緩和」と直訳され、体の筋肉を緩めることで、心身ともに緊張をほぐし、ゆったりとした気分で過ごす癒やしの意味合いをもつ。心や体の状態を大きく左右する自律神経のうち、副交感神経が優位になると心も体も緊張から解き放たれる。人が体調不良を訴える原因として最も多いのが、自律神経の乱れである。現代人の生活の中で崩れやすい自律神経のバランスは、リラクゼーションによって整えることができる。多様化する健康ニーズに添える看護専門職者として、指圧・マッサージ・ツボ療法等さまざまなリラクゼーションの方法を学ぶ。

9 到達目標 （関連するDP：1.4）

1. 看護の基本は“手当て”である。手を用いたケアの有用性を自覚し実践する。
2. マッサージ（背中、手、足）ができる。
3. マッサージやツボなどセルフケアに活かすことができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1～2回	日本の三大手技療法 マッサージ法とは	【講義】あん摩マッサージ指圧の歴史や手技と応用について 【実技】マッサージの基本手技
第3～4回	手で“触れて”痛み・苦しみを 緩和するマッサージの基礎知識①	【講義】マッサージとは　特徴と目的、実施のポイント 【実技】背中のマッサージ
第5～6回	手で“触れて”痛み・苦しみを 緩和するマッサージの基礎知識②	【講義】安心感、心地よさを生み出す前提条件 【実技】背中のマッサージ復習
第7～8回	手で“触れて”痛み・苦しみを 緩和するマッサージの基礎知識③	【講義】マッサージの効果と身体に及ぼす影響 【実技】手のマッサージ　背中のマッサージ復習
第9～10回	手で“触れて”痛み・苦しみを 緩和するマッサージの基礎知識④	【講義】エビデンスのある効果的な触れ方 【実技】手のマッサージ復習　足のマッサージ
第11～12回	マッサージの基礎知識④	【講義】皮膚感覚と脳 【実技】足のマッサージ復習　背中のマッサージ復習
第13～14回	マッサージの総復習	【講義】マッサージの実践例 【実技】実技試験に向けて背中のマッサージ復習
第15回	実技試験	【実技試験】マッサージ

11 学習方法

講義／デモンストレーション／ペアでの実技練習

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書	参考書
配布資料	

14 学生への要望

手技療法の実際を看護に活かせるように学んでください。

医療安全管理

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	前期	1単位	15時間	必修	山下久美子(看護師)

8 授業概要

医療機関における医療安全確保の観点から、診療報酬に入院基本料算定が義務付けられている。つまり、安心・安全で質の高い医療を提供することは病院の使命であると共に看護の使命でもある。ヒューマンエラーに関する"人間の特性"と"人間を取り巻く環境"の両面から取り組む必要がある。医療安全の取り組みは、最善の医療を受ける権利の保護であり、最善の医療を提供するという姿勢でもある。医療事故の構造と事故防止の視点より、現場に即した医療安全管理について学ぶ。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、医療安全について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.4.6.7)

1. 看護事故の構造と事故防止の考え方を理解できる。
2. 診療の補助業務に伴う事故防止の視点から、現場に即した医療安全の行動が理解できる。
3. 療養上の世話に伴う事故防止の視点から、現場に即した医療安全の行動が理解できる。
4. 業務領域を超えて共通する業務上の危険を明らかにし、事故防止の視点からの知識・技術を習得することができる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	医療安全を学ぶ意義	ヒューマンエラー 医療事故と看護業務、看護事故の構造、看護事故防止の考え方
第2回	診療の補助業務に伴う事故防止	薬物投与に関する業務における事故防止 継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止
第3回	療養上の世話における事故防止	転倒・転落の事故防止 食事・入浴時の事故防止
第4回	医療安全とコミュニケーション	チーム医療におけるコミュニケーション 患者・家族とのコミュニケーション 業務における患者間違い
第5回	組織的な安全管理体制への取り組み	医療安全管理体制の概要 インシデント・アクシデント報告体制 職業感染
第6～7回	医療安全管理のための事例分析と対応	事例分析方法 RCAを活用した事例分析
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／グループワーク

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

【電子版】専門分野 医療安全 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院

参考書

14 学生への要望

医療事故は、実務者にとって常に背中合わせにある重大な問題です。専門職を目指す皆さんには特に注意を向けて考えて欲しい。

国際看護学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	鎌野倫加

8 授業概要

国際看護は、世界の人々のよりよい健康維持・改善のために、グローバルヘルスの課題に取り組み、看護職者として科学的根拠に基づく研究や活動をおこなう。新たな国連の目標である持続可能な開発目標SDGsを軸に、母子保健、感染症、慢性疾患、ユニバーサルヘルスカバレッジ、環境問題などについて学ぶ。WHOなどの国際機関や政府機関、NGO、JICA、アカデミアなどで活躍する看護師の活動の一端を学び、海外でのフィールドワークに対して貢献することの必要性について知る機会とする。

9 到達目標　（関連するDP：1.4.5.6.7）

1. 国際看護の概念が説明できる。
2. 戦争・紛争と難民・避難民の政治的・社会文化的背景を踏まえて、国際貢献の方法が説明できる。
3. 世界のヘルスニーズの現状と保健・医療システムについて説明できる。
4. 国内外における国際保健医療活動の役割と課題・展望が述べられる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	なぜ国際看護学が必要か	世界の格差と健康課題／国際社会における日本の役割
第2回	国際社会の現状と課題	看護職に必要とされる視点／開発援助と保健政策の変遷
第3回	国際看護活動を推進する人と機関	保健分野における国際機関 国際保健医療協力の仕組みとその活動
第4回	国際看護活動の対象	国際看護活動が取り扱う範囲とその現状／異文化理解／ 開発途上国における保健医療の現状と課題
第5～6回	国際看護活動の実際	開発途上国における看護活動／その実際
第7回	在日・訪日外国人に対して必要な看護活動	在日・訪日外国人の現状と課題／要な看護活動
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／グループワーク／視聴覚教材

12 評価方法

提出物／筆記試験

13 教科書

【電子版】専門分野　災害看護学・国際看護学　医学書院

参考書

14 学生への要望

世界のヘルスニーズは自国の公衆衛生からグローバルヘルスに移行している。地球人として、国境を越えて活躍する保健・医療従事者の存在意義について考えてみてほしい。

看 護 管 理

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	前期	1単位	15時間	必修	山下久美子(看護師)

8 授業概要

看護管理を広く「マネジメント」としてとらえ、看護管理者だけでなく看護実践者にも必要な知識と技術を学ぶ。勤務管理や業務管理、看護師の配置、安全管理、新人看護師教育など、すべてが看護の質を高めることに繋がっている。看護サービスを提供するしくみについて考え、どうすればよりよい看護を提供できるかなどを追求するものである。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護管理について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.4.5.6.7)

1. 医療機関における看護の組織、看護体制、看護の機能について説明できる。
2. 看護活動におけるリーダーシップの重要性を理解できる。
3. 組織における看護の役割について説明ができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	看護とマネジメント	1)管理とは 2)マネジメントとはなにか 3)看護のマネジメントがおこなわれる場
第2回	看護ケアのマネジメント	1)看護業務の実践(日常業務のマネジメント) 2)多重課題への対応
第3回	看護サービスのマネジメント①	1)看護管理の定義 2)看護サービス提供のしくみづくり ①看護単位と職員配置 ②労務管理 ③物的資源管理
第4回	看護サービスのマネジメント②	2)看護サービス提供のしくみづくり ④医薬品の管理 ⑤廃棄物の管理 ⑥情報の管理 ⑦医療におけるサービスの質の管理
第5回	組織と組織を構成する人の役割と機能	1)組織とは 2)組織の形 3)組織論 ①古典的組織論 ②人間関係論 4)リーダーシップとマネジメント ①リーダーシップの定義 ②フォロワーシップ ③状況対応リーダーシップモデル 5)組織の調整
第6回	キャリア開発	1)専門職業人とキャリア 2)ライフサイクルとキャリア 3)キャリア・アンカー 4)キャリア開発
第7回	日本の医療制度と病院経営	【グループワーク・発表】
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義/事前学習を踏まえてグループワーク

12 評価方法

筆記試験/事前・事後課題作成や発表内容

13 教科書

【電子版】専門分野 看護管理 医学書院

参考書

14 学生への要望

チームや組織をつくり、動かしていくことは管理者だけの仕事ではなく、ケアを提供しているすべての看護職が担う役割でもある。看護管理の科目は統合実習の事前学習としての学習内容を含み、また、卒業後、チームで働く自分をイメージできる内容となっている。看護管理活動の場が病院のみならず地域の保健医療福祉の場へと拡大するなか、社会のニーズを踏まえた看護管理の在り方を考えてほしい。

災害看護学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	射場光一

8 授業概要

地球温暖化に伴う気候変動の影響があり、洪水や土砂災害などの災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している。このような状況の中で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく看護職者は人々の健康に関わる看護の専門職として役割を発揮していくことが求められる。本授業では、災害とは何か、災害医療、災害看護を学び、災害に対して看護職者が果たす役割や災害時の看護実践について学習する。

9 到達目標　（関連するDP：1.4.5.6.7）

1. 災害の種類と各期の特徴、法制度について説明できる。
2. 災害時の看護職者の役割と機能を説明できる。
3. 災害が人々の健康や社会生活に及ぼす影響について説明できる。
4. 災害時の被災者への援助や心のケアについて説明できる。

10 授業計画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	災害と災害医療の基礎知識	【講義】災害の定義、分類、災害とは、災害の特徴、 災害と健康障害、CSCATTT、トリアージ、災害医療の歴史
第2回	災害看護の基礎知識	【講義】災害看護の定義、役割、特徴、対象者、要配慮者、 避難行動要支援者とは
第3回	災害サイクルに応じた活動現場別の 災害看護	【講義】災害看護における災害サイクルとは、 災害サイクルに対応した災害看護活動、 災害看護活動に必要な情報、情報収集の方法、 災害対策本部、EMIS,災害拠点病院、災害支援団体、DHEAT
第4回	災害と心のケア	【講義】災害がもたらす精神的影響、心のケアとは、 被災者のこころのケア、子どものケア、遺族のこころのケア
第5回	被災者特性に応じた災害看護の展開	【講義】子どもに対する災害看護、妊産婦に対する災害看護、 高齢者に対する災害看護、障がい者に対する災害看護、 精神障害に対する災害看護、慢性疾患に対する災害看護、 在留外国人に対する災害看護
第6～7回	災害時の病院の取りくみ ※感染状況などで実動訓練が中止となった場合、下記に変更することがある	【参加型学習】災害実動訓練に参加し、トリアージの実際、病院の受け入れ態勢を学ぶ。
	HUG　＊避難所運営ゲーム　HUG	【HUG】グループに分かれて避難所運営ゲームを実施 【発表】各グループより気づき、不明点などを意見交換 【まとめ】各グループで学びをまとめる
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／視聴覚教材／グループワーク／ロールプレイング

12 評価方法

提出物／筆記試験

13 教科書	参考書
【電子版】専門分野　災害看護学・国際看護学　医学書院	適宜紹介

14 学生への要望

災害看護に関するニュースや情報に注目し、関心を寄せておく、災害現場に出ずとも病院で24時間看護にあたる看護師は災害発生時の病棟管理能力が求められます。知識とともに普段から非常時に行動できる「臨機応変」さを身につける努力をしましょう。

救 急 看 護

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	吉川 圭 喜多将也

8 授業概要

救急看護とは「突発的な外傷、急性疾患、慢性疾患の急性増悪などのさまざまな状況によって、救急処置が必要な対象に実施される看護活動である。救急処置を中心とした初療段階での看護実践であり、場所、疾患、臓器、対象の発達段階、診療科、重症度を問うことはなくすべてが対象となるが、その際に緊急度を判断する必要がある。救急看護に一連の過程を学ぶ。

9 到達目標 （関連するDP：1.4.6.7）

1. 医療現場での救急処置・救護が確実にできる看護師を養成する。
2. 救急領域の実態と問題点、関連知識を身につける。
3. 急性期に関する医学・医療の深さと広さ、救急看護の多様性が述べられる。
4. 救急医療の中の救急看護の役割を理解し、広い視点で将来の救急看護を考える。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	救急看護の概念	救急看護の対象の理解／BLS（一次救命処置）
第2回	外傷患者の救急処置	外傷患者の救急処置
第3回	救急時に使用される医薬品	救急時に使用される医薬品
第4回	一次救命処置 演習	成人の救命処置 AEDの使用法
第5回	一次救命処置 演習	小児の救命処置
第6回	一次救命処置 演習	チーム蘇生／窒息患者の救命処置
第7回	急変を起こす病態の理解	ACLS（二次救命処置）
第8回	試験	試験

第１～６・８回 吉川 圭（９０）、第７回 喜多将也（１０）

11 学習方法

講義／校内演習

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】別巻 救急看護 医学書院

参考書

14 学生への要望

より実りのある講義にしていくため、予習・復習して授業に参加して欲しい。

看護情報システム論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	三上史哲 髙畑美佳(看護師)

8 授業概要

看護が医療チームの一員として機能するためには、他職種や患者にも提供できる看護情報システムの構築が不可欠である。①多職種間、看護職間で共有する情報の明確化、②標準化範囲、③医師の指示の実施から記録にいたる看護の責任範囲と協力体制の仕組み作りなどがおこなわれている。看護の臨床現場では、コンピュータ技術による看護支援システムが導入され、データベースネットワーク化され、看護業務は変化している。医療情報システム・看護情報システムの役割と機能について学ぶ。

（病院の看護業務に携わった経験をもつ教員が、医療機関における電子化と情報について講義する。）

9 到達目標 （関連するDP：1.4.6.7）

1. 情報を活用する上で守らなければならない倫理、法的根拠を述べることができる。
2. どのようにデータを情報として活用するか理解できる。
3. 電子カルテ導入が進む医療機関の中で看護分野での情報科学技術の活用できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1～2回	看護情報システム化 患者情報の管理	看護情報システム化に必要な法的・倫理的視点 電子カルテと情報の扱い カルテ記載／同意書・説明書 電子化された情報と保存 ICT化／AIの活用／電子化
第3回	医療における情報の記録	電子カルテと情報の扱い 【動画】 だいじょうぶ？あなたの電子カルテの取り扱い 【グループワーク】 電子カルテの利用する際の注意点
第4回	個人情報の保護	情報の保護取扱い 【動画】 だいじょうぶ？あなたの情報リテラシー 【グループワーク】 セキュリティ対策の教育の重要性を理解して組織的な対策
第5回	情報倫理の考え方	情報倫理の考え方 【動画】 だいじょうぶ？あなたの電子カルテの取り扱い
第6回	医療における情報システム	病棟でよくある場面の対応をグループで考える。(個人情報の保護取り扱い)
第7回	情報活用の未来	病院の情報システムを調べる ICT化／AIの活用／電子化
第8回	試験	試験

第１～２回 三上史哲（２０）、第３～８回 髙畑美佳 （８０）

11 学習方法

講義／動画／グループワーク／ロールプレイ

12 評価方法

レポート／筆記試験

13 教科書

【電子版】別巻 看護情報学 医学書院

参考書

講師持参資料

参考DVD：医学映像教育センター

14 学生への要望

看護の分野で情報科学をどのように活用しているか、その上で守らなければならない倫理や法的根拠知り、今後の活用について考えて欲しい。データと情報の違いを理解してどのようなデータを情報として看護に活用できるかの理解を欲しい。

看護ゼミナール

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単位	5 時間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	1単位	15時間	必修	藤井園美子(看護師)

8 授業概要

看護学術集会に参加し、演題や基調講演・招聘講演・シンポジウムなどを聴講し、最新の看護研究の内容を学ぶ。
学術集会において発表方法や進行方法・司会・座長等の役割を学ぶ。
(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護を探求する方法について演習する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.4.7)

1. 看護研究や学会・学術集会参加の意義や内容が理解できる。
2. 専門職として研鑽し続ける基礎的能力(課題を見出して取り組む・情報を探索し活用する)を養い、実践できる。

10 授業計画		各時間で学ぶべきこと
第1回	ガイダンス(参加する学術集会)	グループ学習 参加する学術集会及びテーマの発表 グループ内で参加したい(興味ある)講演・シンポジウム・口演等の決定 グループ毎に学術集会当日のタイムスケジュールの立案
第2～3回	文献検索(学術集会参加のための事前学習)	【グループワーク】参加する講演などの抄録を読み、わからない語句や文章等の文献検索・情報収集
第4～6回	学術集会講演受講	グループまたは個人で興味ある演題を受講し、内容をまとめる (発表者、参加者、進行方法なども学習) 看護研究:研究目的・研究方法・研究結果・考察・結論等の構成要素も学ぶ
第7回	学術集会内容のまとめ	【グループワーク】まとめ(発表内容・進行方法や役割、看護学発展のための研究の重要性等)／発表準備
第8回	学術集会の学習内容を共有	まとめ／発表／意見交換／評価

11 学習方法

自己学習／グループワーク／学術集会参加／意見交換

12 評価方法

レポート(発表内容などにより総合的に判断)

13 教科書	参考書
各分野の専門書、学術雑誌	

14 学生への要望

グループごとに学会タイムスケジュールを立案し、主体的に必要な学習を進める。
学術集会参加後にはグループごとの学びを共有する。
看護学の発展に研究が果たす役割を知り、研究の成果を実践に活用するスキルを学ぶ機会にしてもらいたい。

看 護 政 策 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	1単位	15時間	必修	渡邊照代

8 授業概要

保健・医療・福祉政策および看護政策の現状と課題に対して、多様な社会集団の相互作用の中で、人々の健康生活、地域社会に貢献する看護の政策的働きかけの方法を教授する。

9 到達目標 （関連するDP：1.4.6.7）

1. 医療・看護に関する法や制度について説明できる。
2. 看護政策の現状と課題、および看護職の役割について述べることができる。
3. 臨床で直面する問題を医療政策・看護政策の観点から捉え、整理する事ができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	保健医療福祉制度とヘルスケアシステム	保健医療福祉制度の構造、医療保険制度、介護保険制度、保健医療福祉制度を支える職種、ヘルスケア提供体制について
第2回	看護制度とは	保健師助産師看護師法の改正、人権法の改正、行政処分に示された看護倫理の視点、特定行為
第3回	医療政策と看護政策の現状と課題①	1. 医療法の改正 2. 看護職員確保の政策
第4回	医療政策と看護政策の現状と課題②	3. 医療機能分化政策 4. 看護体制と料金体系の改革
第5回	医療政策と看護政策の現状と課題③	5. 看護教育に関する政策 6. 保健師助産師看護師法
第6回	医療政策と看護政策の現状と課題④	7. 保健医療分野の情報化推進に関する政策
第7回	看護政策決定過程と専門職能団体の動き	わが国の政策決定過程、看護専門職の社会的役割
第8回	試験	試験

11 学習方法

講義／演習／グループワーク

12 評価方法

筆記試験／レポート

13 教科書

配布資料

参考書

看護六法 新日本法規
看護管理学習テキスト第3版 第1巻 ヘルスケアシステム論 日本看護協会出版

14 学生への要望

看護を取り巻く制度と政策について理解し、幅広く看護が見渡せるようになってください。

クリティカルシンキングⅠ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	1単位	15時間	必修	松田美穂(看護師) 看護学科教員

8 授業概要

看護実践や患者とのかかわりの中で感じた疑問・問題を、既習の知識や看護理論・文献を用いて振り返り、ケースレポートにまとめる。ケースレポートの作成を通じ、根拠に基づいた客観的な思考(クリティカルシンキング)・論理的で明瞭な表現力・文章力(ロジカルライティング)を、発表・聴講を通じてプレゼンテーション力、看護実践への興味関心を培う。
(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践を伝える論述について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.4.7)

1. ケースレポートの意義・目的・特徴とプロセスについて理解できる。
2. クリティカルシンキングの意義と看護実践で求められる要素について理解できる。
3. 抄読を通じて論理的思考力(クリティカルシンキング能力)を培うことができる。
4. ケースレポート作成を通じて看護実践を振り返り、論述する具体的方法が理解できる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	ケースレポートの意義・目的・特徴とプロセス	ケースレポートの意義・目的・特徴・限界と考慮点 クリティカルシンキングとは ケースレポートと看護研究の違い
第2回	ケースレポートの構成要素と文献検索	はじめに／事例紹介／看護の実際／考察／結論／おわりに 文献検索の実際と文献抄読
第3回	理論・モデルの検討とケースレポート計画書	理論・モデルの検討 ケースレポート計画書とは
第4～7回	ケースレポートの作成	集録／抄録／スライドおよび発表原稿の作成
第8回	ケースレポートの発表	発表と聴講

11 学習方法

講義／抄読／ケースレポート作成／発表と聴講

12 評価方法

評価表に沿った評価(提出期日、発表 、抄録、集録、プレゼンテーション資料)および文献精読

13 教科書

新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方
(照林社)
【電子版】別巻 看護研究 医学書院

参考書

14 学生への要望

看護実践を理論や文献に照らして客観的に振り返り、クリティカルシンキングを用いてその意味や課題を明確にしてほしい。文献抄読を重ねる中で視野を広く持ち知的好奇心を培ってほしい。また、ケースレポート作成を通じて、集録・抄録の書き方、文献検索の具体的方法を学んでほしい。

クリティカルシンキングⅡ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	前期	1単位	30時間	必修	小槌聡子(看護師) 看護学科教員

8 授業概要

専門分野別看護学実習で受け持った患者への看護をケースレポートにまとめる。主体的に教員の指導を受け、実施した看護場面・状況・事柄を振り返り、看護理論や中範囲理論等を用いてクリティカル(深く考え、客観的に評価し、論理的)にレポートを作成・発表する。

(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践を基に思考・判断する技術について講義する。)

9 到達目標 (関連するDP:1.2.4.7)

1. ケースレポート作成を通じてクリティカルな思考で事例を考察することができる。
2. 担当教員からの指導を受け、論理的で一貫性のあるレポートを主体的に作成できる。
3. 伝わりやすい表現・構成でプレゼンテーションができる。
4. 発表を通じて経験を共有し、看護実践への興味・関心を高めることができる。

10 授 業 計 画

		各時間で学ぶべきこと
第1回	ガイダンス	目的・方法・スケジュール
第2～3回	ケースとテーマの決定	自己の実践例を使ってのケースレポートの作成
第4～5回	文献検索	文献検索
第6～7回	研究計画書作成	文献のクリティーク
第8～9回	集録作成	はじめに／事例紹介／看護の実際／考察／結論
第10～11回	抄録作成 プレゼンテーション	はじめに／事例紹介／看護の実際／考察／結論 プレゼンテーション
第12～13回	ケースレポート発表	ケースレポート発表
第14～15回	ケースレポート修正・まとめ	ケースレポート修正・まとめ 最終提出

11 学習方法

講義／自己学習／ケースレポート(抄録、集録、スライド)作成

12 評価方法

評価表に沿った評価(提出期日、発表 、抄録、集録、プレゼンテーション資料)

13 教科書

新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方
(照林社)
【電子版】別巻 看護研究 医学書院

参考書

クリティカルシンキング入門編・実践編(北大路書房)
事例で学ぶクリティカルシンキング(医学書院)
クリティカルシンキングアプローチ(廣川書房)
クリティカルシンキング(東洋経済新報)

14 学生への要望

本校は、2年次「看護研究Ⅰ」、3年次「看護研究Ⅱ、クリティカルシンキングⅠ」、4年次で「クリティカルシンキングⅡ」と、学びの系統性・連続性を踏まえたカリキュラムになっている。発表会事務・運営(抄録・収録集作成、座長・タイムキーパー等)も学生が運営する。責任をもって主体的に行動することを期待する。

基礎看護学実習Ⅰ（病院を知る実習）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	1学年	後期	1単位	45時間	必修	看護学科教員

8 授業概要

以下の実習目的とする。

1. 看護の対象が入院生活を送る環境が理解できる。
2. 入院する対象への看護の提供と多職種連携が理解できる。

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 病院・病棟の構造・機能を知り、入院環境を理解できる。
2. 入院生活を送る対象と適切なコミュニケーションがとれる。
3. 対象の健康状態を把握し、必要な生活援助が指導の下、安全安楽に実施できる。
4. 看護師の役割や看護業務を理解する。
5. 対象に関わる多職種との連携・協働が理解できる。

10 授 業 計 画

1. 病院オリエンテーション
.・病院の理念・基本方針
・ 看護部理念・基本方針・目標、安全対策
2. 病棟オリエンテーション
3. 病床の構造・設備基準
・対象の病床環境の見学
・環境調整技術の援助の実施
4. 基本的なコミュニケーション技術
・自己紹介、外見・身だしなみ、表情、視線、姿勢、距離や身体の向きなど
・状況や目的に応じたコミュニケーション手段
・関係構築のための基本的な態度
・対象の特徴を捉えた対応
・対象への倫理的配慮（権利擁護）
5. 効果的なコミュニケーション
・傾聴、環境、受容的態度、共感的理解など
・入院生活への思い
・対象の疾患や治療の理解度
・入院前と退院後の生活、家族や仕事（社会）の思い
・対象のニーズ
6. フィジカルアセスメントに必要な技術
・バイタルサインの測定と観察
・ 変動因子の確認と随伴症状の有無を観察
7. 対象の一日の過ごし方
・ 対象のADLの把握、健康障害・健康レベルから日常生活の状態把握
・日常生活援助技術の指導の下で実施
8. 看護師の役割
・看護師の1日の業務
9. 直接的看護活動の実際の見学
・日常生活援助・診療の補助の実際の見学
・標準予防策（スタンダードプリコーション）
・多職種との仲介と調整
・患者への配慮の仕方
10. 病院で働く職種の種類と業務内容
・多職種の連携・協働の場面に参加し、報告・連絡・相談
・看護師の役割

11 学習方法

1. 実習時間　1単位：45時間　（45分／H　8H／日）

12 評価方法

実習評価表に基づいて評価する

［評価基準］ 4：できる　3：支援があればできる　2：不十分である　　評価項目25×4点＝100点

13 教科書

【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
【電子版】eナーストレーナー　医学書院
マンガでわかる　臨地実習の前に！知っておきたい情報モラル
メヂカルフレンド社

参考書

【電子版】専門基礎分野　解剖生理学　医学書院
【電子版】専門分野　臨床看護総論　医学書院

14 学生への要望

基礎看護学実習では、病院や病棟の環境をよく観察しながら、患者さんとコミュニケーションをとりましょう。指導者のもとで安全に生活援助を行い、看護師の仕事や多職種の協力の仕方も学んでいきましょう。

基礎看護学実習Ⅱ（看護過程実習）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 授業概要

以下の実習目的とする。

1. 既習の知識・技術を統合し，対象の個別性を考慮した看護を実践する方法を学ぶ。
2. 看護に共通する方法・技術を学習し，領域別看護実習への展開の基礎とする。

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 看護過程を用いて、対象の日常生活への援助が実施できる。
2. 看護専門職として対象との人間関係をつくる。
3. 臨床場面における看護師としての責務と姿勢・態度を学ぶ。

10 授 業 計 画

1. 情報収集・情報源・収集方法
・対象に関する情報を整理し、信頼できる情報源と方法で収集する
2. ゴードン機能的健康パターンの情報収集と分類
・主観的情報と客観的情報に分類
3. クラスター化した情報から手がかりとなる情報の抽出
4. 看護問題の明確化
5. 関連図を用いた対象の全体像の整理
・対象の病態や症状など、情報と情報の関連性を把握、看護問題の統合
6. 問題リストに対象の優先順位を整理
7. 成果の設定
・健康レベルに応じた成果を設定、対象を主語にした現実的で達成可能な内容、測定可能・観察可能な内容、評価日を設定
8. 計画の作成
・観察計画（O-P）、直接ケア計画（T-P）、教育計画（E-P）、安全・安楽・自立性、患者の生活リズムを考慮、具体的に5W1Hで表現
9. 経過記録
・対象の反応を整理、フローシートに経過を要約
10. 看護計画に基づく日常生活援助の実践
・根拠に基づいた看護の実施
11. 安全・安楽・自立性を考慮した実施
・プライバシーの保護
12. 対象の反応の評価
・主観的・客観的情報を整理、実施内容、安全性・安楽性・自立性の視点で振り返り、計画の修正・追加
13. 対象の思いと人的環境の把握
・対象を取り巻く人々とそれぞれの役割を理解
14. 医療スタッフとの適切なコミュニケーション
・対象を取り巻く人々との情報共有・連携
15. 患者の権利・プライバシーの保護
・医療職者に求められる態度、電子カルテの適切な取り扱い、対象情報の管理
16. 看護師としての倫理観・倫理的態度
・カンファレンスの実施、援助を通した学びの共有、課題への取り組み、リーダーシップ・メンバーシップ
17. 対象に予測される事故やリスクと安全対策
18. 感染予防・標準予防策の実施
・スタンダードプリコーション、一処置一手洗い、感染予防対策の具体的実践

11 実習方法

1. 実習時間　1単位：90時間　（45分／H　8H／日）

12 評価方法

実習評価表に基づいて評価する

［評価基準］ 4：できる　3：支援があればできる　2：不十分である　　評価項目25×4点＝100点

13 教科書

【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
【電子版】専門分野　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
【電子版】eナーストレーナー　医学書院
【電子版】別巻　臨床検査　医学書院
疾患別看護ケア関連図第3版　中央法規
症状別看護ケア関連図第3版　中央法規

参考書

【電子版】専門基礎分野　解剖生理学　医学書院
【電子版】専門分野　臨床看護総論　医学書院
【電子版】別巻　臨床放射線医学　医学書院

14 学生への要望

基礎看護学実習Ⅱでは、看護過程を活用して日常生活の援助を行いながら、患者さんとの信頼関係を大切にしましょう。また、臨床の場で看護師としての責務や態度を学び、専門職として自覚を持って行動できるよう心がけましょう。

地域・在宅看護論実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 授業概要

以下の実習目的とする。

1. 在宅で生活し、看護を必要とするあらゆる健康レベルにある対象者に対し、現状の生活をふまえた看護援助が実践できる基礎的能力を養う。
2. 地域での生活を支える保健医療福祉チームの中での看護の役割を考える。

9 到達目標 （関連するDP:1.2.3.4.5.6.7）

1. 在宅療養者と家族の発達段階・課題、健康状態、生活を総合的に把握できる。
2. 在宅療養者と家族への援助について、訪問看護計画を立案・実施・評価できる。
3. 訪問看護に必要な看護技術が実施できる。
4. 社会資源の活用、関係機関との連携、協働について理解を深める。
5. 地域で生活する人々の暮らしを守る公衆衛生活動を理解する。

10 授 業 計 画

1. 健康状態（身体的・精神的）
・訪問までの経過を把握する
2. 生活状況・住環境
・家族構成
・介護状況
・地域内での支え（近隣やコミュニティの関係）
3. 訪問看護における看護師の役割
・訪問看護ステーションの役割
・訪問形態（定期・臨時など）
・保険の種類（介護保険・医療保険など）
4. 療養者の生活を支える家族への支援
・家族も含めたコミュニケーション
・レスパイトケア（介護者の休息支援）
5. 個々の居宅に応じた資源の活用
・療養者の環境調整（住環境の安全・利便性改善）
6. 療養者が利用している社会資源
・要介護度の把握
・利用している介護保険サービス
・利用している医療保険サービス
7. 市町村保健センターの役割
・地域で生活する人々のヘルスニーズ把握
・健康相談の方法
・保健指導
・集団を対象にした健康教育の方法
・市町村および諸機関との連携・協働

11 実習方法

1. 実習時間 1単位:90時間 （45分／H 8H／日）

12 評価方法

実習評価表に基づいて評価する

[評価基準] 4:できる 3:支援があればできる 2:不十分である 評価項目25×4点＝100点

13 教科書

【電子版】専門分野 〔1〕地域・在宅看護の基盤 医学書院
【電子版】専門分野 〔2〕地域・在宅看護の実践 医学書院
【電子版】eナーストレーナー 医学書院
公衆衛生がみえる メディックメディア

参考書

【電子版】専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院
【電子版】専門基礎分野 看護関係法令 医学書院

14 学生への要望

地域・在宅看護論実習では、訪問看護における在宅療養者と家族の状況を総合的に把握し、看護の実施及びその時の気付きや評価ができる力を養っていきましょう。訪問看護に即した看護技術の習得や社会資源の活用、関係機関との連携、公衆衛生活動の理解にも取り組み、地域で生活する人々の健康を支える学びを深めましょう。

成人看護学実習Ⅰ（外来診療実習）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 授業概要

以下の実習目的とする。

1. 心身の不調により診察を受ける対象の受療行動を理解し、外来看護の機能・役割が理解できる。

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 外来看護の機能と役割が理解できる。
2. 外来を受診した対象が確定診断に至るプロセスが理解できる。
3. 診察や検査を受ける対象の不安・戸惑いを理解し、コミュニケーションの重要性が理解できる。
4. 診療科の特徴に合わせた診察介助の実際が理解できる。
5. 外来における各部門の役割と連携が理解できる。

10 授 業 計 画

1.外来看護の特性と機能
2.外来看護師の役割
3. 初診・再診時の対応 、 診察後の説明、診察後の患者対応
4.外来患者の心理状況
5.患者の通院への思いに配慮したコミュニケーション
6.各診療科での特徴的な検査、看護師が担当している専門外来
7.診察の介助
8.化学療法における介助、放射線治療における介助、透析療法時の介助
9. 医師・看護師による情報収集・説明、保険薬局との情報共有、自己管理
10.検査科、放射線科、薬剤科等各部門との連携
11.地域連携室の役割
・各部門と地域連携室の連携内容
・入退院への支援

11 実習方法

1. 実習時間　1単位：90時間　（45分／H　8H／日）

12 評価方法

実習評価表に基づいて評価する

［評価基準］ 4：できる 3：支援があればできる　2：不十分である　　評価項目25×4点＝100点

13 教科書

【電子版】専門分野　臨床看護総論　医学書院
【電子版】専門分野　成人看護学総論　医学書院
【電子版】専門分野　成人看護学2～14　医学書院
【電子版】専門分野　老年看護病態・疾患論　医学書院

参考書

14 学生への要望

成人看護学実習Ⅰ（外来診療実習）では、外来看護の役割や機能を理解し、患者さんが診断に至る過程や検査・診察時の不安を理解したうえで、適切なコミュニケーションを行える力を身につけましょう。また、診療科の特徴に応じた診察介助や、外来の各部門の役割・連携についても理解を深め、外来看護の全体像を学びましょう。

成人看護学実習Ⅱ（急性期・回復期）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 授業概要

以下の実習目的とする

1. 周手術期において身体侵襲の影響が大きく、生命の保護が最優先される対象に対して、看護を展開する基礎的能力を身につける。
2. 急性期を経過し、創傷治癒・苦痛の緩和を促進し、回復期にある患者への看護が実践できる基礎的能力を身につける。
3. 予期できる急性期と緊急対応が必要な急性期について学ぶ。

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 危機的状況における特徴をふまえ、対象と関係形成を図ることができる。
2. 周手術期にある対象の全身状態の系統的な観察と情報収集ができる。
3. 周手術期における身体侵襲を最小限にできるよう看護ケアが実施できる。
4. 術後の生活規制により起こりうる合併症を予測し予防できる。
5. 術後における生活行動を拡大することにより、回復を促進させるための援助が実施できる。
6. 救急搬送される対象の病院における初期対応を学ぶ。

10 授業計画

1. 手術を受ける患者への説明と同意
・手術室看護師による術前訪問、担当看護師からの術前説明
・手術内容・リスク・術後管理についての説明
・患者の理解と同意の確認
2. 術前の患者状態把握
・障害部位と症状の確認
・検査データ・画像の確認
・バイタルサインの把握
・疾患・手術に対する思いや不安の確認
・術前準備、前日：剃毛、絶食、当日：輸液、ICU・HCUへの連絡
3. 手術中の患者対応・確認
・引継ぎ事項の確認
・バイタルサイン・出血量の把握
・安全な体位の保持
・手術侵襲や麻酔による影響の観察
4. 滅菌物の取り扱い
・ガウンテクニック、ゾーニングの遵守
5. 手術・麻酔が全身に及ぼす影響
・呼吸機能・循環動態の変化
・意識状態の変化
・麻酔からの覚醒の評価
・深部静脈血栓（DVT）予防
6. 状態安定後の入院病棟での管理
・バイタルサインのモニタリング、全身状態の評価、必要に応じた医療処置の実施
7. 術後の生活行動の拡大
・早期離床の促進、留置カテーテル・硬膜外麻酔の抜去
・初回歩行の支援、回復に応じた段階的な術後食の提供
8. 情報の伝達・共有と搬送準備
・患者情報の整理と共有、搬送までの準備、意識レベルの確認
・ABCアプローチ（気道・呼吸・循環評価）
・呼吸管理・循環管理・神経学的所見の観察
・HCU・ICUでの看護ケアの準備

11 実習方法

1. 実習時間　1単位：90時間　（45分／H　8H／日）

12 評価方法

実習評価表に基づいて評価する

［評価基準］ 4：できる　3：支援があればできる　2：不十分である　　評価項目25×4点＝100点

13 教科書

別巻　臨床外科看護総論　医学書院
別巻　臨床外科看護各論　医学書院
別巻　クリティカルケア看護学　医学書院
疾患別看護ケア関連図第3版　中央法規

参考書

14 学生への要望

成人看護学実習Ⅱでは、周手術期や急性期の患者さんに関わる際、生命の安全を最優先に考える姿勢を大切にしてほしいと思います。身体への影響や変化に注意を払いながら、基礎的な看護実践力を身につけることを意識してください。回復期の患者さんには、創傷の治癒や苦痛の緩和を支援し、安心して生活できるよう寄り添った関わりを意識してほしいと思います。

成人看護学実習Ⅲ（慢性期）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 授業概要

以下の実習目的とする

1. 疾患を持ちながら生活している対象の特徴や病態を理解し、対象に応じた治療継続と自己管理への援助ができる。
2. 疾患により生活様式の変更およびADLの低下をきたした対象に、機能の再獲得に向けた援助ができる。

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 疾患を持ちながら療養する対象の特徴や病態が理解できる。
2. 疾患が長期に及ぶため、自己の健康が管理できるような行動の仕方や治療を継続できるための支援ができる。
3. 疾患が慢性化することへの生活の再構築を踏まえた社会資源の活用ができる。

10 授 業 計 画

1.疾患の病態と特徴
・自己管理
・精神的苦痛の理解
・自己価値観、生きがい、生きる希望
・ライフサイクルと発達課題
2.生活歴の把握
・社会的苦痛の理解
3.健康障害が長期化している対象のQOLを高める援助
・行動変容を促す支援
・自己管理を促す支援
・症状マネジメントの実施
・家族介護者への支援
4. 患者と家族への教育
5.患者・家族を支援する多職種の役割
・チームカンファレンス
6. 入院～退院まで
・必要なソーシャルサポート

11 実習方法

1. 実習時間　1単位：90時間　（45分／H　8H／日）

12 評価方法

実習評価表に基づいて評価する

[評価基準] 4：できる 3：支援があればできる　2：不十分である　　評価項目25×4点＝100点

13 教科書

疾患別看護ケア関連図第3版　中央法規
症状別看護ケア関連図第3版　中央法規
別巻　リハビリテーション看護　医学書院

参考書

14 学生への要望

成人看護学実習Ⅲでは、慢性疾患を抱えながら療養する対象の特徴や病態を理解し、その人らしい生活を支える視点を大切にしてほしいと思います。対象が自己の健康を管理できるように支援したり、治療を継続できる方法を一緒に考えたりする姿勢を意識してください。

成人看護学実習Ⅳ（終末期）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	前期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 授業概要

以下の実習目的とする。
終末期にある患者及び家族の特徴を理解し、対象の意思を尊重しその人らしく生きるための援助ができる基礎的能力を習得する。

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 苦痛や死への不安がある対象及び家族を身体的・精神的・社会的・霊的（スピリチュアル）な側面から全人的に理解できる。
2. 対象の意思や価値観、希望を考慮した苦痛の緩和の援助、QOLの維持向上のための援助ができる。
3. エンドオブライフケアや緩和ケアが必要な対象及び家族を支える援助について理解できる。
4. 苦痛や死への不安がある対象及び家族を支える医療チームの実際と看護師の役割について理解できる。
5. 死生観について考えることができる。

10 授 業 計 画

1. 全人的苦痛の理解
・身体的側面の把握
・精神的側面の把握
・社会的側面の把握
・霊的（スピリチュアル）な側面の把握

2. 苦痛を緩和する援助の実施
・身体的・精神的・社会的・霊的（スピリチュアル）な苦痛を緩和する援助の実施
・QOLを維持するための援助の実施

3. 家族を含めた援助
・家族の予期的悲嘆に対する援助
・患者と家族の意思決定支援
・最期を迎える患者と家族の援助
・危篤状態、臨終の場面における看護師の役割の理解

4. 緩和ケアチームの実際の理解
・緩和ケアチームにおける看護師の役割の理解
・緩和ケアカンファレンスへの参加

5. 死生観の探求
・死の意味と概念の考察
・告知の是非とインフォームドコンセントの理解
・エンドオブライフケア/緩和ケアにおけるQOLの検討
・生と死についてディスカッション

11 実習方法

1. 実習時間　1単位：90時間　（45分／H　8H／日）

12 評価方法

実習評価表に基づいて評価する
［評価基準］ 4：できる　3：支援があればできる　2：不十分である　　評価項目25×4点＝100点

13 教科書

疾患別看護ケア関連図第3版
別巻　クリティカルケア看護学　医学書院
別巻　がん看護学　医学書院
別巻　緩和ケア　医学書院
【電子版】専門分野　基礎看護学4　臨床看護総論　医学書院

参考書

14 学生への要望

成人看護方法論Ⅳでは、苦痛や死への不安を抱える対象やご家族に寄り添い、その人らしさや意思、価値観に目を向ける姿勢を大切にしてほしいと思います。身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな面を含め、全人的に理解しようとする姿勢が重要です。

老年看護学実習（介護・福祉）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 授業概要

以下の実習目的とする。
保健医療福祉施設及び居住施設など地域で生活する対象の支援体制を理解し、加齢・健康レベルに応じた援助ができる。

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的変化を理解する。
2. 老年期にある対象の健康・ADLを維持、増進するための援助ができる。
3. 老年期にある対象及び家族が地域で生活するために、これまでの生活や価値観およびQOLを考慮した生活の支援体制について理解できる。
4. デイケア及びデイサービス、保健医療福祉施設、居住施設を利用する対象に必要な支援ができる。
5. 老年期にある対象に関わる多職種との連携・協働が理解できる。

10 授 業 計 画

1. 情報収集
・加齢が日常生活動作（ADL）に及ぼす影響（廃用症候群等）

2. 認知症に関する基礎的知識の理解
・認知症高齢者への援助

3. 健康を維持するための援助

4. ADLを維持・向上するための援助

5. 保健医療福祉施設及び居住施設など地域で生活する利用者に関連した制度・法令の理解

6. 支援体制の理解
・利用者とその家族の意思決定への支援と調整

7. 各施設でのオリエンテーション
・各施設での日常生活援助内容の見学・実施
・回想療法の見学

8. 各施設での日常生活援助
・心身の機能維持・回復のためのリハビリテーションの見学

9. 各施設でのオリエンテーション
・多職種連携・協働場面の見学

10. 各施設での利用者への必要な支援
・医療行為等の見学・実施

11 実習方法

1. 実習時間　1単位：90時間　（45分／H　8H／日）

12 評価方法

実習評価表に基づいて評価する
［評価基準］ 4：できる　3：支援があればできる　2：不十分である　　評価項目25×4点＝100点

13 教科書

専門　老年看護学　医学書院
専門　精神看護の展開　医学書院
専門　老年看護　病態・疾患論　医学書院
専門　地域・在宅看護の基礎　医学書院

参考書

専門基礎　社会保障・社会福祉　医学書院
専門基礎　看護関係法令　医学書院

14 学生への要望

老年看護学実習では、高齢期にある対象の身体・心・社会面での変化に目を向け、その人らしさやこれまでの生活を尊重しながら関わる姿勢を大切にしてほしいと思います。デイケアや居住施設などを利用する対象への援助や、多職種との連携・協働の場面も学びを深めてください。

小児看護学実習Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	45時間	必修	看護学科教員

8 授業概要

以下の実習目的とする。

1. 健康な生活を送る子どもの成長発達を理解し、保育をとおして基礎的な看護実践能力を養う。

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 保育機関 での生活や遊びの様子から、健康な子どもの成長発達の特徴を捉え、発達段階に応じた日常生活の支援の必要性を理解できる。
2. 子どもの健康と安全を守るための環境と支援について理解できる。

10 授 業 計 画

1. 形態的特徴 身体各正常値・標準値、カウプ指数
・精神運動機能の発達 運動、認知、言語、社会性
・基本的生活習慣
・成長発達の評価 DENVER Ⅱ、カウプ指数、パーセンタイル値

2. コミュニケーション
・成長発達に適した遊びの種類・内容
・遊びの観察・玩具の選択提供

3. 保育機関内での日常生活
・食行動の自立度、排泄・排泄習慣の自立度、清潔・衣服の着脱・清潔習慣の自立度

4. 保育機関における安全管理
・子どもへの健康管理
・保護者・家族との連携

11 実習方法

1. 実習時間 1単位：45時間 （45分／H 8H／日）

12 評価方法

実習評価表に基づいて評価する

[評価基準] 4：できる 3：支援があればできる 2：不十分である 評価項目25×4点＝100点

13 教科書

【電子版】専門分野 小児看護学概論 医学書院
【電子版】専門分野 小児臨床看護概論 医学書院

参考書

14 学生への要望

小児看護学実習Ⅰでは、保育機関での生活や遊びの様子を観察し、健康な子どもの成長や発達の特徴に気づく姿勢を大切にしてほしいと思います。その上で、発達段階に応じた日常生活の支援の必要性を考えながら関わってみてください。

小児看護学実習Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	前期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 授業概要

以下の実習目的とする。
健康を障害し子どもと家族に対して適切な看護を実践できる基礎的能力を養う。

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 病気・入院・治療が対象の子どもとその家族に及ぼす影響を理解できる。
2. 対象の子どもの健康状態の回復と成長発達の支援のために、安全安楽な援助が実施できる。
3. 発達段階に応じた看護技術を子どもの人権を尊重し実施できる。
4. 小児看護の役割と保健医療福祉チームの連携を理解することができる。

10 授 業 計 画

1. 形態的発達・機能的発達
・知的・情緒・社会的発達
・言語・コミュニケーション機能
・発達理論 ピアジェ、エリクソン、ハヴィガースト
・身体評価 パーセンタイル値、カウプ指数、ローレル指数、肥満度、発達評価 DENVER Ⅱ

2. 入院前の様子
・病理的状態
・病気・入院による日常生活・環境の変化
・検査、処置、援助に対する児の反応

3. 家族の精神的、社会的影響

4. 発達段階に応じた正常値
・基準値との比較
・正確な身体計測方法
・バイタルサインの測定方法
・観察項目、観察の方法と実施するタイミング

5. 成長発達に適した遊び学習の選択と必要性
・患児の状態に応じた遊び・学習の工夫
・規則正しい生活習慣形成への援助

6. (1)環境(2)食事(3)排泄(4)清潔(5)休息・睡眠(6)活動(7)コミュニケーション

7. 発達段階と起こりやすい事故の理解
・小児の認知発達に応じた安全教育

8. 小児疾患に特有の症状とその症状に応じた援助
（発熱、発疹、脱水（嘔吐・下痢）、呼吸困難、チアノーゼ、痙攣、便秘など）

9. 診察・治療の介助
・末梢静脈内持続点滴の管理方法
・検査、処置時の介助

10. 小児外来の環境についての理解
・小児外来に受診する子どもとその家族の特徴
・ディストラクションの実際
・外来における小児看護の役割と業務

11. 家族構成とキーパーソン
・患児が関わっている多職種とその内容、連携の方法
・多職種連携における看護師の役割
・病棟と外来、地域社会との連携について述べられる
・小児と家族を取り巻く環境

12. 小児看護の役割
・子どもの尊厳
・成長・発達を促す
・子どもを取り巻く環境

11 実習方法

1. 実習時間 1単位：90時間 （45分／H 8H／日）

12 評価方法

実習評価表に基づいて評価する
［評価基準］ 4：できる 3：支援があればできる 2：不十分である 評価項目25×4点＝100点

13 教科書

【電子版】専門分野 小児看護学概論 医学書院
【電子版】専門分野 小児臨床看護総論 医学書院

参考書

【電子版】eナーストレーナー 医学書院

14 学生への要望

小児看護学実習Ⅱでは、病気や入院、治療が子どもとご家族にどのような影響を与えるのかを考えながら、相手の立場に立って関わる姿勢を大切にしてほしいと思います。子どもの健康の回復と成長発達を支えるために、安全で安心できる援助を心がけてください。発達段階に応じた看護技術を実施する際には、子どもの思いや権利を尊重し、丁寧な説明と関わりを意識してほしいと思います。

母性看護学実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 授業概要

以下の実習目的とする。

1. 周産期にある母子及びその家族に対する基礎的な看護実践力を養う。

9 到達目標　（関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 妊娠期・分娩期・産褥期及び新生児期における正常な経過を理解し対象に応じた援助ができる。
2. 周産期における愛着形成や親役割獲得過程について理解し、対象に応じた援助ができる。
3. 母子保健に関する制度と支援の実際について理解できる。

10 授 業 計 画

1. 妊娠週数に伴う生理的変化
・妊娠中のマイナートラブル
・妊婦の心理・社会的側面

2. 妊婦健康診査
・診察の介助・子宮底長の測定・腹囲測定・胎児心音聴取
・個別指導と集団指導

3. 分娩進行に伴う観察
・分娩経過に伴う変化
・産婦に必要な援助

4. 退行性変化・子宮の復古・悪露・後陣痛
・進行性変化・乳房の変化・ 乳汁分泌
・産褥期の心理的変化
・褥婦に必要な援助
・進行性変化促進・授乳指導・直接授乳・乳房マッサージ・搾乳指導・乳頭トラブルに対する援助
・マタニティブルー

5. 出生時のケア・アプガースコアの判定・出生児の全身観察
・新生児の生理的変化・呼吸循環状態の変化と適応・生理的体重減少・黄疸・原始反射・胎外生活適応過程
・新生児の体重測定・全身診察・K_2 シロップの与薬・新生児マススクリーニング検査・・黄疸の検査
・退院診察

6. 愛着形成支援
・新しい家族関係確立への援助
・セルフケア能力・親役割獲得状況
・育児技術習得援助・授乳指導・沐浴指導
・退院後の生活指導

7. 母子保健法・男女雇用機会均等法・労働基準法・育児介護休業法
・妊娠の届出
・妊婦健康診査
・出生届
・母性健康管理指導連絡カード
・2週間および1か月健診

11 実習方法

1. 実習時間　1単位：90時間　（45分／H　8H／日）

12 評価方法

実習評価表に基づいて評価する

[評価基準] 4：できる　3：支援があればできる　2：不十分である　　評価項目25×4点＝100点

13 教科書

【電子版】専門分野　母性看護学各論　医学書院
【電子版】専門分野　母性看護学概論　医学書院

参考書

専門分野(成人)　女性生殖器　医学書院

14 学生への要望

母性看護学実習では、母子とそのご家族の思いに寄り添いながら、丁寧に関わる姿勢を大切にしてほしいと思います。対象の小さな変化にも気づけるよう、よく観察し、感じたことや学んだことを積極的に振り返ってください。

精神看護学実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	前期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 授業概要

以下の実習目的とする。

1. 精神障害をもつ対象を理解し、生活者として自立に向けた看護を実践できる能力を養う。
2. 精神障害をもつ対象の人権擁護の重要性を理解し尊重する態度を養う。

9 到達目標 （関連するDP：1.2.3.4.5.6.7）

1. 精神障害を持つ対象の生活歴やストレングスを把握し、全人的に理解できる。
2. 対象のセルフケア能力を判断し、地域での生活を見据えた日常生活援助が実践できる。
3. 患者ー看護者間の相互作用の中で治療的な対人関係を構築できる。
4. 精神障害により治療が必要な対象に対する看護が理解できる。
5. 精神障害をもつ対象が、地域で生活していくために必要な支援と課題が理解できる。

10 授 業 計 画

1. 精神障害をもつ患者の理解
・生育歴・生活歴・家族背景　発症の時期　症状
・治療とその経過　主な訴えと治療のとらえ方
・パーソナリティ・社会性
・生活環境
・精神に影響を及ぼす要因

2. 患者の精神活動、症状の理解
・患者の行動と反応　精神状態
・生活背景との関連

3. 日常生活行動、セルフケア能力の把握とケア
・ADL　セルフケアレベル
・日常生活における身体ケア
・睡眠とそのケア

4. 対象患者との治療的な対人関係の構築
・患者との対人関係
・患者の表情・言動
・患者とのコミュニケーションにおける自分自身の思い
・患者とのコミュニケーションにおける自己の言動
・やりとりの意味（関係の考察）

5. 入院形態の理解
・入院形態の種類と特徴、行動制限と環境調整　離院、自傷・他害・自殺等の防止
・人権への配慮　面会・通信、私物の取り扱い

6. 精神療法の理解
・薬物療法
・修正型電気けいれん療法（m-ECT）
・家族支援　断酒会
・作業療法　精神科リハビリテーション

7. 対象に表れている精神症状
・意識・知覚・記憶・思考・知能・感情・意欲と行動
・自己概念

8. デイケアの役割と機能の理解
・施設の目的　運営・構成人数
・援助内容
・精神科リハビリテーションの実際
・医療・福祉との連携

9. 就労継続支援の理解
・支援内容、支援の状況
・障害の程度に応じた通所の目的
・他部門との連携・サポート体制

11 実習方法

1. 実習時間　1単位：90時間　（45分／H　8H／日）

12 評価方法

実習評価表に基づいて評価する

［評価基準］ 4：できる　3：支援があればできる　2：不十分である　評価項目25×4点＝100点

13 教科書	参考書
【電子版】専門分野　精神看護の基礎　医学書院 【電子版】専門分野　精神看護の展開　医学書院	

14 学生への要望

精神看護学実習では、対象のこれまでの生活やその人らしさ、ストレングスに目を向け、尊重する姿勢を大切にしてほしいと思います。症状だけで捉えるのではなく、一人の人として全体像を理解しようとする姿勢を期待しています。

統 合 実 習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 授業概要

以下の実習目的とする。

1. 知識・技術を統合し、実務に即した看護実践できる能力を養う。
2. 複数患者の受け持ちを通じて多重課題への対応ができる。

9 到達目標 （関連するDP:1.2.3.4.5.6.7）

1. 病棟管理及び医療安全管理の実際が理解できる。
2. 看護の役割に応じた業務調整によるチームナーシングが理解できる。
3. 優先順位を踏まえて複数の患者の看護実践ができる。
4. 看護の継続に必要なシステムと援助の実際が理解できる。
5. 多職種との連携と協働の実際が理解できる。

10 授 業 計 画

1. 病棟管理者の役割が理解できる
・病棟における医療安全について理解できる

2. 業務の時間管理とその調整について理解できる
・チームナーシングの実際が理解できる

3. 看護必要度の異なる複数患者の看護の実際について理解できる
・優先順位を踏まえ、多重課題への対応が理解できる

4. 看護継続のシームレス化について理解できる

5. 入院時の多職種連携について理解できる
・入院中の多職種連携について理解できる
・退院時における多職種連携について理解できる

11 実習方法

1. 実習時間 1単位:90時間 （45分／H 10H／日）

12 評価方法

実習評価表に基づいて評価する

［評価基準］ 4:できる 3:支援があればできる 2:不十分である 評価項目25×4点＝100点

13 教科書

【電子版】専門分野 看護管理 医学書院
【電子版】専門分野 医療安全 医学書院

参考書

・看護に活かす基準・指針・ガイドライン集2019 日本看護協会出版会
・夜勤・交代制勤務に関するガイドライン メヂカルフレンド社
・多重課題クリアノート Gakken

14 学生への要望

統合実習では、これまでの学習を生かして、主体的に取り組んでほしいと思います。チームの一員としての役割を意識し、複数患者の優先順位を考えながら看護を実践してください。多職種との関わりも大切にし、日々の振り返りを通して、自分らしい成長につなげていくことを期待しています。

四国医療専門学校　看護学科

〒769-0205　香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1

電話　0877-41-2350

ファックス　0877-41-2352